



佐賀市 基礎データ集

令和5年12月

目次

Agenda

| | |
|------------|-----|
| ベンチマーク都市 | 3 |
| I.人口 | 4 |
| II.産業・経済 | 32 |
| III.子育て・教育 | 61 |
| IV.医療・福祉 | 81 |
| V.生活環境 | 84 |
| VI.行政 | 118 |

ベンチマーク都市

ベンチマーク都市について

✓下表のとおり、佐賀市の各データとの比較対象として、ベンチマーク都市を設定した。

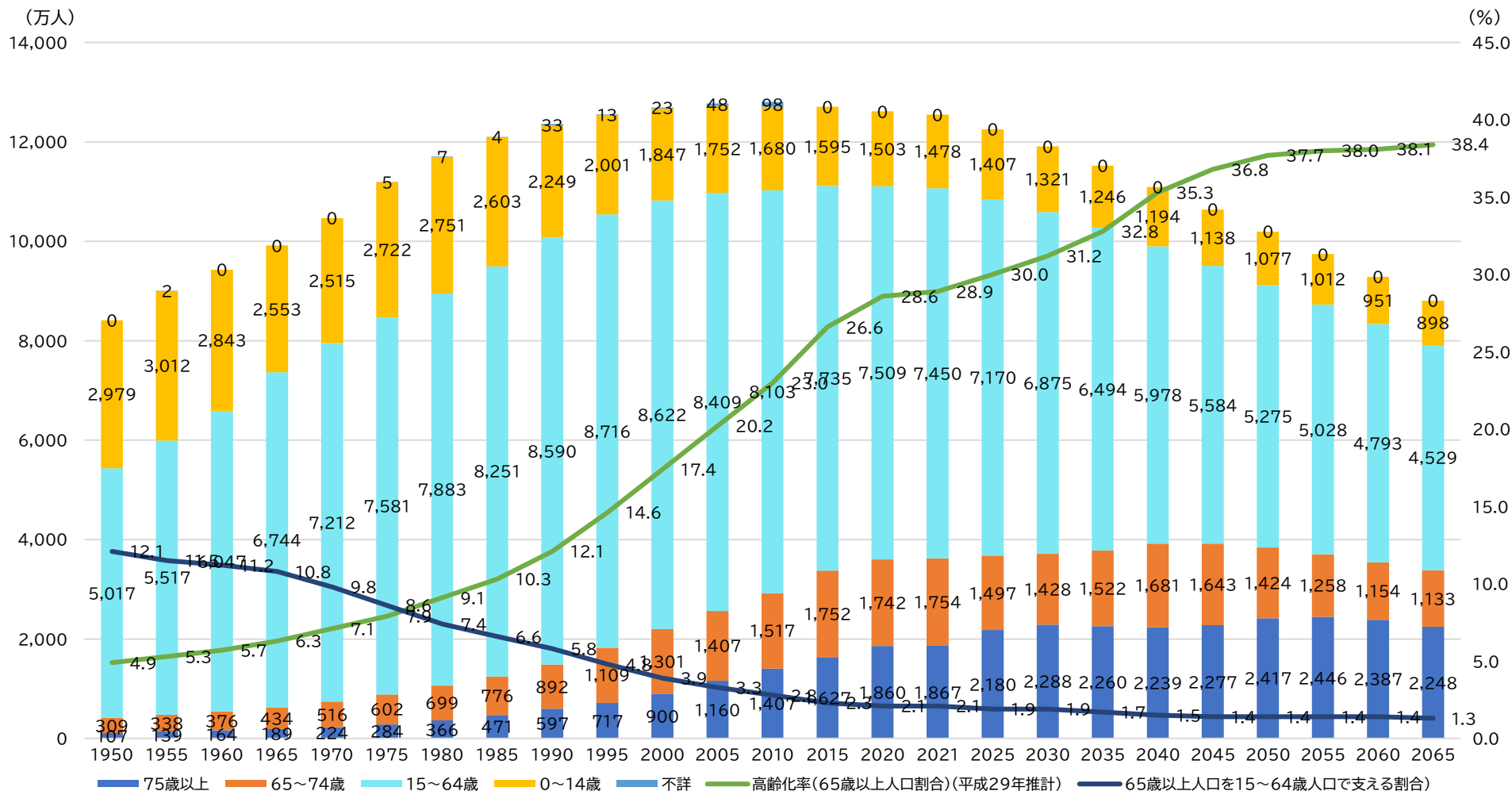
| NO. | 都道府県 | 団体名 | 備考 |
|-----|------|------|-----------------------|
| 1 | 福岡県 | 福岡市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、政令指定都市 |
| 2 | 長崎県 | 長崎市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、中核市(九州内) |
| 3 | 大分県 | 大分市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、中核市(九州内) |
| 4 | 熊本市 | 熊本市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、政令指定都市 |
| 5 | 宮崎県 | 宮崎市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、中核市(九州内) |
| 6 | 鹿児島県 | 鹿児島市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、中核市(九州内) |
| 7 | 沖縄県 | 那覇市 | 県庁所在地(九州・沖縄)、中核市(九州内) |
| 8 | 福岡県 | 久留米市 | 中核市(九州内) |
| 9 | 長崎県 | 佐世保市 | 中核市(九州内) |

I.人口 | 1.将来人口推計

日本の人口推移

✓少子高齢化の進行により、我が国の生産年齢人口(15~64歳)は1995年をピークに減少しており、2050年には5,275万人に減少すると見込まれている。

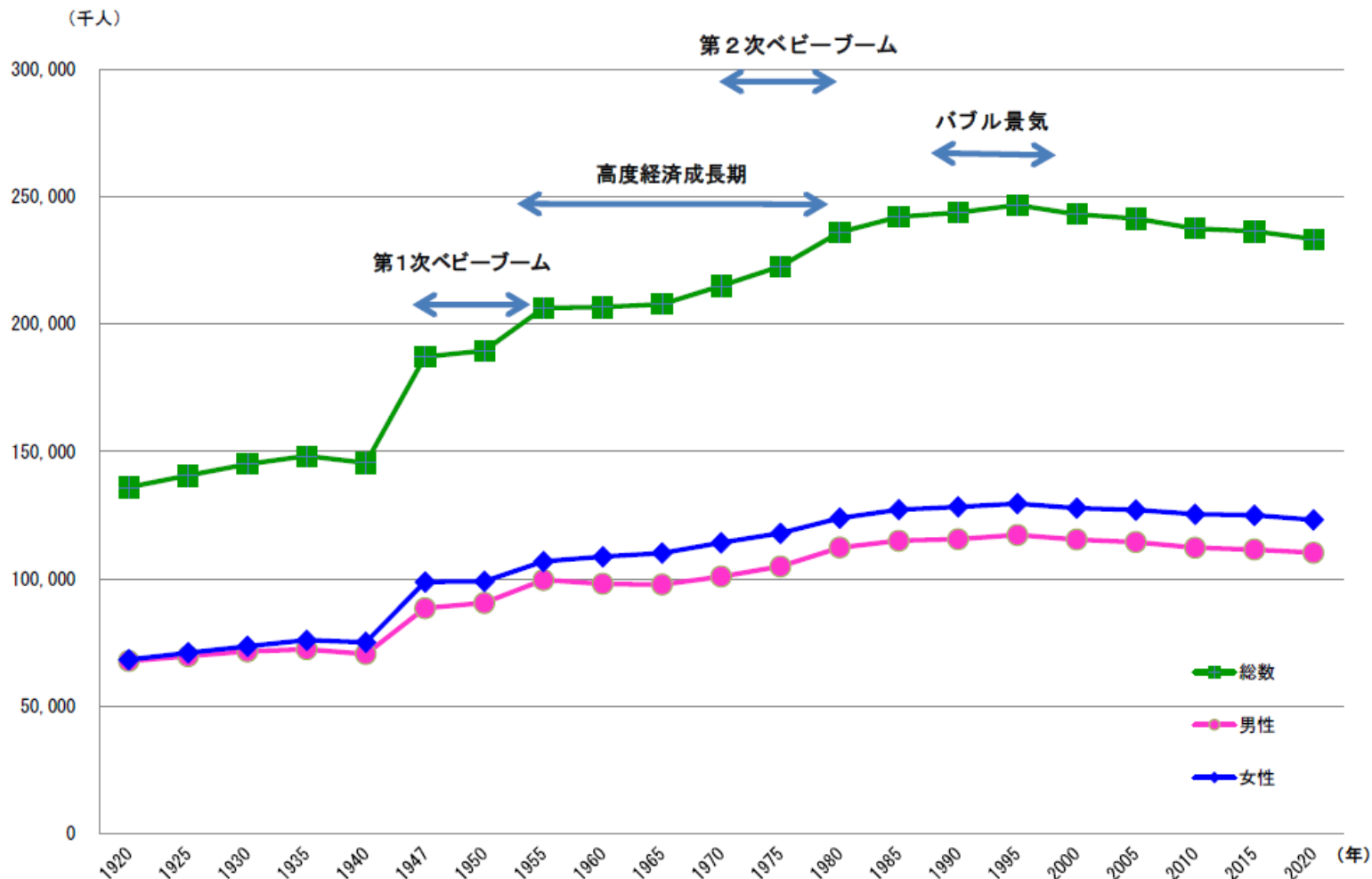
✓生産年齢人口の減少により、労働力の不足、国内需要の減少による経済規模の縮小などの社会的・経済的課題の深刻化が懸念される。



I.人口 | 1.将来人口推計

佐賀市の総人口の推移(男女別)

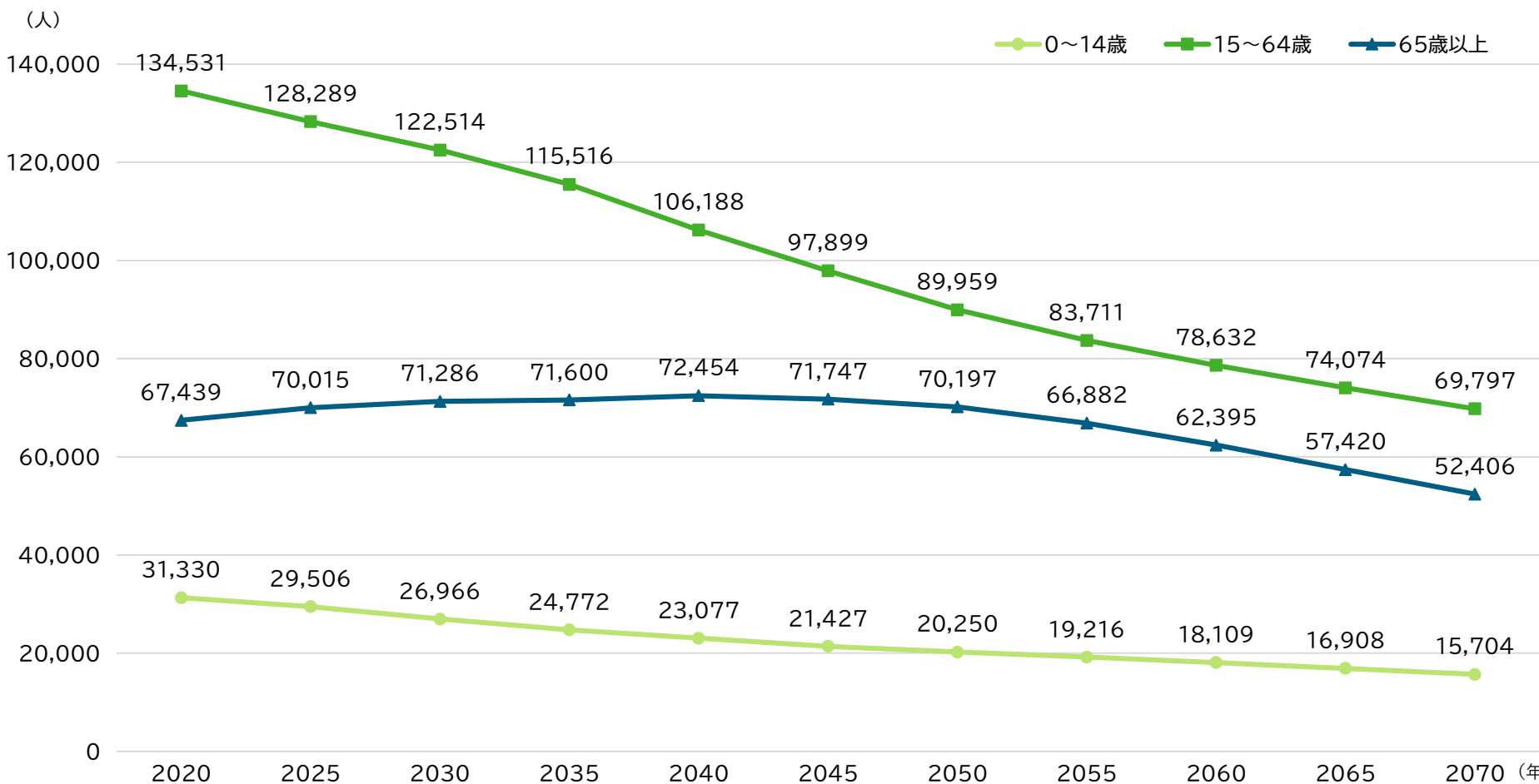
- ✓1995年頃のバブル景気まで総人口は増加傾向にあったが、2000年以降は減少が続いている。
- ✓佐賀市の総人口数を男女別にみると、男性より女性の人口が多い状況が続いている。



I.人口 | 1.将来人口推計

老年、生産年齢、年少人口推計(市全体)

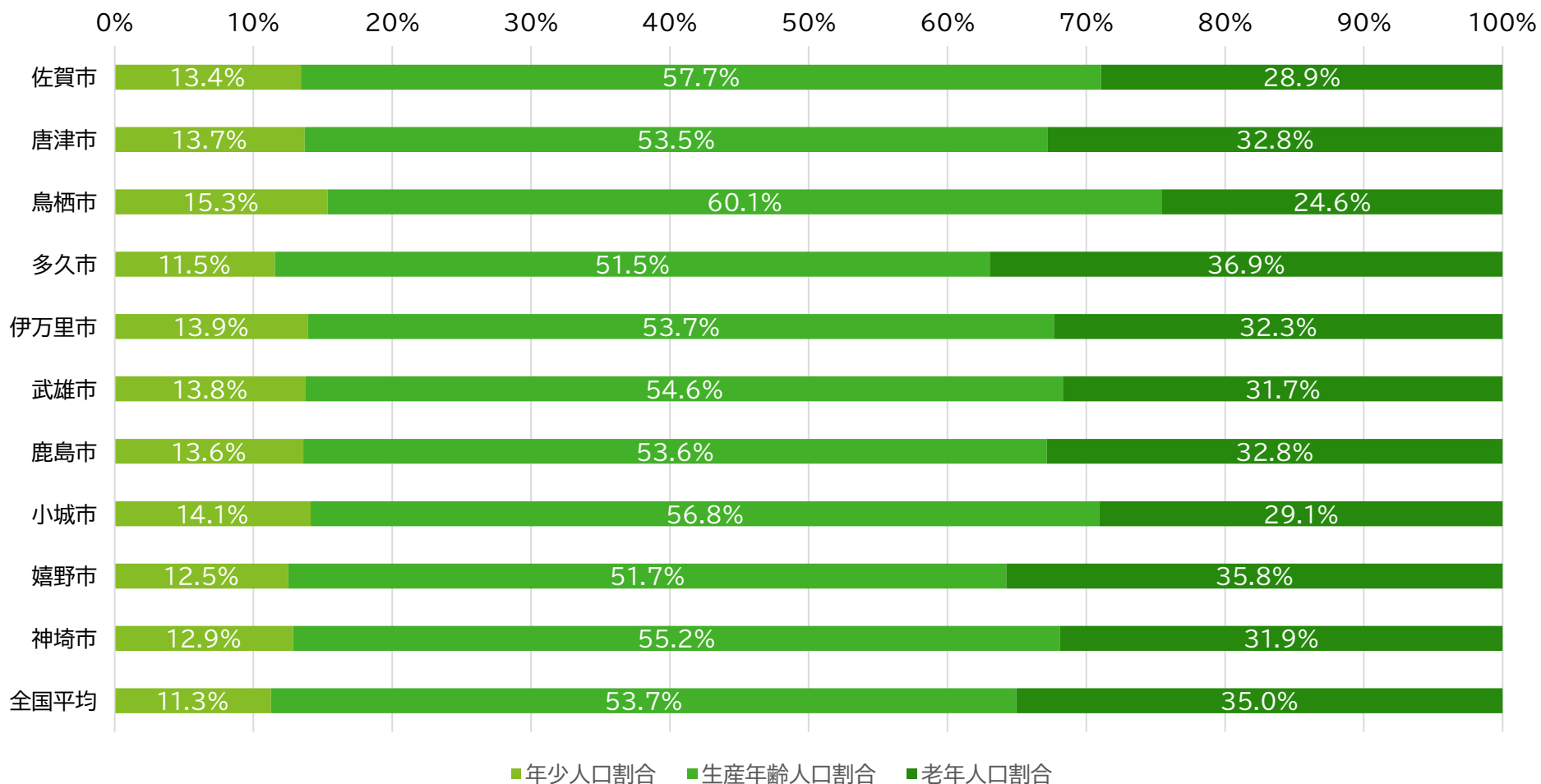
- ✓今後、生産年齢人口は、2020年の13万人から、約6万人減少し2070年には7万人を下回ると見込まれている。
- ✓老年人口は2040年まで増加傾向で推移するが、以降は生産年齢人口や年少人口と同様に減少傾向となると見込まれている。
- ✓2040年には全世代の人口が減少する人口構造変化が起こると見込まれている。



I.人口 | 1.将来人口推計

人口の年齢構成の県内市との比較

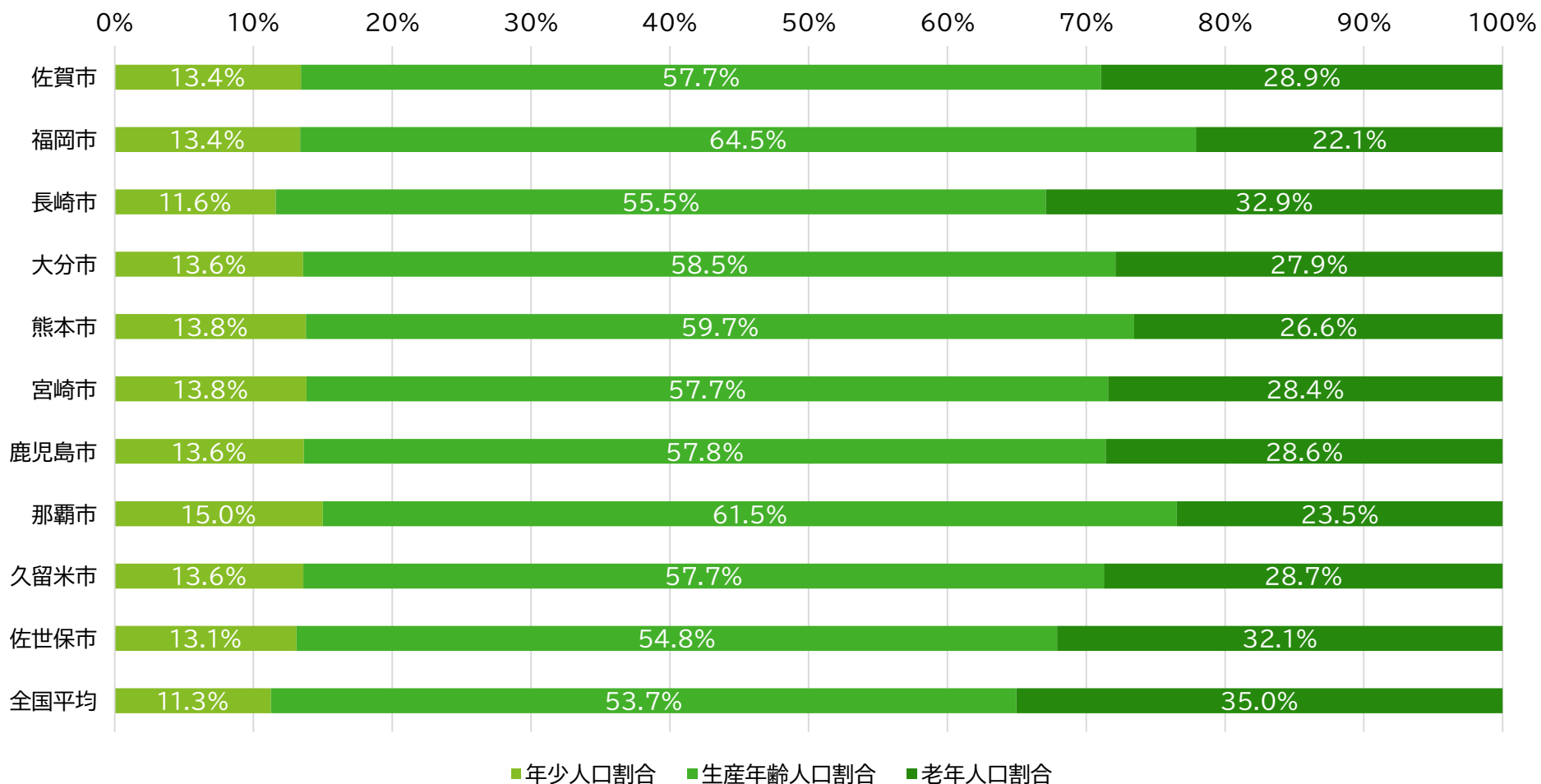
- ✓佐賀市の老年人口割合は、全国平均よりも低く、県内市と比較すると、鳥栖市に次いで2番目に低い割合となっている
- ✓生産年齢人口割合は全国平均よりも高く、県内市と比較すると、鳥栖市に次いで2番目に高い割合となっている
- ✓年少人口割合は全国平均よりも高いが、県内市と比較すると3番目に低い割合となっている。



I.人口 | 1.将来人口推計

人口の年齢構成のベンチマーク都市との比較

- ✓佐賀市の老年人口の割合は、全国平均と比較すると低く、年少人口・生産年齢人口の割合も高い
- ✓九州・沖縄地区のベンチマーク都市と比較すると老年人口の割合がやや高く、鹿児島市・久留米市と類似した年齢構成となっている

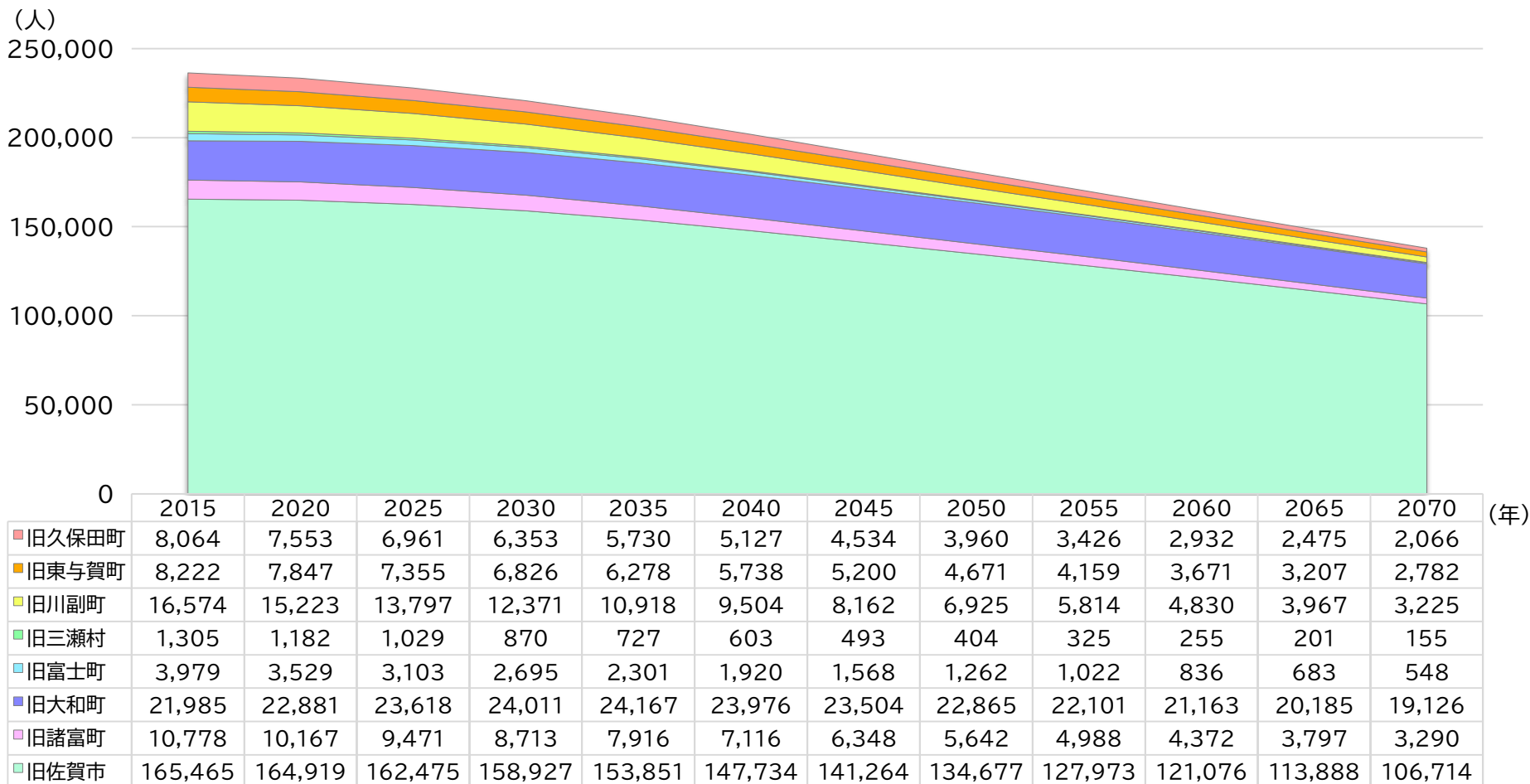


I.人口 | 2.地区別人口

旧市町村別人口推移

✓いずれのエリアでも人口減少が見込まれており、最も人口減少率が高いと見込まれる旧三瀬村では2070年には2015年比で88.1%の減少が想定されている。

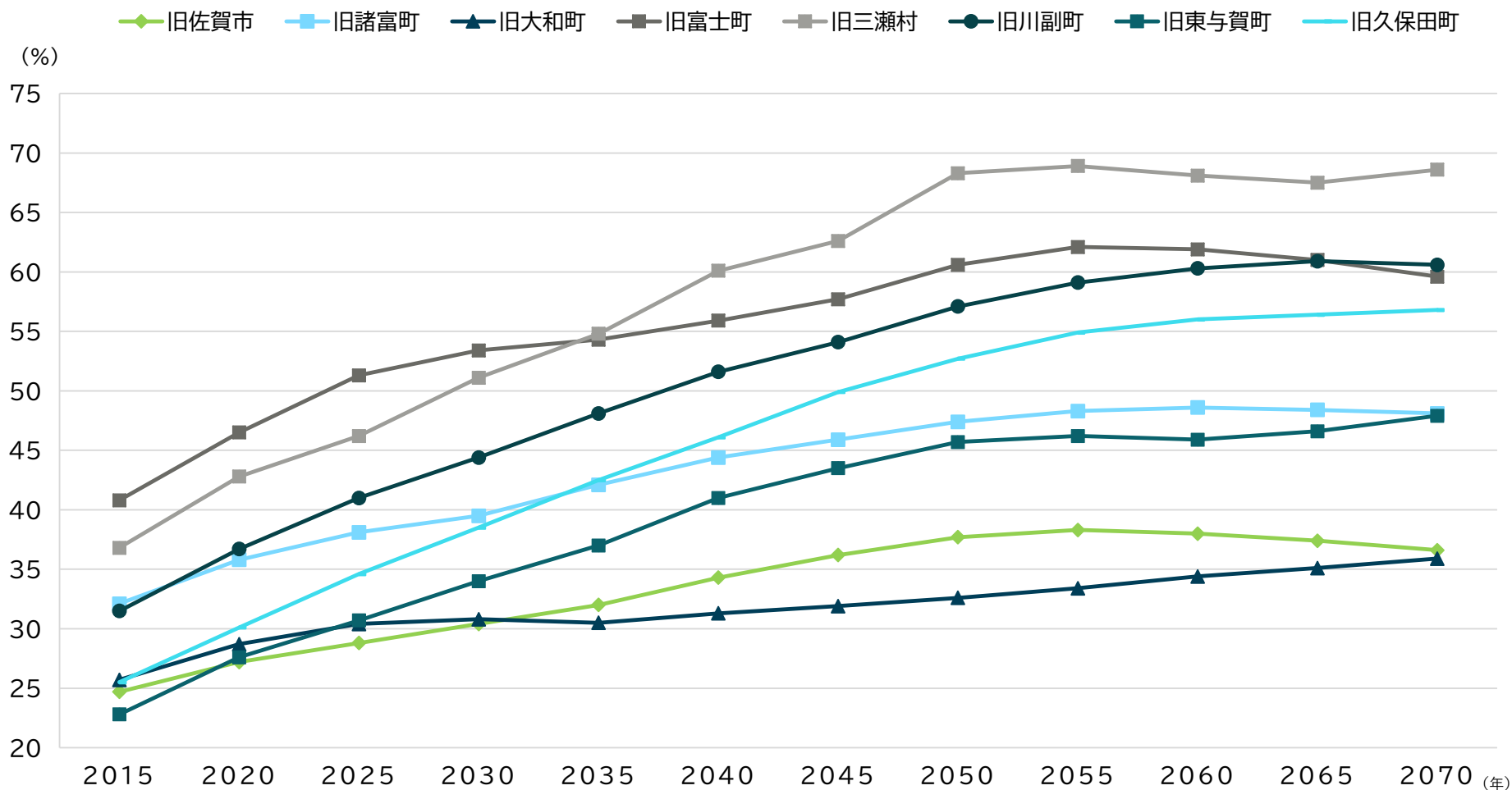
✓最も人口減少率が低いと見込まれている地域は旧大和町であり、2015年比で13%の減少が想定されている。



I.人口 | 2.地区別人口

旧市町村別高齢化率

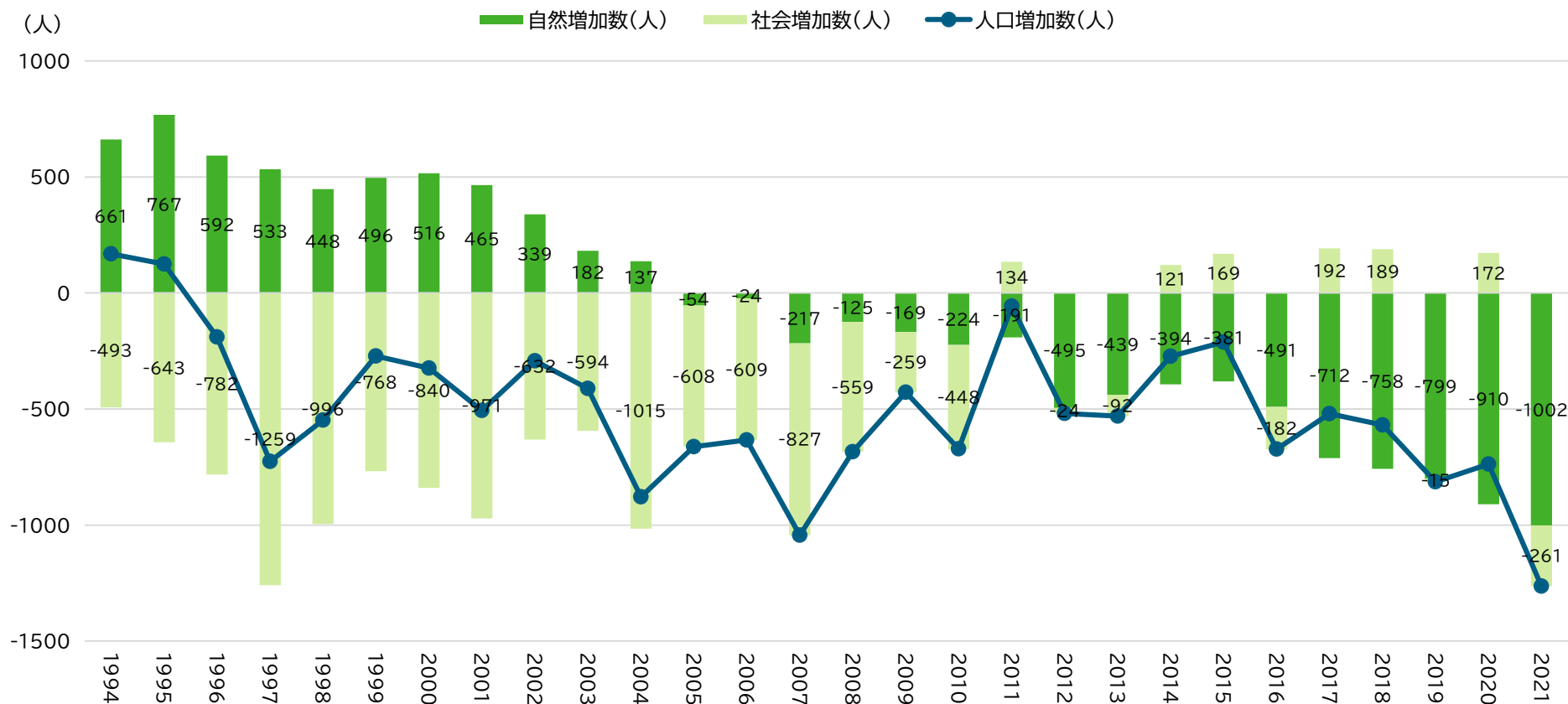
- ✓全ての旧市町村において、高齢化率が増加傾向にある。
- ✓特に旧三瀬村、旧富士町、旧川副町、の3地区は、2040年時点で高齢化率が50%を超えると見込まれている。



I.人口 | 3.自然増減・社会増減の推移

佐賀市の自然増減・社会増減の推移

- ✓自然増減数は、2004年までは出生数が死亡数を上回る自然増となっていたが、2005年より死亡数が出生数を上回り自然減となっている。
- ✓社会増減数は、2010年までは転出数が転入数を上回り社会減の傾向が強かったが、2011年より転入者が転出者を上回る社会増の年が出てきている。
- ✓年によって、変動はあるものの1996年～2021年に至るまで一度も人口増加となった年はない。

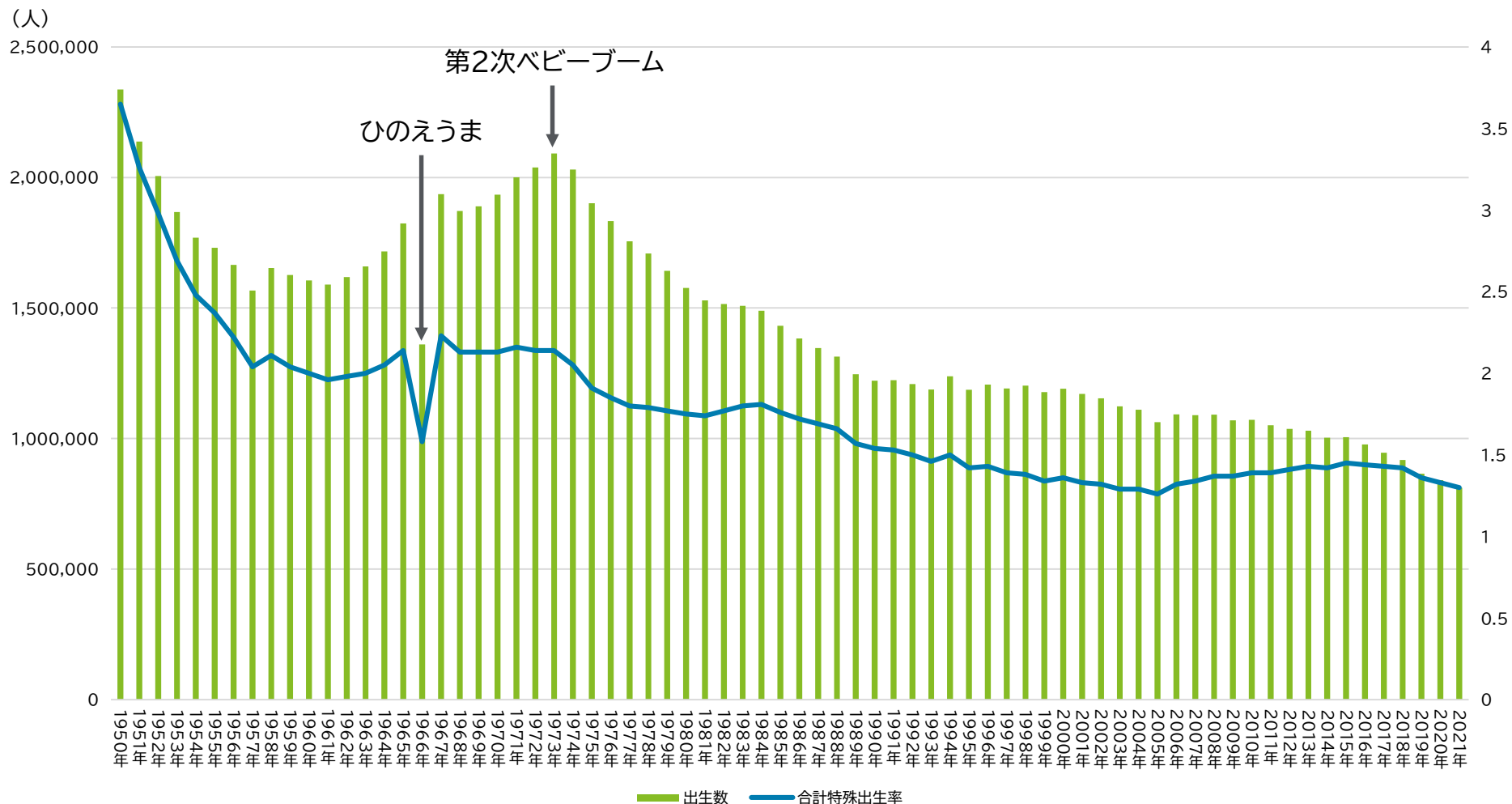


【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

I.人口 | 4.自然増減

国内の出生率・出生数の推移

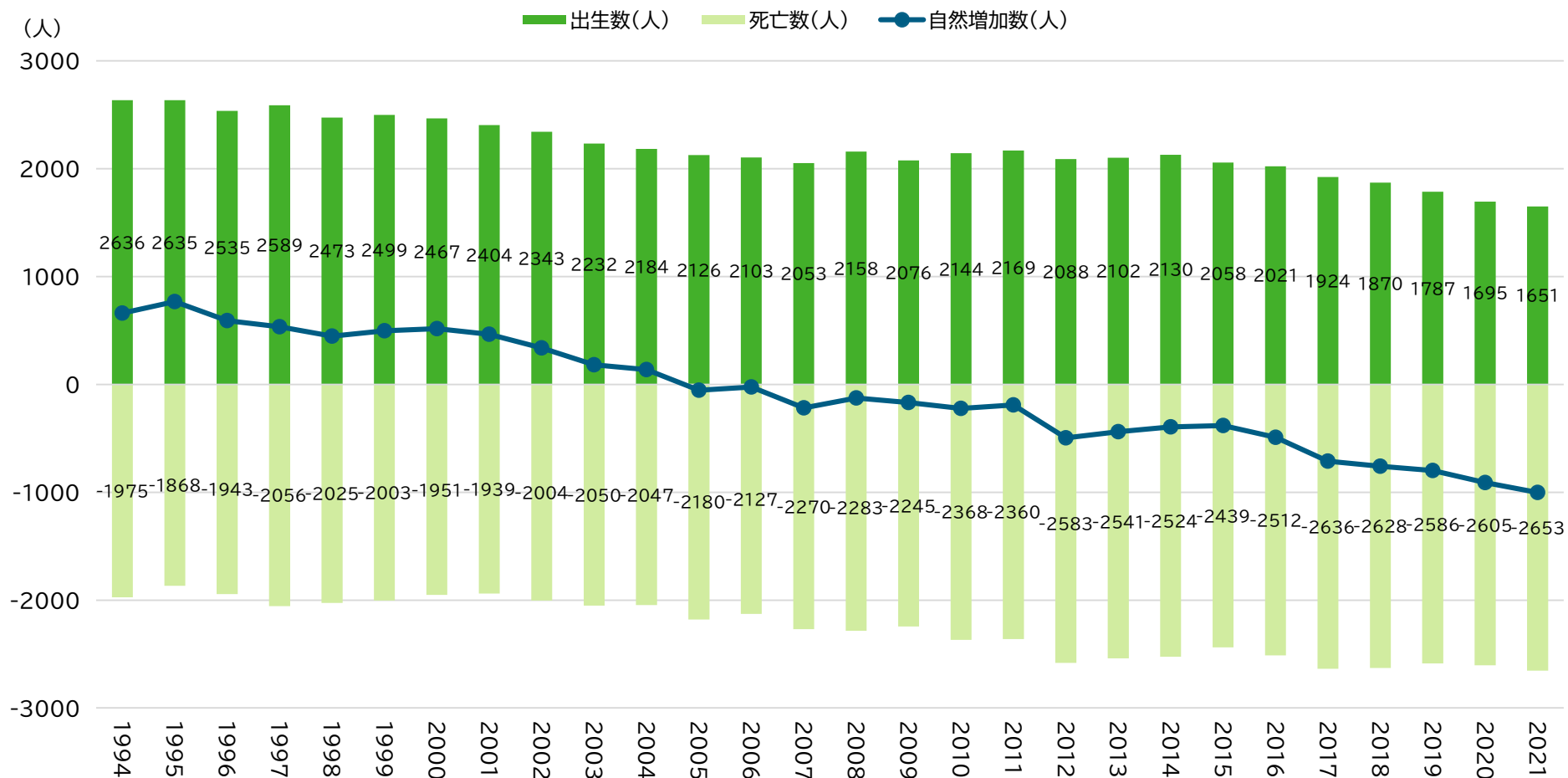
- ✓国内の出生数は1950年をピークとして、1973年より減少傾向が続いており、2016年には100万人を下回っている。
- ✓合計特殊出生率は1961年に初めて2を下回り減少傾向となっていたが、2006年より一時的に増加傾向に転じた。
- ✓その後、2016年より再び減少傾向の状況が続いている。



I.人口 | 4.自然増減

佐賀市の出生数・死亡数の推移

- ✓佐賀市の自然増減は、死亡数が出生数を上回る自然減の状況が2005年より続いている。
- ✓死亡数の増加傾向と出生数の減少傾向から、近年は自然減が拡大している。

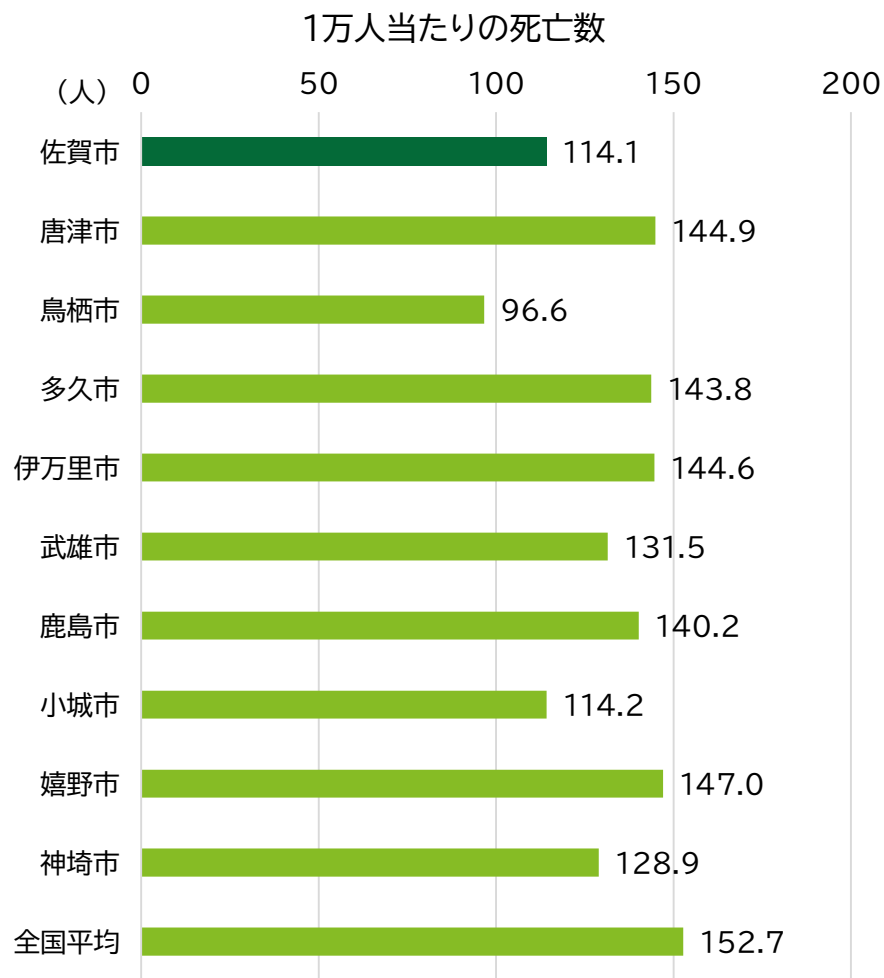
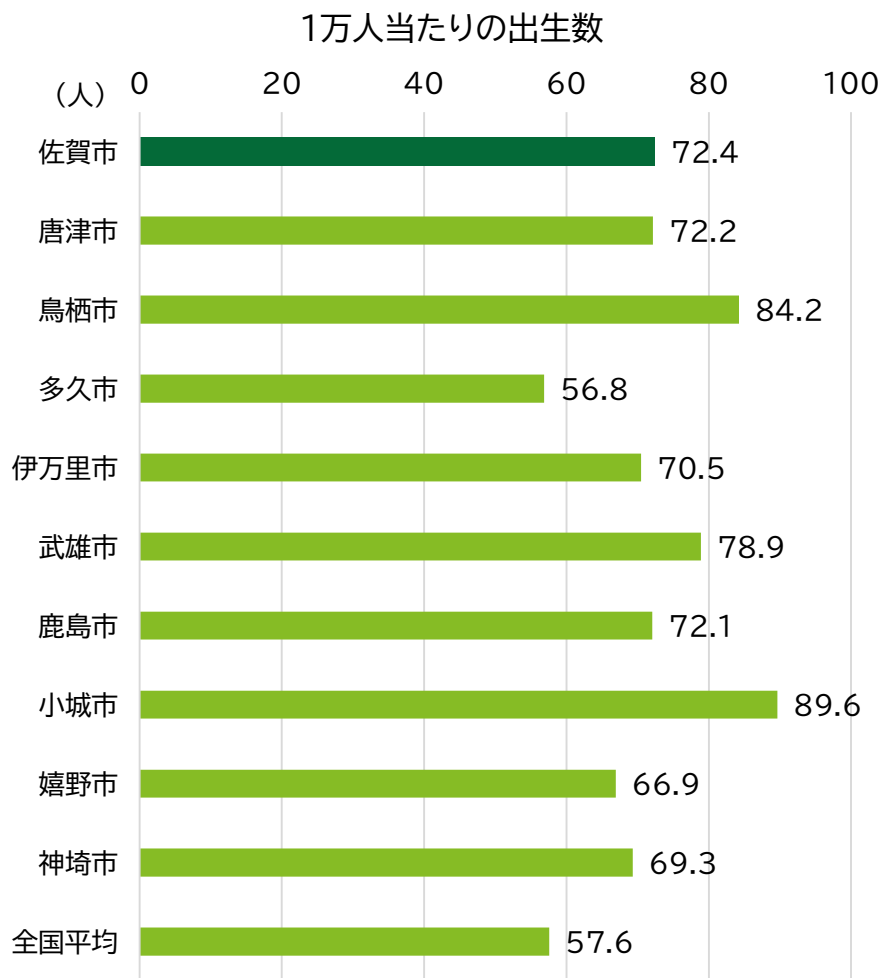


注記:2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

I.人口 | 4.自然増減

1万人当たりの出生数・死亡数の県内市との比較

- ✓1万人当たりの出生数は全国平均より多く、県内市の中でもやや多い。
- ✓1万人当たりの死亡数は全国平均より少なく、鳥栖市を除いた県内市より小さい値となっている。

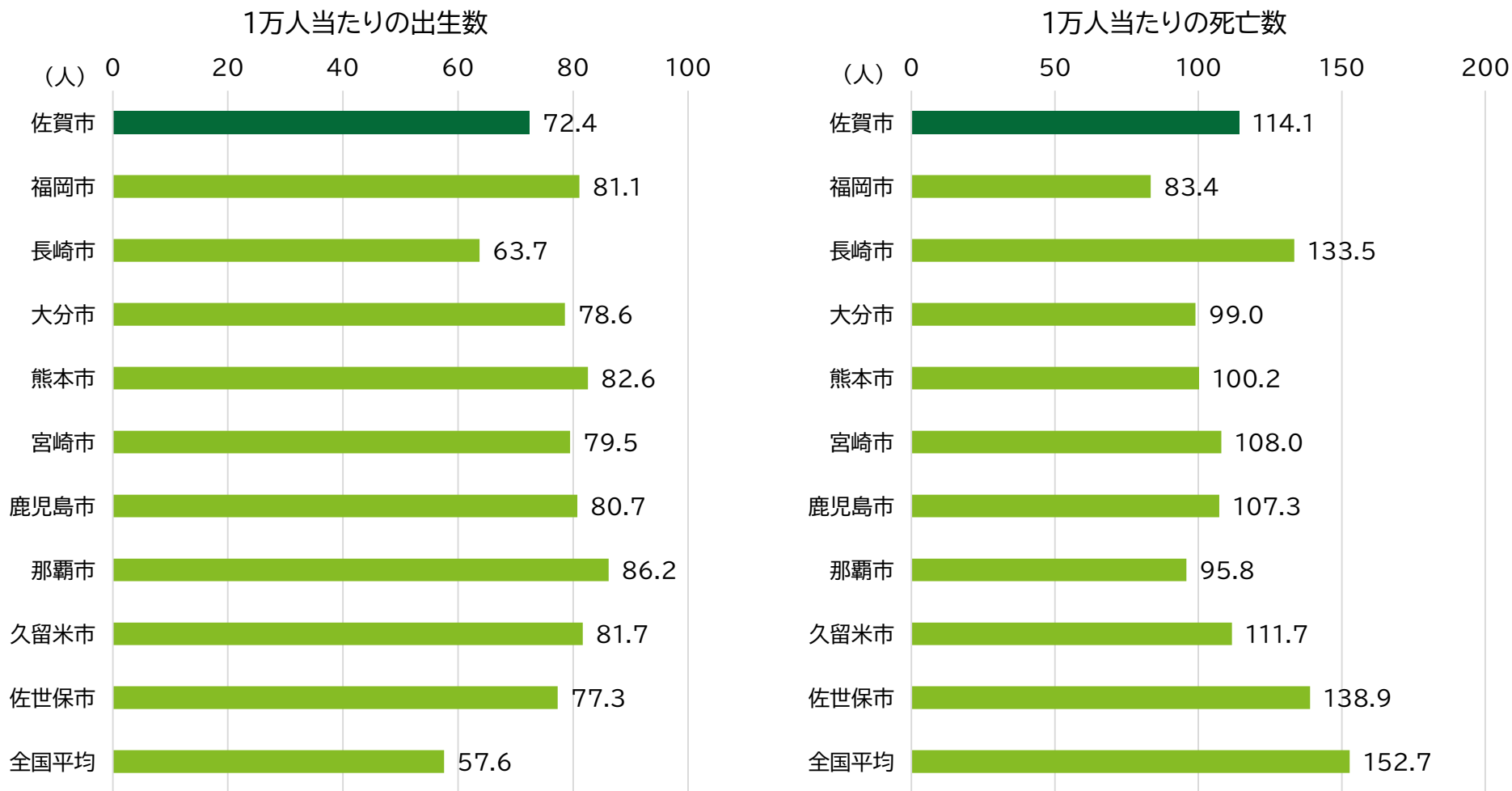


I.人口 | 4.自然増減

1万人当たりの出生数・死亡数のベンチマーク都市との比較

✓佐賀市は全国平均と比較すると、1万人当たりの出生数では全国平均を上回り、死亡数では下回っているものの、死亡数の方が多く自然減の状況である。

✓ベンチマーク都市との比較では、いずれの都市も程度の差はあるものの、佐賀市と概ね同様の出生数<死亡数の状況にある。

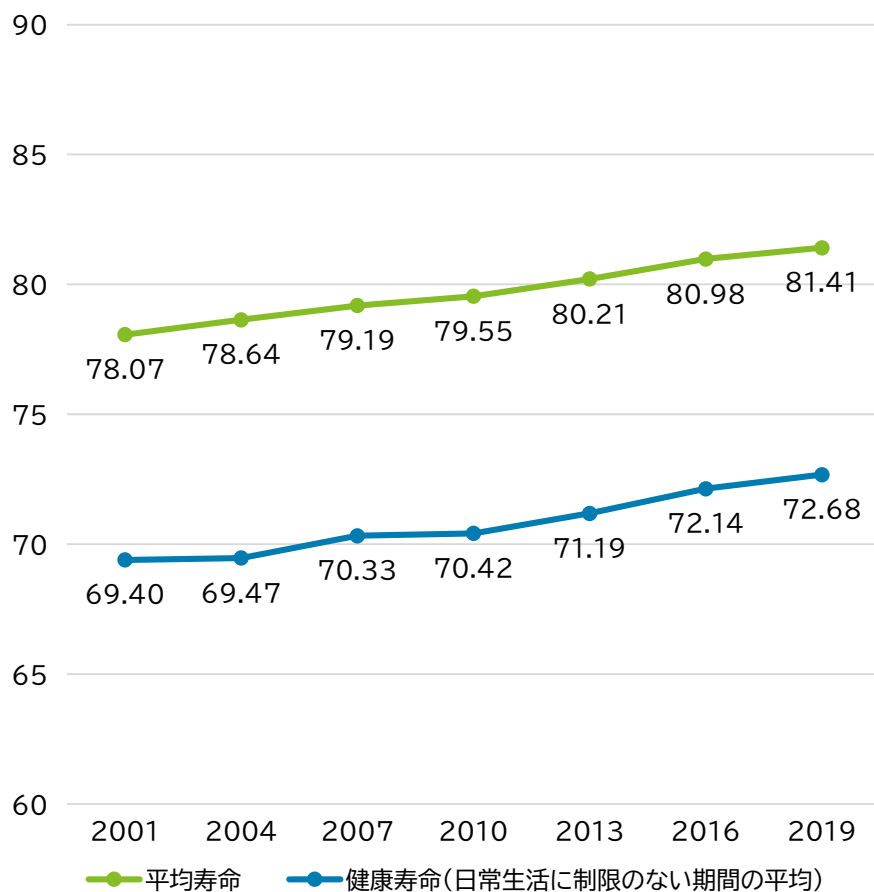


I.人口 | 4.自然増減

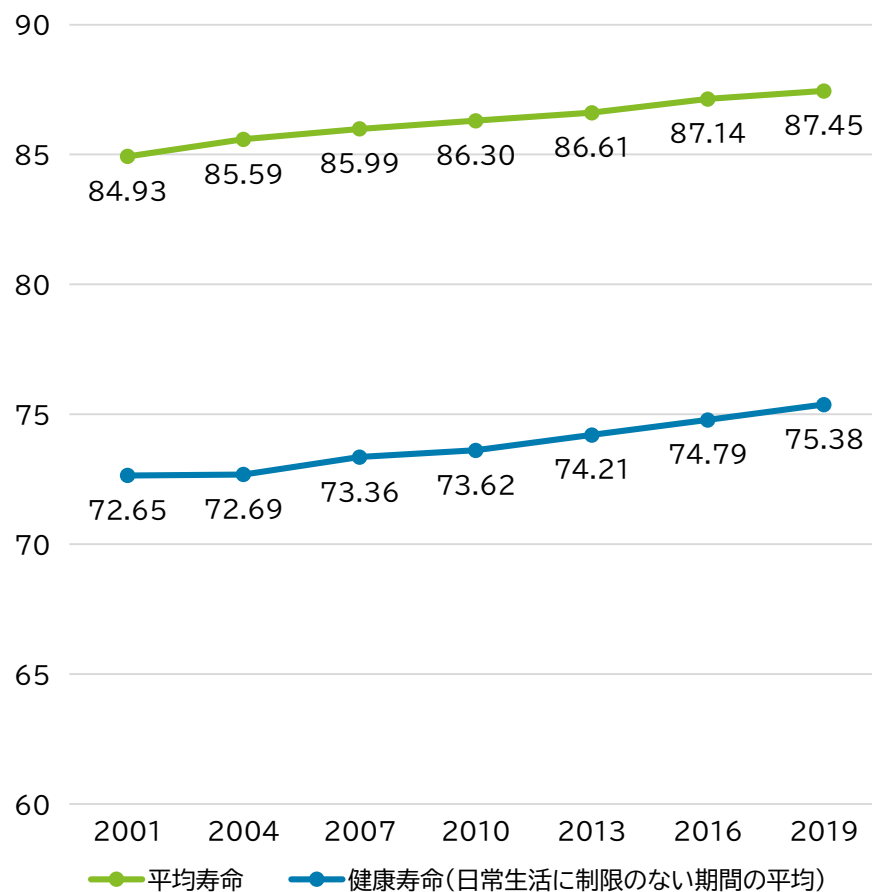
国内の平均寿命と健康寿命の推移

✓男性、女性共に、平均寿命・健康寿命は延びている傾向にある。
✓健康寿命は2010年から2019年の期間で、男性が2.26年、女性が1.76年増加しており、同期間の平均寿命の増加量をそれぞれ上回っている。

男性の平均寿命・健康寿命の推移



女性の平均寿命・健康寿命の推移

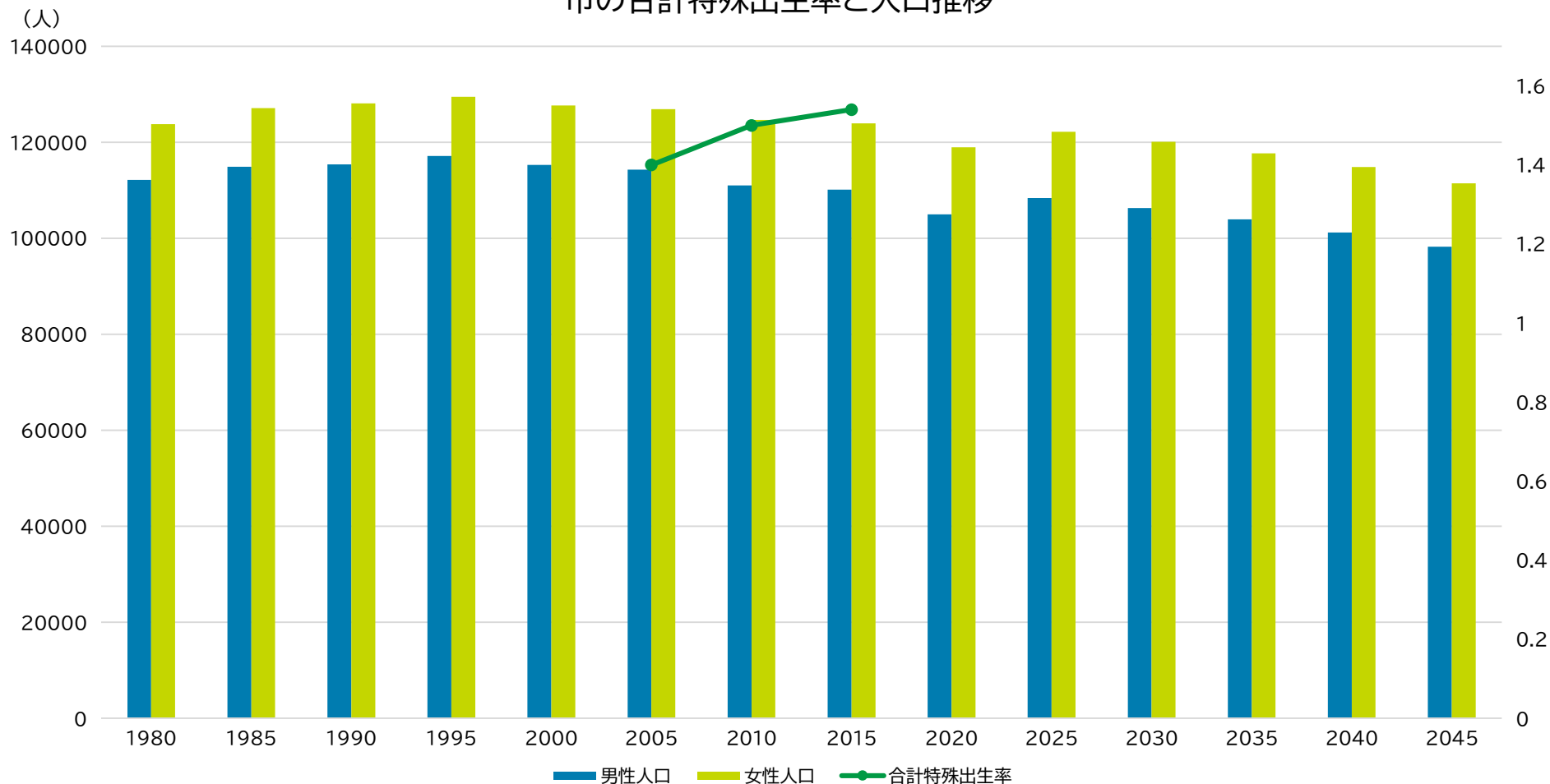


I.人口 | 4.自然増減

佐賀市の合計特殊出生率と人口推移

- ✓男性人口、女性人口ともに1995年までは増加傾向にあり、2000年から2020年までは減少傾向にある。
- ✓今後の推移としては、2025年に男性人口、女性人口ともに微増し、それ以降は減少傾向となる。
- ✓合計特殊出生率は2005年から2015年までの間は増加傾向にある。

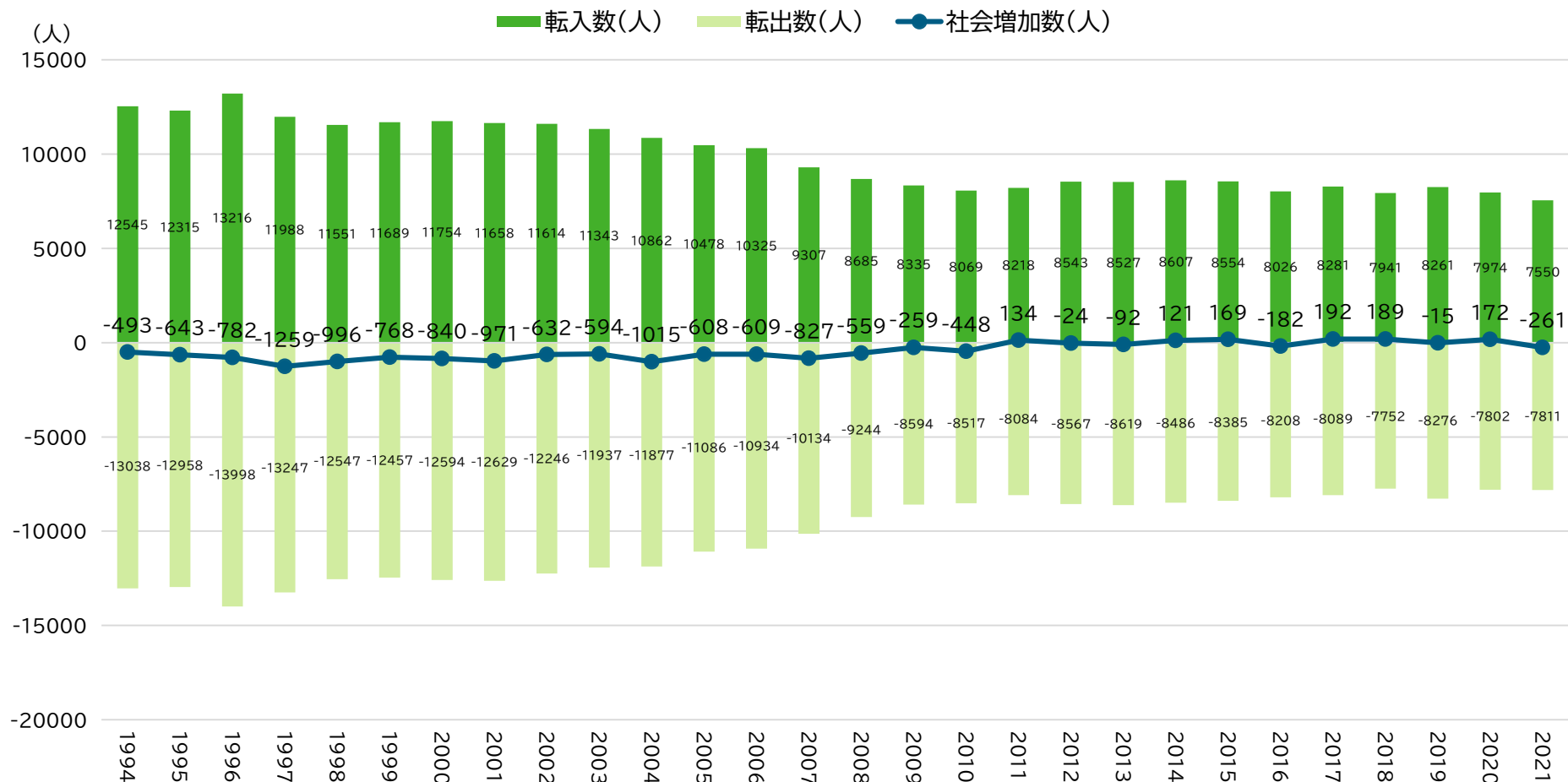
市の合計特殊出生率と人口推移



I.人口 | 5.社会増減

佐賀市の転入数・転出数の推移

- ✓1996年をピークに転入数、転出数ともに減少傾向が続いている。
- ✓1994年から2010年までは転出数が転入数を上回る社会減の状況が続いていたが、2011年以降は社会増となる年もあった。

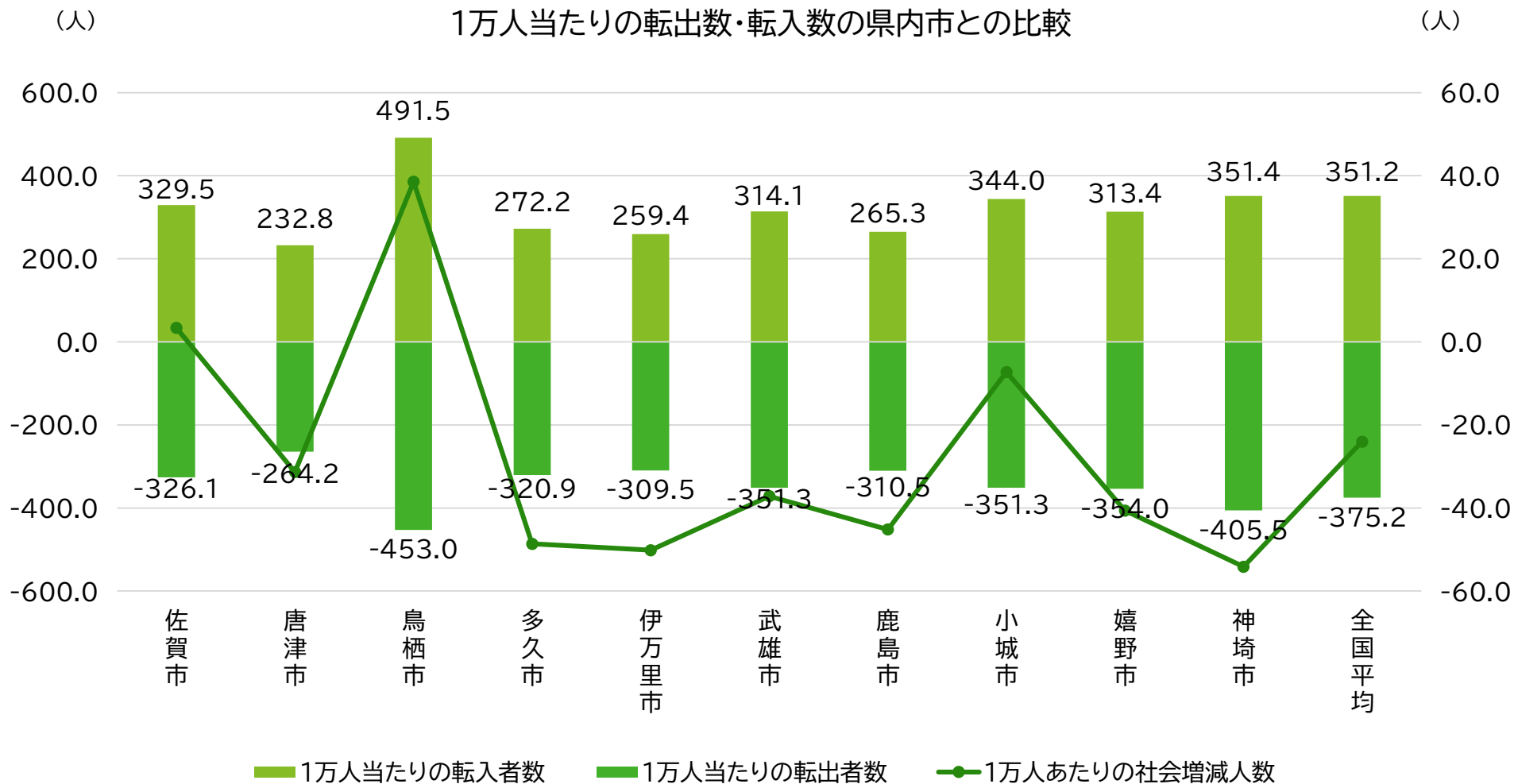


注記:2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

I.人口 | 5.社会増減

1万人当たりの転出数・転入数の県内市との比較

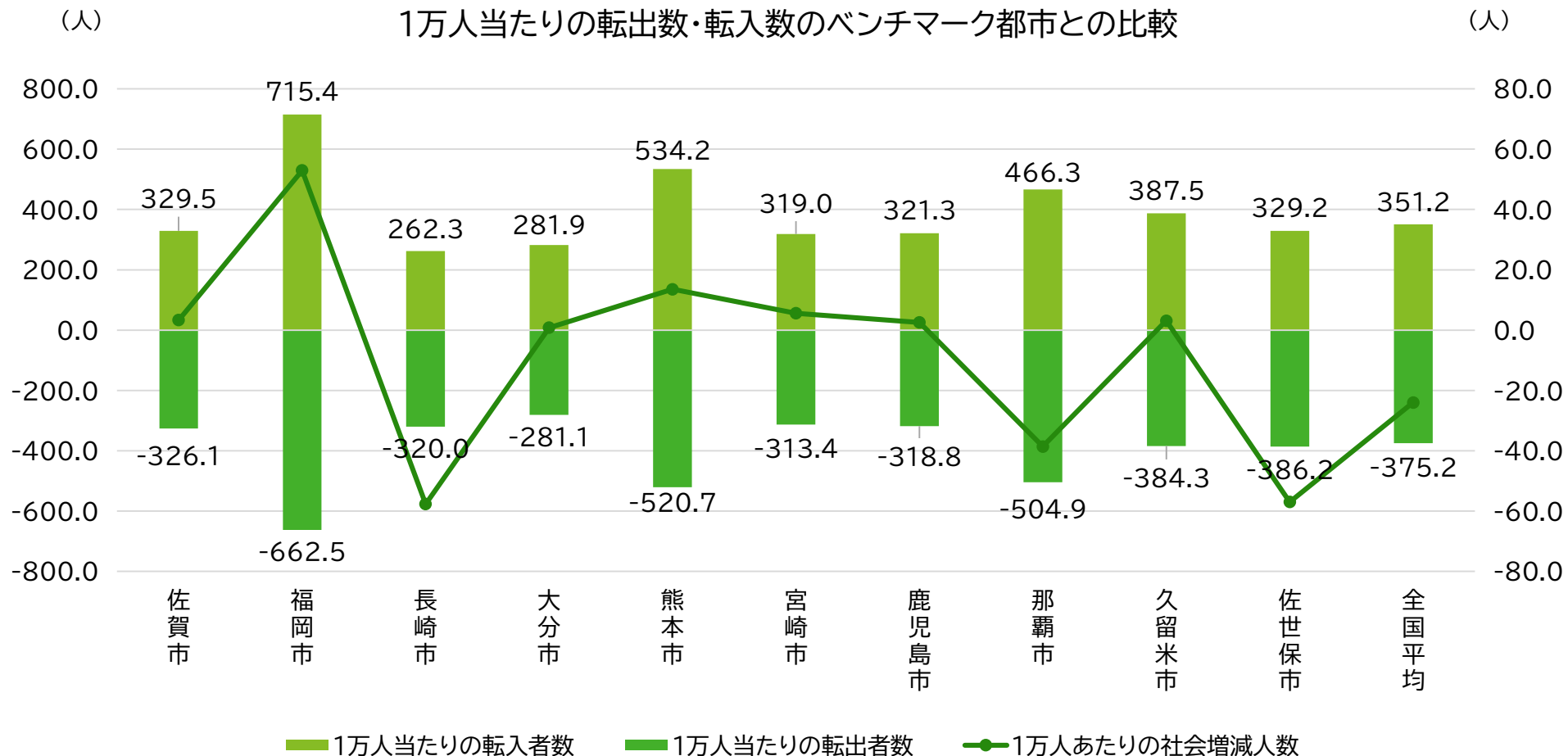
✓県内市で転入者数が転出者数を上回る社会増となっているのは、佐賀市、鳥栖市のみであり、それ以外の市は社会減となっている。



I.人口 | 5.社会増減

1万人当たりの転出数・転入数のベンチマーク都市との比較

✓佐賀市は全国平均と比較して1万人あたりの転入者数・転出者数ともに少なく、わずかではあるものの転入者数の方が多い。
✓ベンチマーク都市との比較では、それぞれ程度の差はあるものの、福岡市、大分市、熊本市、宮崎市、鹿児島市、久留米市が佐賀市と同様に社会増の状況にある。



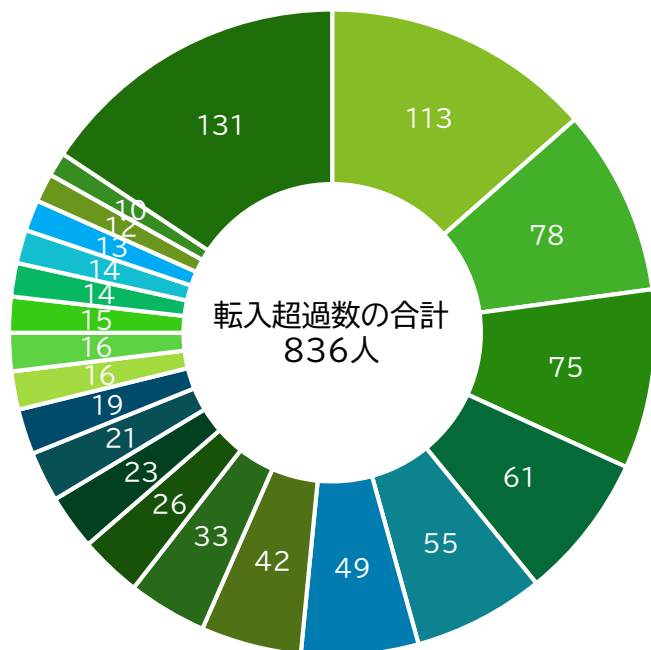
I.人口 | 5.社会増減

佐賀市への転出数・転入数の上位地域(2022年)

✓都道府県別で転出先を見ると、福岡県が転出超過数内訳の過半数を占めている。特に福岡市は2位の久留米市の60人に4倍以上の差をつける252人の転出数となっている。

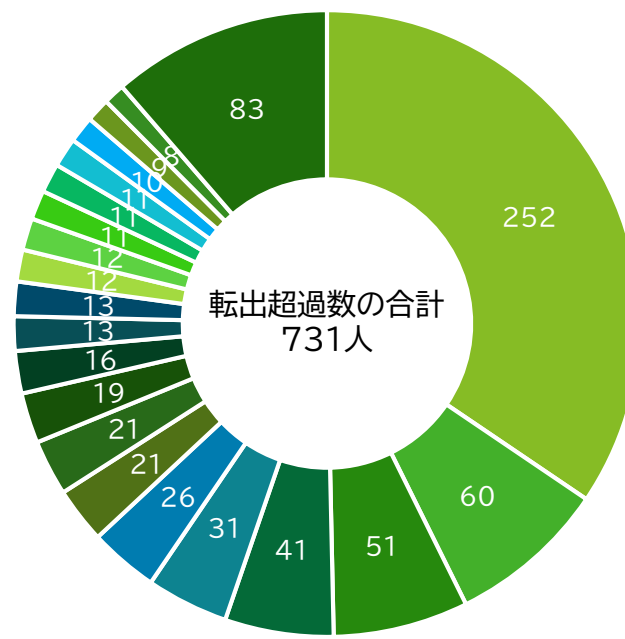
✓転入数では、佐賀県内の他市町村からの転入者が転入超過数内訳の過半数を占めている。

転入超過数内訳(人)



- 1位 佐賀県小城市
- 2位 佐賀県唐津市
- 3位 佐賀県武雄市
- 4位 佐賀県伊万里市
- 5位 佐賀県嬉野市
- 6位 長崎県佐世保市
- 7位 佐賀県白石市
- 8位 佐賀県鹿島市
- 9位 佐賀県多久市
- 10位 長崎県諫早市
- 11位 長崎県長崎市
- 12位 宮崎県宮崎市
- 13位 佐賀県基山町
- 14位 東京都江戸川区
- 15位 福岡県大川市
- 16位 福岡県宗像市
- 17位 福岡県小郡市

転出超過数内訳(人)



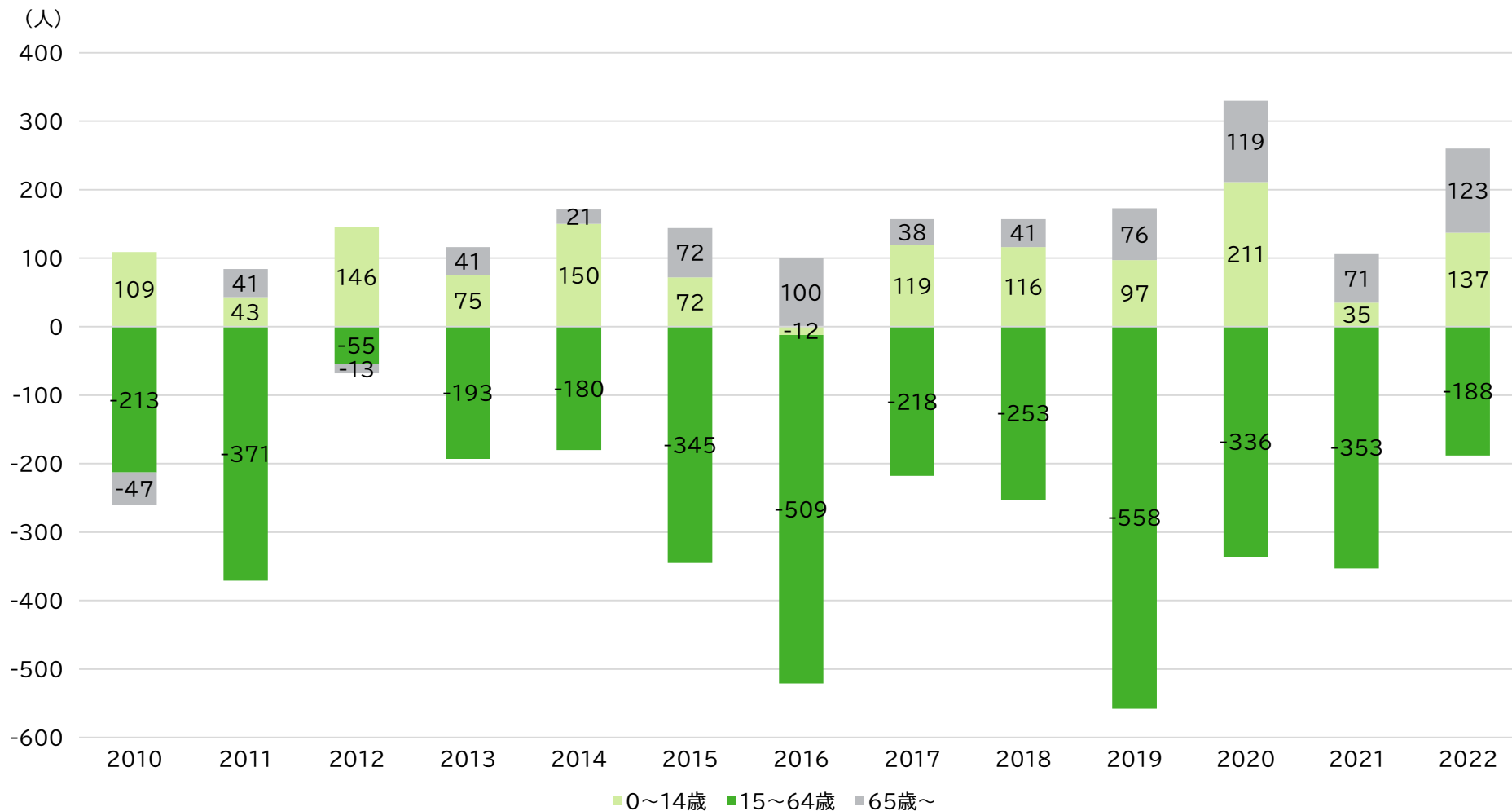
- 1位 福岡県福岡市
- 2位 福岡県久留米市
- 3位 佐賀県神崎市
- 4位 熊本県熊本市
- 5位 福岡県志免町
- 6位 東京都太田区
- 7位 福岡県大野城市
- 8位 広島県広島市
- 9位 佐賀県鳥栖市
- 10位 神奈川県横浜市
- 11位 佐賀県上峰町
- 12位 東京都練馬区
- 13位 福岡県春日市
- 14位 岡山県岡山市
- 15位 兵庫県神戸市
- 16位 京都府京都市
- 17位 東京都新宿区
- 18位 東京都板橋区
- 19位 山口県山口市

注記:2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

I.人口 | 5.社会増減

佐賀市の年齢階級別の人口移動の状況

✓2010年より15～64歳の生産年齢人口で転出超過になっており、2013年より65歳以上の老年人口が転入超過になっている。
✓0～14歳の人口は2016年は12人の減となったものの2010年～2022年は基本的に転入超過が続いている。

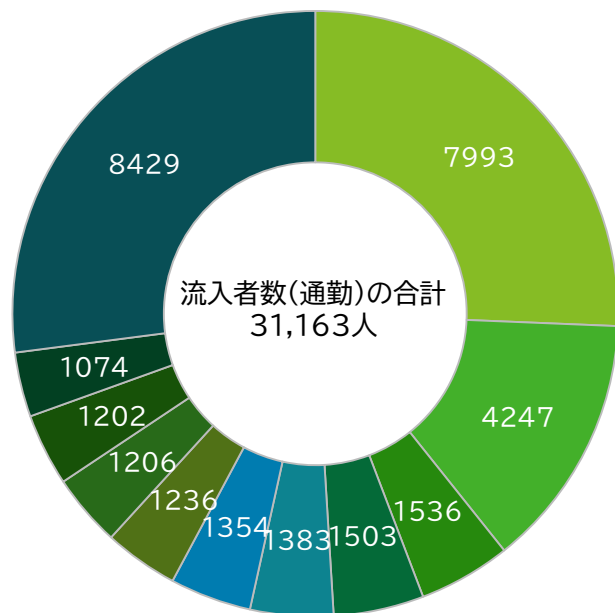


I.人口 | 5.社会増減

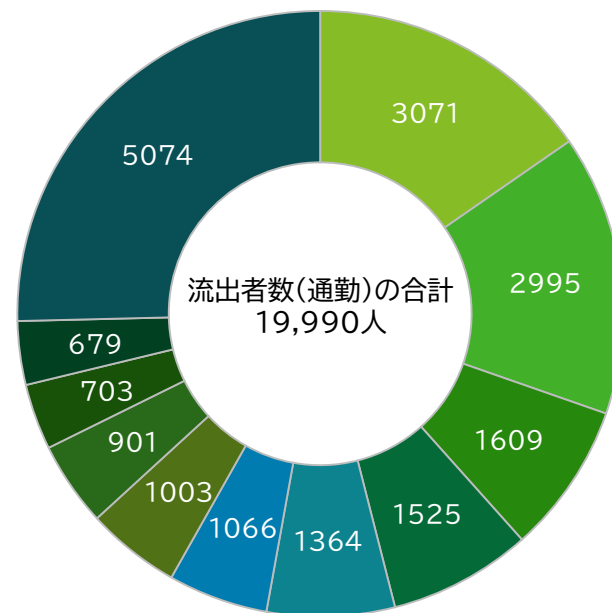
佐賀市の通勤者の流入・流出人口の地域別構成(2020年)

- ✓通勤者の流入・流出人口共に佐賀県小城市が最も多くなっている。
- ✓都道府県別で見た際は、流入・流出人口共に佐賀県が過半数を占めており、次いで福岡県となっている。

域内への流入者数(通勤者)(人)



域外への流出者数(通勤者)(人)



- 佐賀県小城市
- 佐賀県神埼市
- 佐賀県白石市
- 佐賀県多久市
- 福岡県久留米市
- 福岡県大川市
- 佐賀県鳥栖市
- 佐賀県武雄市
- 佐賀県吉野ヶ里市
- 福岡県福岡市
- その他

- 佐賀県小城市
- 佐賀県神埼市
- 福岡県福岡市
- 佐賀県鳥栖市
- 福岡県大川市
- 福岡県久留米市
- 佐賀県吉野ヶ里市
- 佐賀県多久市
- 佐賀県武雄市
- 佐賀県みやき市
- その他

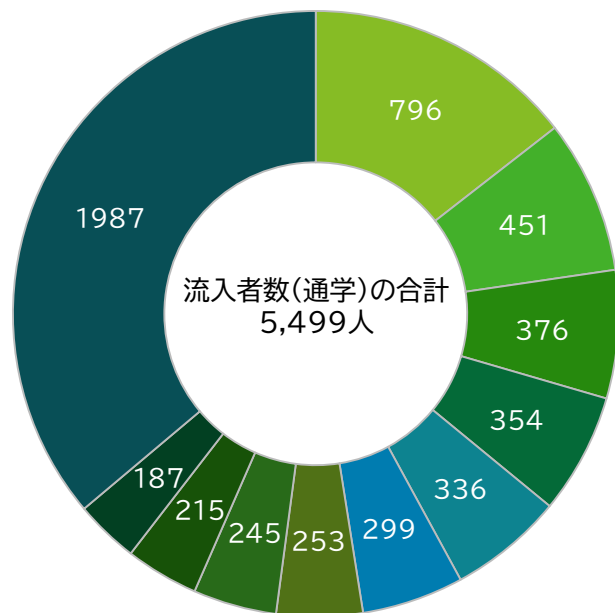
※「流出人口」とは、市に常住し市外へ通勤・通学する人口をいい、「流入人口」とは、市外に常住し市に通勤・通学する人口をいう。

I.人口 | 5.社会増減

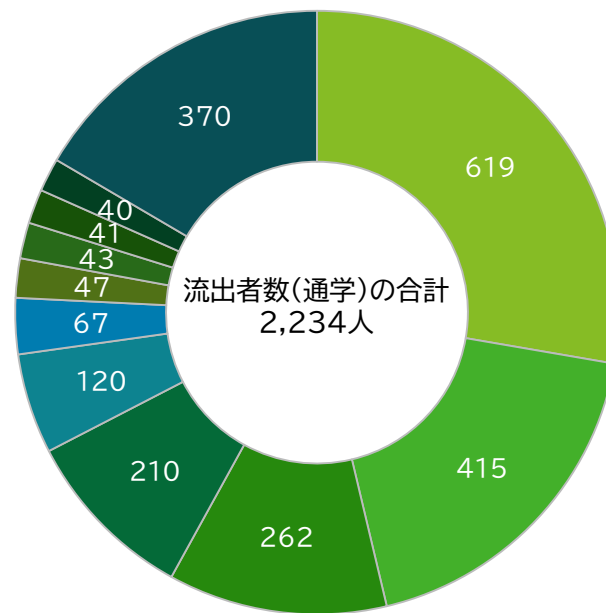
佐賀市の通学者の流入・流出人口の地域別構成(2020年)

- ✓通学者の流入人口は佐賀県小城市が最も多く、県内市への流入人口が過半数を占めている。
- ✓流出人口では福岡県福岡市が最も多く、次いで佐賀県小城市となっている。

域内への流入者数(通学者)(人)



域外への流出者数(通学者)(人)



- 佐賀県小城市
- 佐賀県神埼市
- 佐賀県唐津市
- 佐賀県武雄市
- 佐賀県鳥栖市
- 福岡県福岡市
- 佐賀県白石市
- 佐賀県多久市
- 佐賀県鹿島市
- 佐賀県吉野ヶ里市
- その他

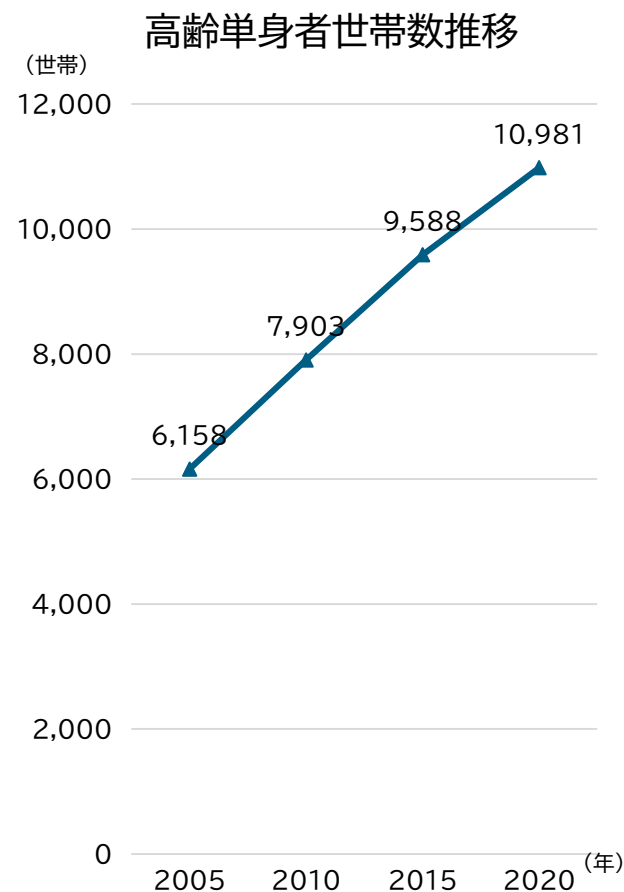
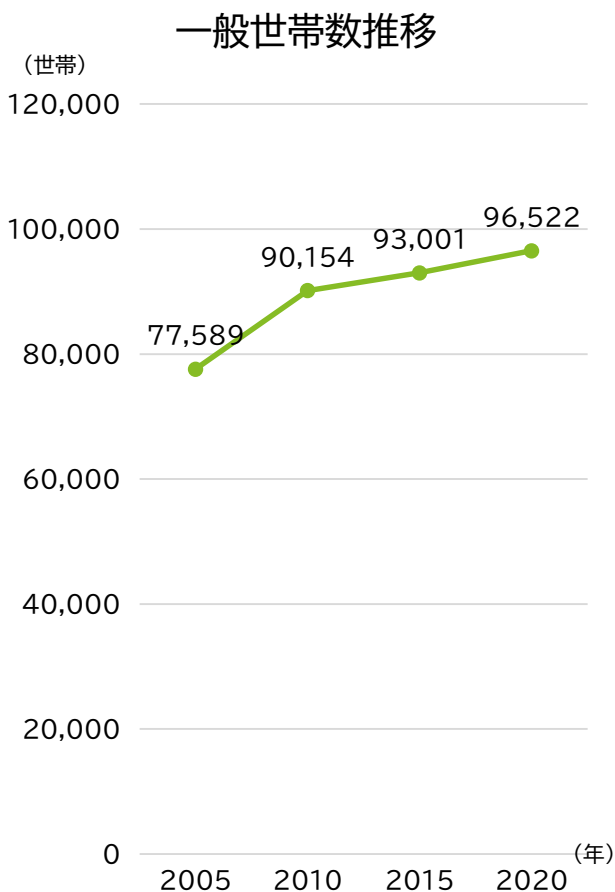
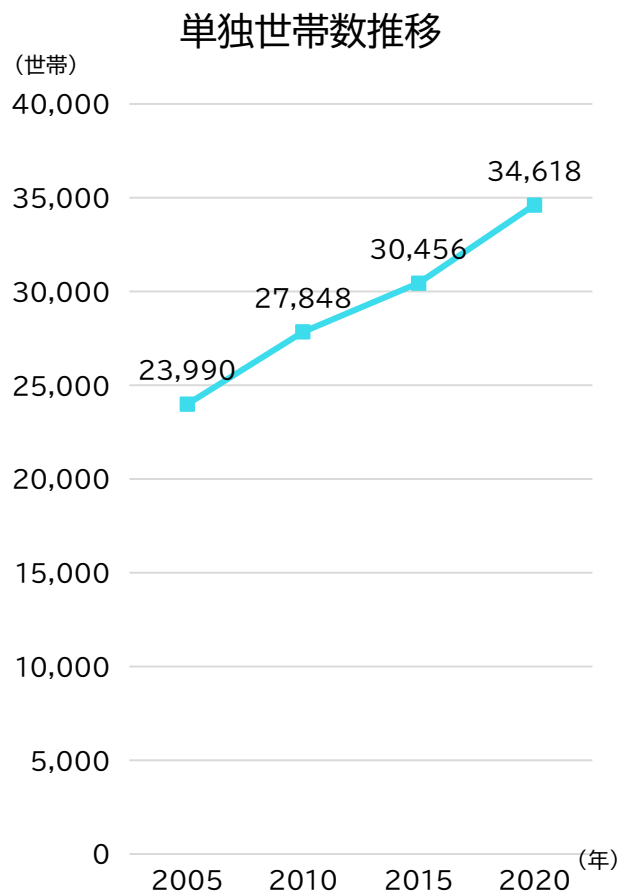
- 福岡県福岡市
- 佐賀県小城市
- 佐賀県神埼市
- 福岡県久留米市
- 佐賀県鳥栖市
- 福岡県大川市
- 福岡県柳川市
- 熊本県熊本市
- 佐賀県武雄市
- 福岡県太宰府市
- その他

※「流出人口」とは、市に常住し市外へ通勤・通学する人口をいい、「流入人口」とは、市外に常住し市に通勤・通学する人口をいう。

I.人口 | 6.世帯数

佐賀市の世帯数の推移

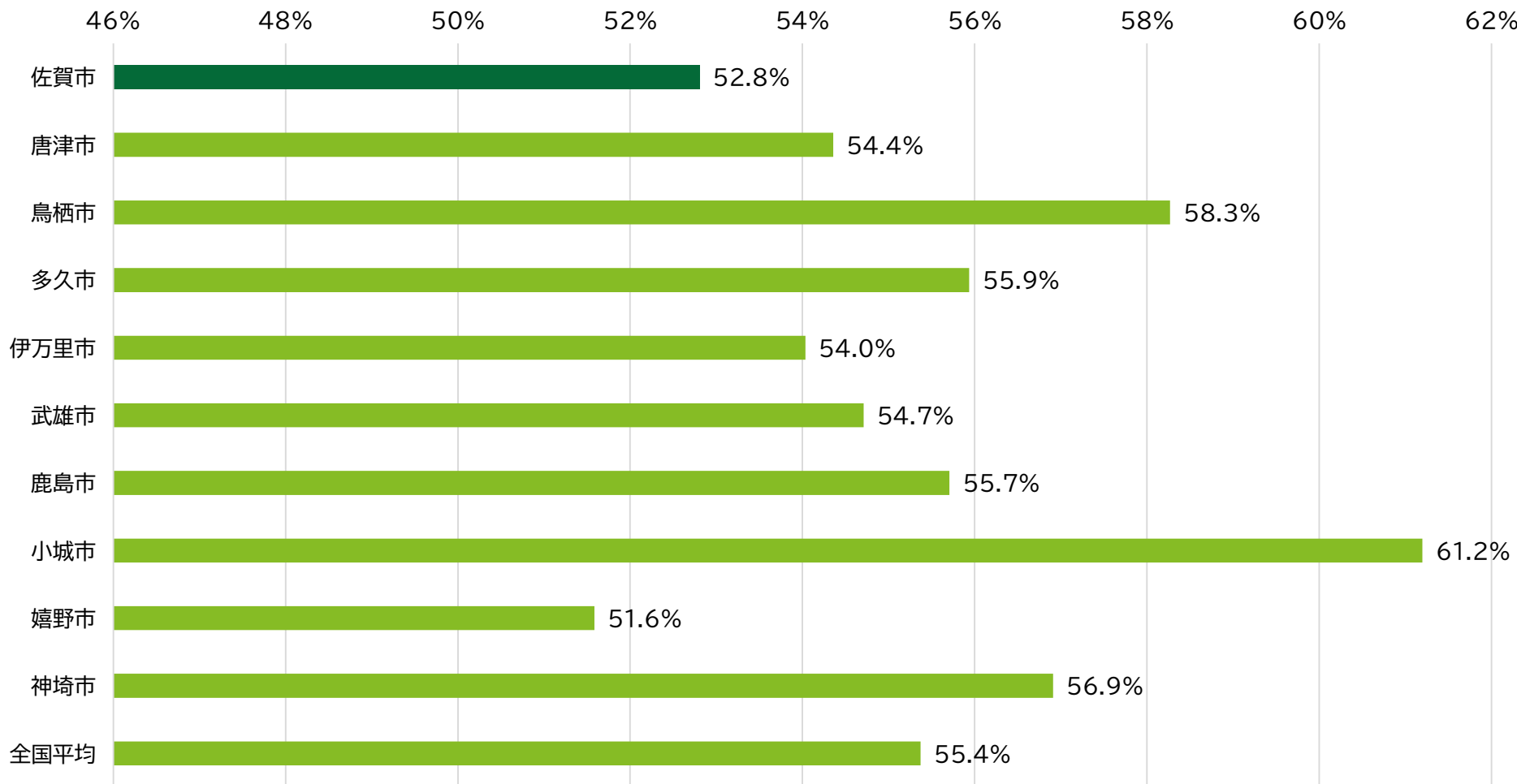
- ✓ 2005年より、現在まで増加傾向にある。
- ✓ 高齢者単身世帯は2005年には6,158世帯であったが、2020年には約1.8倍の10,981世帯まで増加している。



I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める核家族世帯の割合の県内市との比較

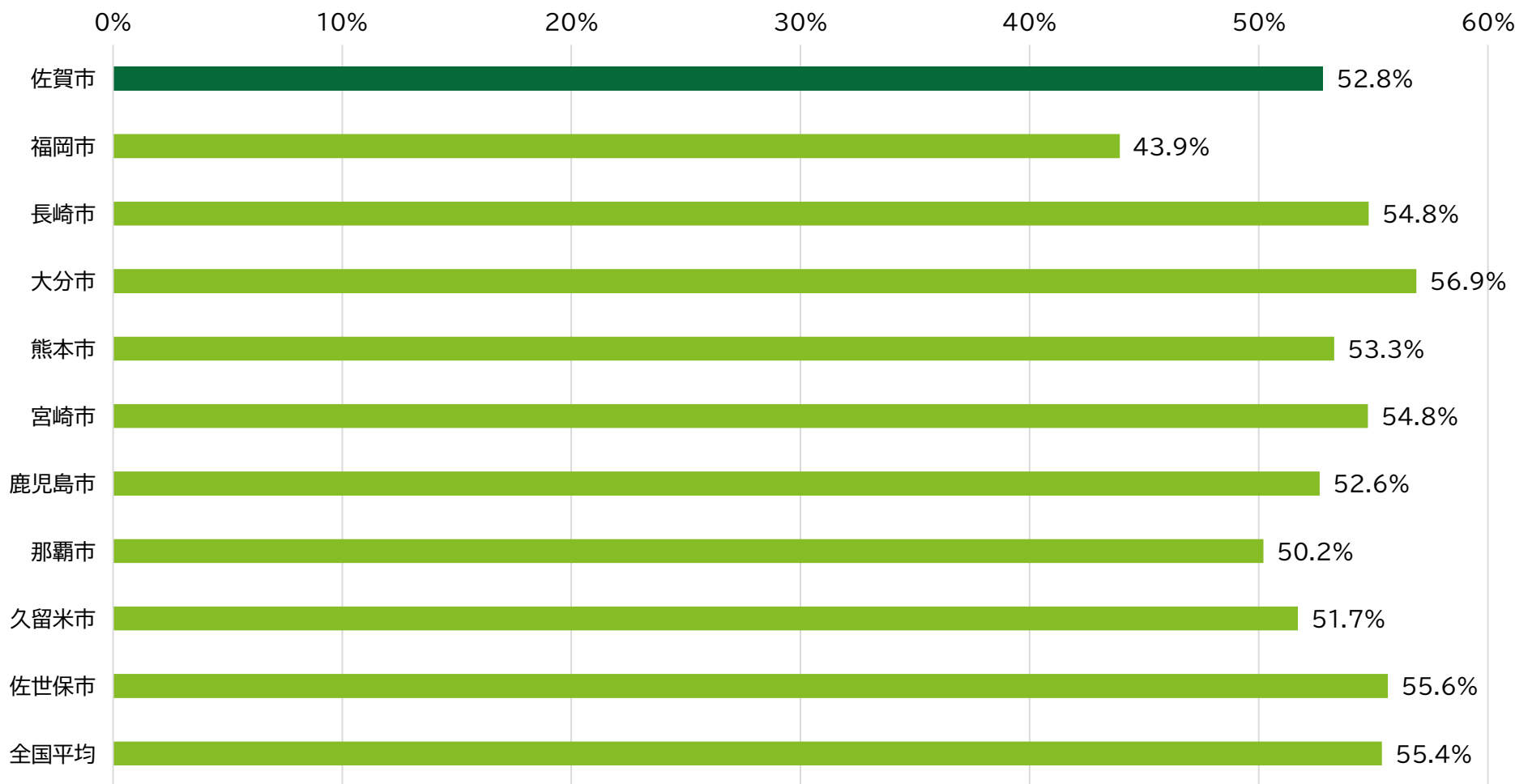
- ✓ 県内市と比較した際、核家族世帯の割合は嬉野市に次いで低い割合となっている。
- ✓ 全国の核家族世帯の割合は55.4%であり、県内市で下回っているのは佐賀市、唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市となっている。



I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める核家族世帯の割合のベンチマーク都市との比較

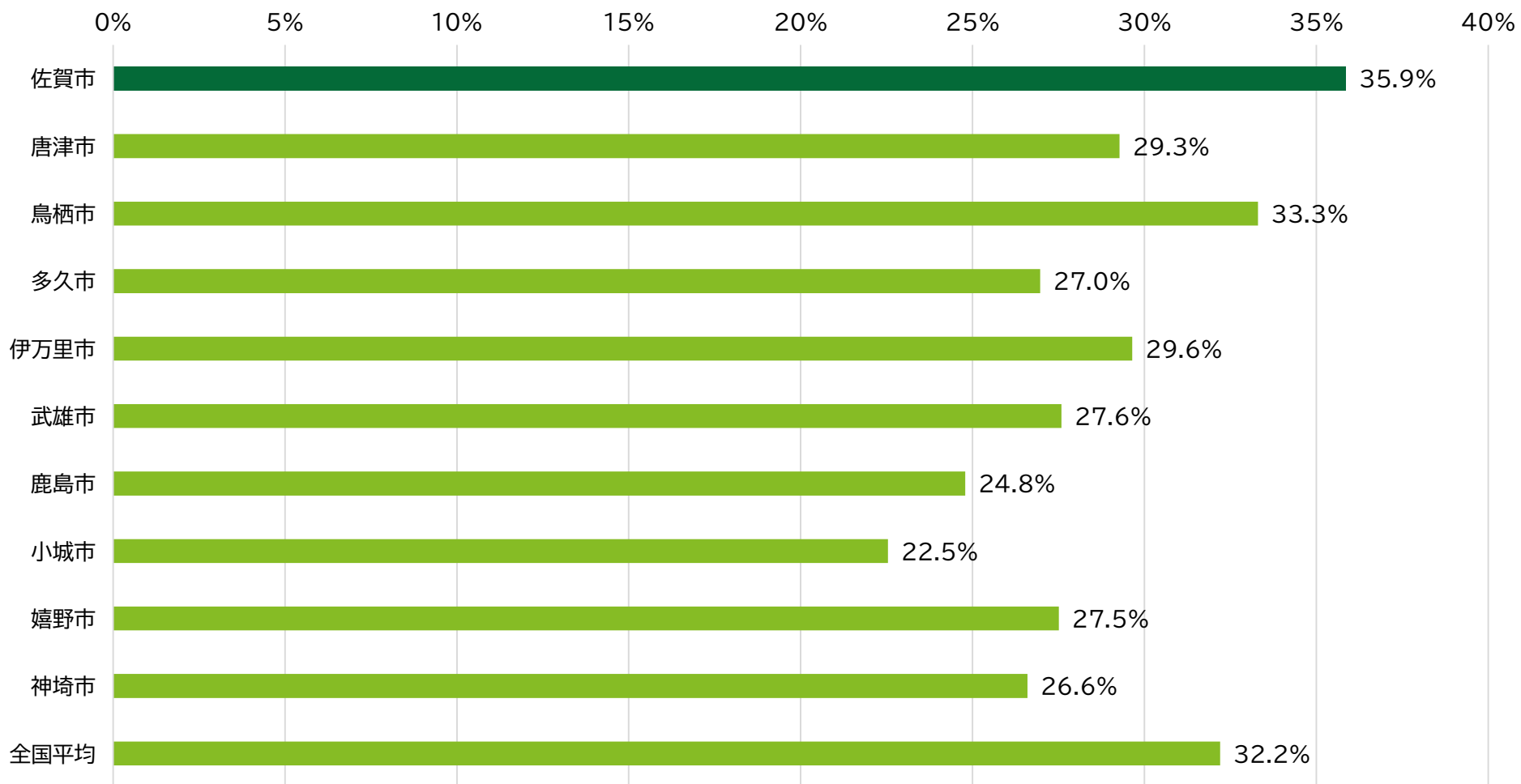
- ✓佐賀市は全国平均と比較して核家族世帯の割合が3%程度低い。
- ✓ベンチマーク都市との比較では、大分市、佐世保市を除き、全国平均よりも核家族世帯の割合が低く、概ね佐賀市と同様の傾向にある。



I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める単独世帯の割合の県内市との比較

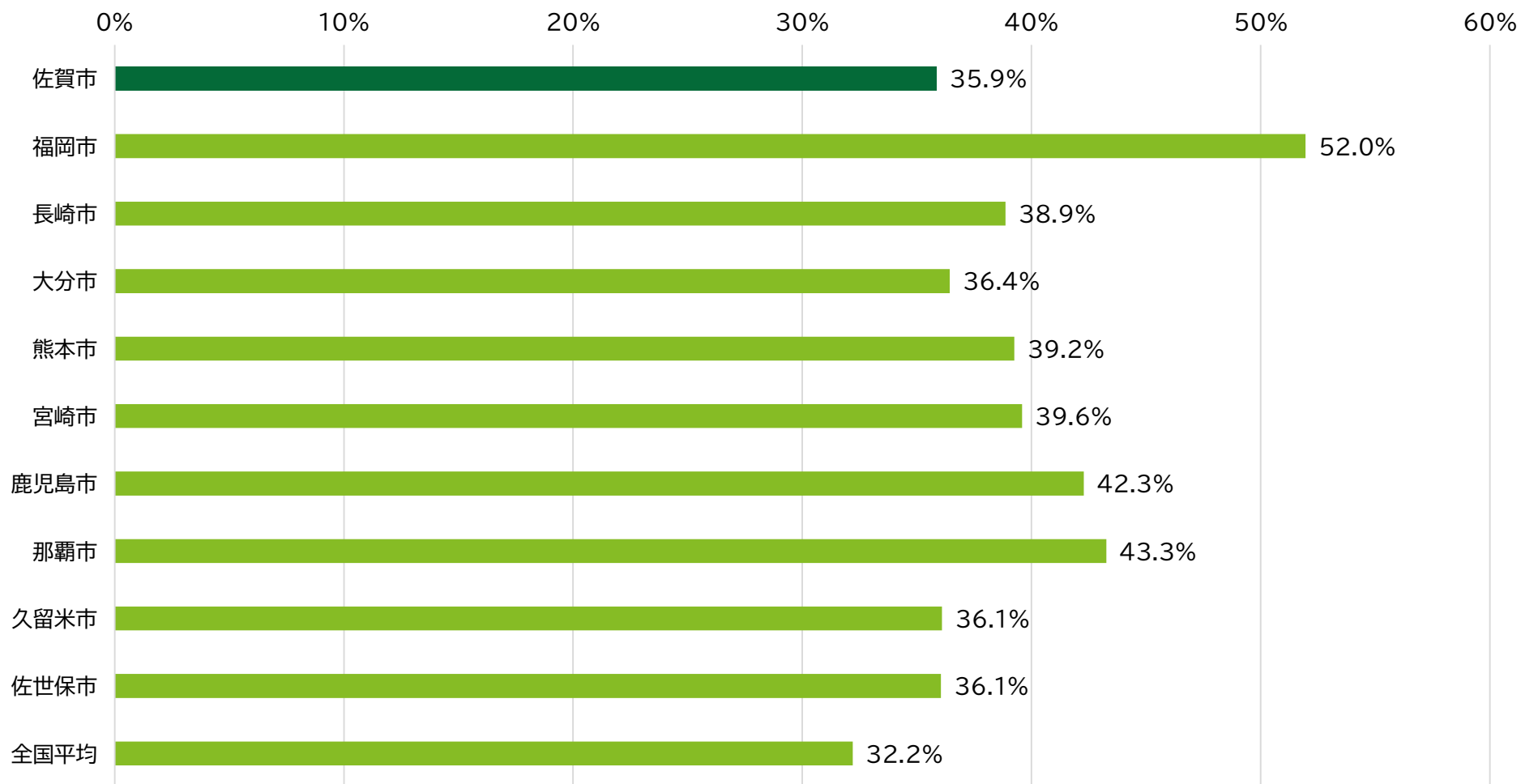
- ✓ 県内市と比較した際、一般世帯に占める単独世帯の割合は佐賀市が最も多く、次いで鳥栖市、伊万里市となっている。
- ✓ 全国の単独世帯の割合は32.2%であるが、県内市で上回っている市はなかった。



I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める単独世帯の割合のベンチマーク都市との比較

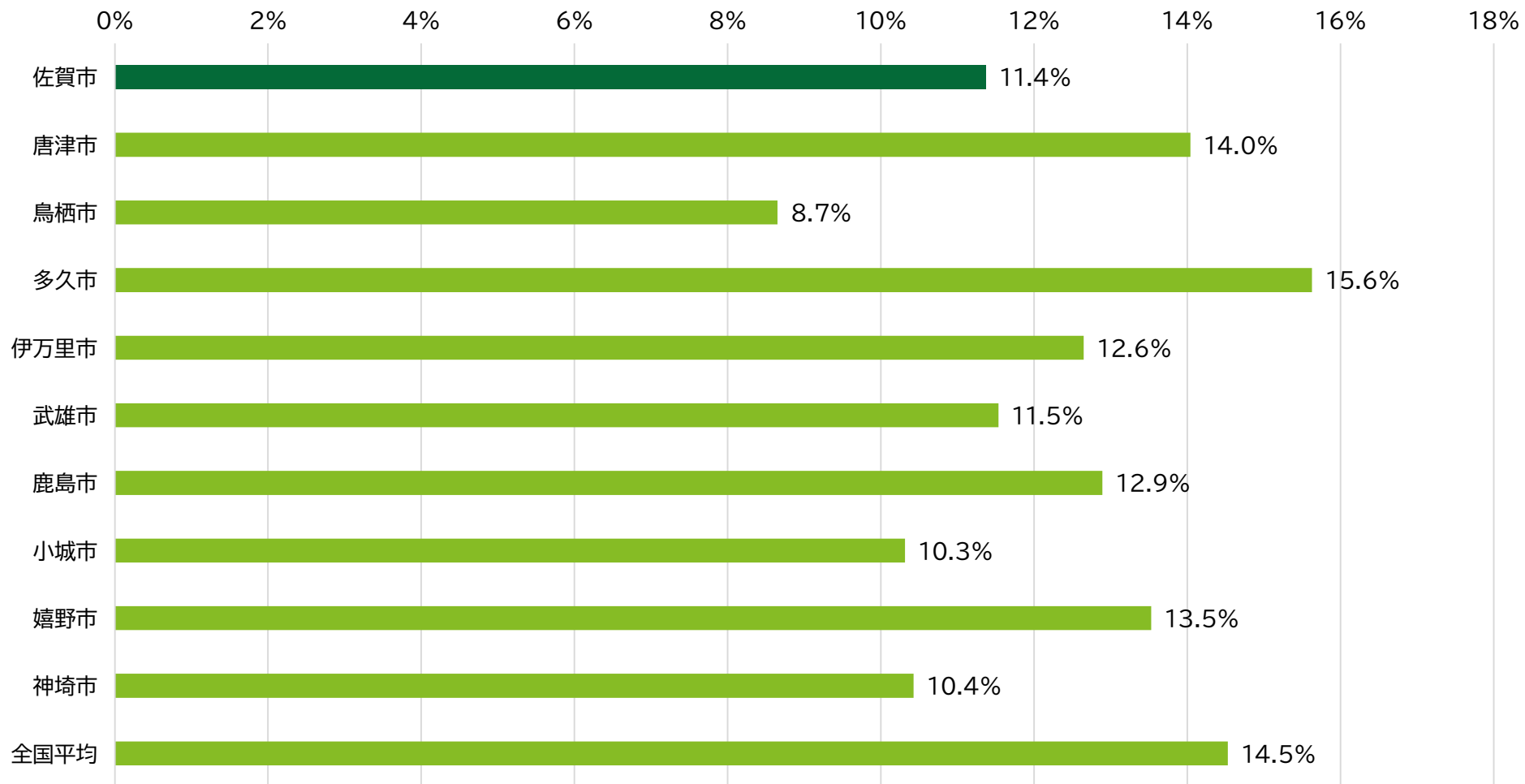
- ✓佐賀市は全国平均と比較して単独世帯の割合が3%程度高い。
- ✓ベンチマーク都市との比較では、いずれの都市も佐賀市と同様、単独世帯の割合が全国平均を上回り、特に福岡市は突出して高い。



I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める65歳以上の高齢単身者世帯の割合の県内市との比較

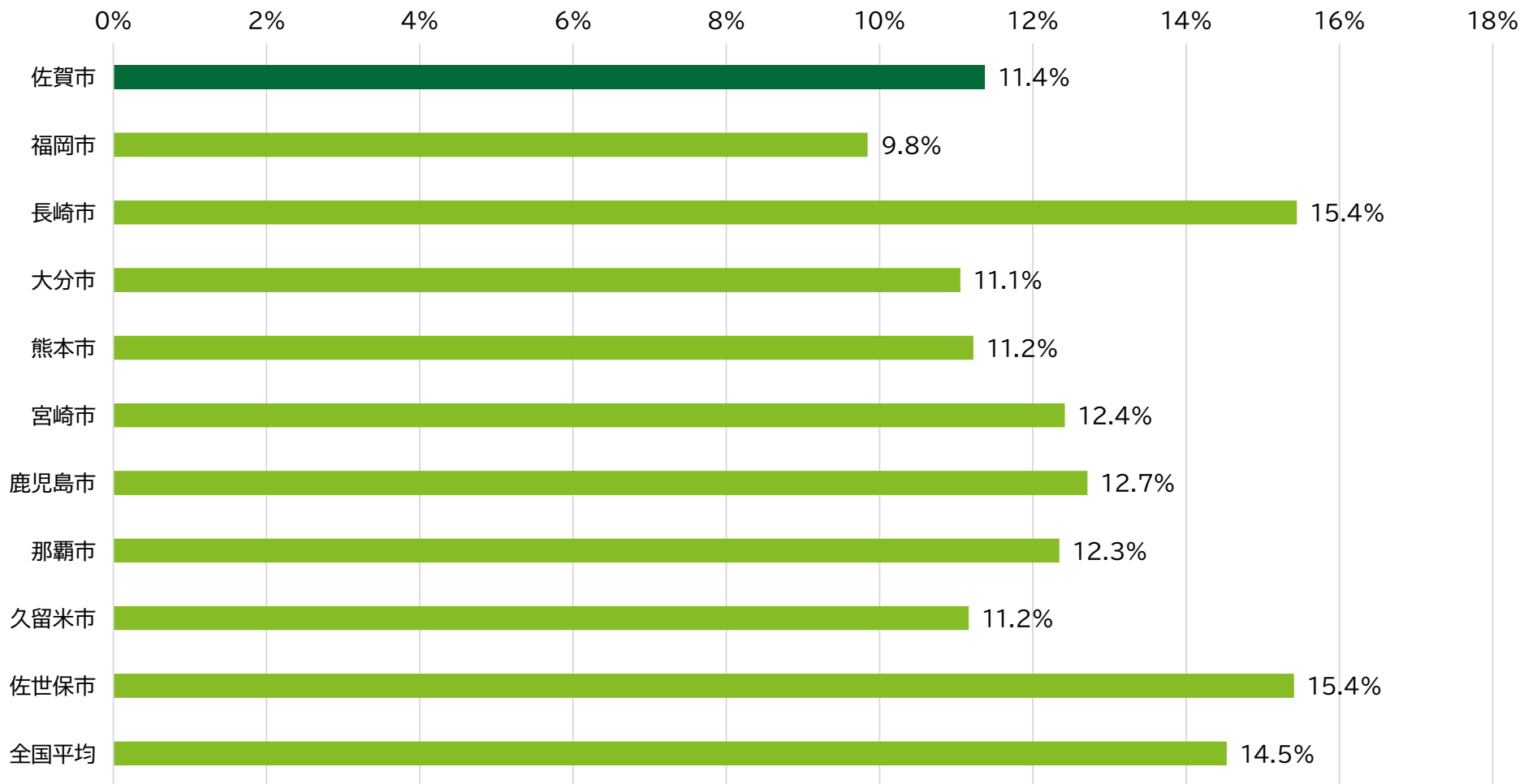
✓県内市では鳥栖市、小城市、神崎市に次いで低い割合となっている。



I.人口 | 6.世帯数

一般世帯に占める65歳以上の高齢単身者世帯の割合のベンチマーク都市との比較

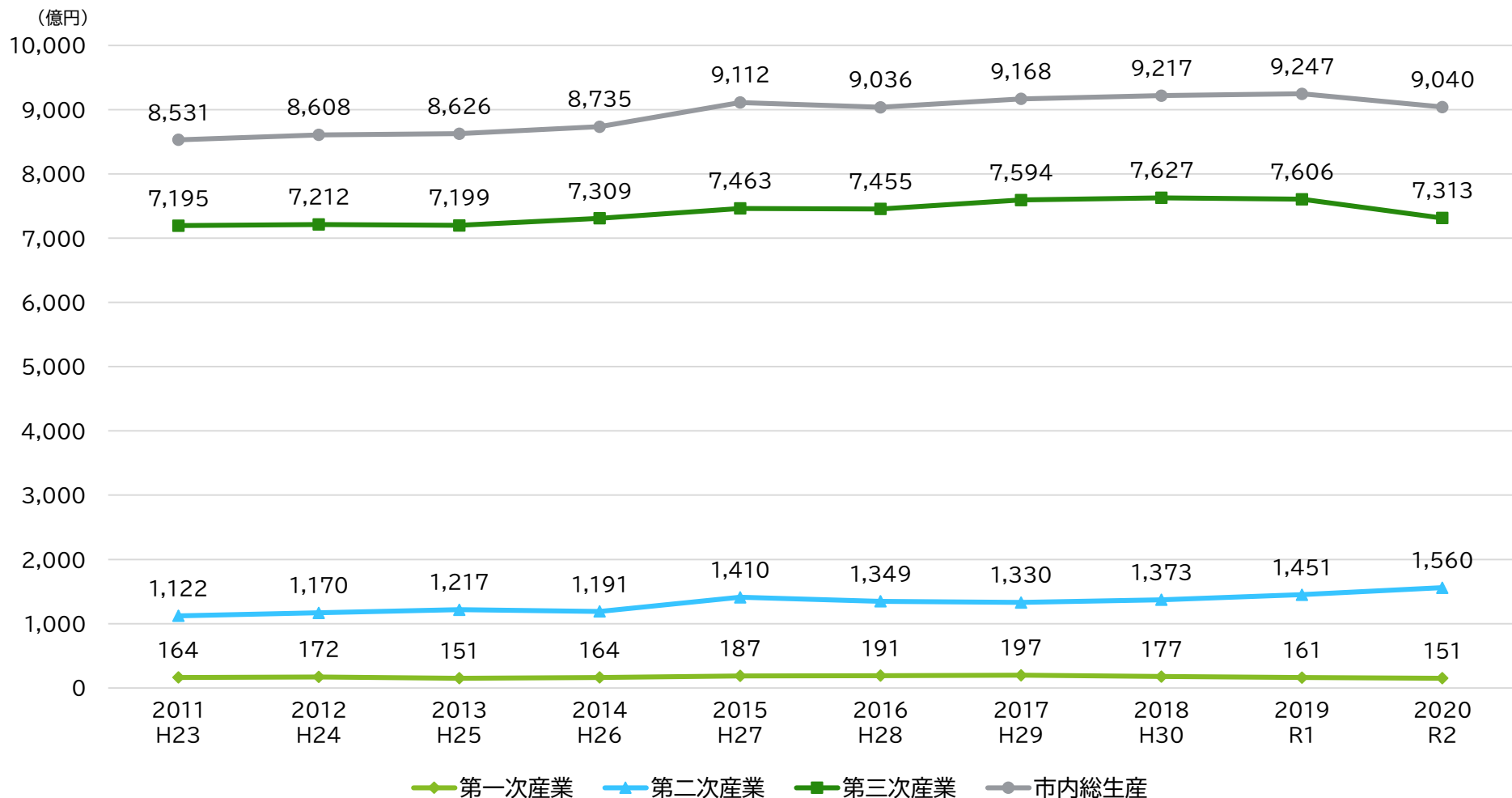
✓佐賀市は全国平均と比較して65歳以上の高齢単身者世帯の割合が3%程度低い。
✓ベンチマーク都市との比較では、長崎市と佐世保市を除き、いずれの都市も佐賀市と同様、高齢単身者世帯の割合が全国平均と比較して低い状況にある。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

市内総生産額の推移

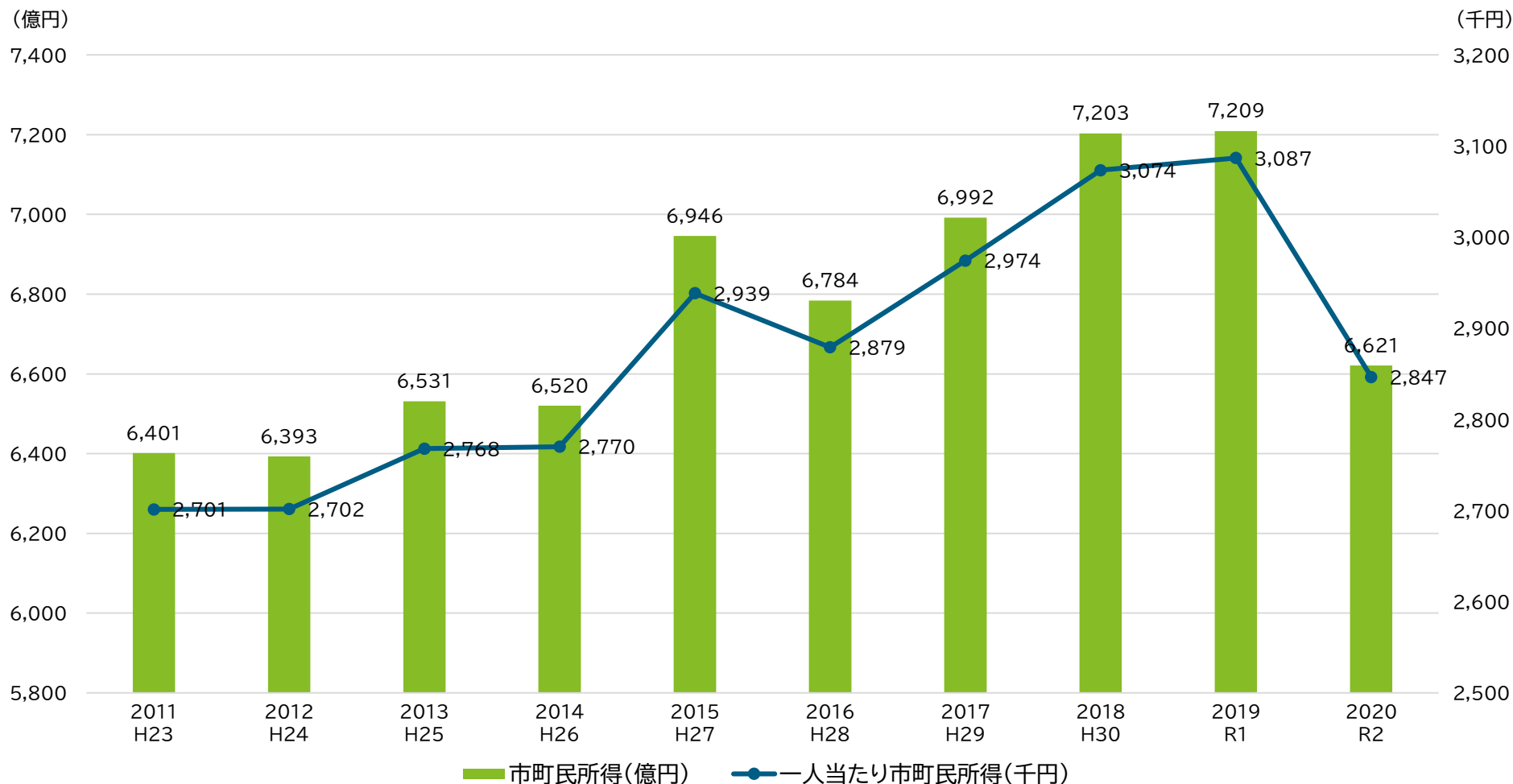
- ✓市内総生産額は2011年より増加傾向で推移していたが、2015年からはほとんど横ばいとなっている。
- ✓第三次産業が市内総生産の約8割を占めている。
- ✓第二次産業は2011年では1,122億円であったが、2020年時点では約1.4倍の1,560億円に増加している。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

佐賀市の市民所得の推移

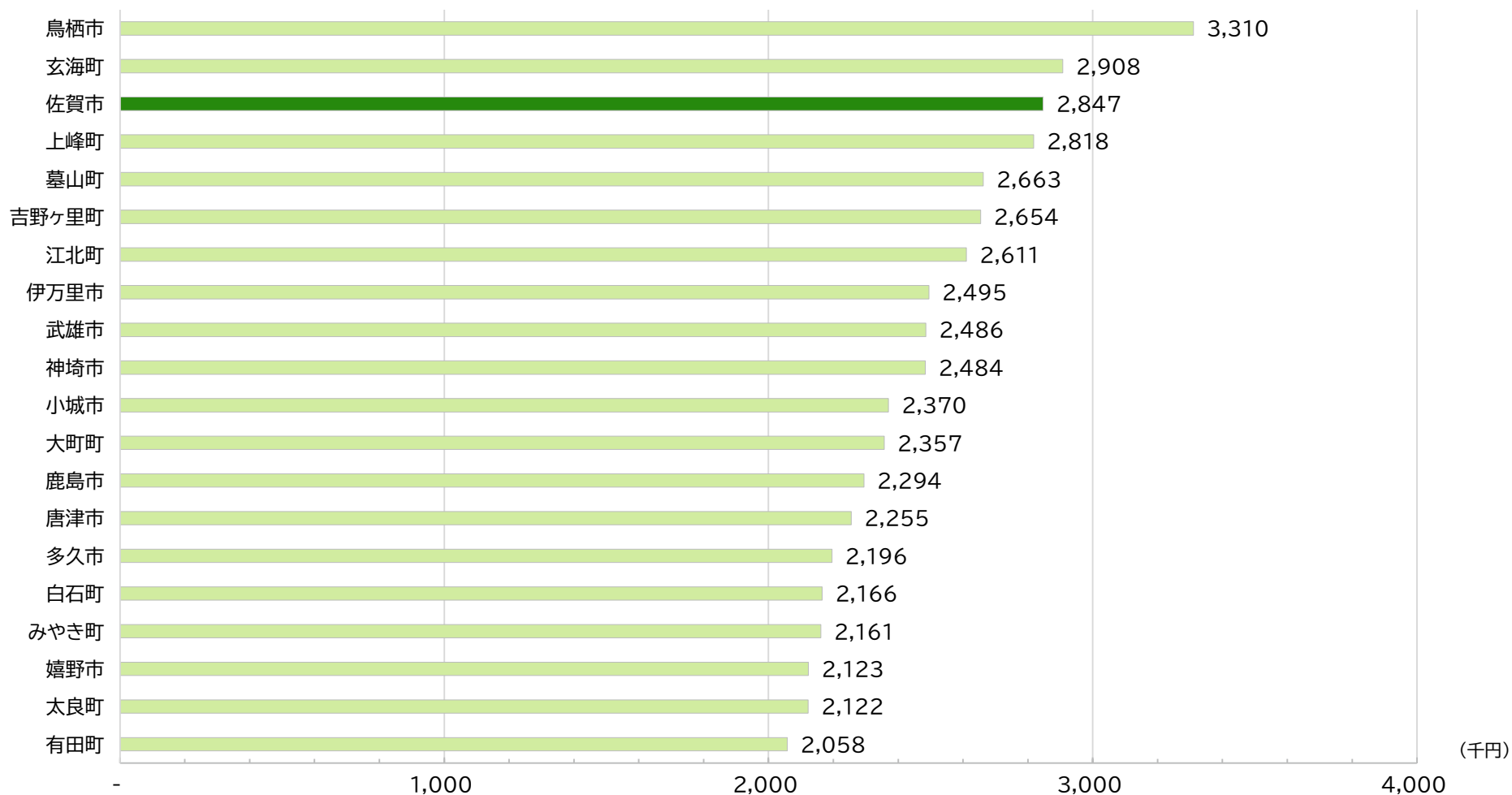
- ✓2019年まで市町民所得、一人当たり市町民所得共に増加傾向にあった。
- ✓2020年は新型コロナウイルス感染症等の影響により、国全体の経済状況が厳しい状況に置かれ、佐賀市も同様の結果となった。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

市民1人あたりの所得の県内市町との比較(2020年)

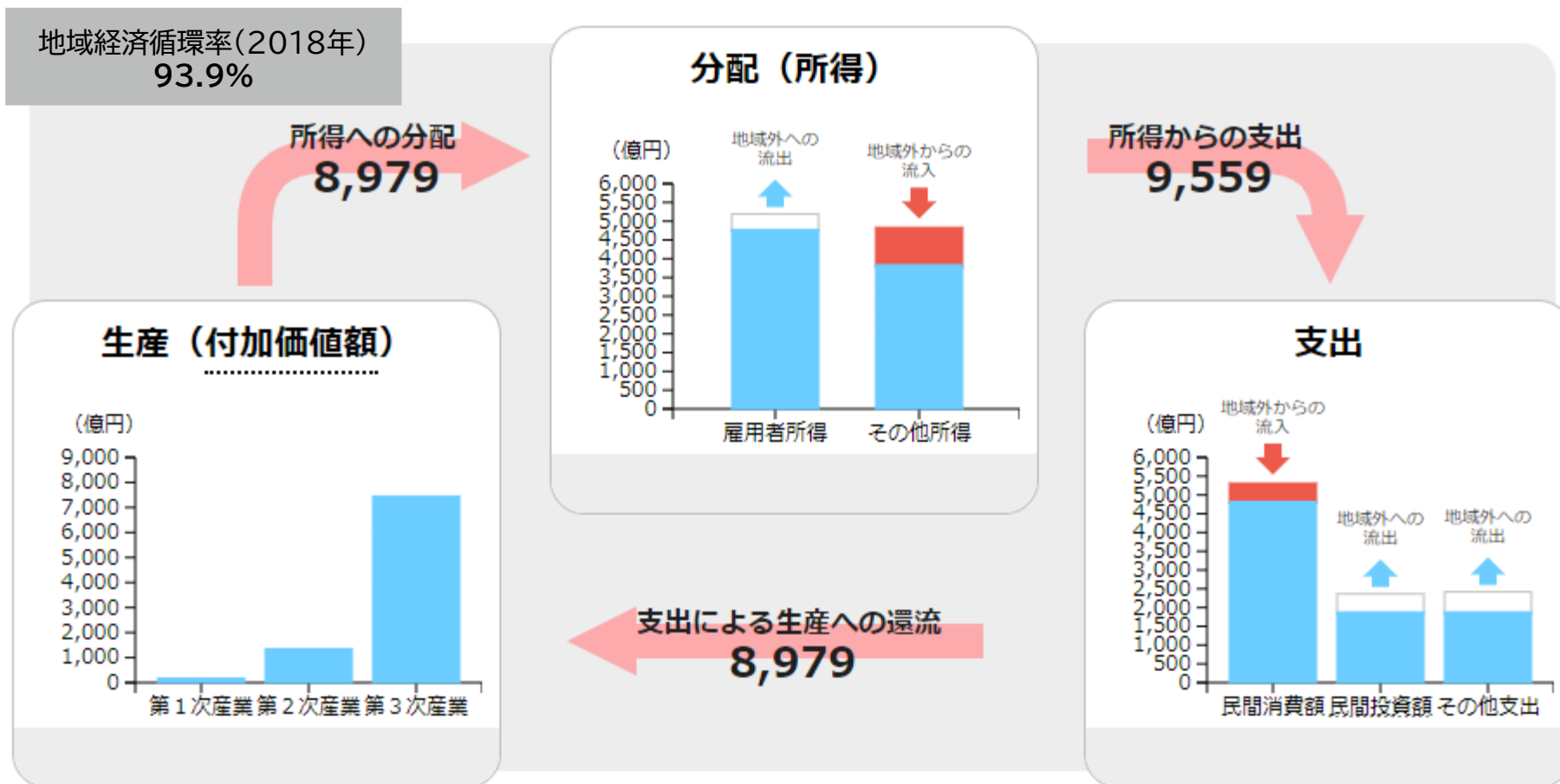
- ✓市民1人あたりの所得は鳥栖市、玄海町に次いで佐賀市となっている。
- ✓佐賀県全体の1人当たりの市町民所得は2,575千円となっており、県内市町では佐賀市を含む7市町が上回っている。



Ⅱ.産業・経済 | 1.市内総生産額・所得

地域経済循環率

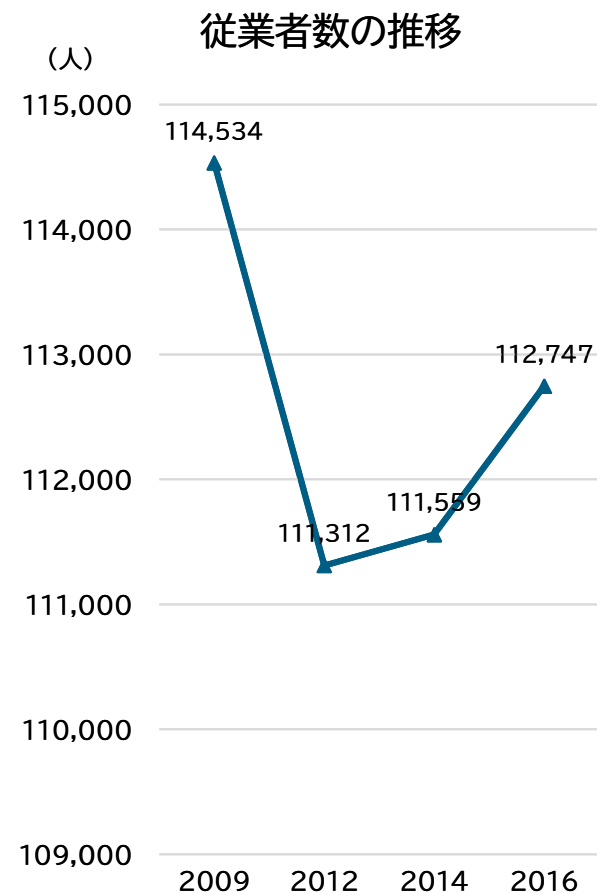
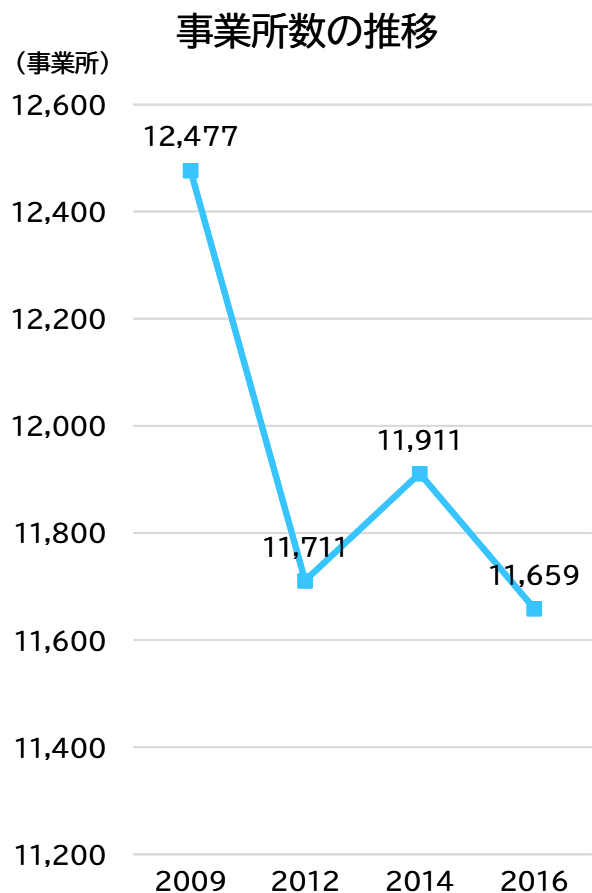
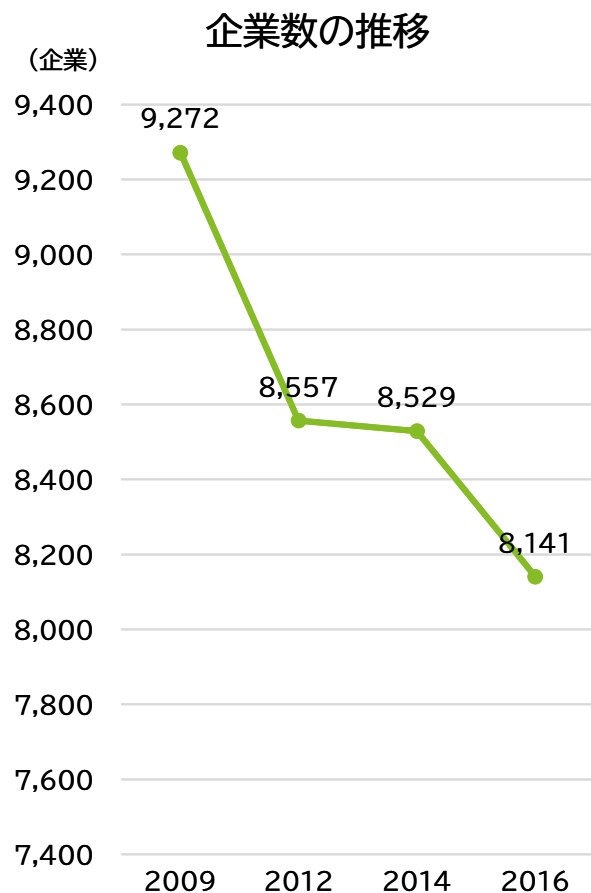
✓佐賀市の2018年の地域経済循環率は93.9%であり、雇用者所得や民間投資等が域外に流出している。



Ⅱ.産業・経済 | 2.企業数・事業所数・従業者数

佐賀市の企業数・事業所数・従業員数の推移

- ✓企業数は2009年より減少傾向が続いており、事業所数は2014年に一度増加したが、その後は減少している。
- ✓従業者数は2012年より増加傾向になっている。

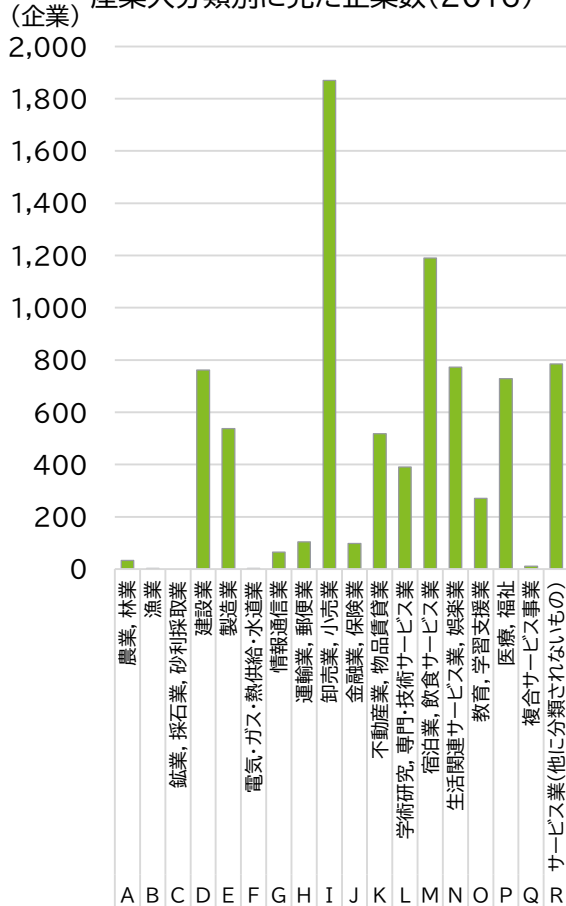


Ⅱ.産業・経済 | 3.産業大分類別

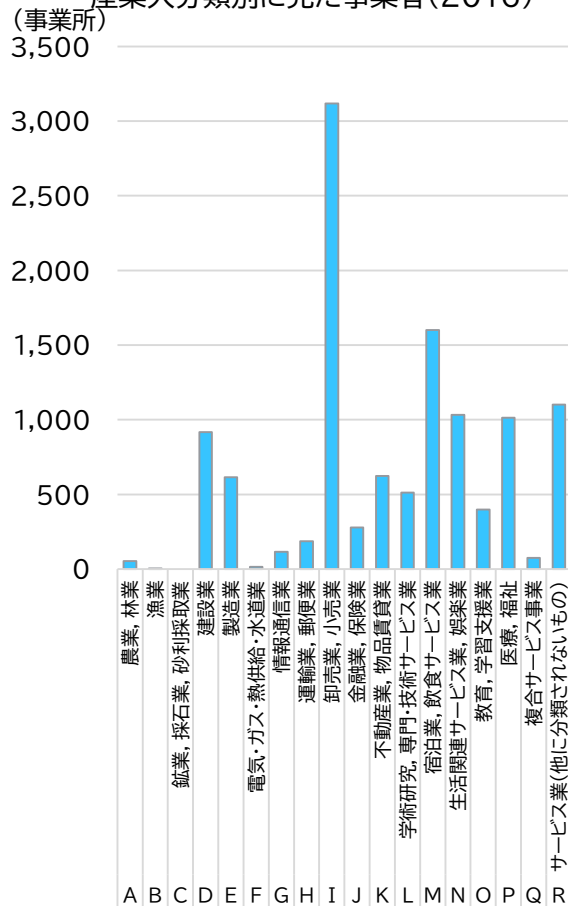
佐賀市の産業大分類別に見た企業数・事業所数・従業員数

- ✓ 産業大分類別で見ると、企業数と事業所数では卸売業、小売業が最も多く、次いで宿泊業、飲食サービス業となっている。
- ✓ 従業者数は卸売業、小売業が最も多く、次いで医療、福祉、製造業となっている。

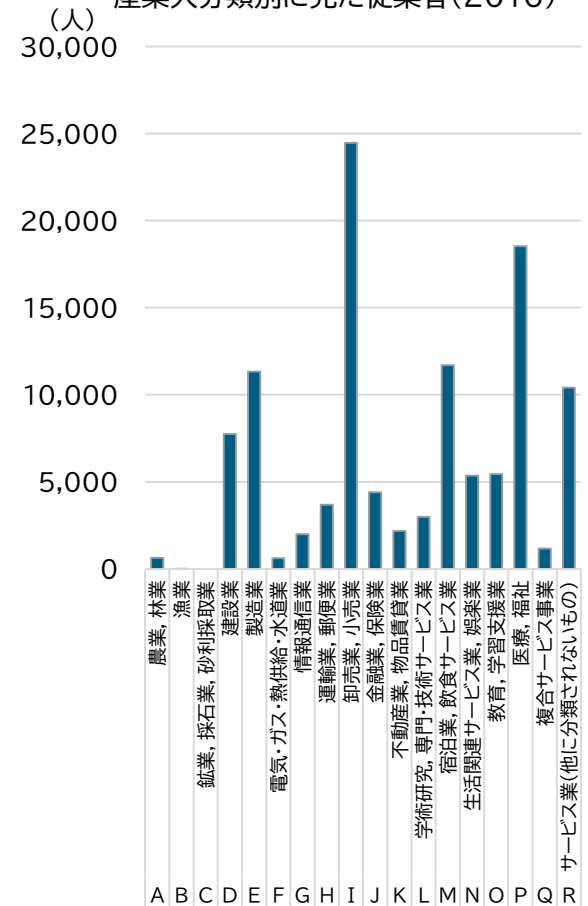
産業大分類別に見た企業数(2016)



産業大分類別に見た事業者(2016)



産業大分類別に見た従業者(2016)

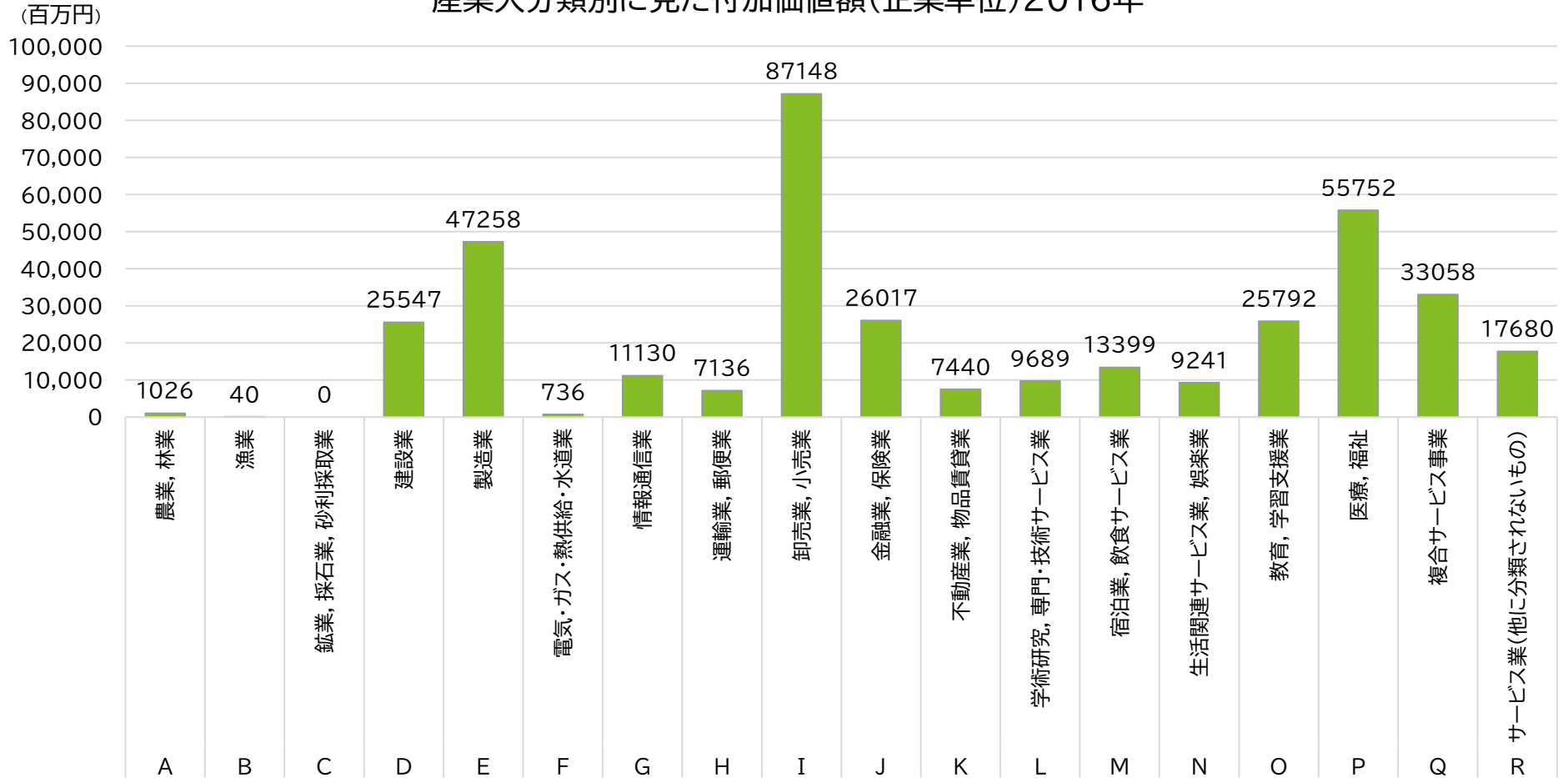


Ⅱ.産業・経済 | 3.産業大分類別

佐賀市の産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)

✓付加価値額では、卸売業、小売業が最も多く、次いで医療、福祉、製造業となっている。

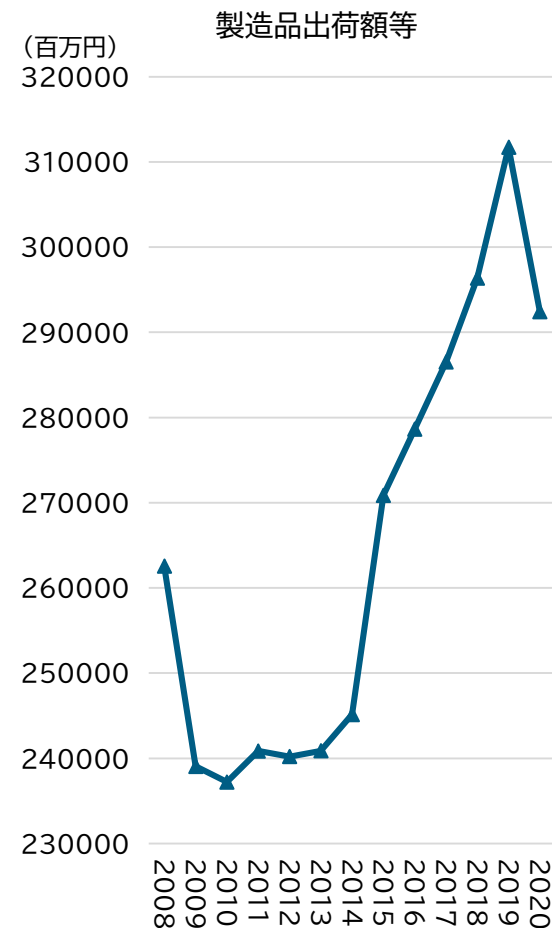
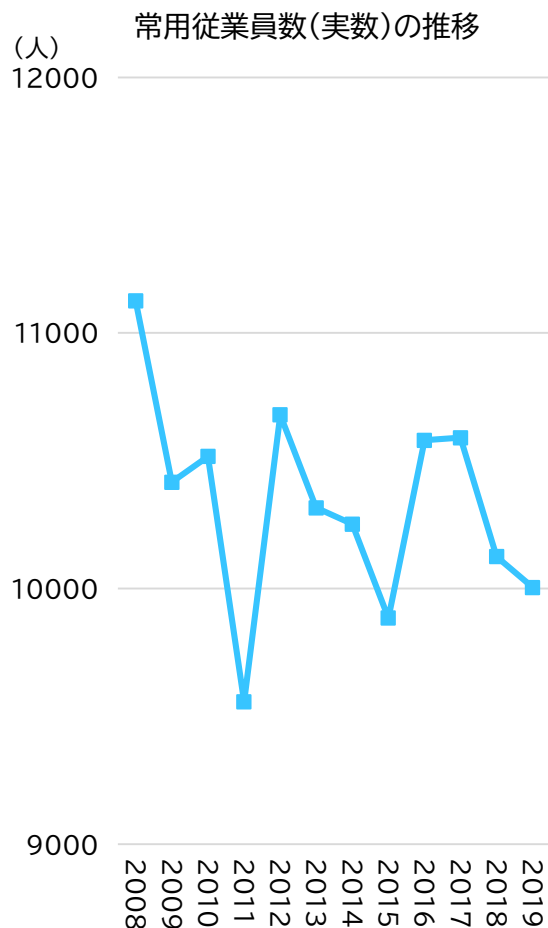
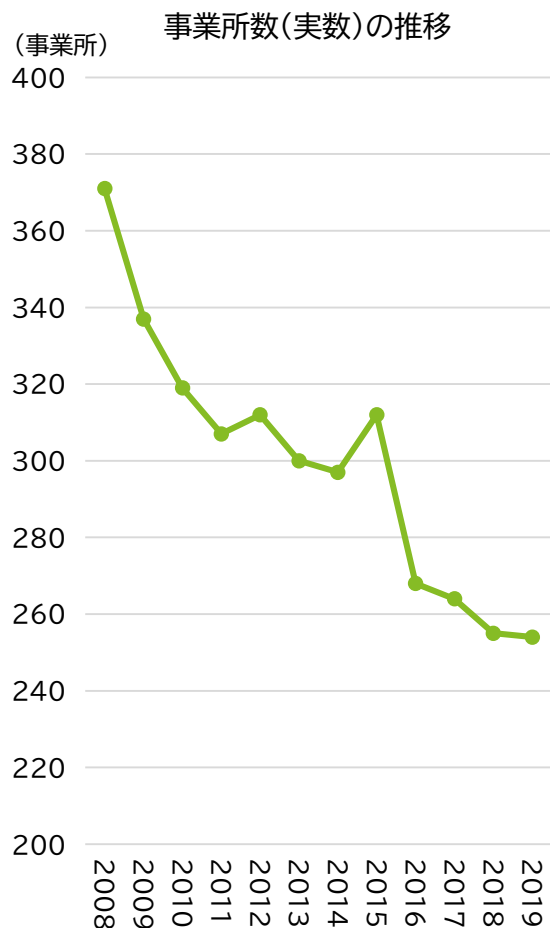
産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)2016年



Ⅱ.産業・経済 | 4.製造業

佐賀市の製造業の事業所数・従業員数・製造出荷額等の推移

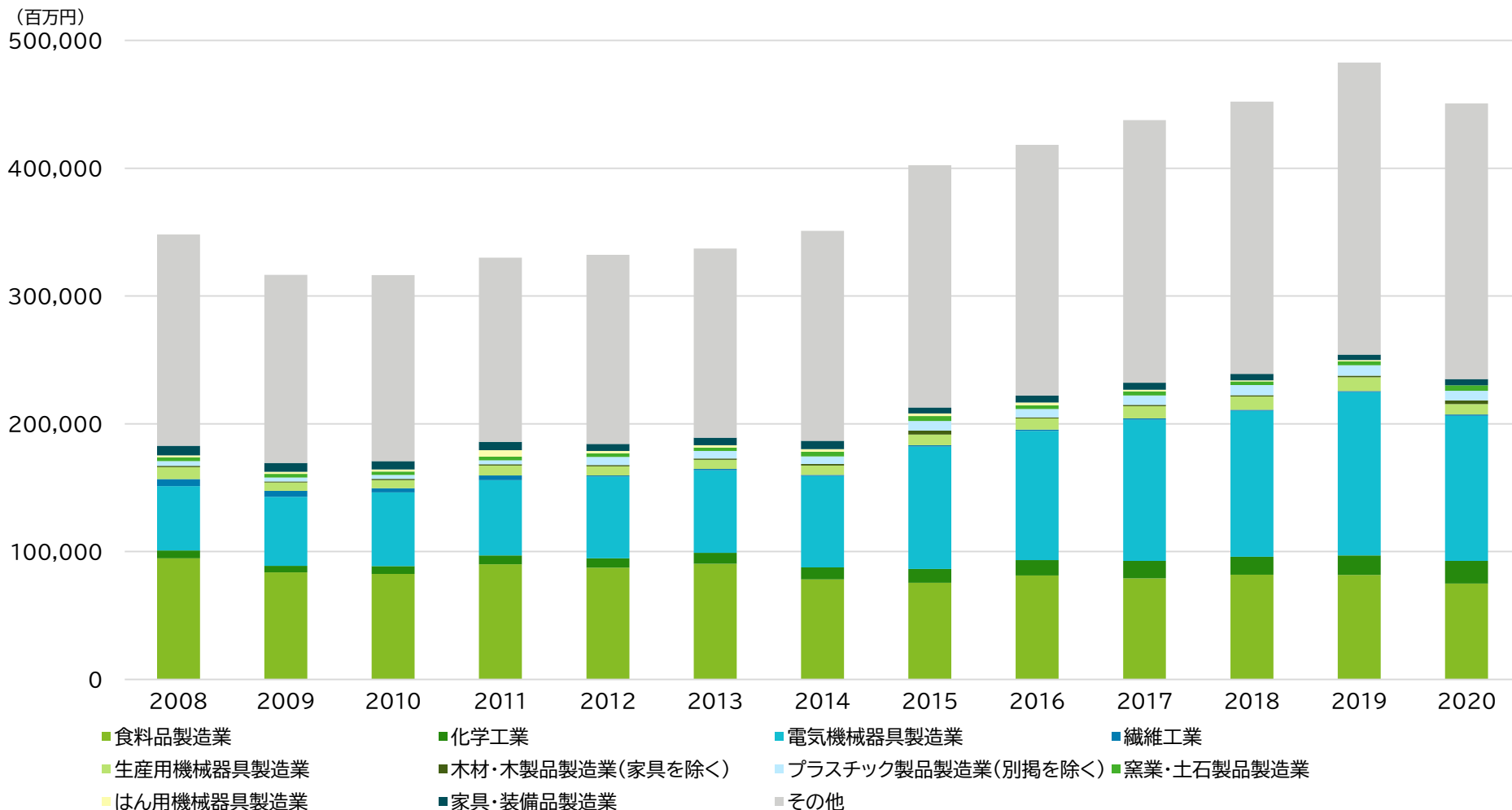
- ✓事業所数(実数)は2008年より減少傾向となっている。
- ✓製造品出荷額は2008年から2009年で大きく減少したものの、その後2010年より2019年まで増加傾向へと転じている。



Ⅱ.産業・経済 | 4.製造業

佐賀市の製造業の産業別製造品出荷額等の変化

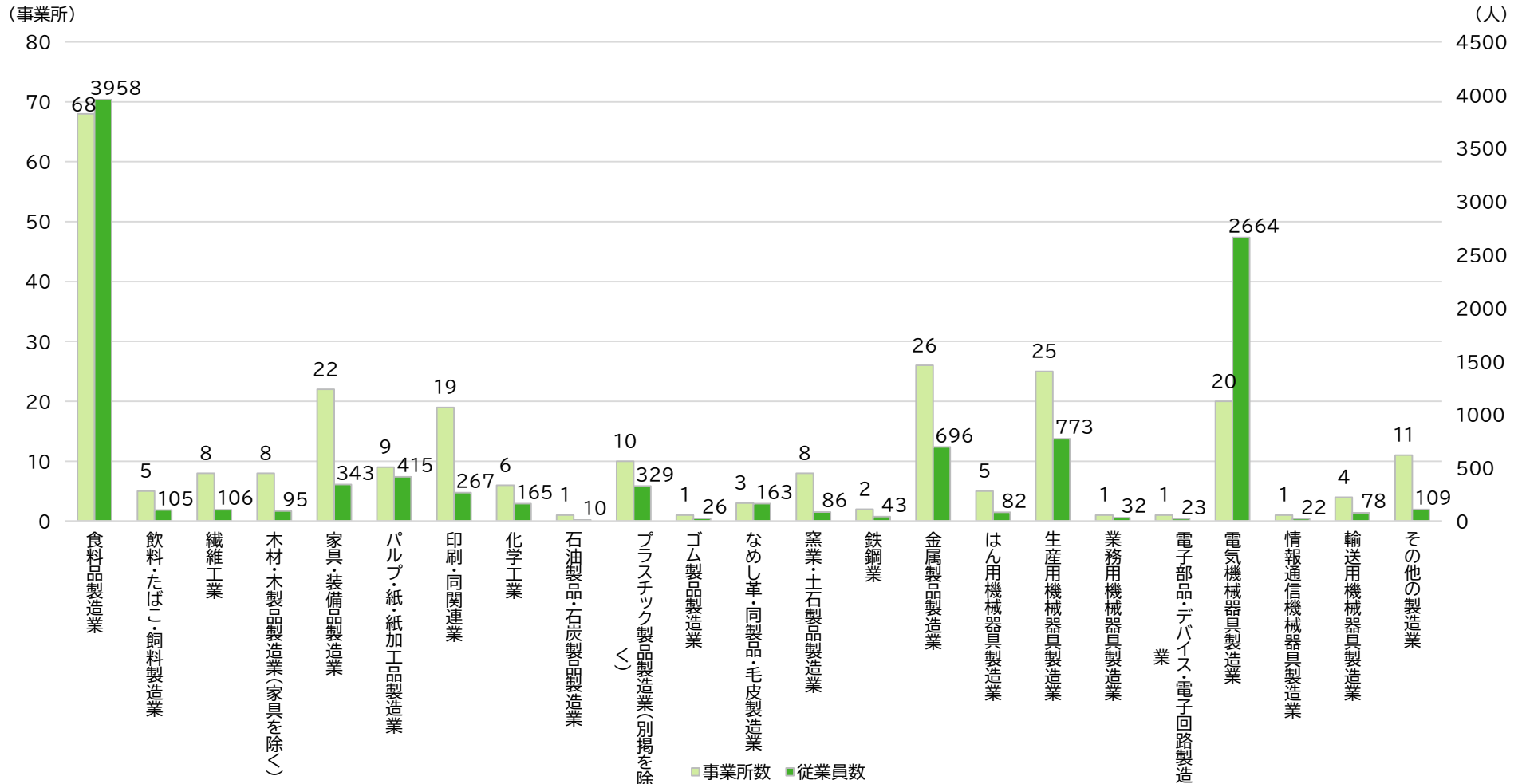
✓全体の製造品出荷額は2010年より2019年まで増加傾向にある。
✓産業別で見ると電気機械器具製造業、化学工業、プラスチック製品製造業の出荷額が増加傾向にあり、印刷・同関連業の出荷額が減少傾向にある。



Ⅱ.産業・経済 | 4.製造業

佐賀市の製造業の産業中分類別従業員・事業所数(2017年)

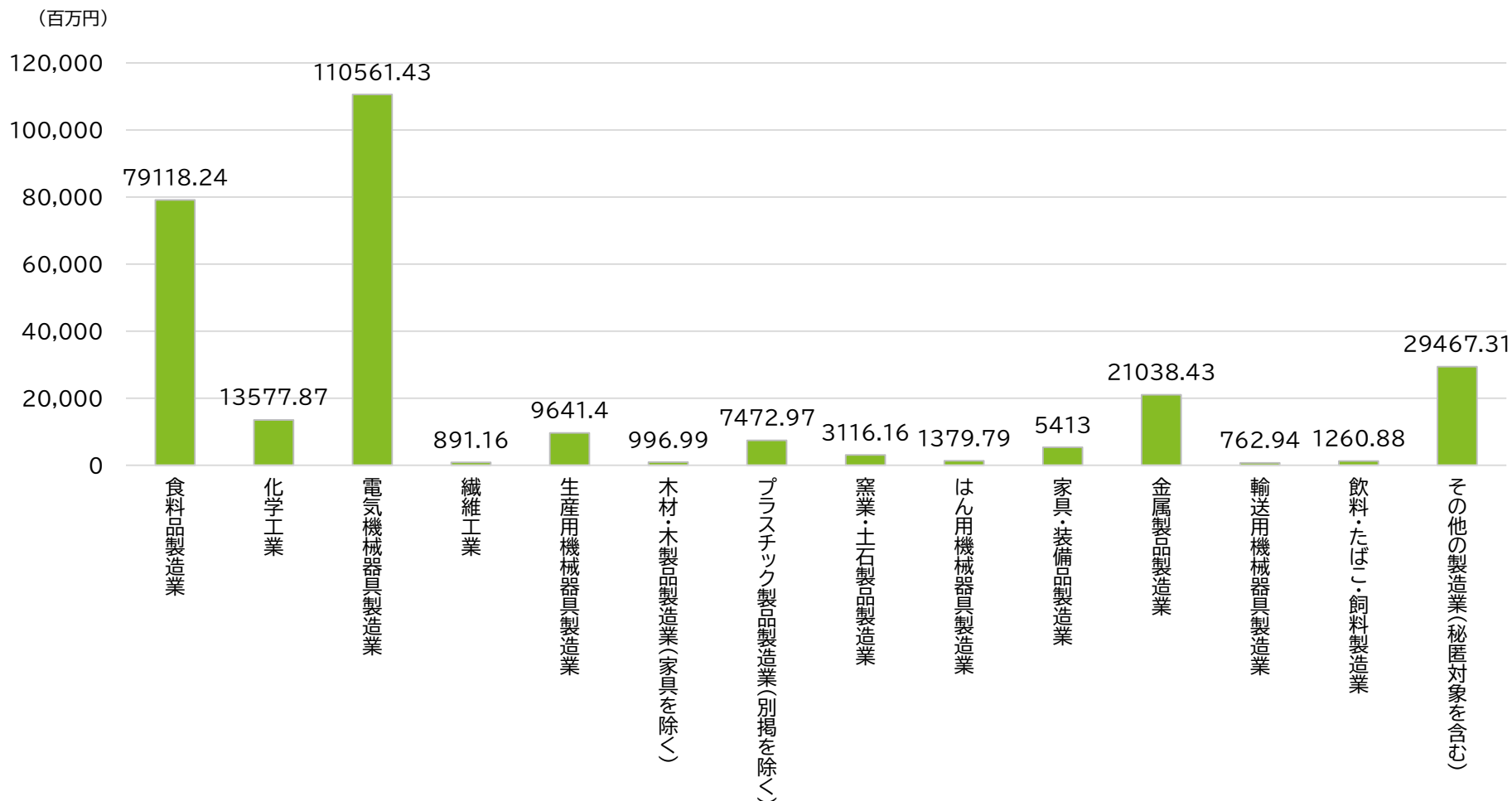
- ✓事業所数では、食料品製造業が最も多く、次いで金属製品製造業、生産用機械器具製造業、家具・装備品製造業となっている。
- ✓従業員数では、食料品製造業が最も多く、次いで、電気機械器具製造業、生産用機械器具製造業、金属製品製造業となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 4.製造業

佐賀市の製造業の産業中分類別製造品出荷額等(2017年)

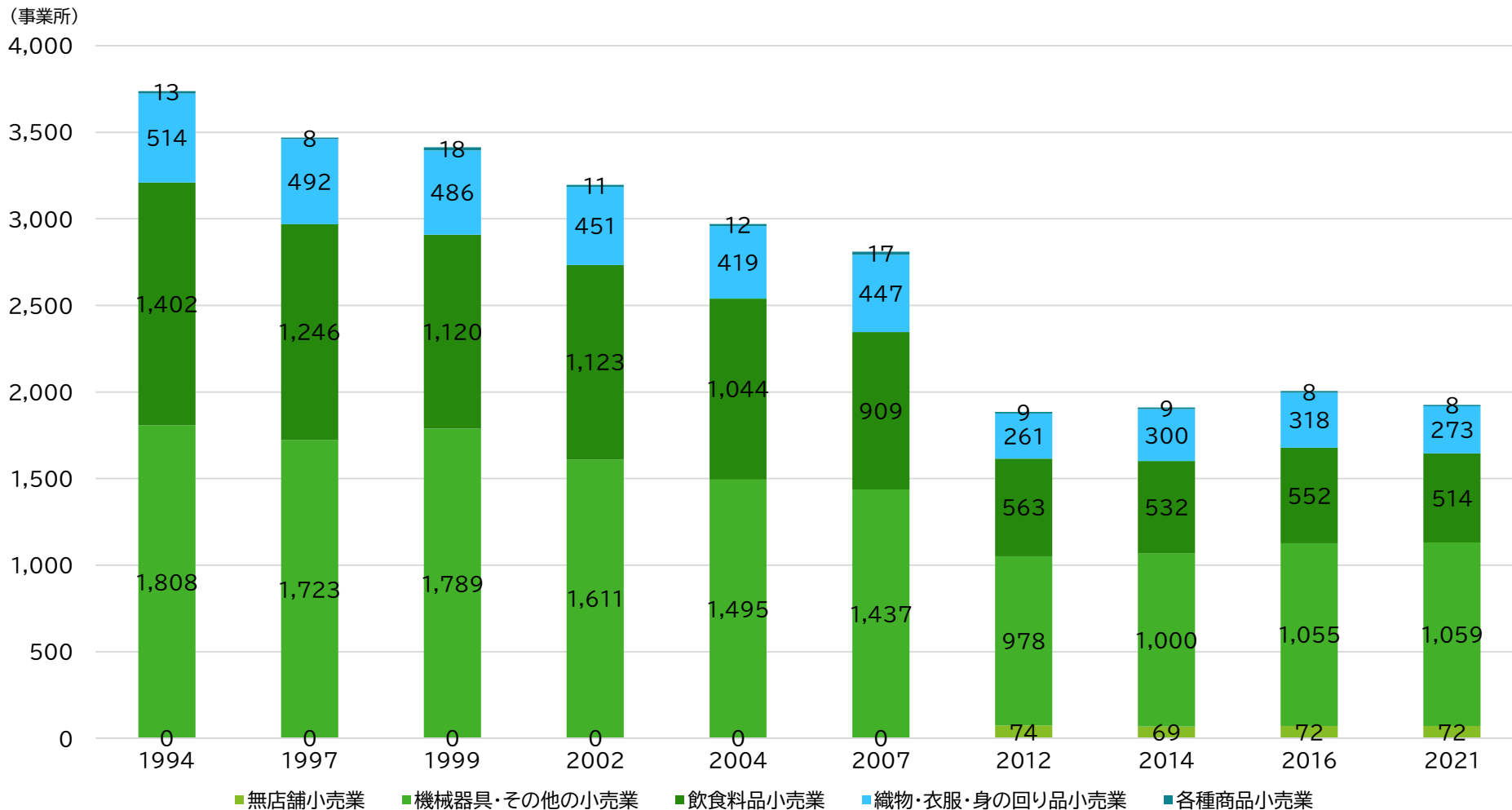
✓産業中分類別出荷額では、電気機械器具製造業が最も多く、次いで食料品製造業、金属製品製造業となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 5.小売業

佐賀市の小売業の産業別小売業事業所数の変化

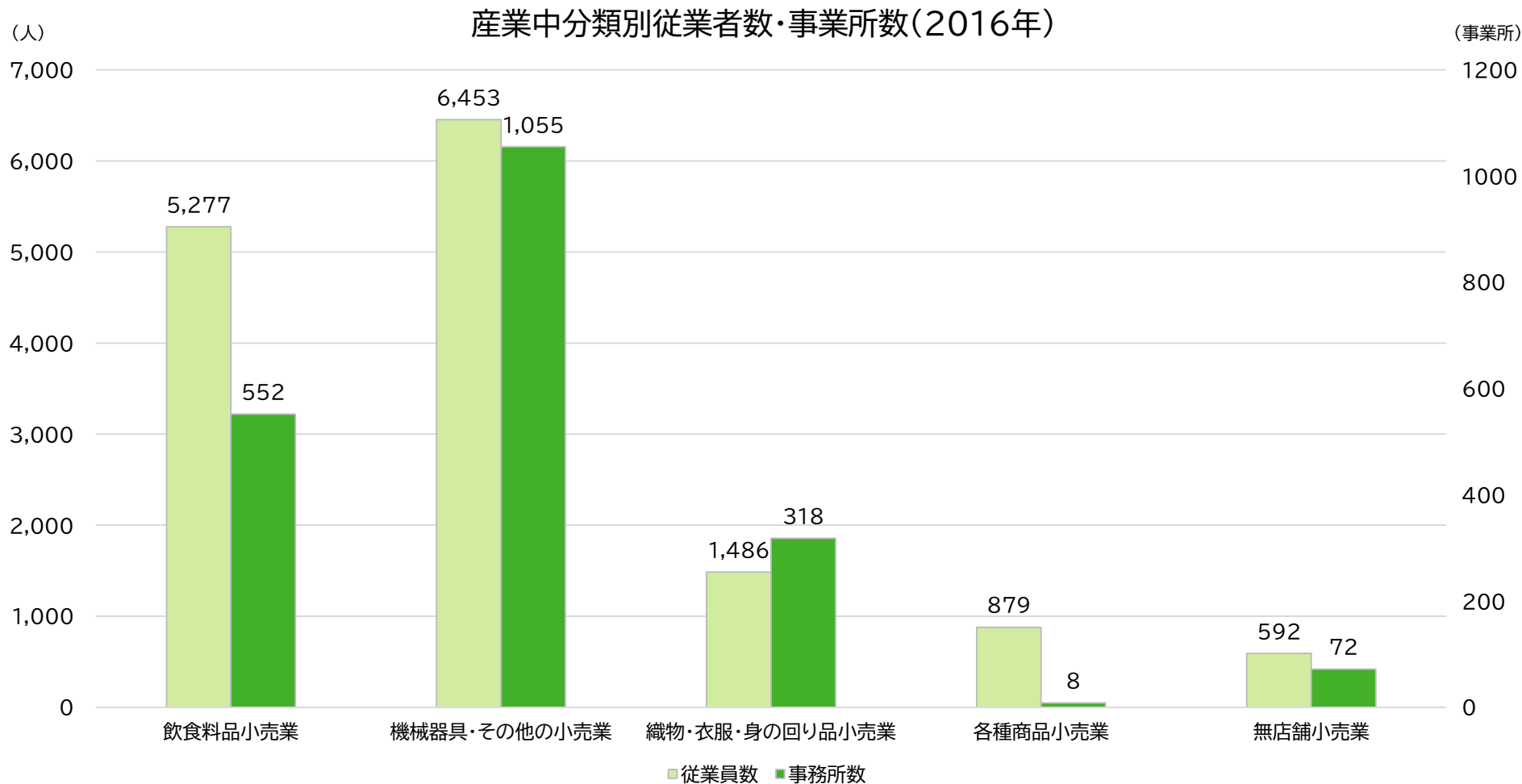
- ✓小売業事業所数は1994年より減少傾向となっていたが、2012年より増加傾向に転じている。
- ✓産業別で見ると、構成比は大きく変わらず、横ばいのまま推移している。



Ⅱ.産業・経済 | 5.小売業

佐賀市の小売業の産業中分類別従業者数・事業所数

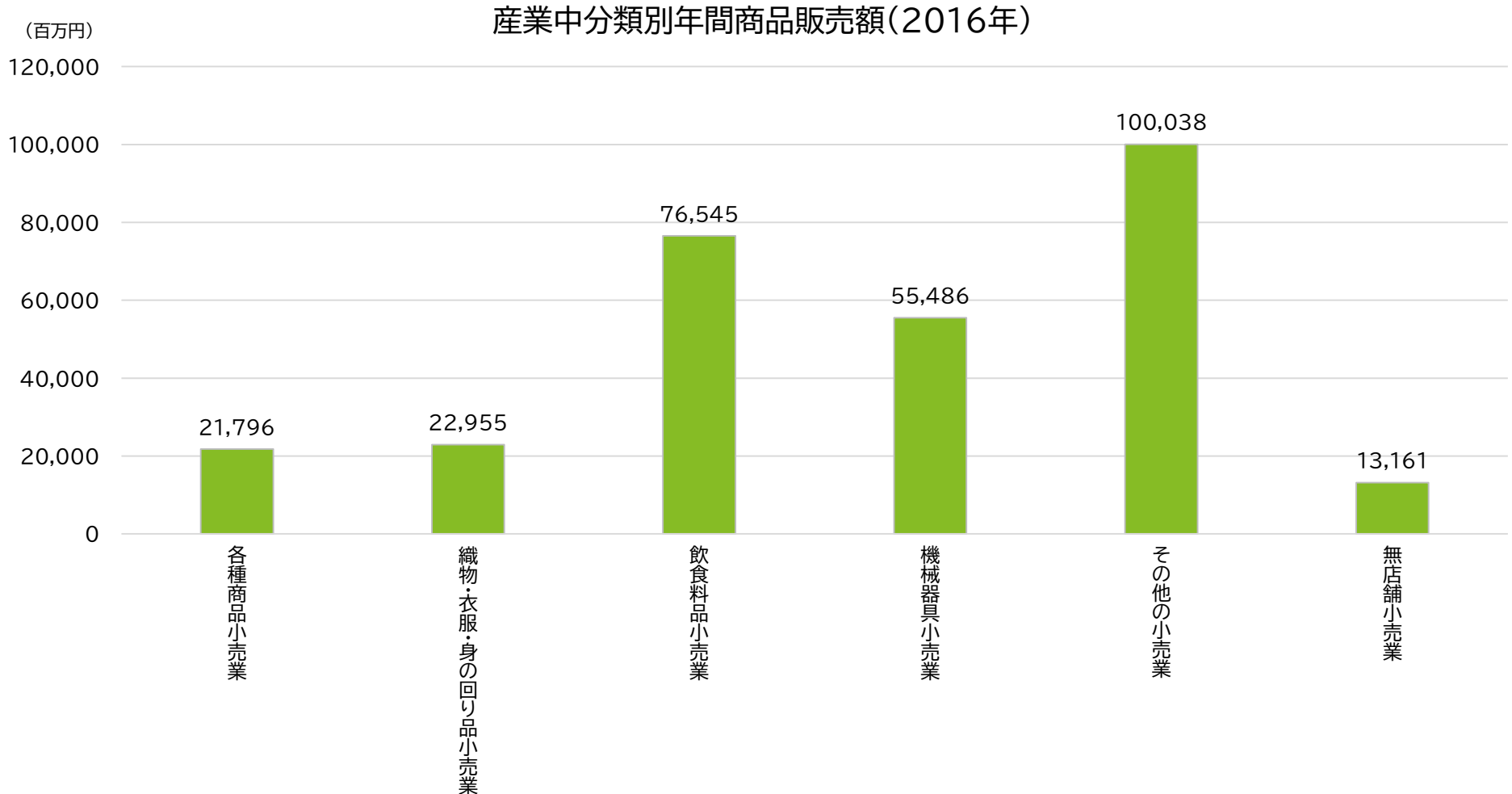
✓事業所数、従業員数共に、機械器具・その他小売業が最も多く、次いで飲食料品小売業、織物・衣服・身の回り品小売業となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 5.小売業

佐賀市の小売業の産業中分類別年間商品販売額

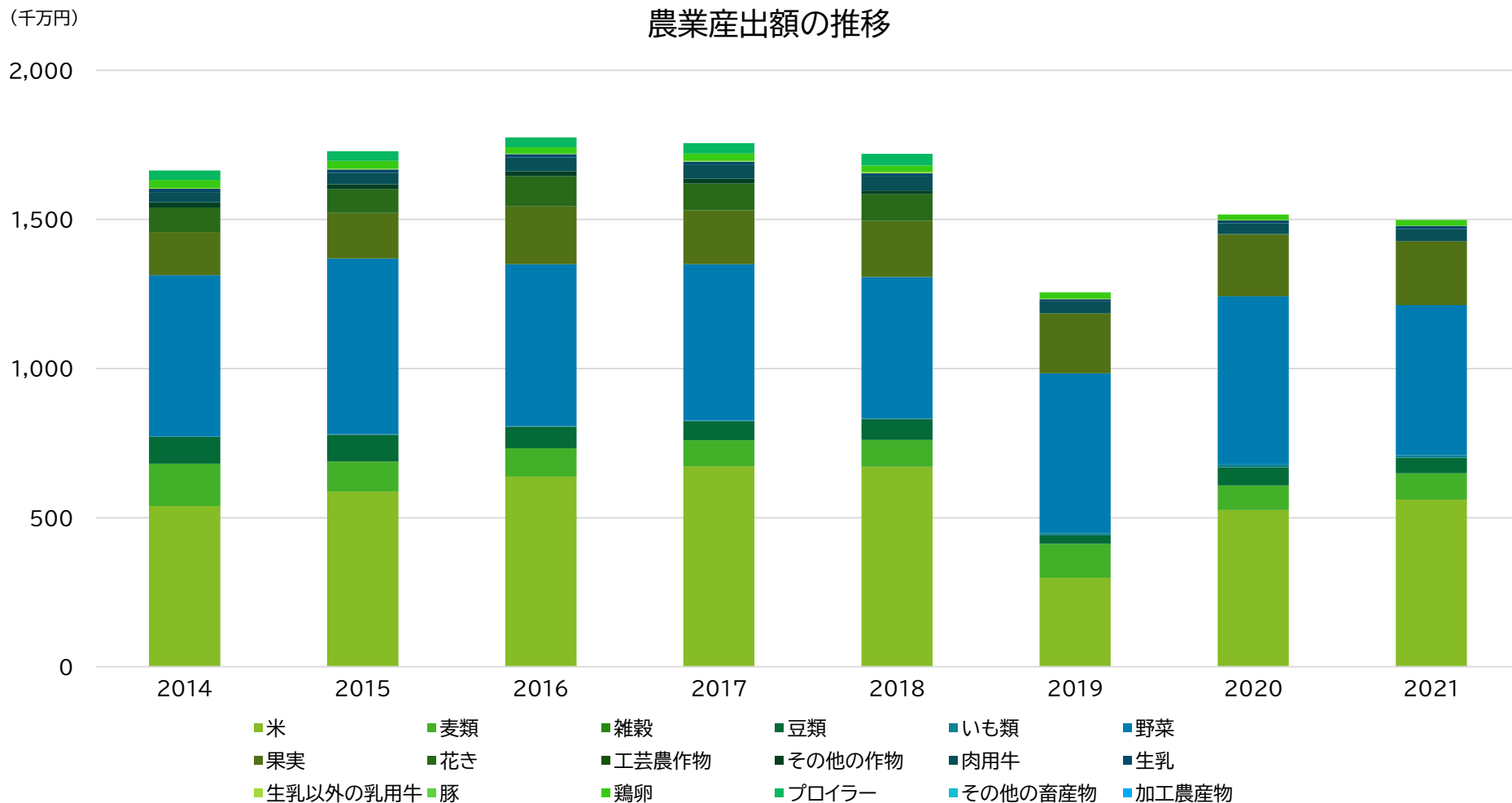
✓産業中分類別出荷額では、飲食料品小売業が最も多く、次いで機械器具小売業となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 6.農業

佐賀市の農業産出額・農業経営体数の推移

✓農業産出額全体としては、2019年に米の産出額が例年の半分程度になったことが影響し、一度大きな落ち込みがあったものの、2020年には2018年以前の8割程度まで回復し、1,500千万円程度となっている。

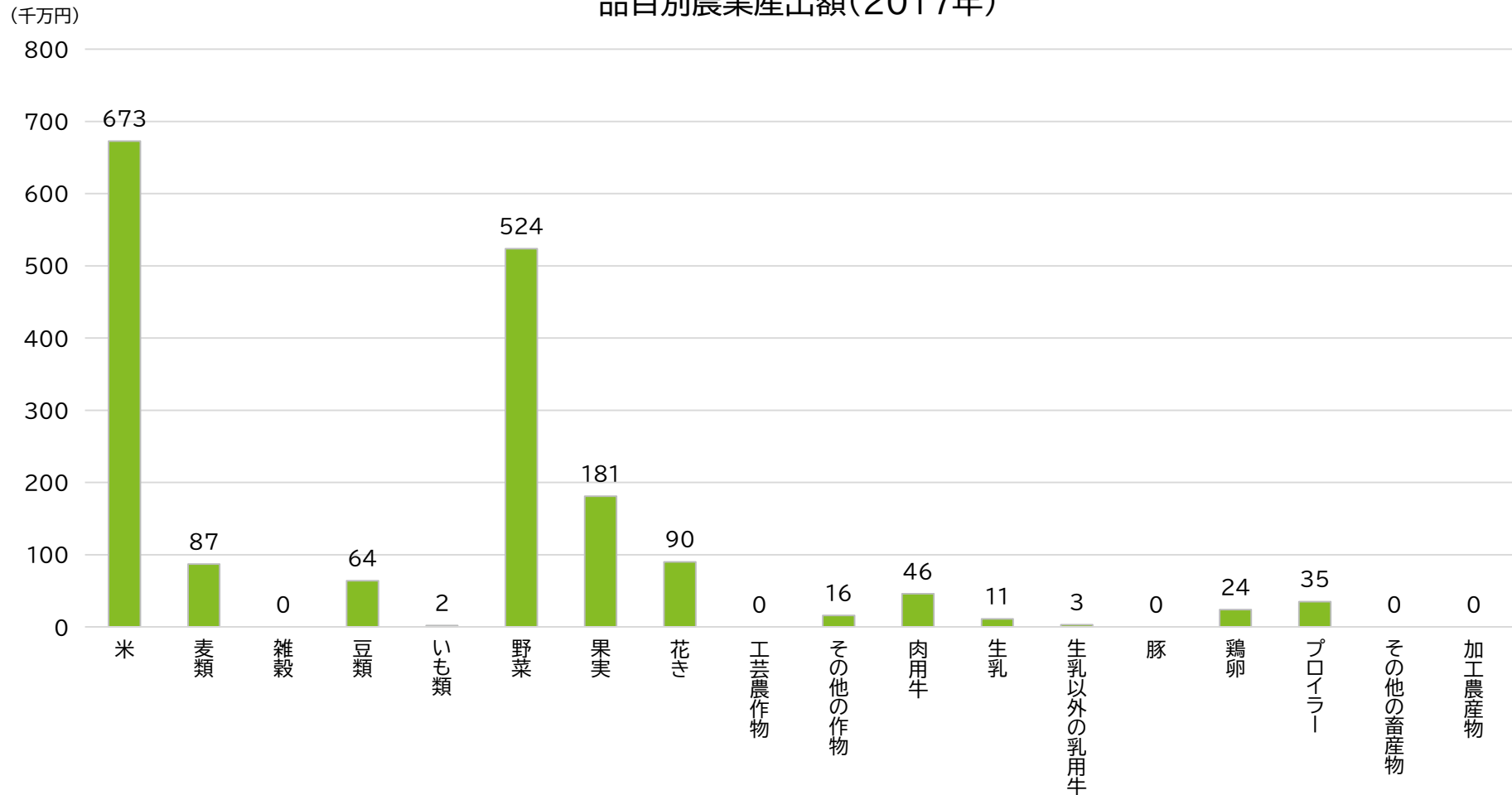


Ⅱ.産業・経済 | 6.農業

佐賀市の品目別農業産出額

✓品目別では、米、野菜、果実の順に産出額が大きく、この3品目で全体の約80%を占める。

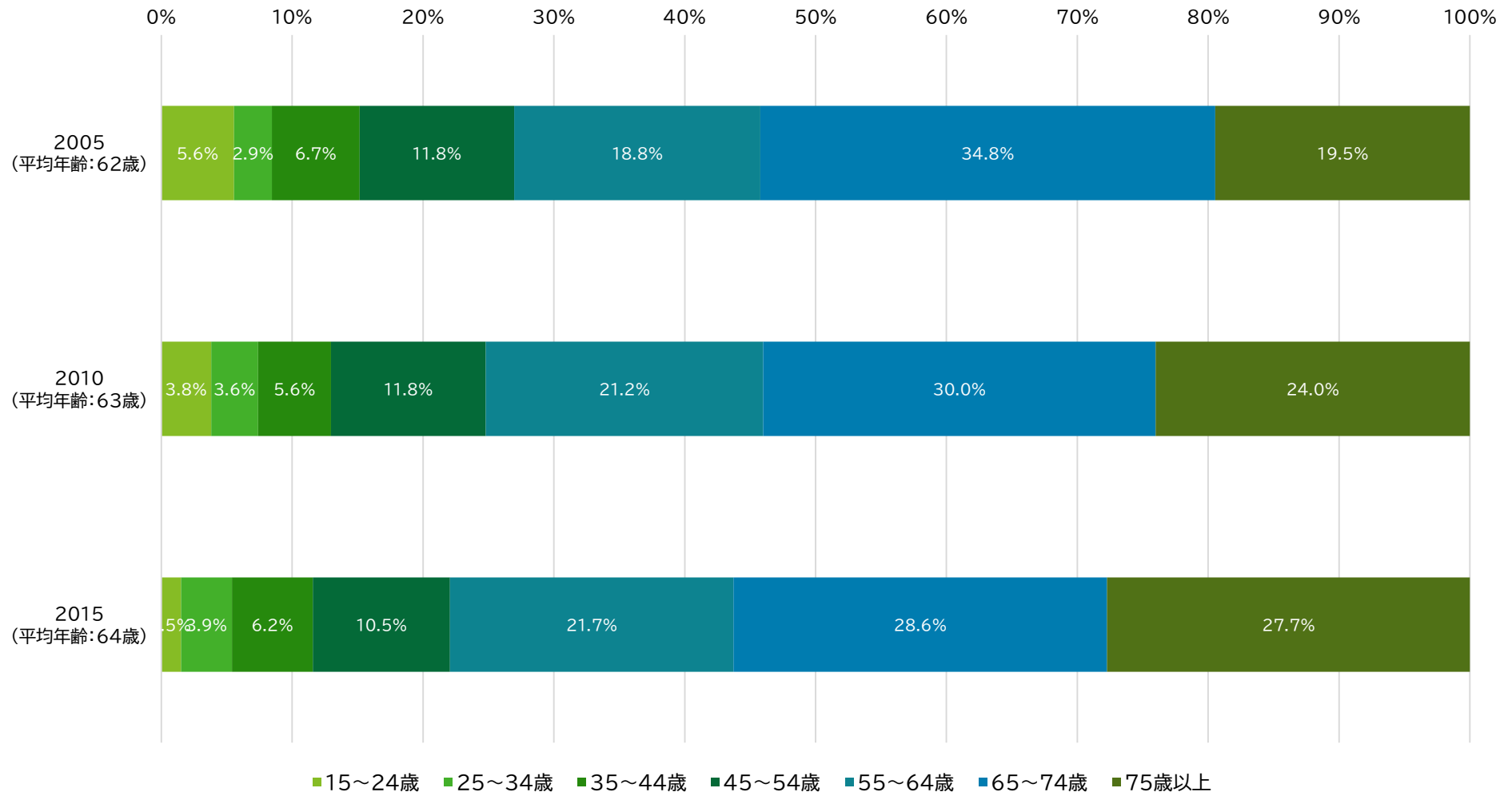
品目別農業産出額(2017年)



Ⅱ.産業・経済 | 6.農業

佐賀市の年齢階級別農業就業者比率と平均年齢

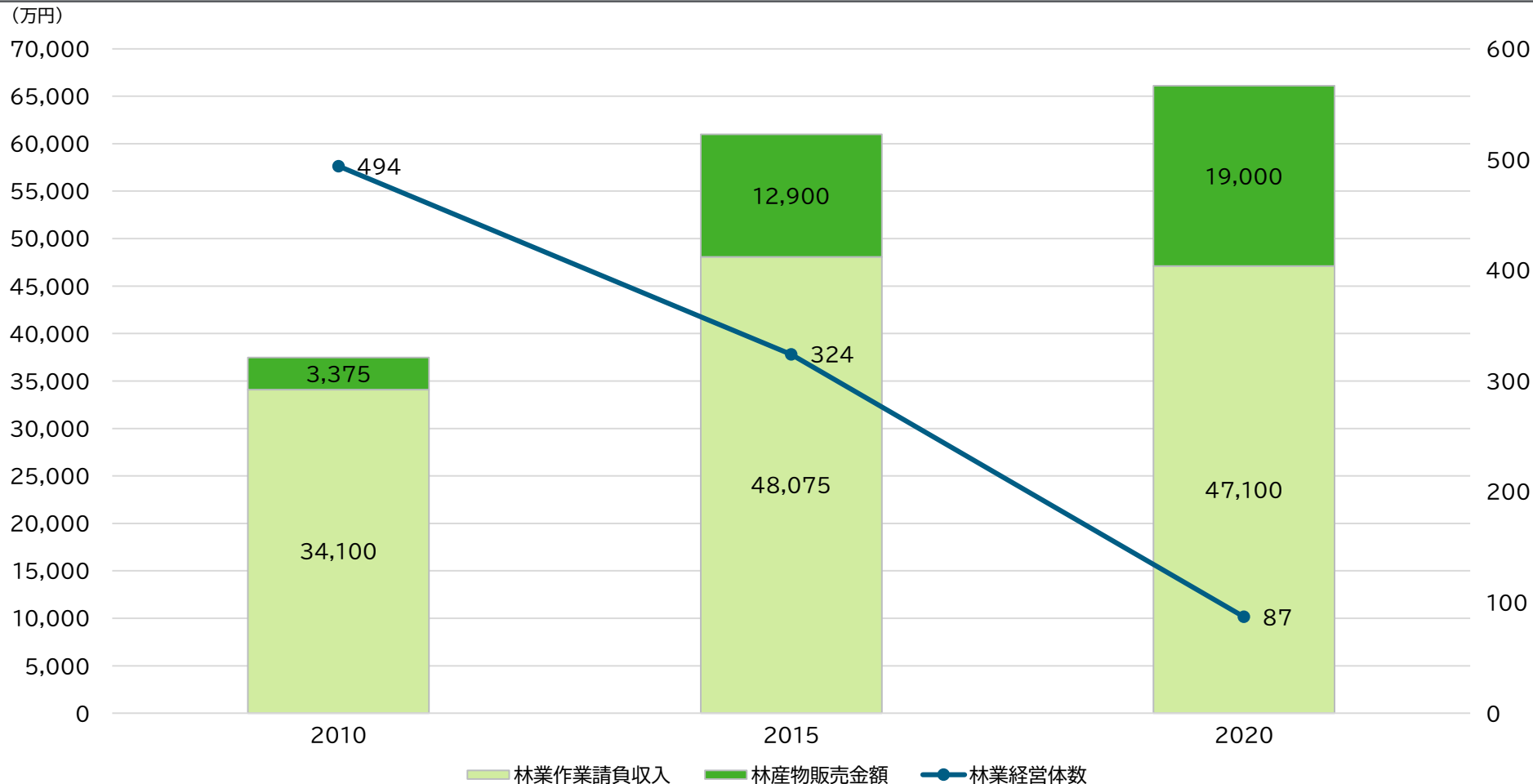
✓農業就業者は年々高齢化が進んでおり、2010年には65歳以上の割合が50%を超え、2015年には、そのうち約半数を75歳以上が占める状況となっている。



Ⅱ.産業・経済 | 7.林業

佐賀市の林業総収入・林業経営体数の推移

- ✓林業総収入は増加しており、2010年比で約1.5倍となっている。
- ✓林業作業請負収入、林産物販売のいずれも増加しているが、林産物販売は2010年の約6倍と急増している。
- ✓一方、林業経営体数は激減しており、2010年の約20%まで落ち込んでいる。

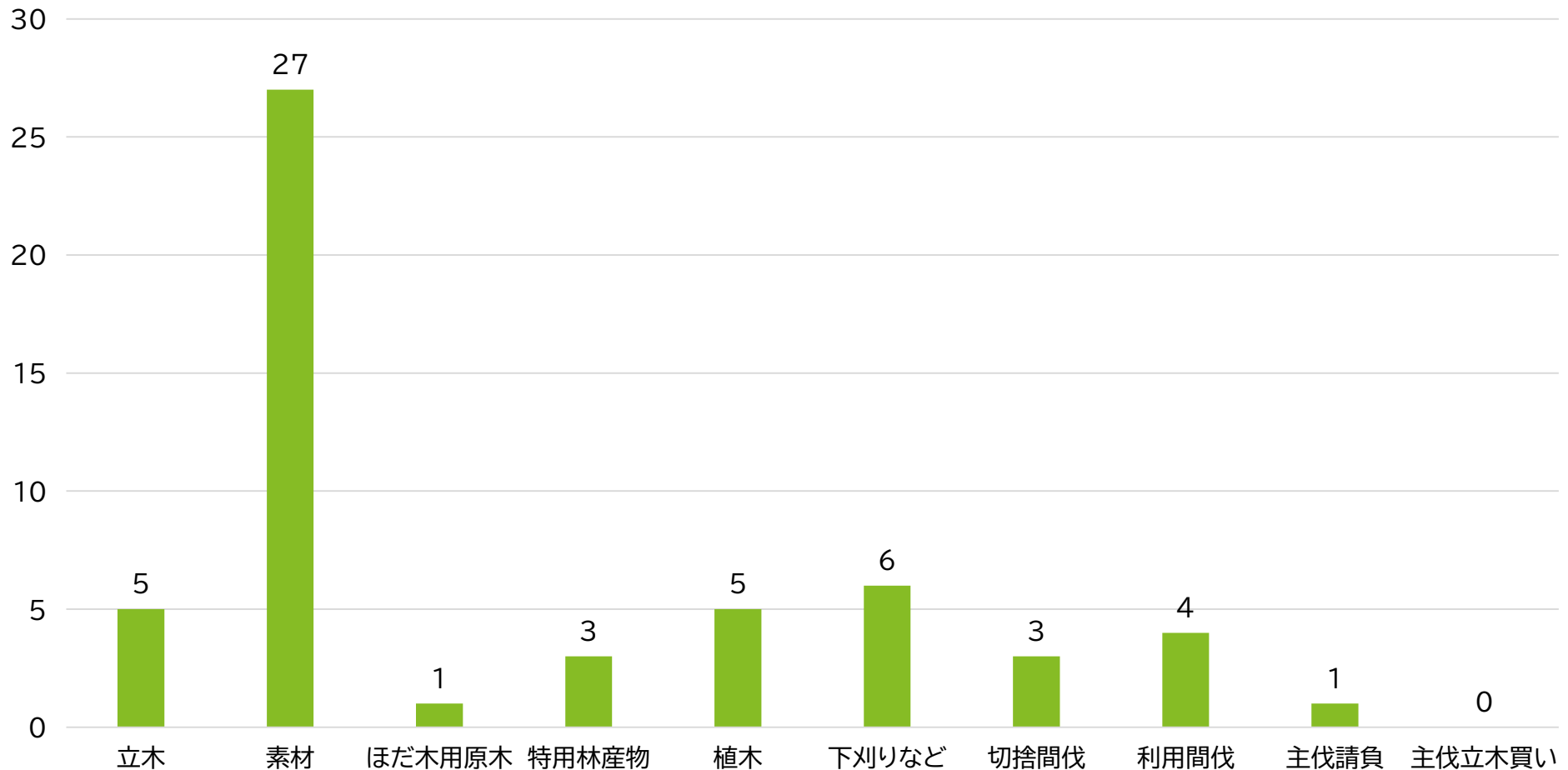


Ⅱ.産業・経済 | 7.林業

佐賀市の林業部門別延べ経営体数の推移

✓林業部門の経営体としては素材部門に由来するものが最も多く、全体の約50%を占める。

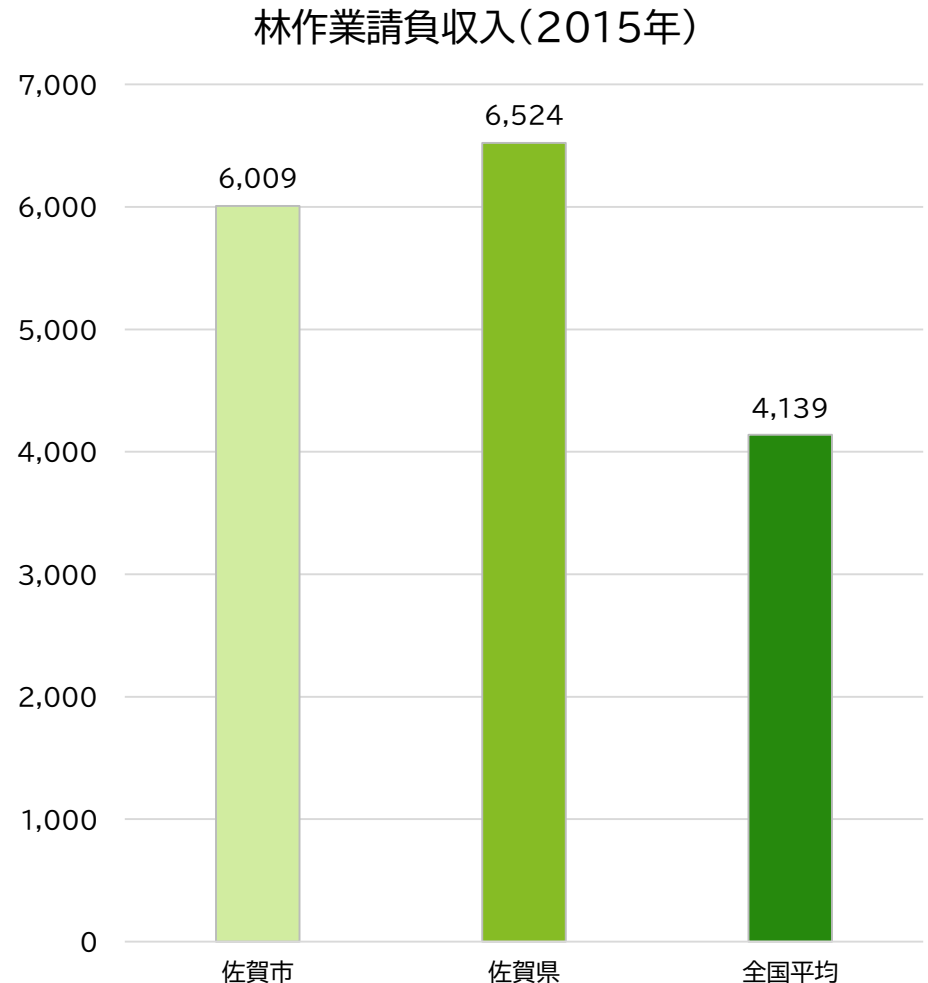
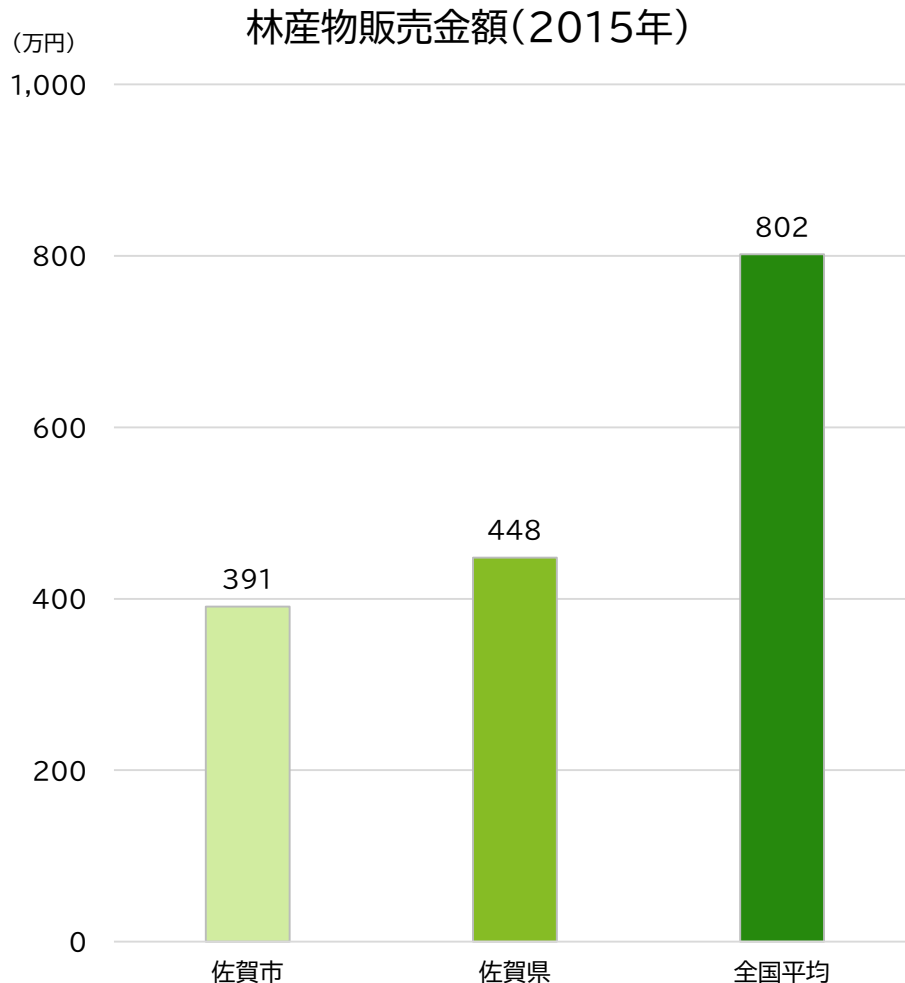
林業部門別延べ経営体数(2015年)



Ⅱ.産業・経済 | 7.林業

佐賀市の経営体あたり林業収入(地域間比較)

✓佐賀市は佐賀県と同様、林産物販売金額では全国平均の半額程度にとどまっているものの、林作業請負収入では全国平均の約1.5倍に達している。



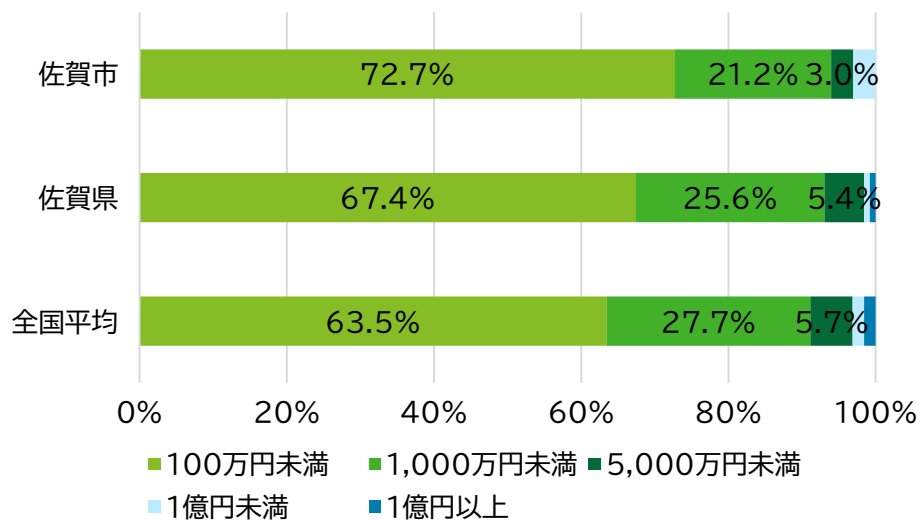
Ⅱ.産業・経済 | 7.林業

佐賀市の林産物販売金額帯別経営体割合及び林業請負収入金額帯別経営割合 (地域間比較)

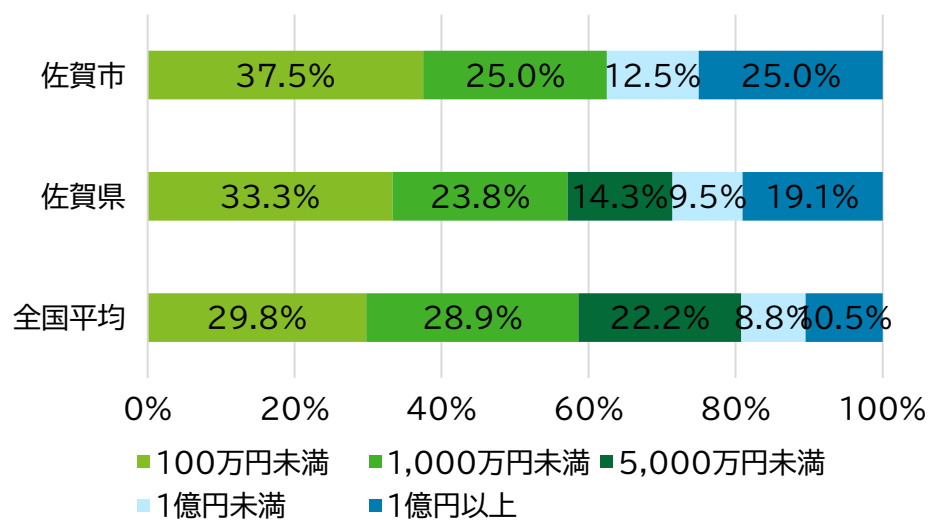
✓佐賀市は、林産物販売、林業作業請負のいずれにおいても100万円未満の少額のもの割合が最も高く、いずれも全国平均および佐賀県の割合を上回っている。

✓一方で、林業作業請負においては、1億円以上の割合が25%を占めており、全国平均および佐賀県の割合を大幅に上回っている。

林産物販売金額規模別割合(2015年)



林業作業請負収入金額規模別割合(2015年)

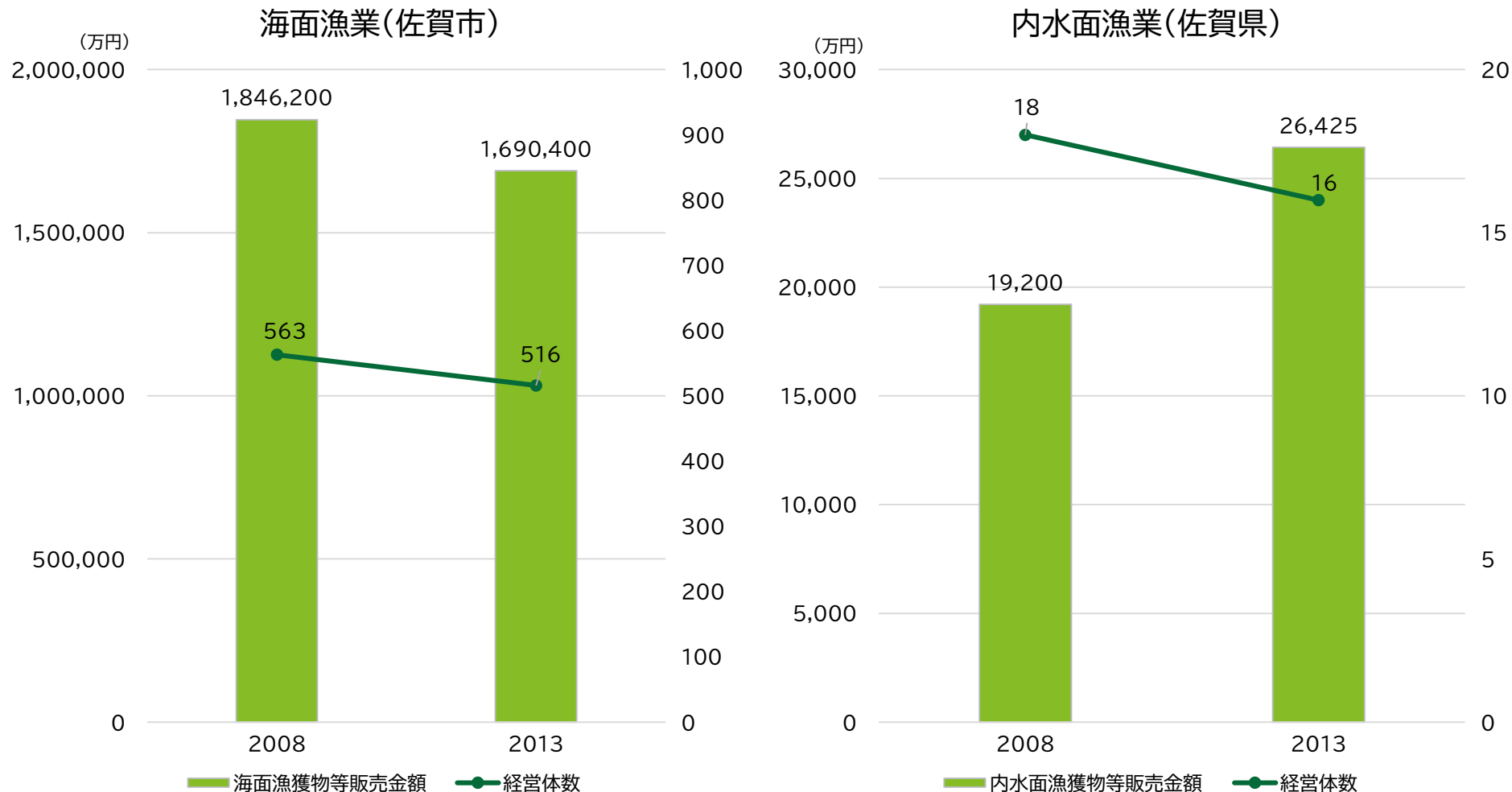


Ⅱ.産業・経済 | 8.漁業

佐賀市・佐賀県の漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移

✓漁獲物等販売金額については、海面漁業(佐賀市)においては減少しているものの、内水面漁業(佐賀県)においては2008年時点の1.4倍程度に増加している。

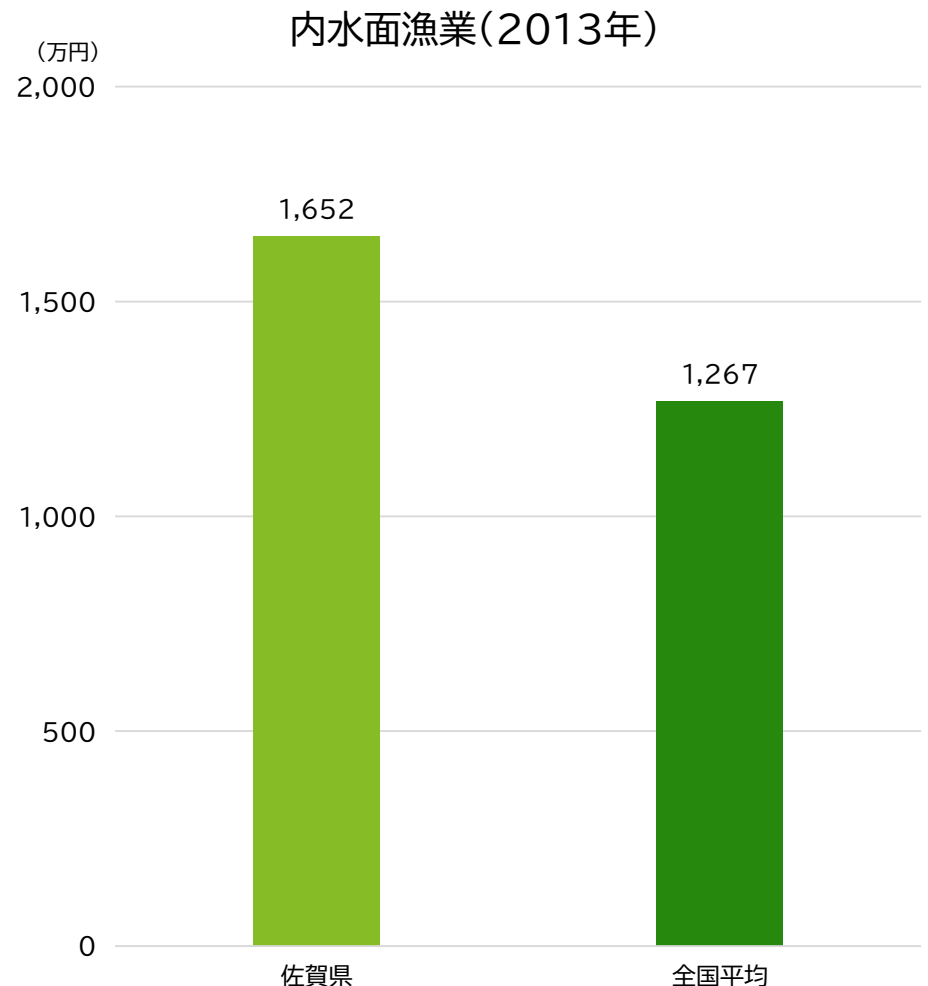
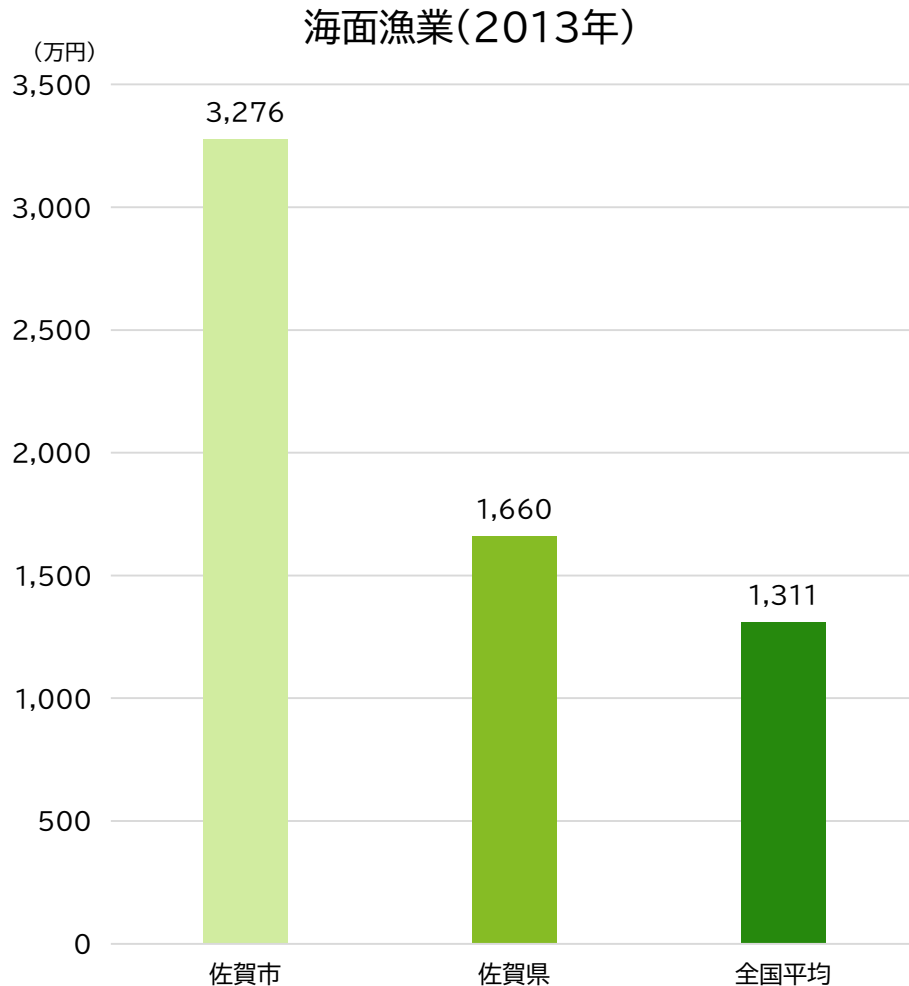
✓経営体数では、海面漁業(佐賀市)・内水面漁業(佐賀県)のいずれにおいても減少している。



Ⅱ.産業・経済 | 8.漁業

佐賀市・佐賀県の経営体あたり漁獲物等販売金額(地域間比較)

- ✓佐賀市は、佐賀県・全国平均と比べて海面漁業の経営体あたり漁獲物等販売金額が著しく高く、全国平均の概ね2.5倍に達する。
- ✓内水面漁業の漁獲物等販売金額においても、佐賀県は全国平均の1.3倍程度である。



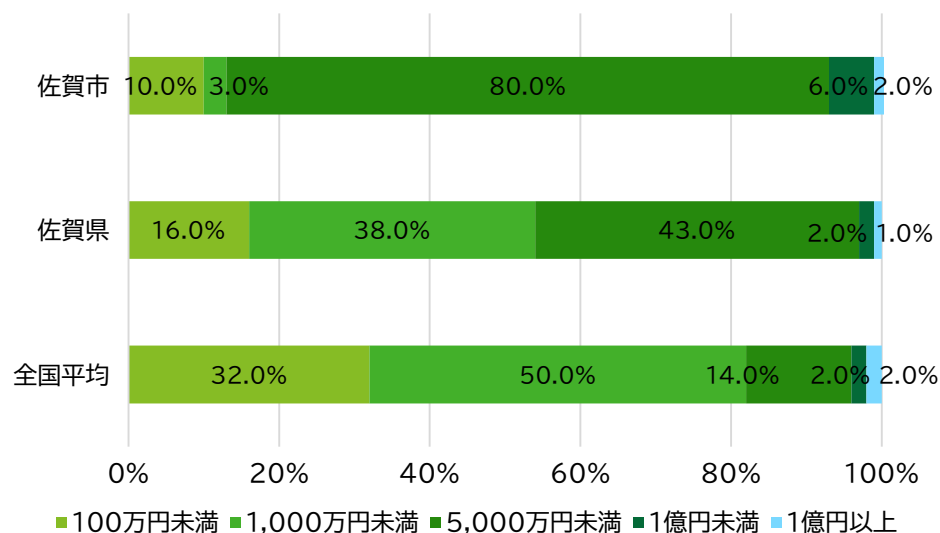
Ⅱ.産業・経済 | 8.漁業

佐賀市・佐賀県の漁獲物等販売金額帯別経営体割合(地域間比較)

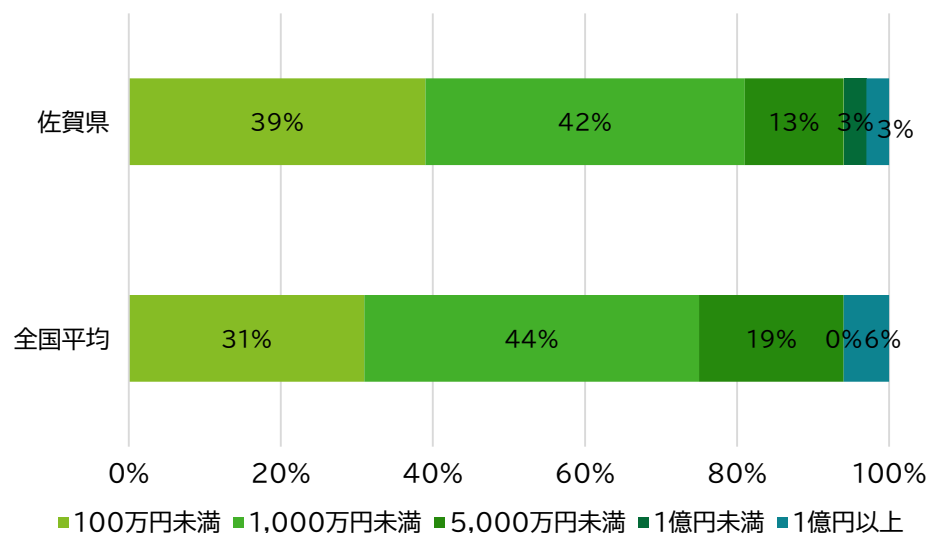
✓漁獲物等販売金額帯別に経営体の割合をみると、佐賀市において、海面漁業では1,000万円以上5,000万円未満が80%を占めており、佐賀県・全国平均と比較して販売金額帯の高い経営体の割合が著しく高い。

✓内水面漁業においては、佐賀県は全国平均と比較して8%ほど100万未満の経営体の割合が高い。

海面漁業(2013年)



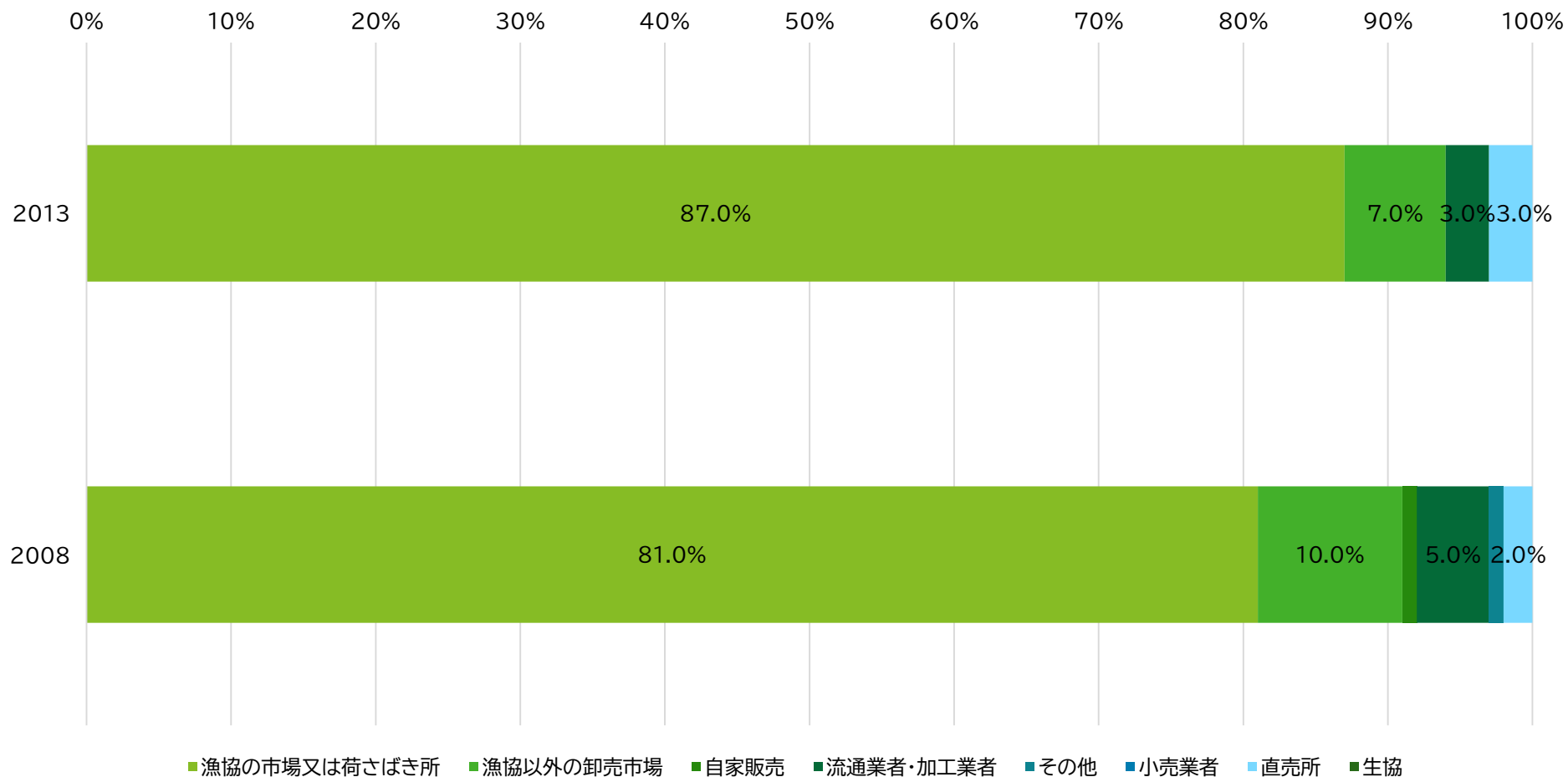
内水面漁業(2013年)



Ⅱ.産業・経済 | 8.漁業

佐賀市の海面漁獲物等出荷先別経営体数の割合

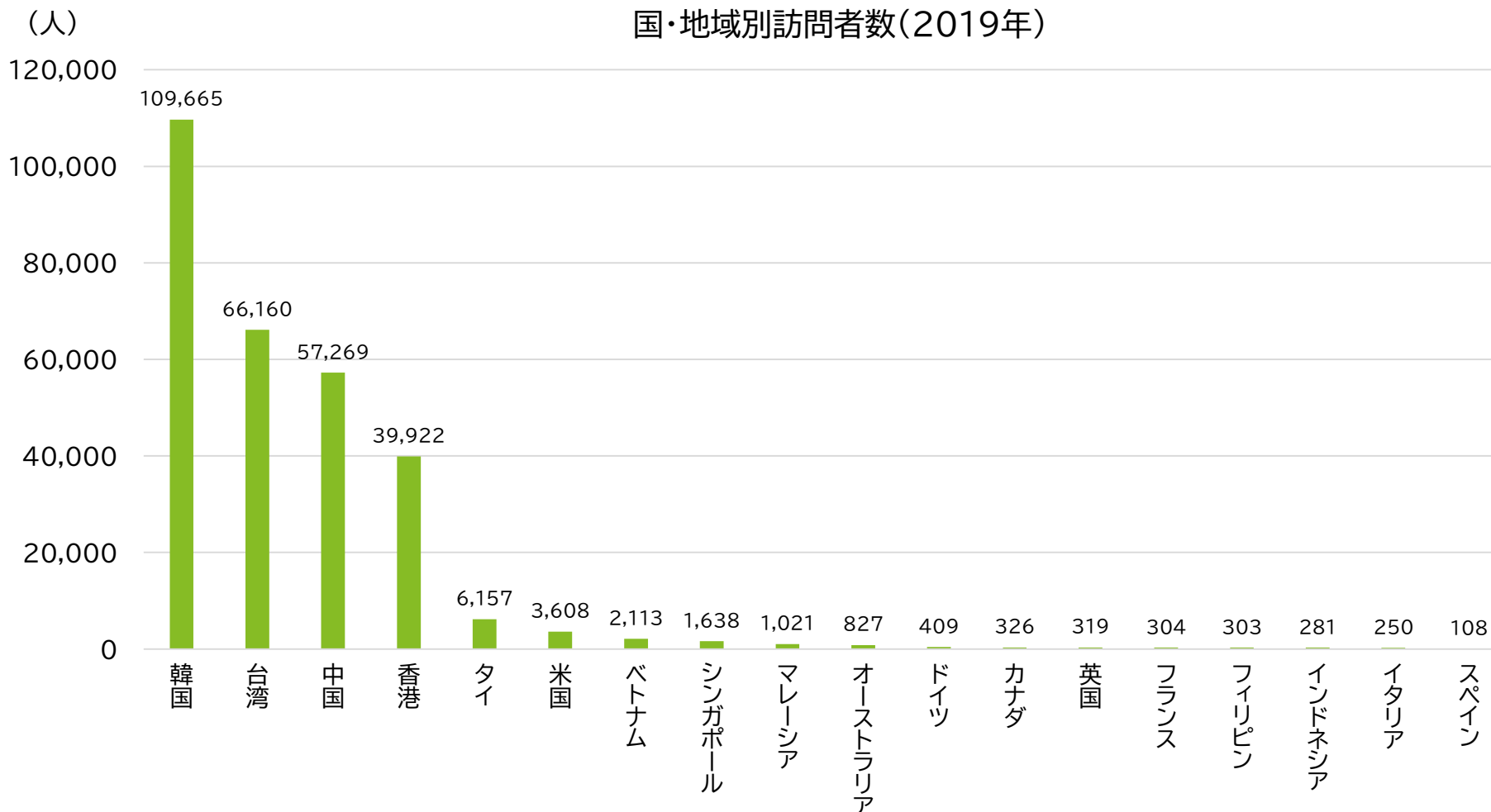
- ✓海面漁獲物等出荷先は「漁協の市場又は荷さばき所」が8割以上を占めており、2008年から2013年では割合が増加している。
- ✓一方、漁協以外の卸売市場、自家販売、流通・加工業者への出荷割合が減少している。



Ⅱ.産業・経済 | 9.観光

佐賀県へ訪問した外国人訪問客数(国・地域別)

- ✓以下はコロナ禍以前である2019年の実績値である。
- ✓外国人訪問客の国籍としては、韓国、台湾、中国、香港の順に多く、東アジア圏が大部分を占める。



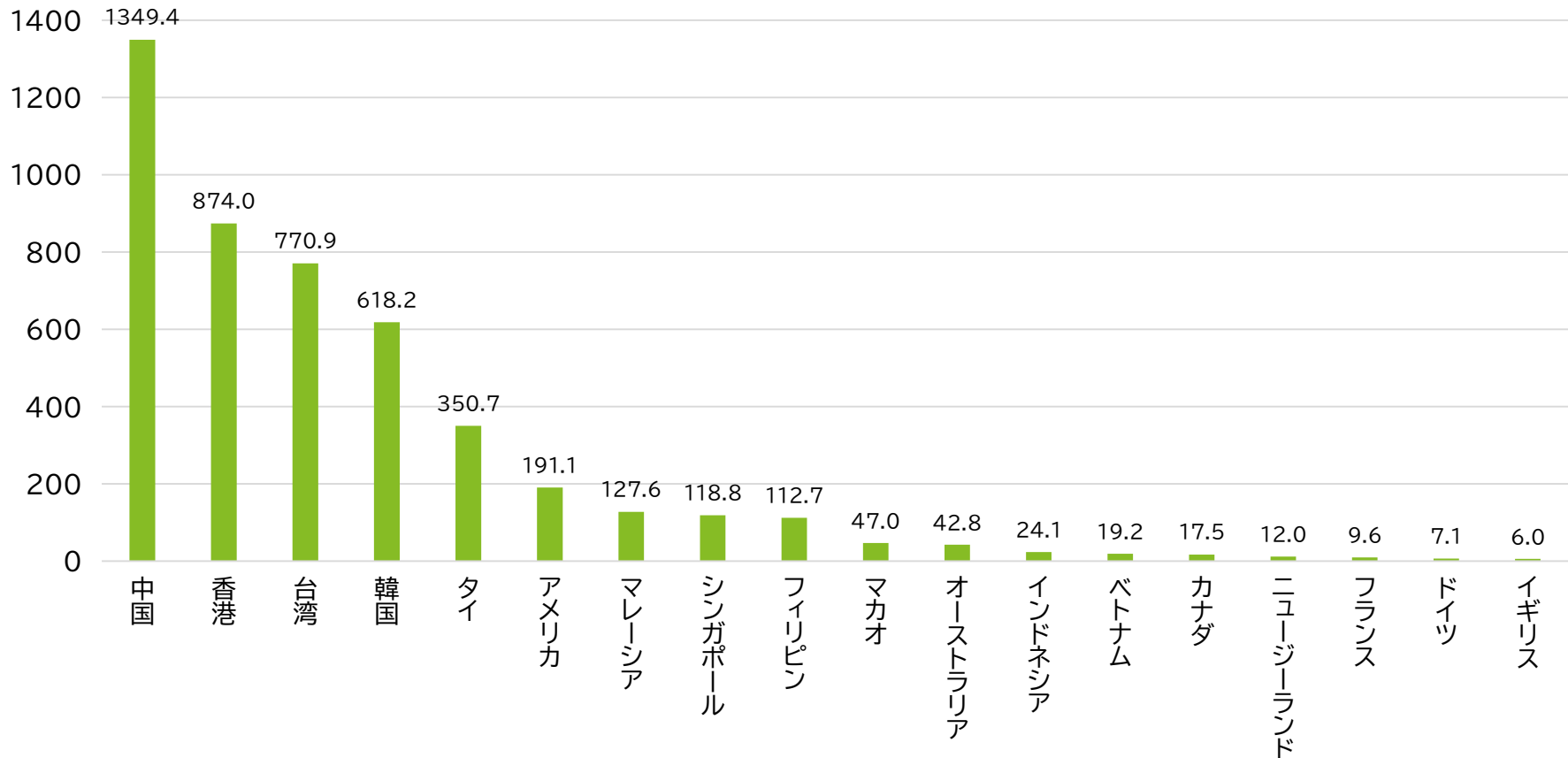
Ⅱ.産業・経済 | 9.観光

外国人における佐賀県内での国・地域別消費額

- ✓佐賀県内での消費額は、中国、香港、台湾、韓国の順に多く、1位の中国は2位以下を大きく引き離し、1兆3千億円を超えている。
- ✓訪問者数が韓国の約半分である中国が、消費額では韓国の2倍以上となり、中国人観光客の一人当たりの消費額が高いことがわかる。

(百万円)

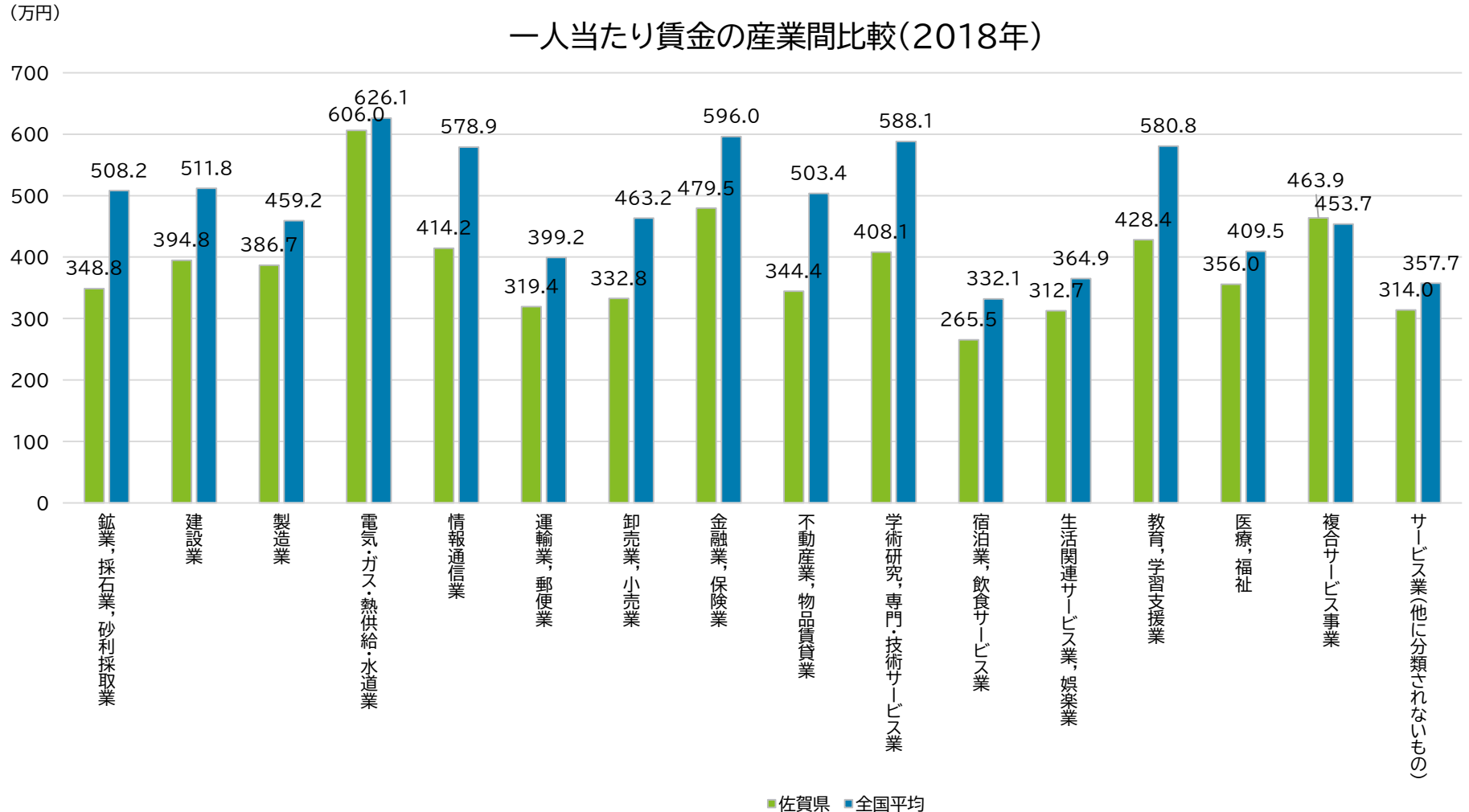
国・地域別消費額(2019年)



Ⅱ.産業・経済 | 10.雇用

一人当たり賃金(産業間比較)

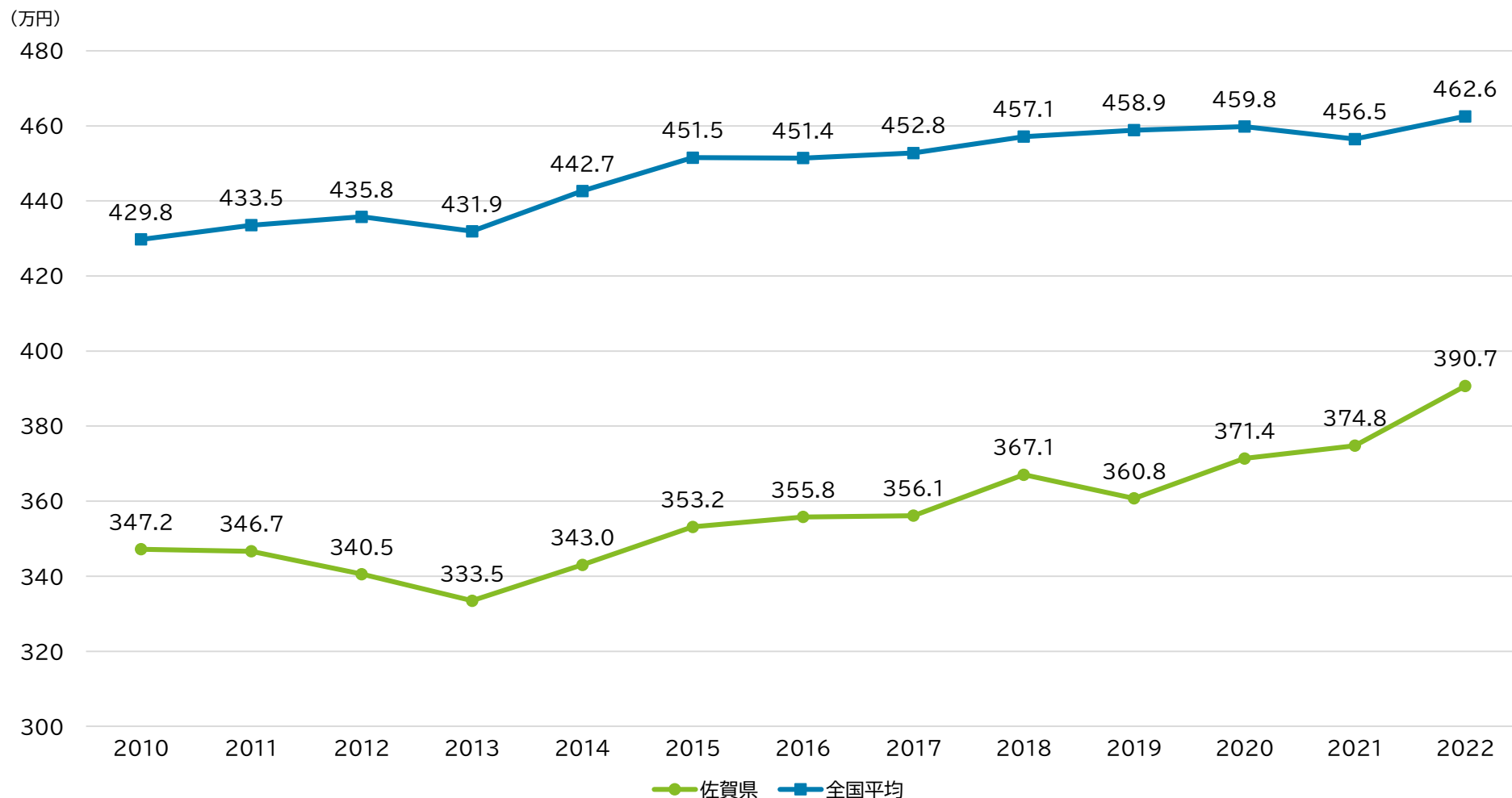
✓佐賀県の一人当たり賃金は、いずれの産業においても全国平均を下回っている。
✓特に、「学術研究、専門・技術サービス業」は全国平均より180万円程度低く、「情報通信業」、「不動産業、物品賃貸業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」は160万円程度、「教育、学習支援業」は150万円程度、平均より低いことがわかる。



Ⅱ.産業・経済 | 10.雇用

一人当たり賃金(地域間比較)

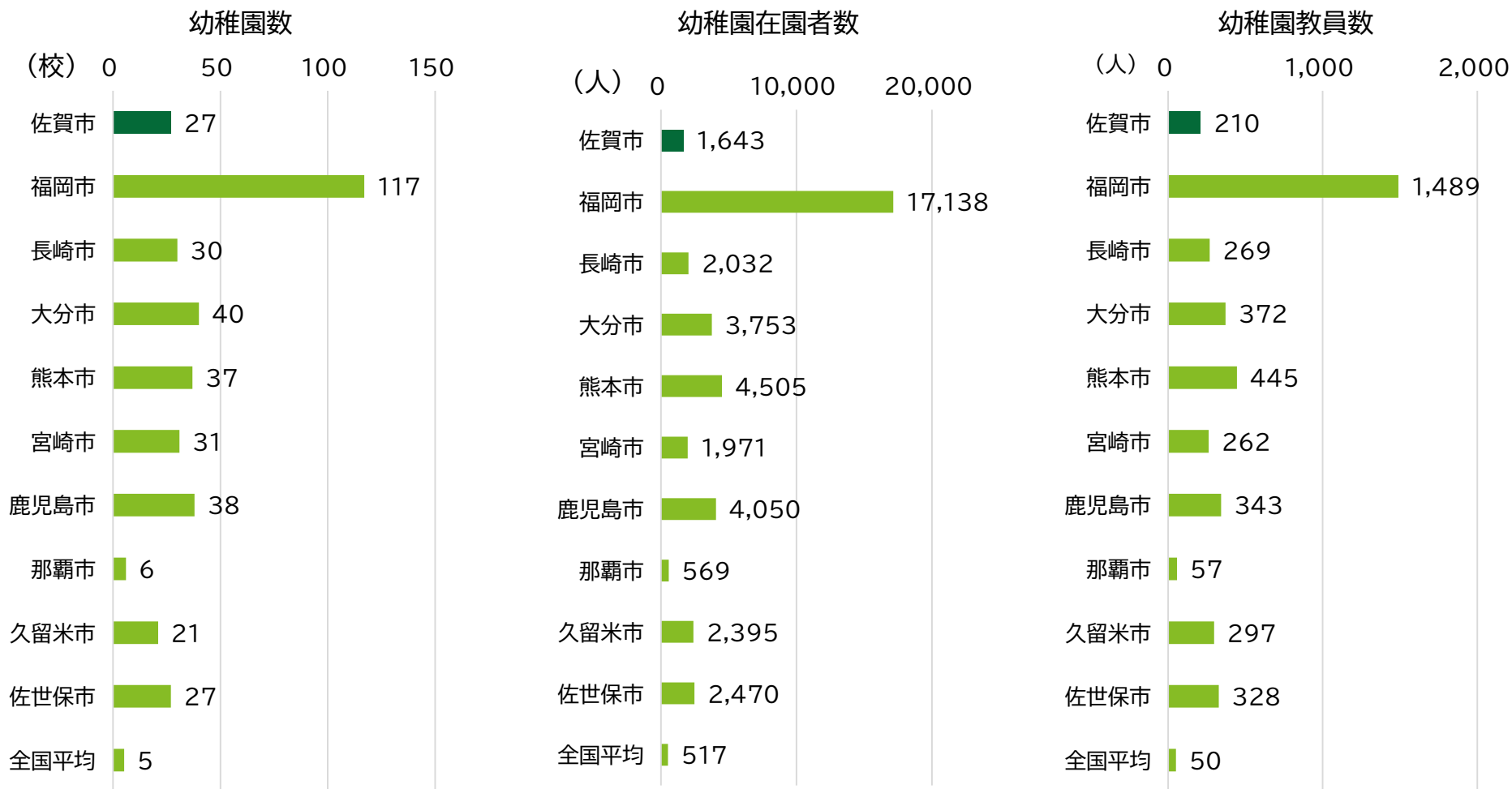
✓佐賀県の一人当たり賃金は全国平均より低い水準にあるものの、全国平均との差が少しずつ縮小し、2010年当時と比較し、2022年時点では10万円程度改善されている。



Ⅲ.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園数、幼稚園在園者数、幼稚園教員数

✓佐賀市は、全国平均と比較して幼稚園数、在園者数、教員数のいずれも多い状況にある。
✓ベンチマーク都市との比較では、那覇市を除いて、いずれの都市も佐賀市と同様、全国平均よりいずれも多い傾向にある。



Ⅲ.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園在園者100人当たりの幼稚園数

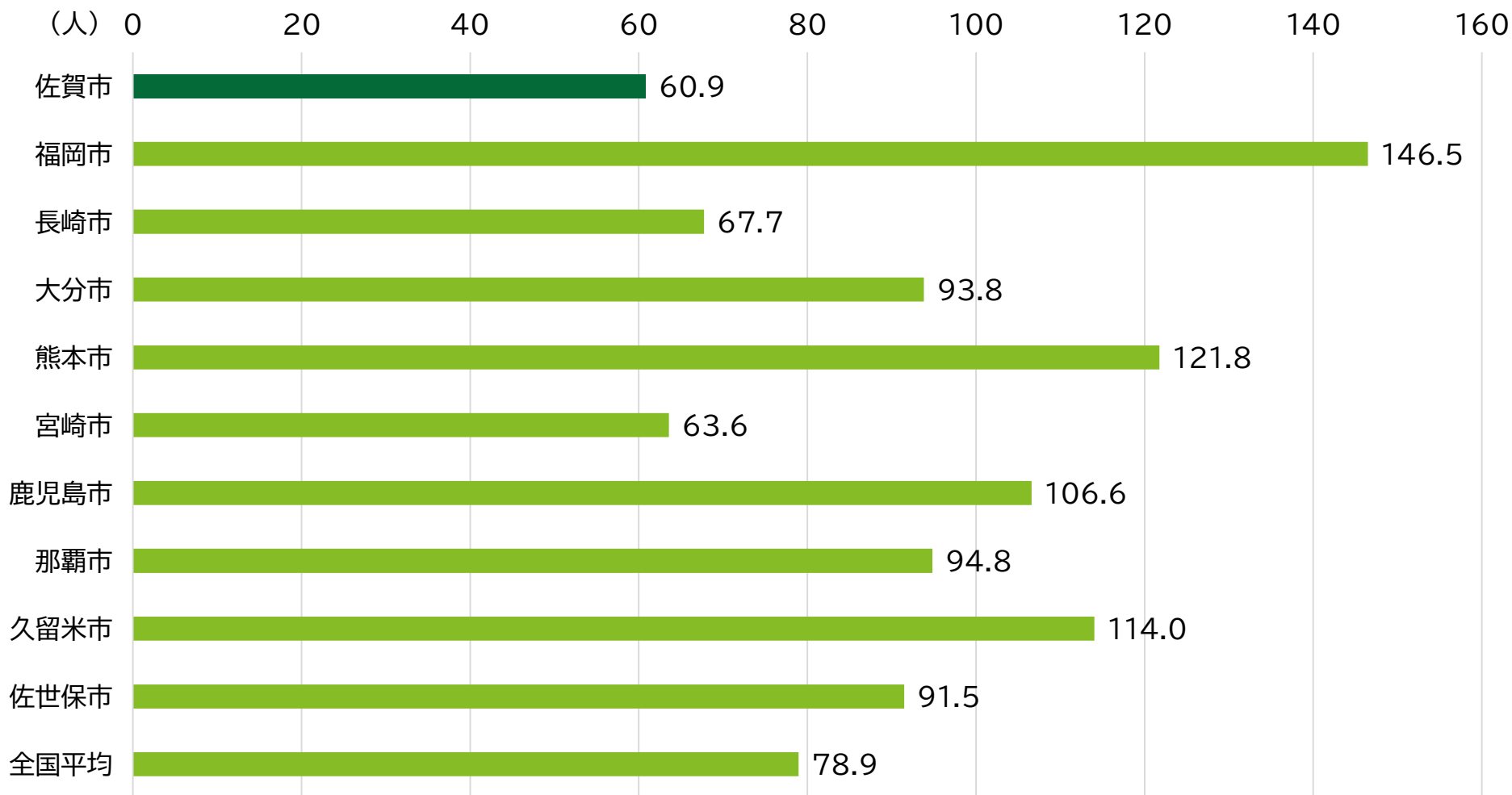
✓佐賀市は、全国平均と比較して幼稚園在園者100人当たりの幼稚園数が多い。
✓ベンチマーク都市と比較しても、佐賀市は幼稚園在園者100人当たりの幼稚園数が多く、宮崎市と概ね同様の状況にある。



Ⅲ.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園数当たりの幼稚園在園者数

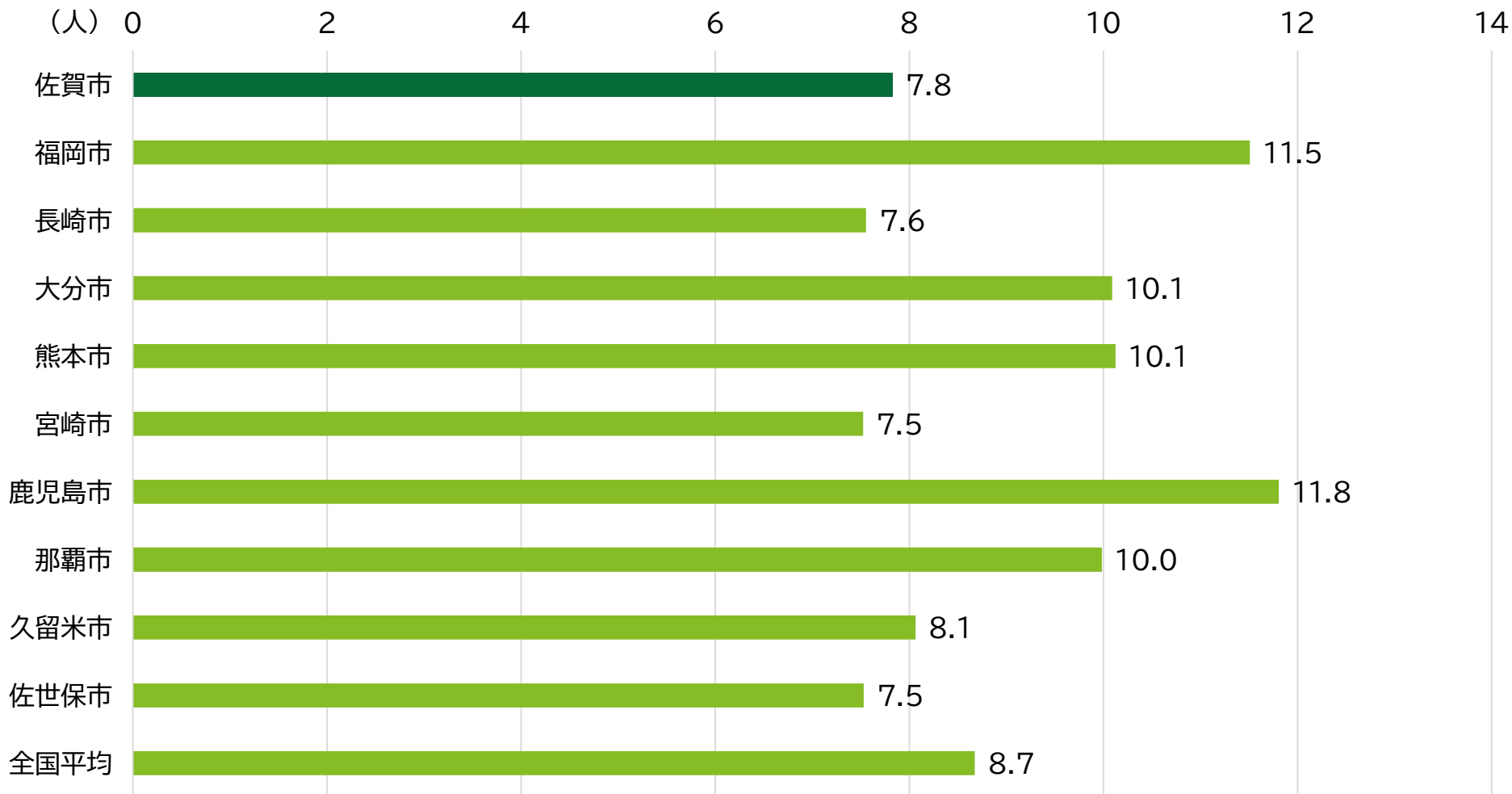
✓佐賀市は、幼稚園当たりの幼稚園在園者数が全国平均より20人程度少ない。
✓ベンチマーク都市との比較でも、幼稚園あたりの在園者数は少なく、最も多い福岡市の半数以下である。



Ⅲ.子育て・教育 | 1.幼稚園

幼稚園教員数当たりの幼稚園在園者数

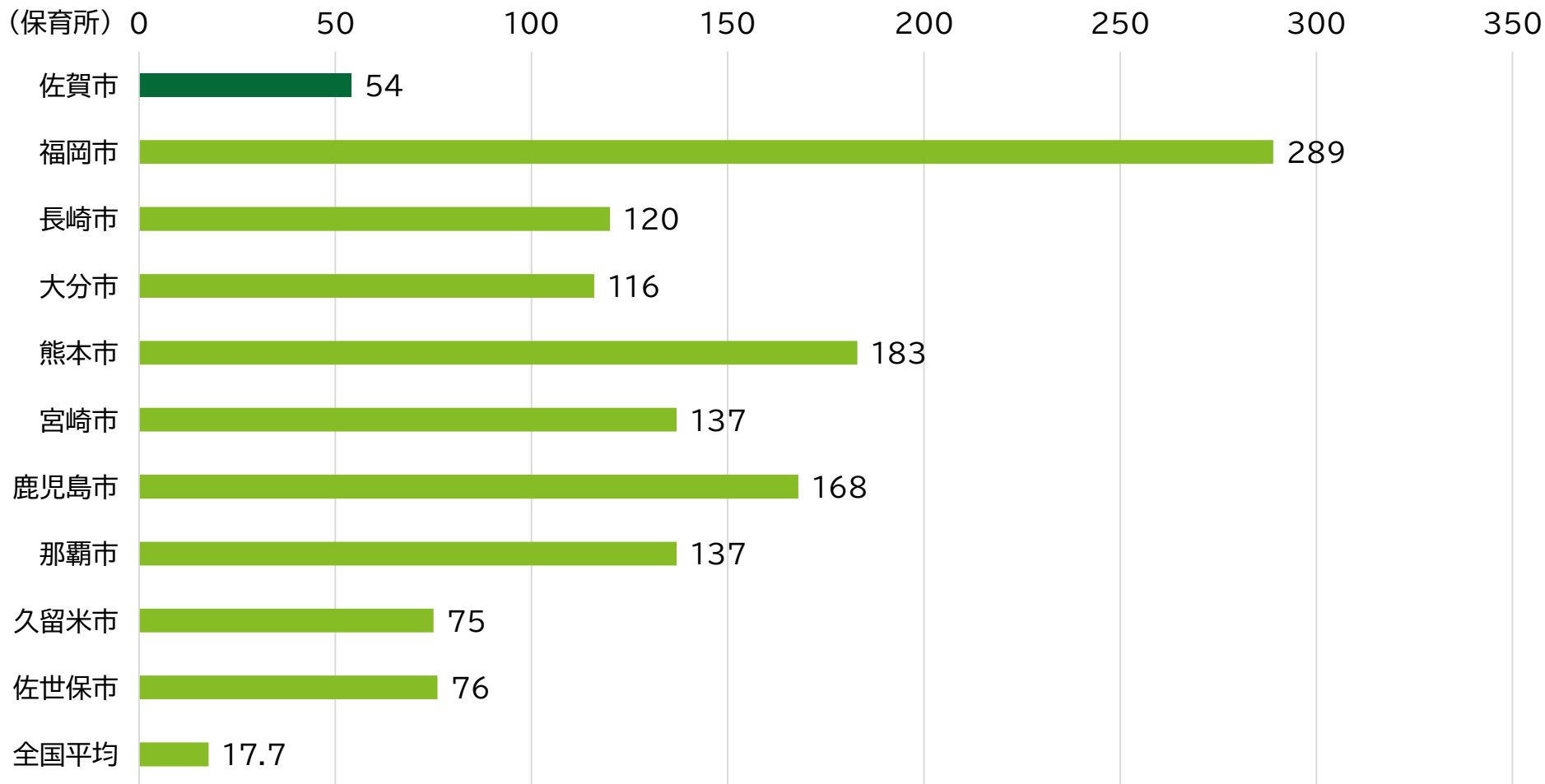
- ✓佐賀市は、全国平均と比較して幼稚園教員当たりの幼稚園在園者数が少ない。
- ✓ベンチマーク都市との比較でも、長崎市、宮崎市、佐世保市と同様、幼稚園教員あたりの幼稚園在園者数が少ない。



Ⅲ.子育て・教育 | 2.保育所

保育所等数

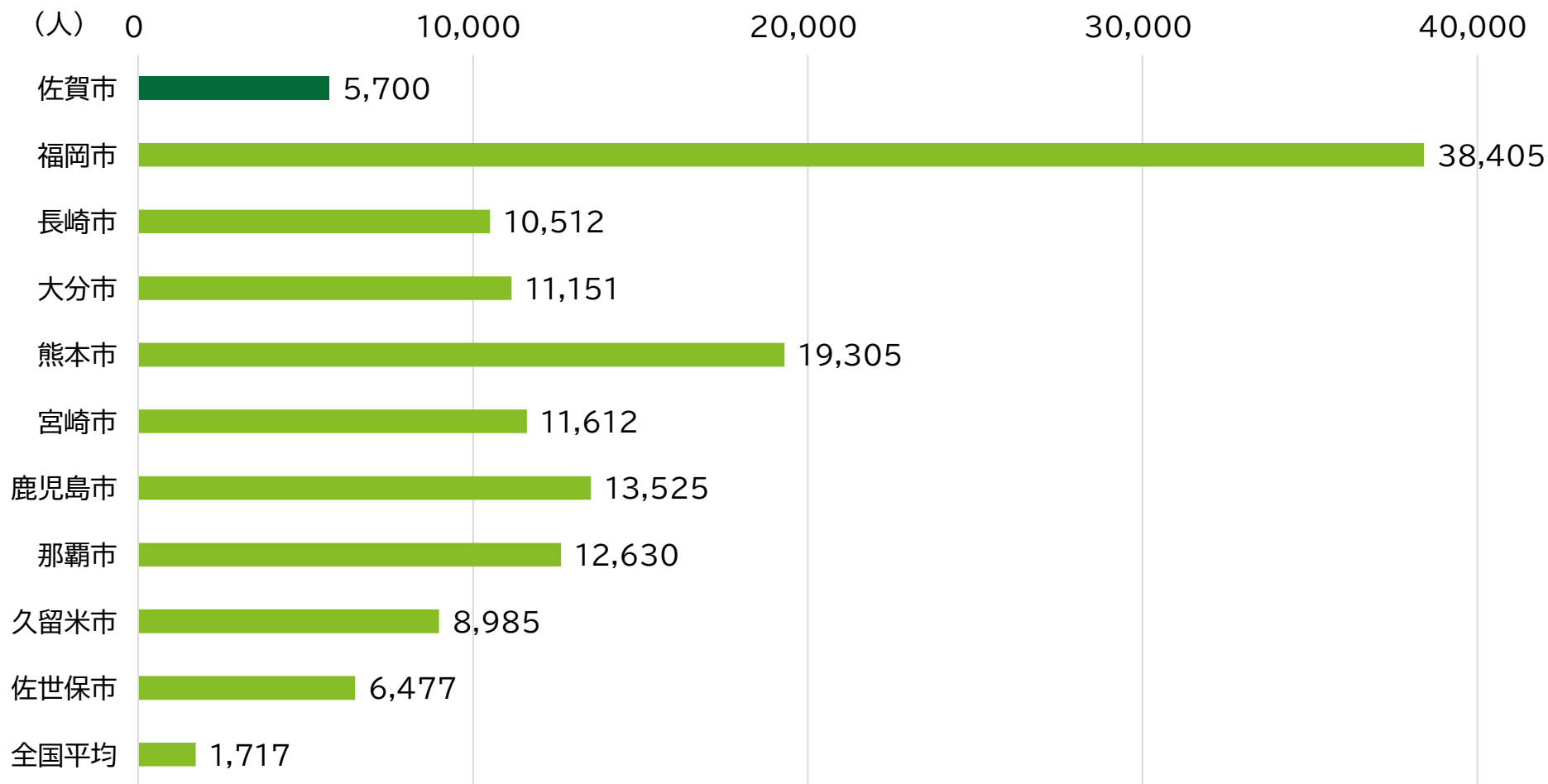
✓佐賀市は、比較するベンチマーク都市の中では保育所等数が最も少なく、福岡市、長崎市、大分市、熊本市、宮崎市、鹿児島市、那覇市で100所を超えるのに対し、佐賀市は54所にとどまっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 2.保育所

保育所等定員数

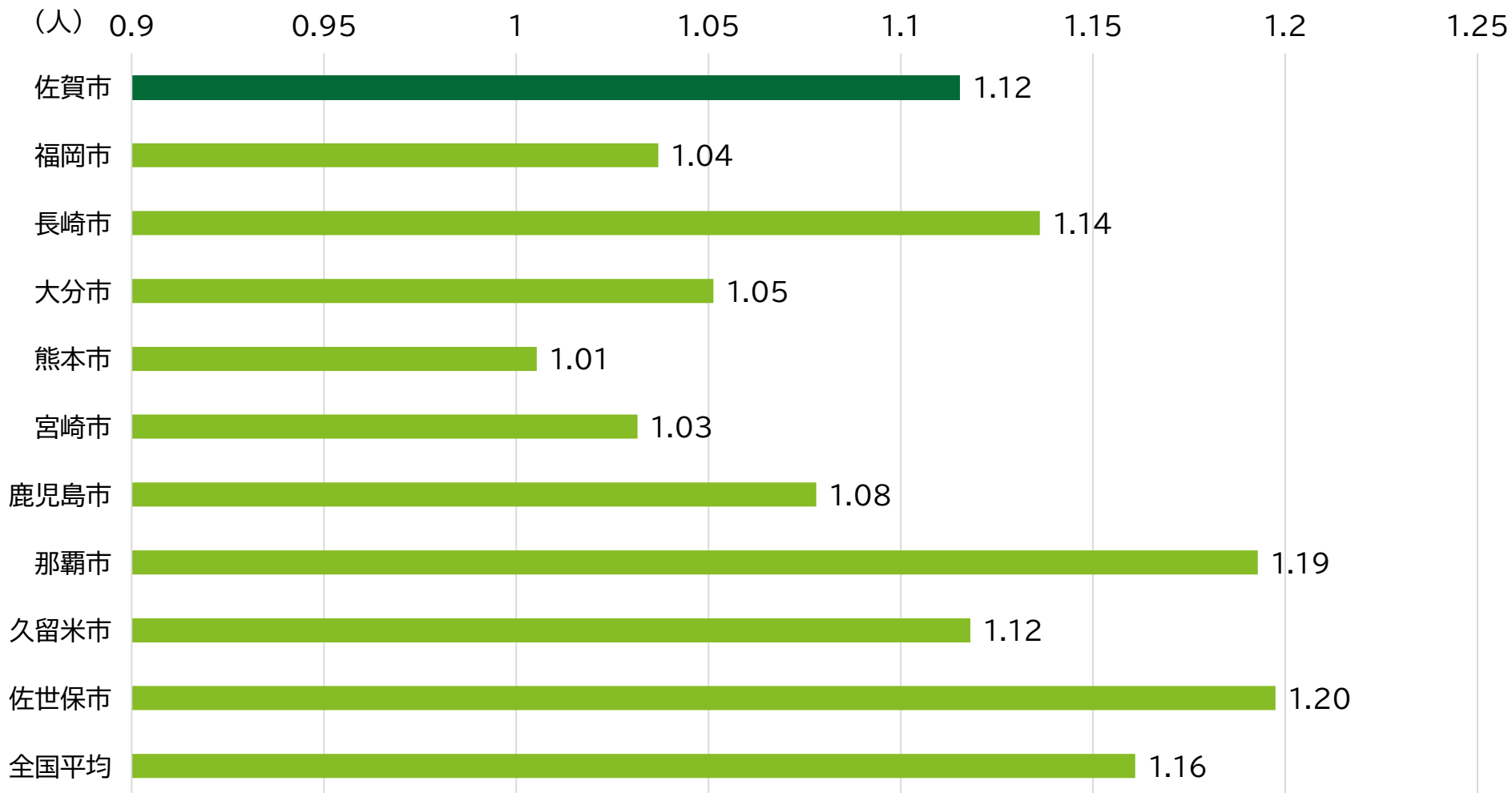
✓佐賀市は、保育所等数同様、比較するベンチマーク都市より保育所等定員数が少ない。福岡市、熊本市、宮崎市、鹿児島市、那覇市は佐賀市の2倍以上の定員数である。



Ⅲ.子育て・教育 | 2.保育所

保育所利用者数1人当たりの保育所等定員数

✓佐賀市の保育所等定員数を保育所利用者数1人当たりで見ると、全国平均よりも低い。
✓ベンチマーク都市との比較では長崎市、久留米市と同程度の水準である。



Ⅲ.子育て・教育 | 2.保育所

保育所利用者数100人当たりの保育所等数

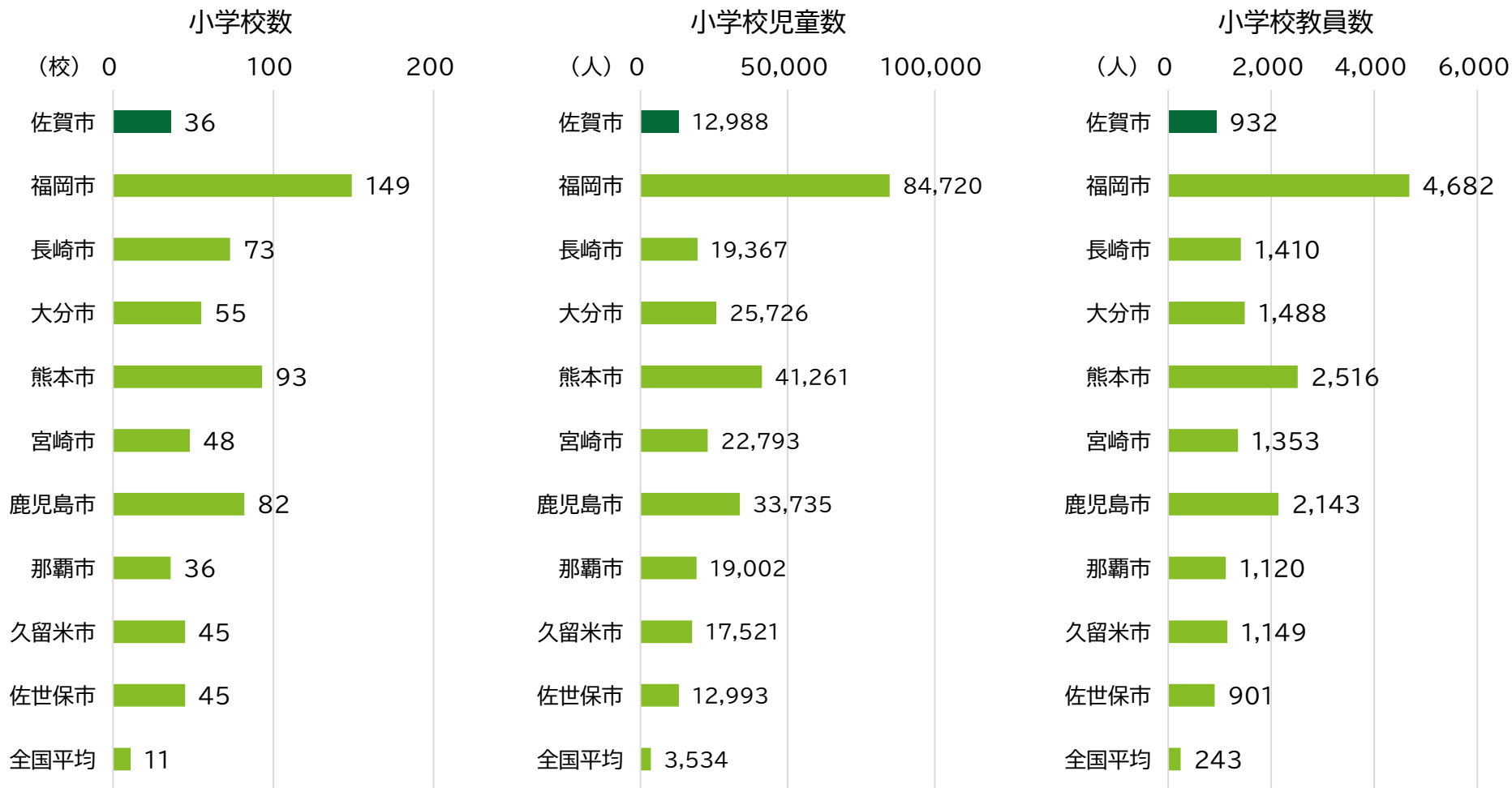
✓佐賀市は、全国平均と比較して保育所利用者数100人当たりの保育所等数は少ない。
✓ベンチマーク都市との比較では、大分市と同程度の水準となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 3.小学校

小学校数、小学校児童数、小学校教員数

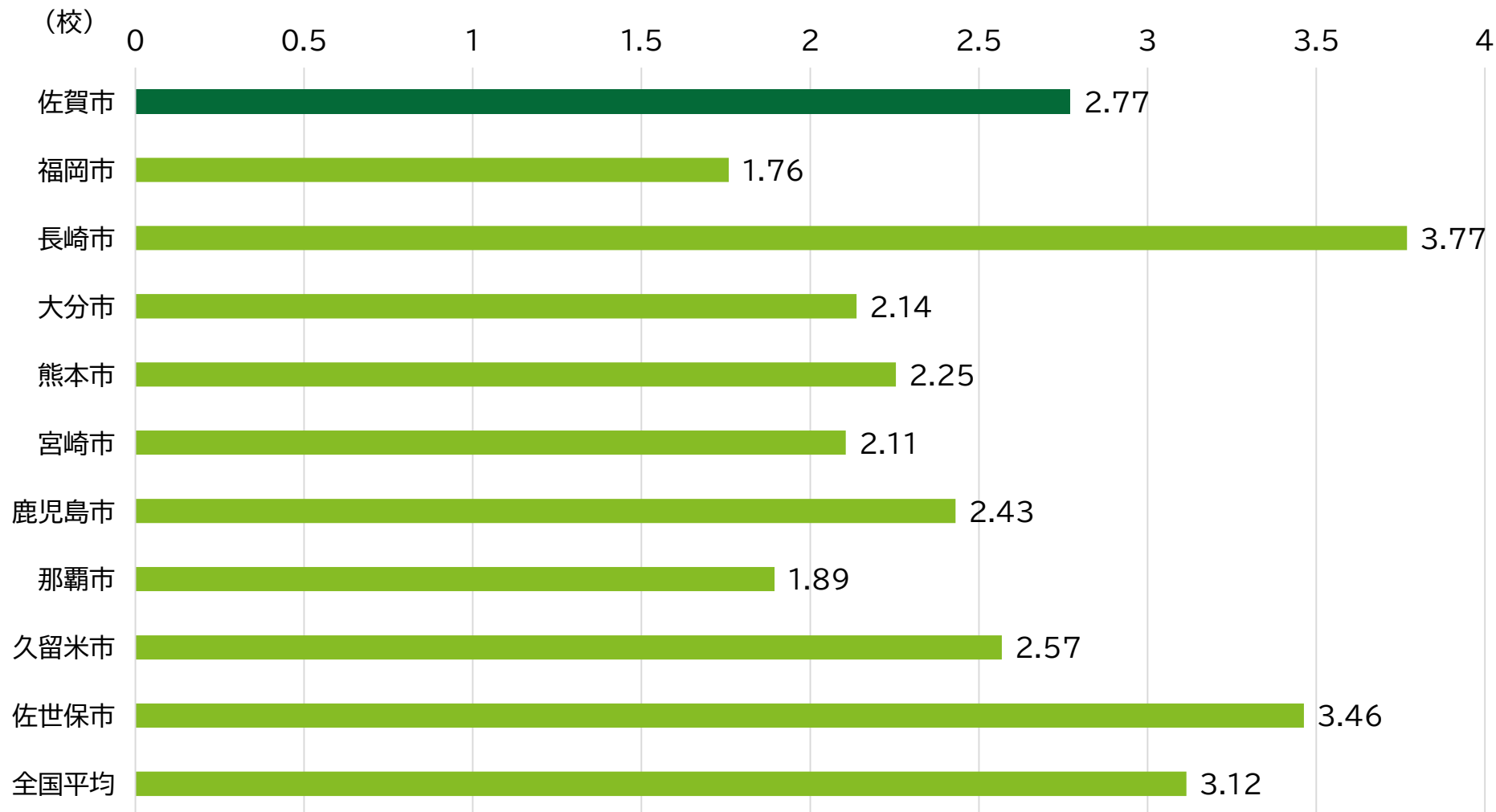
✓佐賀市は、全国平均と比較して小学校数・小学校児童数、小学校教員数のいずれも上回っている。
✓ベンチマーク都市においても、佐賀市と同様の状況であるものの、小学校数が同様の那覇市と比較すると、児童数・教員数は佐賀市の方が少ない。



Ⅲ.子育て・教育 | 3.小学校

小学校児童1,000人当たりの小学校数

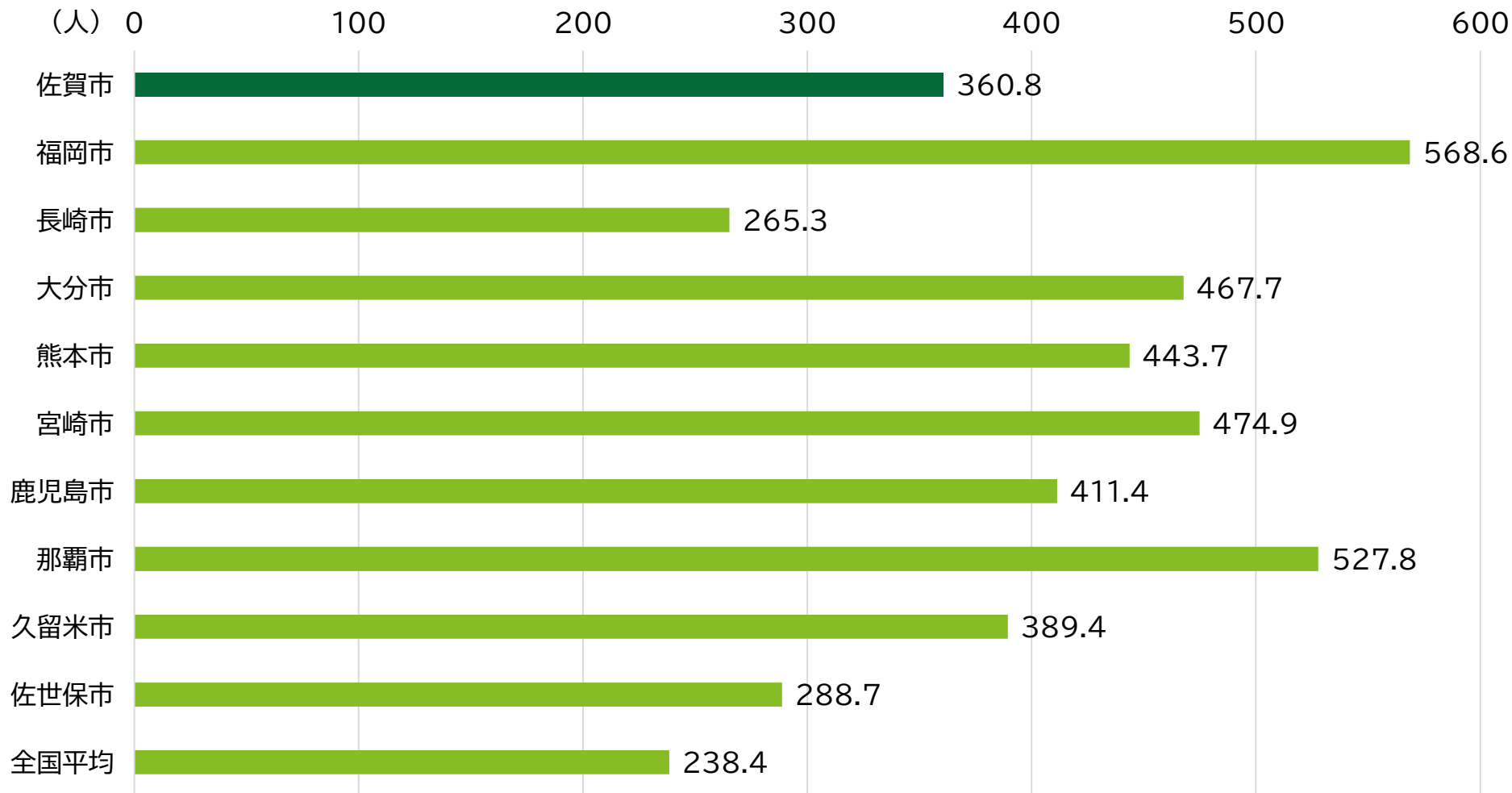
✓佐賀市の小学校児童1,000人当たりの小学校数は2.77校となっており、全国平均3.12よりも低くなっている。
✓ベンチマーク都市比較においては、全国平均を上回る長崎市、佐世保に次いで3番目に高い水準となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 3.小学校

小学校数当たりの小学校児童数

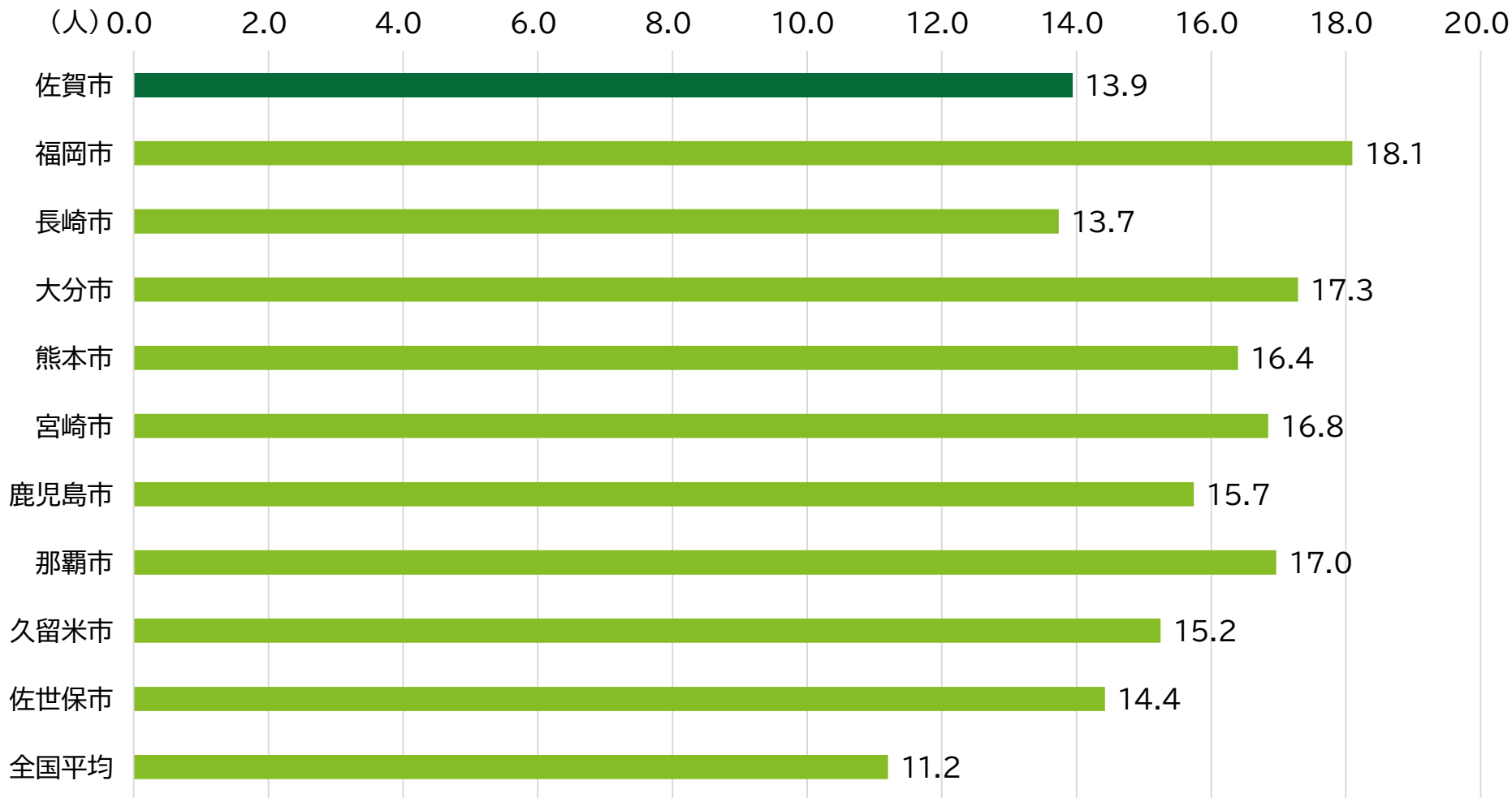
✓佐賀市は、全国平均と比較して小学校数当たりの小学校児童数が130人ほど多い。
✓ベンチマーク都市においても、佐賀市と同様全国平均より児童数が多い傾向がある。



Ⅲ.子育て・教育 | 3.小学校

小学校教員数当たりの小学校児童数

✓佐賀市は全国平均と比較して、小学校教員数当たりの小学校児童数が多い。
✓ベンチマーク都市においても、佐賀市と同様、全国平均よりも小学校教員数あたりの小学校児童数が多い傾向が見られ、特に福岡市では18.1人と全国平均の約1.5倍となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 4.中学校

中学校数、中学校生徒数、中学校教員数

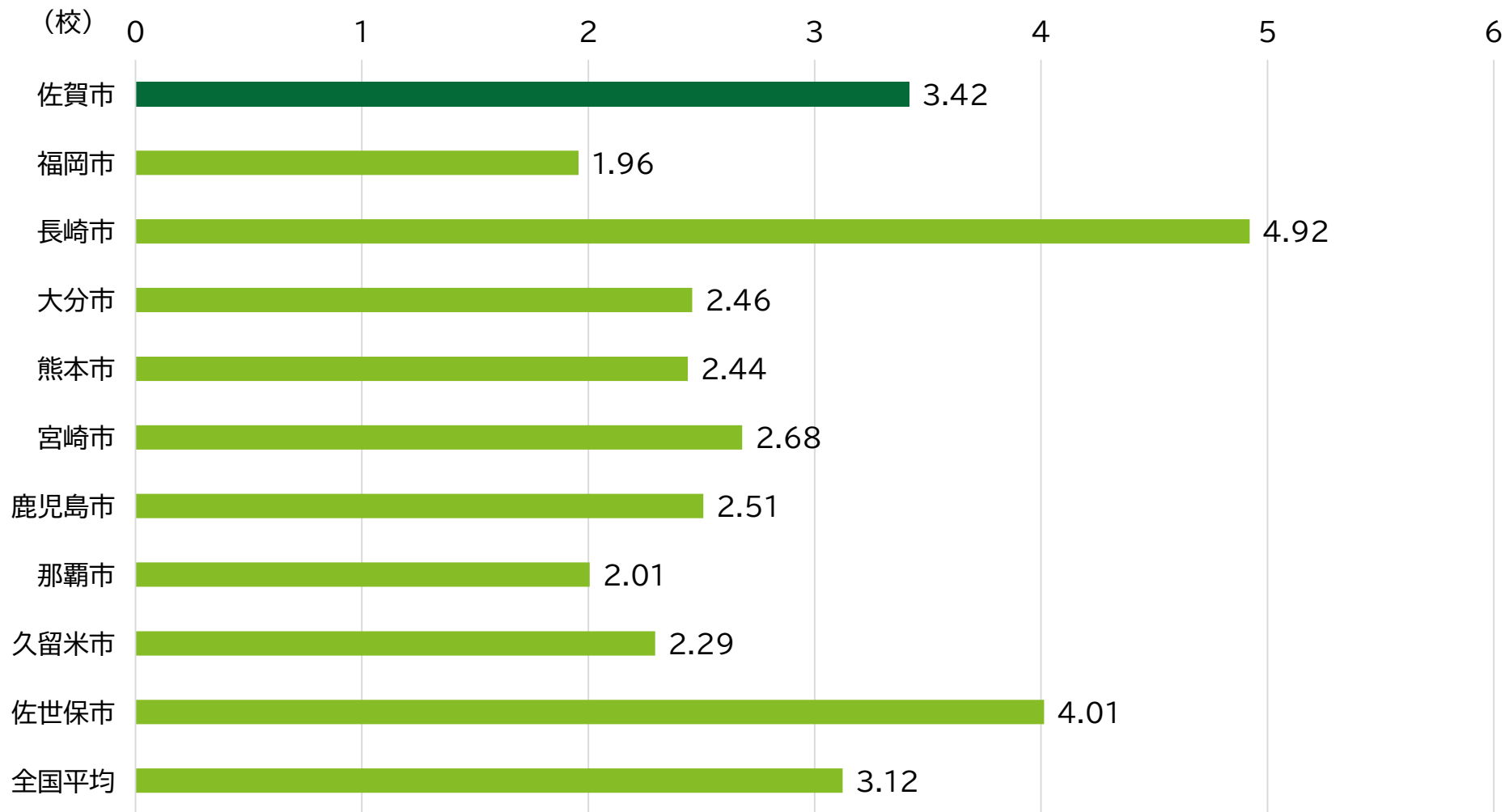
✓佐賀市は、中学校数、中学校生徒数、中学校教員数のいずれにおいても全国平均を上回っている。
✓ベンチマーク都市でも、佐賀市と同様、全国平均を上回っている。



Ⅲ.子育て・教育 | 4.中学校

中学校生徒1,000人当たりの中学校数

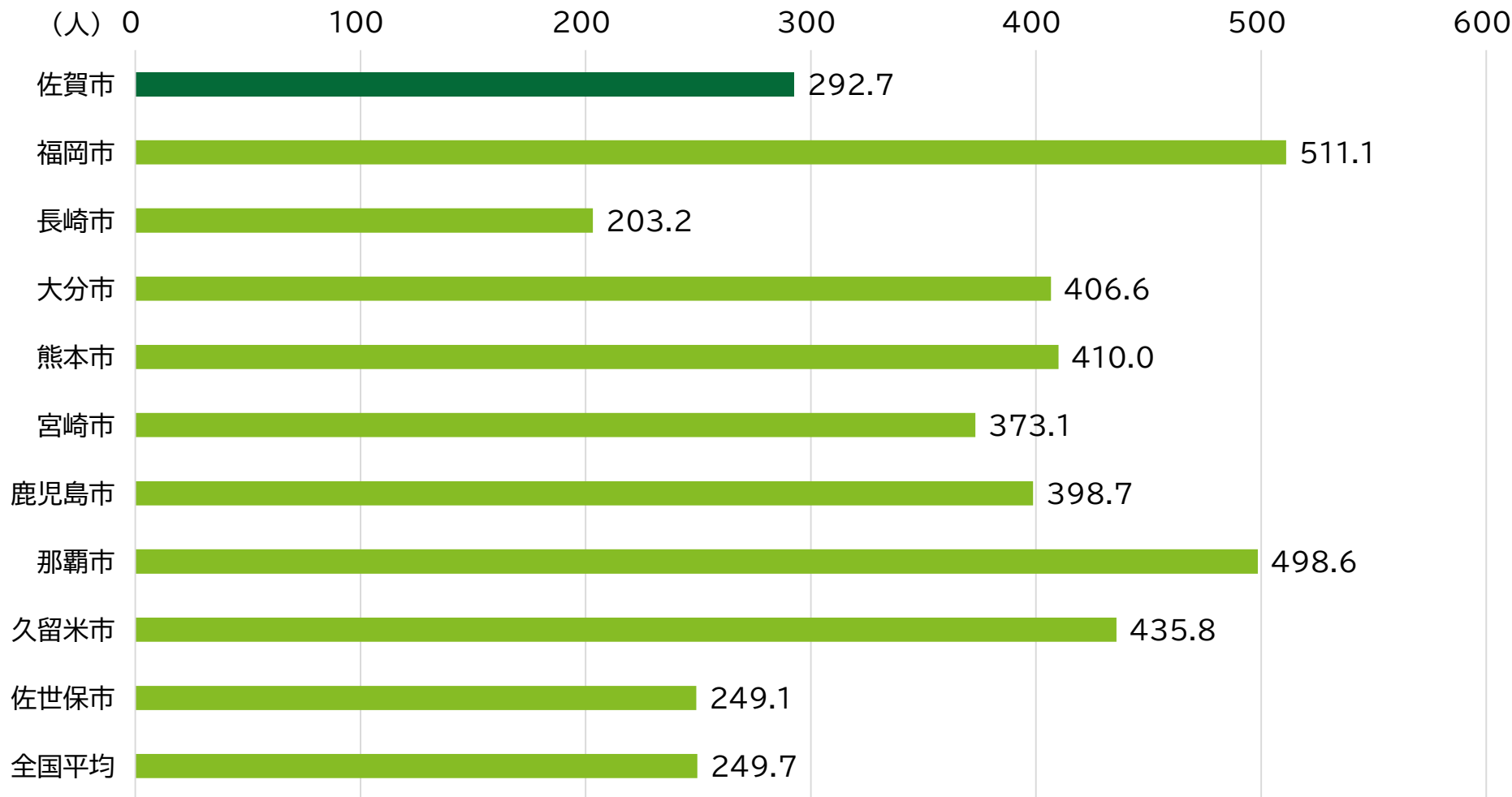
- ✓佐賀市の中学校生徒1,000人当たりの中学校数は全国平均を上回る3.42校となっている。
- ✓ベンチマーク都市においては、全国平均を下回る都市が多い。
- ✓ベンチマーク都市で比較すると、長崎市、佐世保市に次いで3番目に多い水準となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 4.中学校

中学校数当たりの中学校生徒数

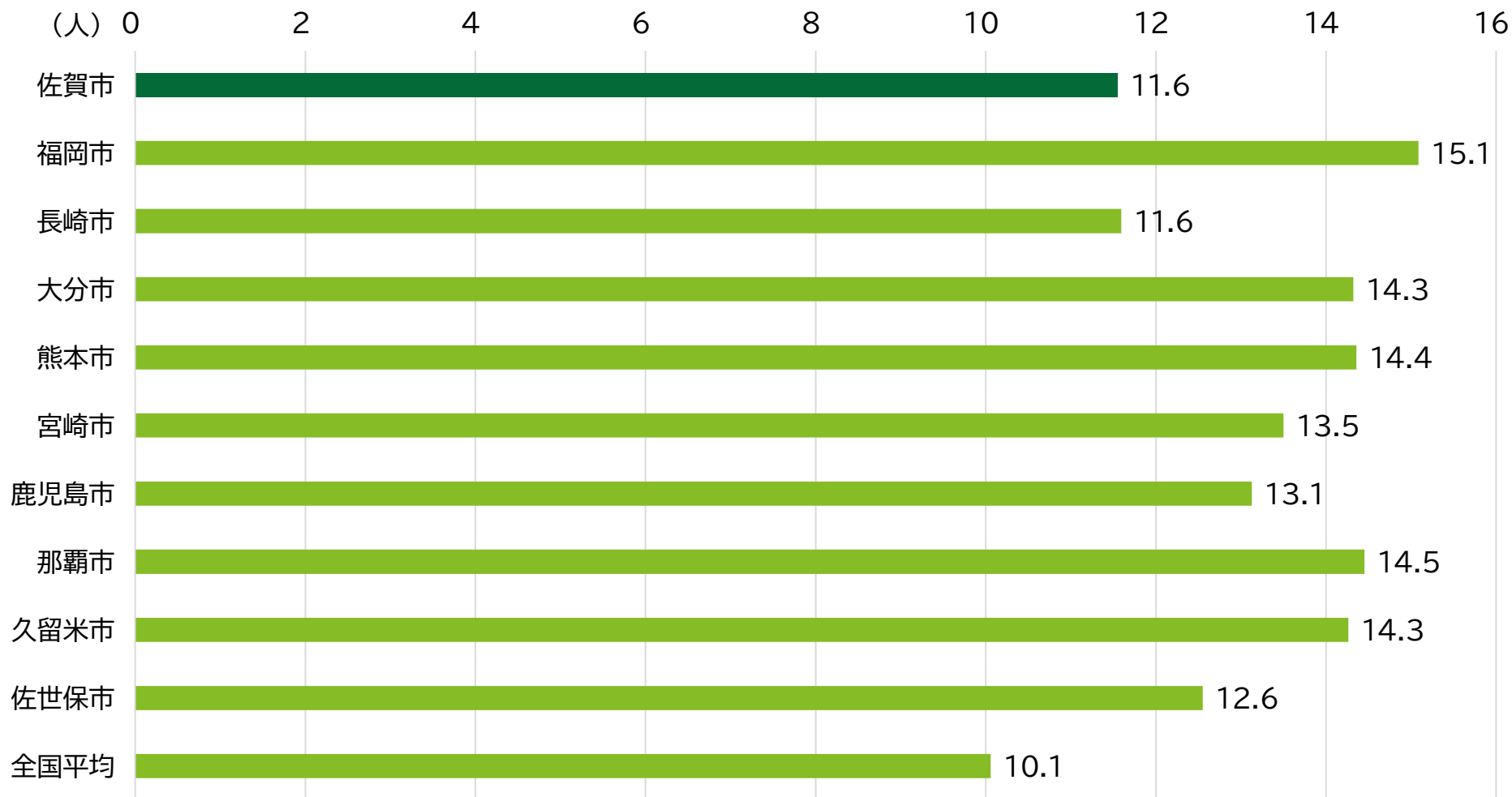
✓佐賀市は、中学校数当たりの中学校生徒数が全国平均より約50人多い状況にある。
✓ベンチマーク都市においては、長崎市と佐世保市を除いて、佐賀市と同様全国平均よりも多くなっており、福岡市では全国平均の約2倍に当たる511人となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 4.中学校

中学校教員数当たりの中学校生徒数

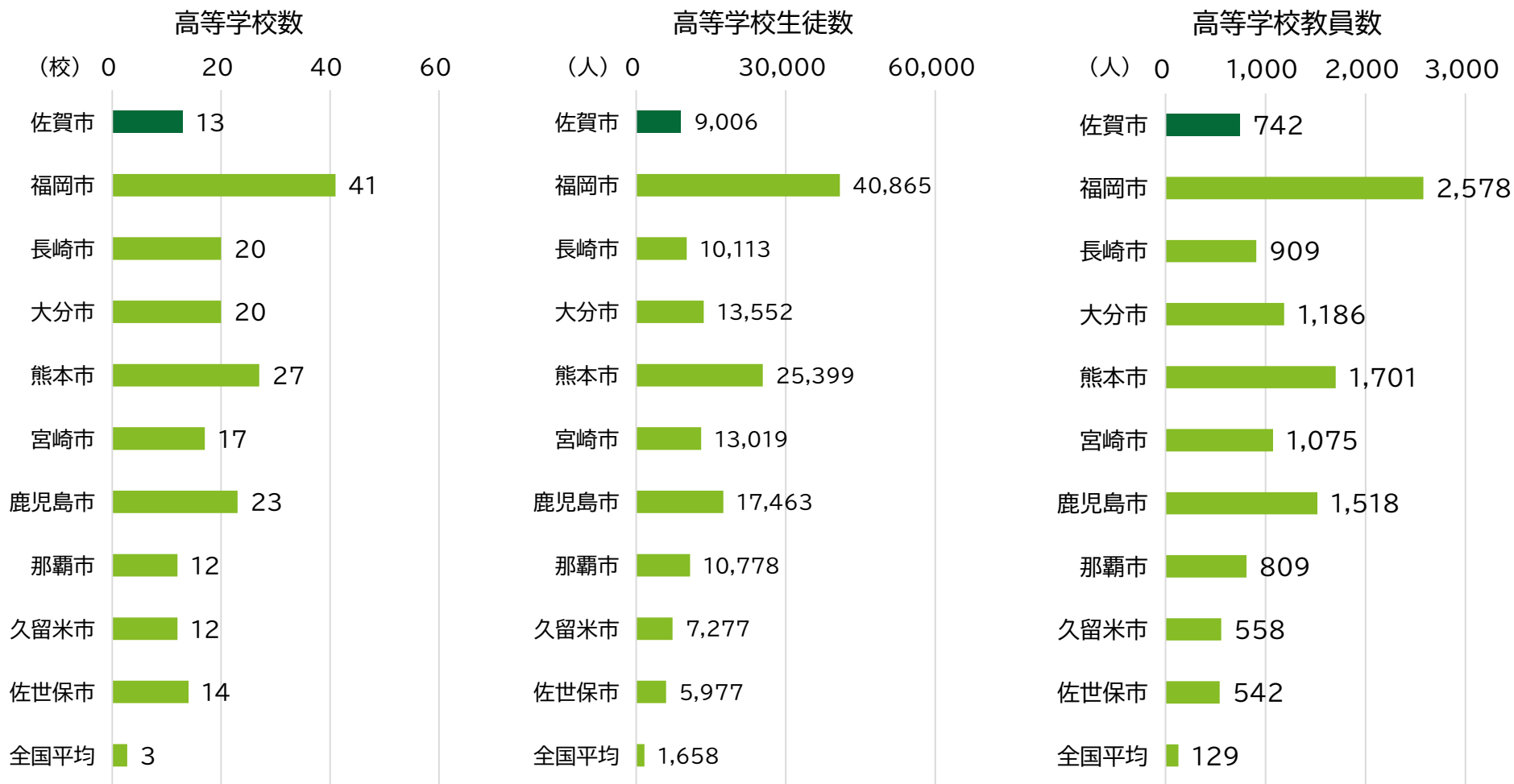
✓佐賀市は全国平均と比較して、中学校教員数当たりの中学校生徒数が多い。
✓ベンチマーク都市においても、佐賀市と同様、全国平均よりも多い傾向がみられ、特に福岡市では全国平均の1.5倍に当たる15人となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 5.高等学校

高等学校数、高等学校生徒数、高等学校教員数

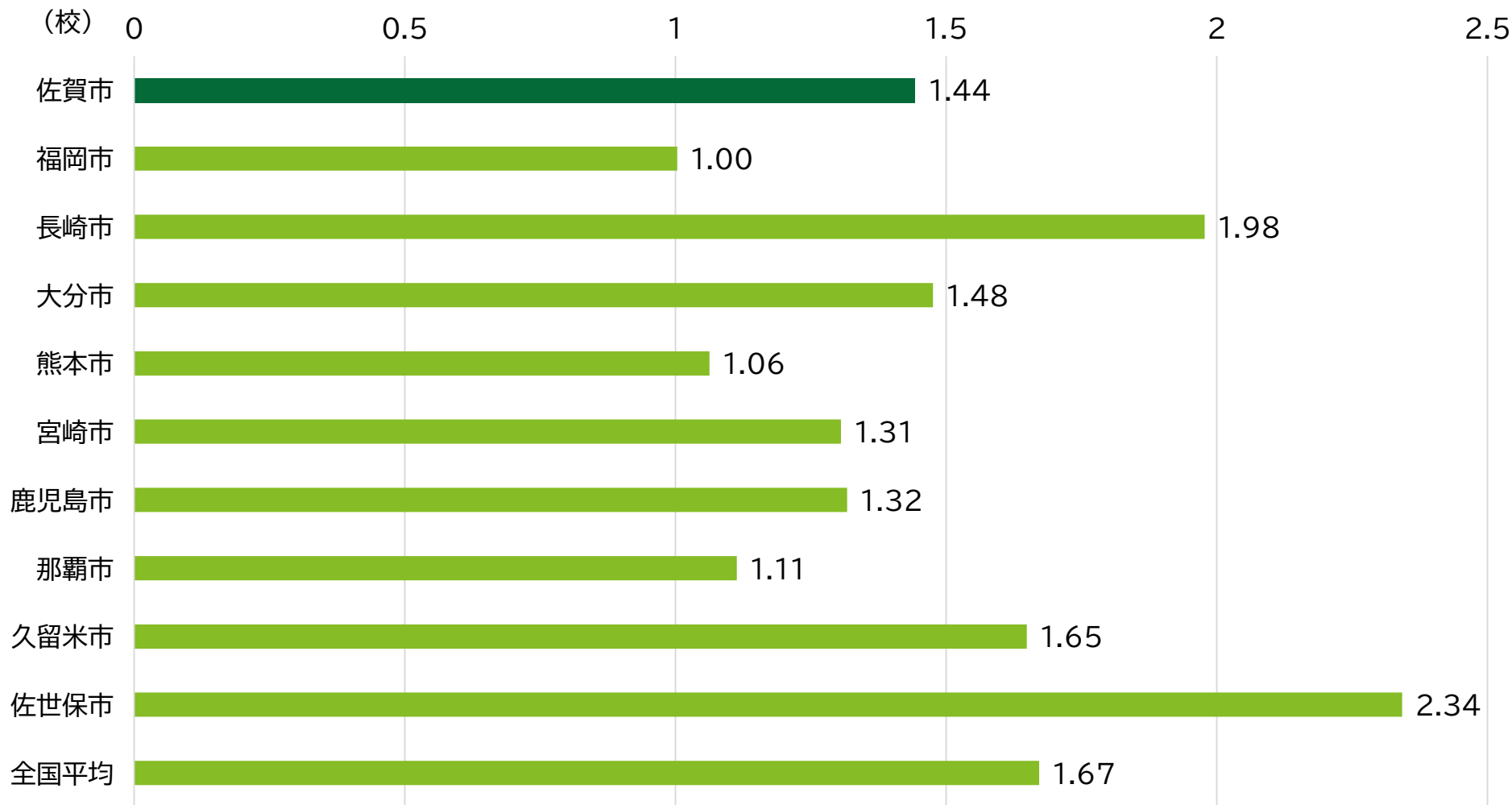
✓佐賀市は、全国平均と比較して、高等学校数、高等学校生徒数、高等学校教員数のいずれも多い。
✓ベンチマーク都市においても、いずれも全国平均を上回り、佐賀市と同様の傾向にある。



Ⅲ.子育て・教育 | 5.高等学校

高等学校生徒数1,000人当たりの高等学校数

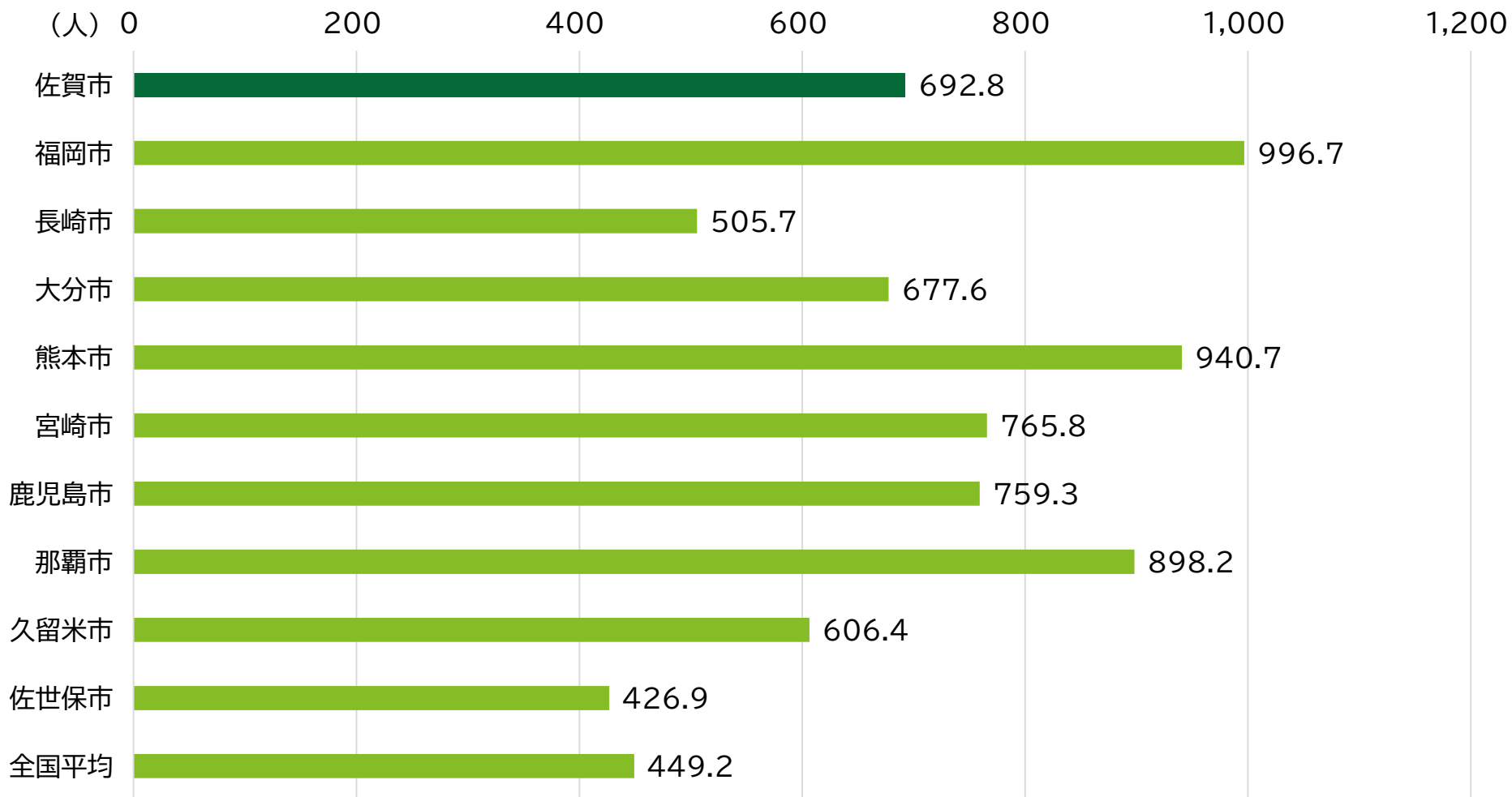
✓佐賀市の高等学校生徒数1,000人当たりの高等学校数は全国平均を下回る1.44校となっている。
✓ベンチマーク都市との比較では、佐賀市と同様に全国平均を下回る都市が多く、佐賀市は大分市と同程度の水準となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 5.高等学校

高等学校数当たりの高等学校生徒数

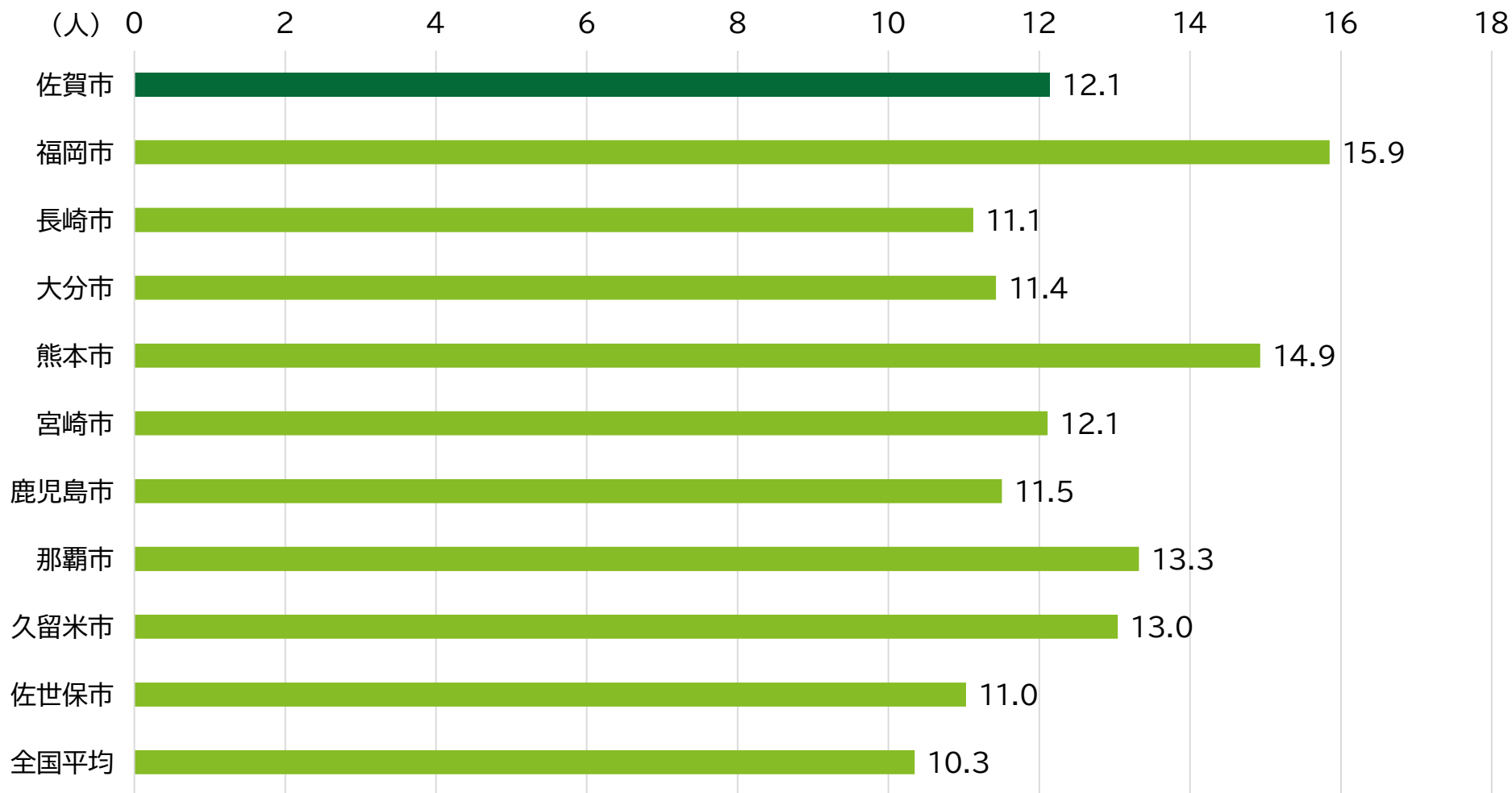
✓佐賀市は全国平均と比較して、250人ほど高等学校数当たりの高等学校生徒数が多い。
✓ベンチマーク都市においては、佐世保市を除き、佐賀市と同様に全国平均よりも多い状況となっている。



Ⅲ.子育て・教育 | 5.高等学校

高等学校教員数当たりの高等学校生徒数

✓佐賀市は、全国平均と比較して、高等学校教員数当たりの高等学校生徒数が2人程度多い。
✓ベンチマーク都市においても、佐賀市と同様、全国平均よりも多い状況にある。

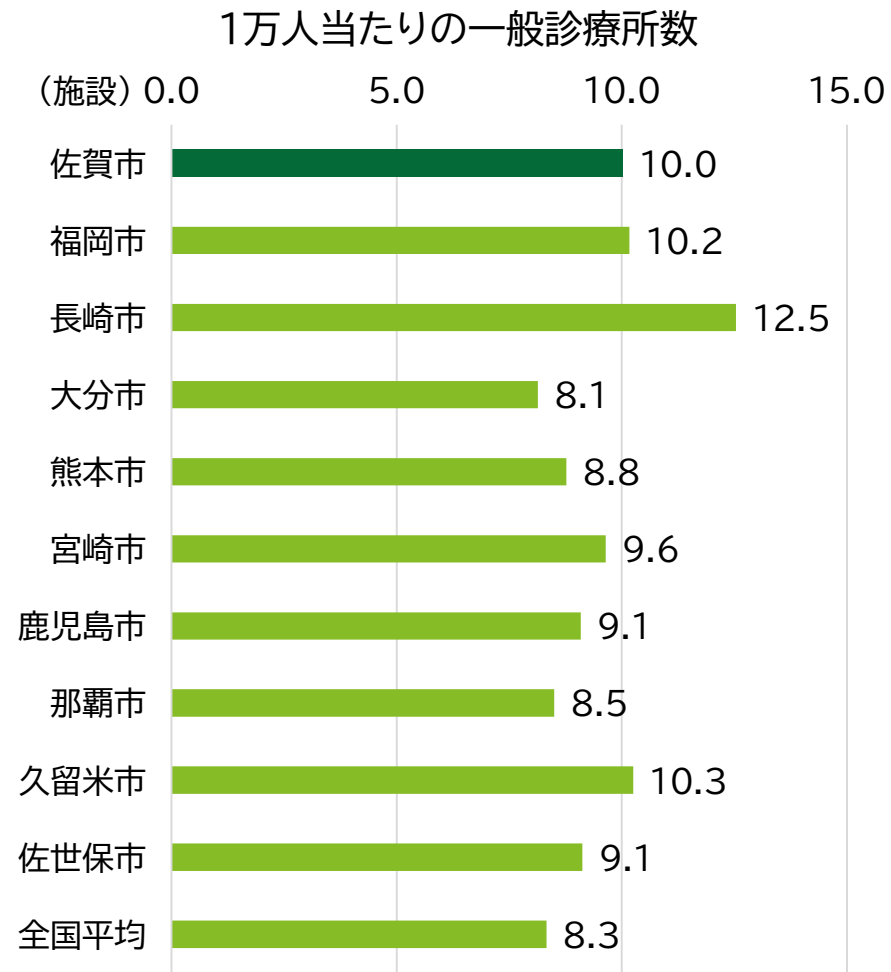
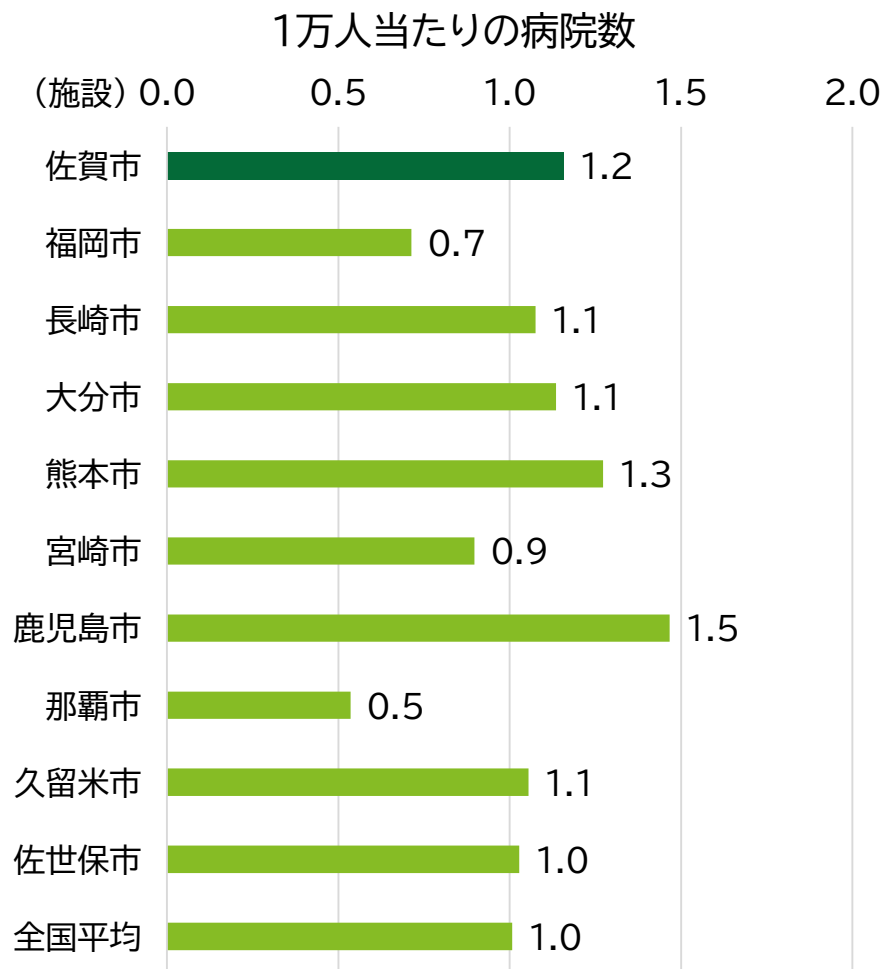


IV.医療・福祉 | 1.医療

人口1万人当たり医療機関(病院及び診療所)数

✓佐賀市は、全国平均と比べて、病院数・一般診療数共に多い。

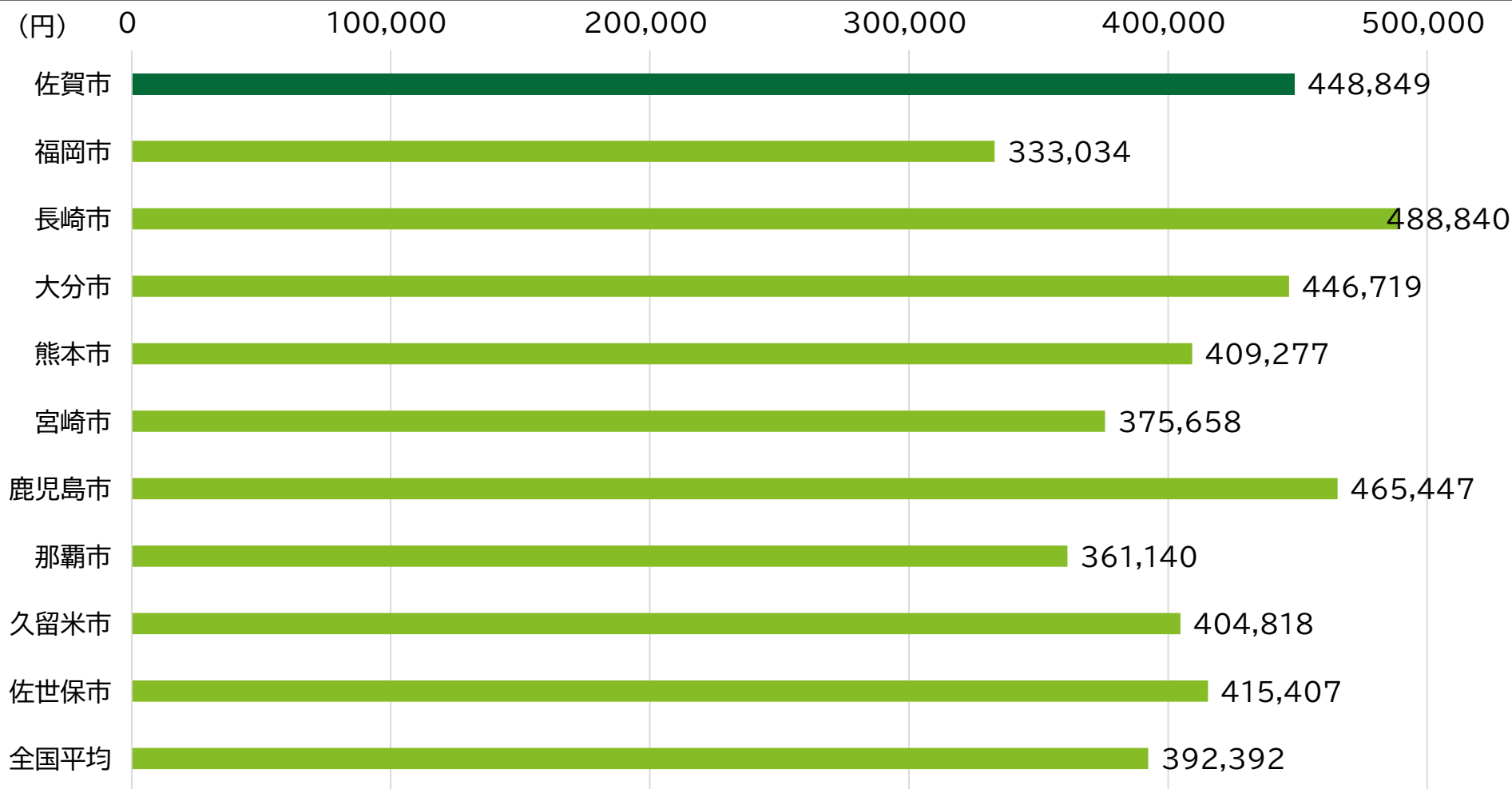
✓ベンチマーク都市では、病院数については、福岡市、宮崎市、那覇市、一般診療所については大分市を除いて、佐賀市と同様全国平均よりも多い傾向にある。



IV.医療・福祉 | 1.医療

国民健康保険被保険者数当たりの国民健康保険医療給付費用額

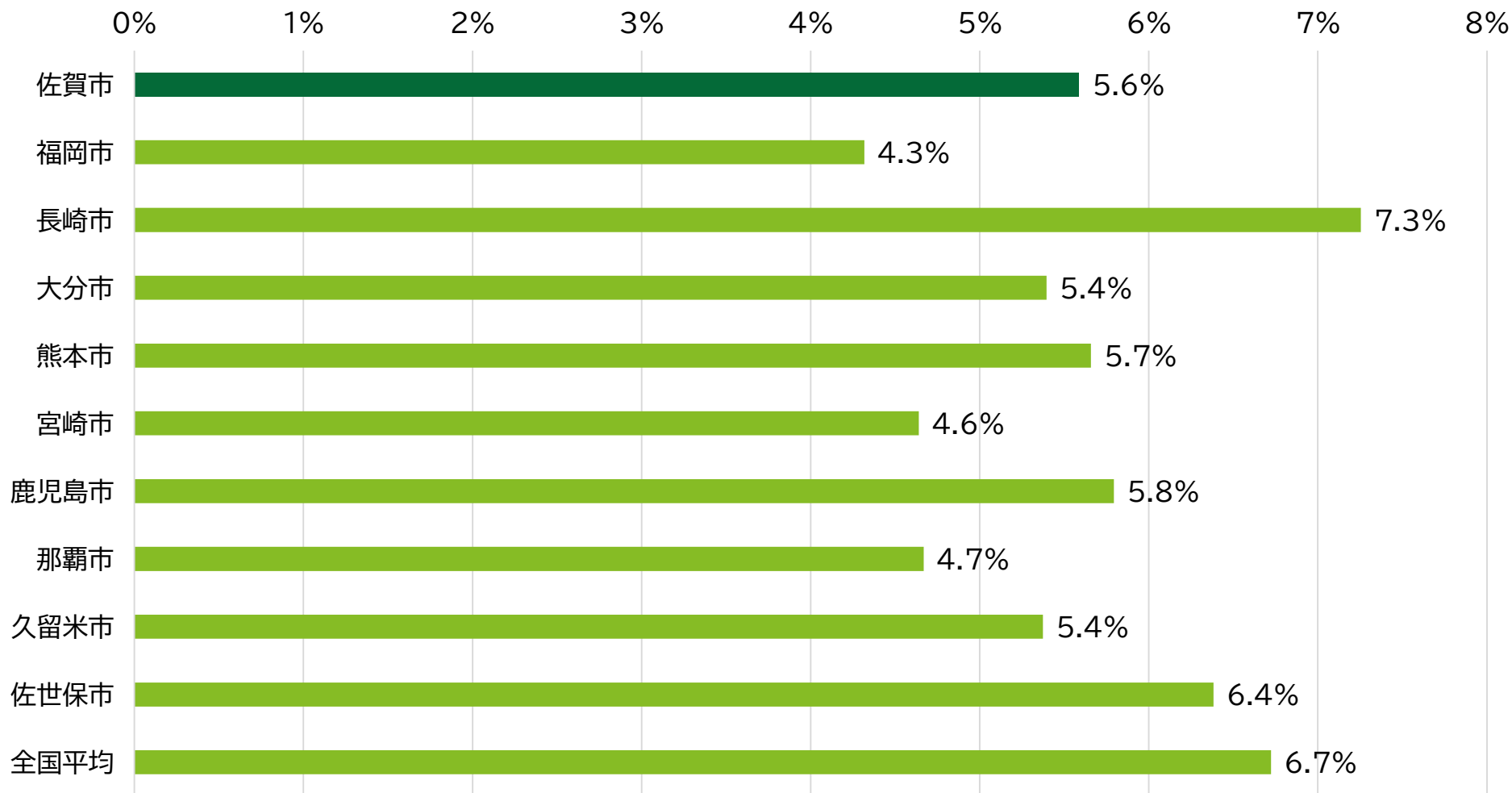
✓佐賀市は、全国平均と比較して150円ほど被保険者数当たりの年間国民健康保険医療費用額が高い。
✓ベンチマーク都市では、長崎市を除き佐賀市と同様に全国平均より高い傾向があるものの、佐賀市は突出している。



IV.医療・福祉 | 2.介護

要介護認定者数(総人口に占める要支援・要介護認定者数の割合)

- ✓佐賀市は、全国平均と比較して要介護認定者数の割合が1%程度低い。
- ✓ベンチマーク都市では、長崎市を除いて佐賀市と同様、全国平均より低い傾向がある。



V.生活環境 | 1.環境

1万人当たりのごみ総排出量(計画収集量+直接搬入量+集団回収量)

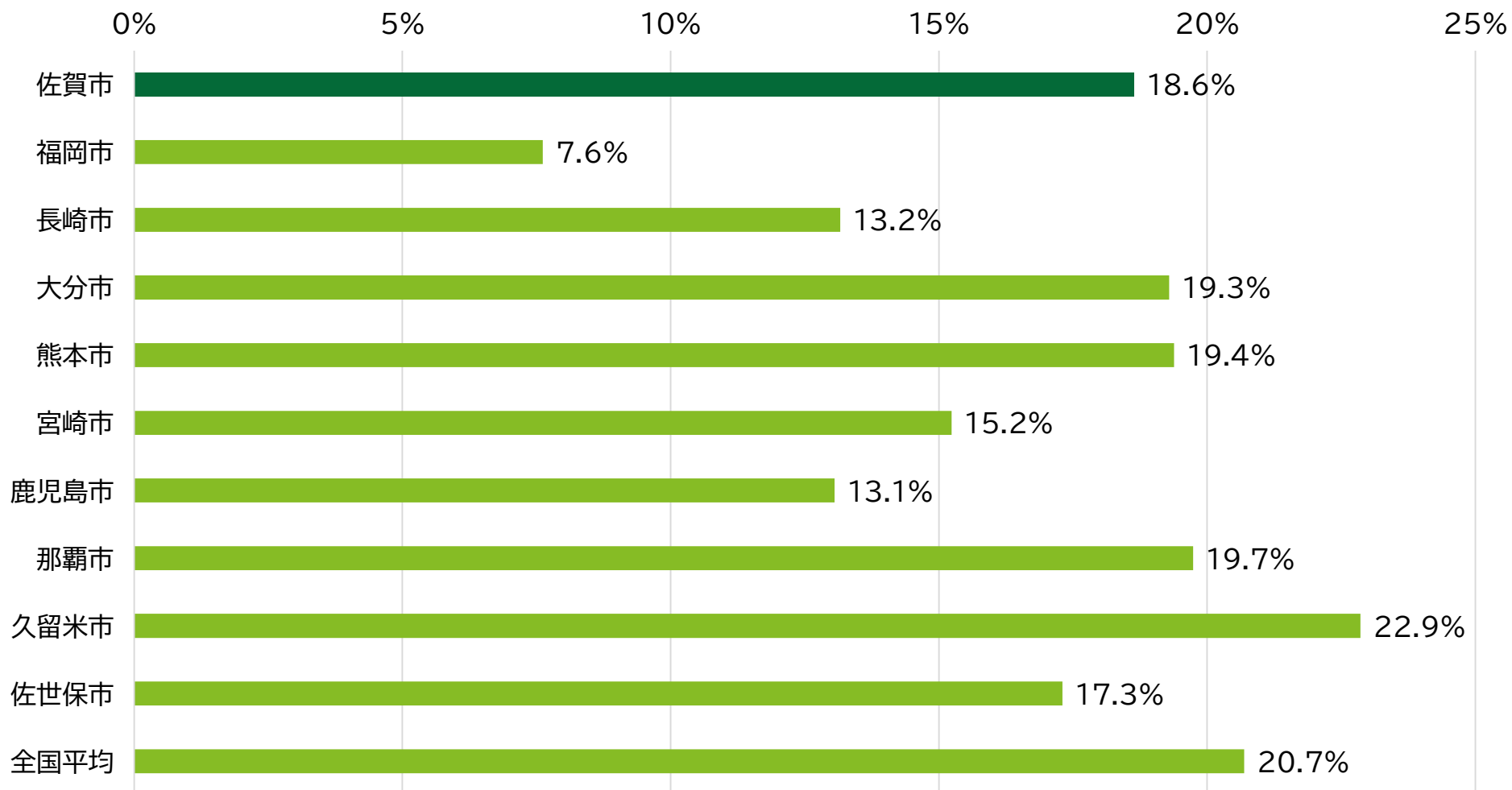
✓佐賀市は、全国平均と比較して1万人当たりの年間ごみ総排出量が280t程度多い。
✓ベンチマーク都市では、福岡市、那覇市、久留米市を除いて、佐賀市と同様、全国平均よりも多い状況にある。



V.生活環境 | 1.環境

リサイクル率

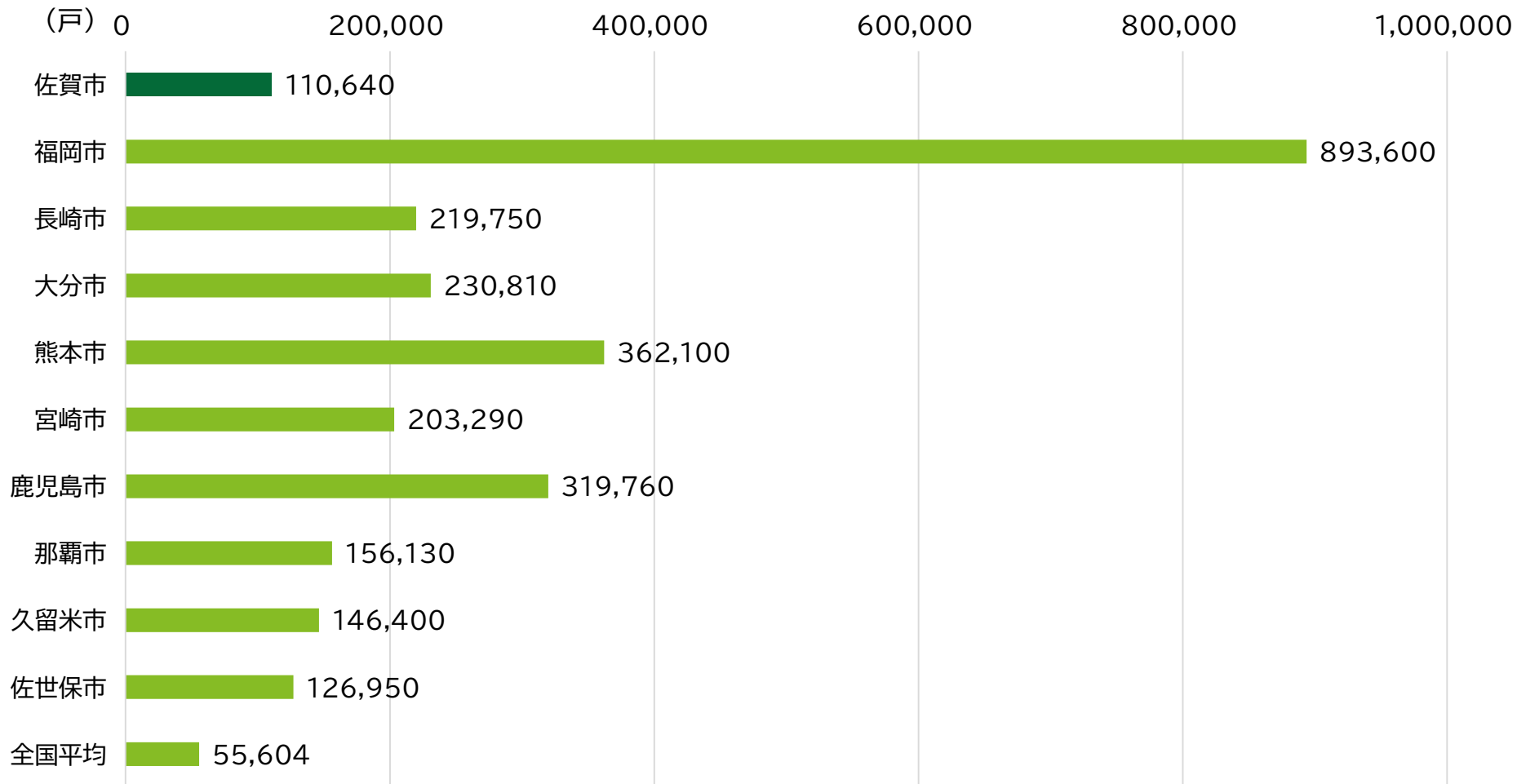
- ✓佐賀市のリサイクル率は、全国平均と比較して2%程度低い。
- ✓ベンチマーク都市においても、久留米市を除いて佐賀市と同様に全国平均より低い状況にある。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数

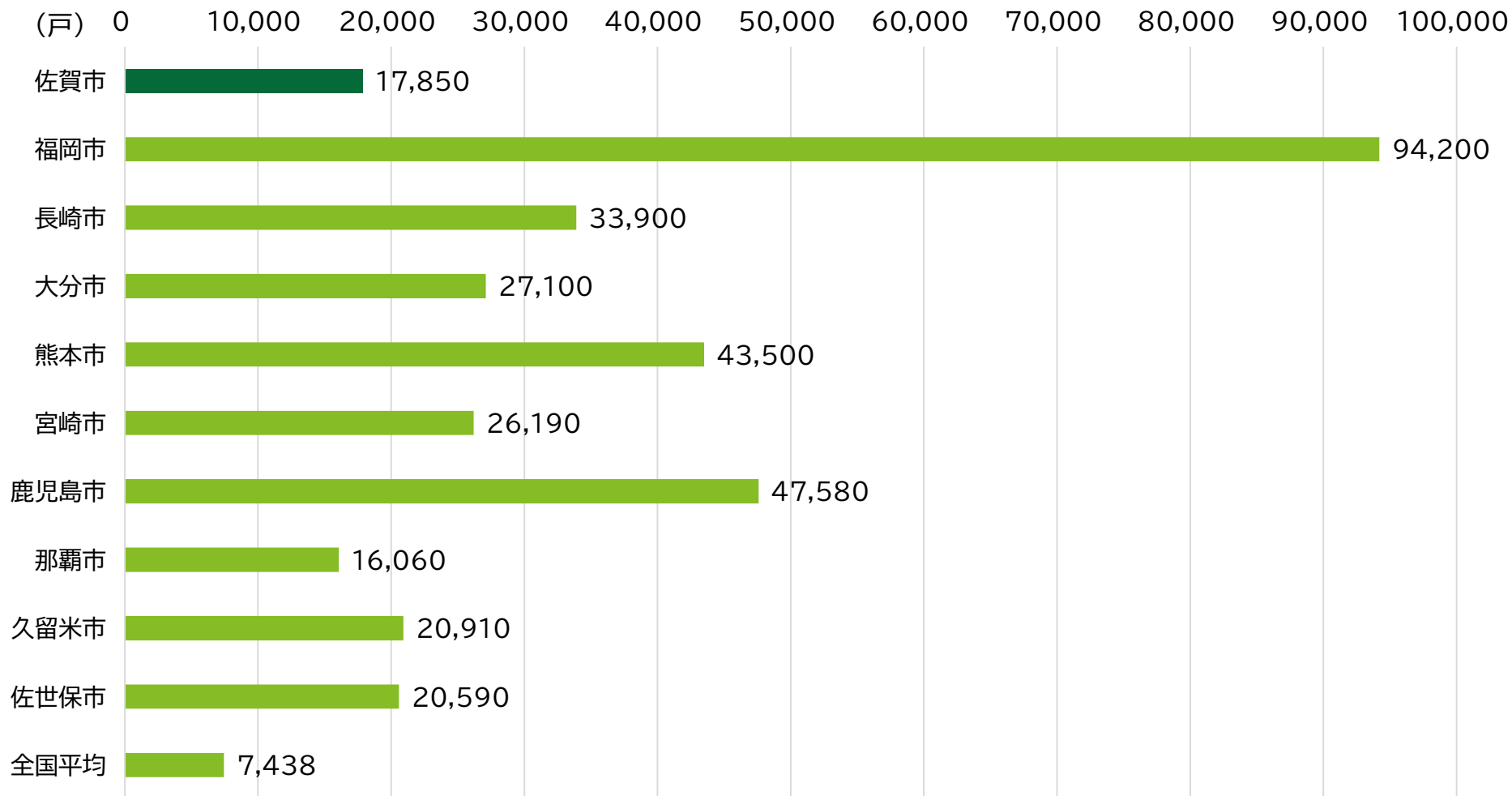
✓佐賀市の総住宅数は全国平均を上回っているが、比較都市と比べると1番少ない。



V.生活環境 | 1.環境

空き家数(二次的住宅、賃貸用の住宅、売却用の住宅、その他の住宅の総数)

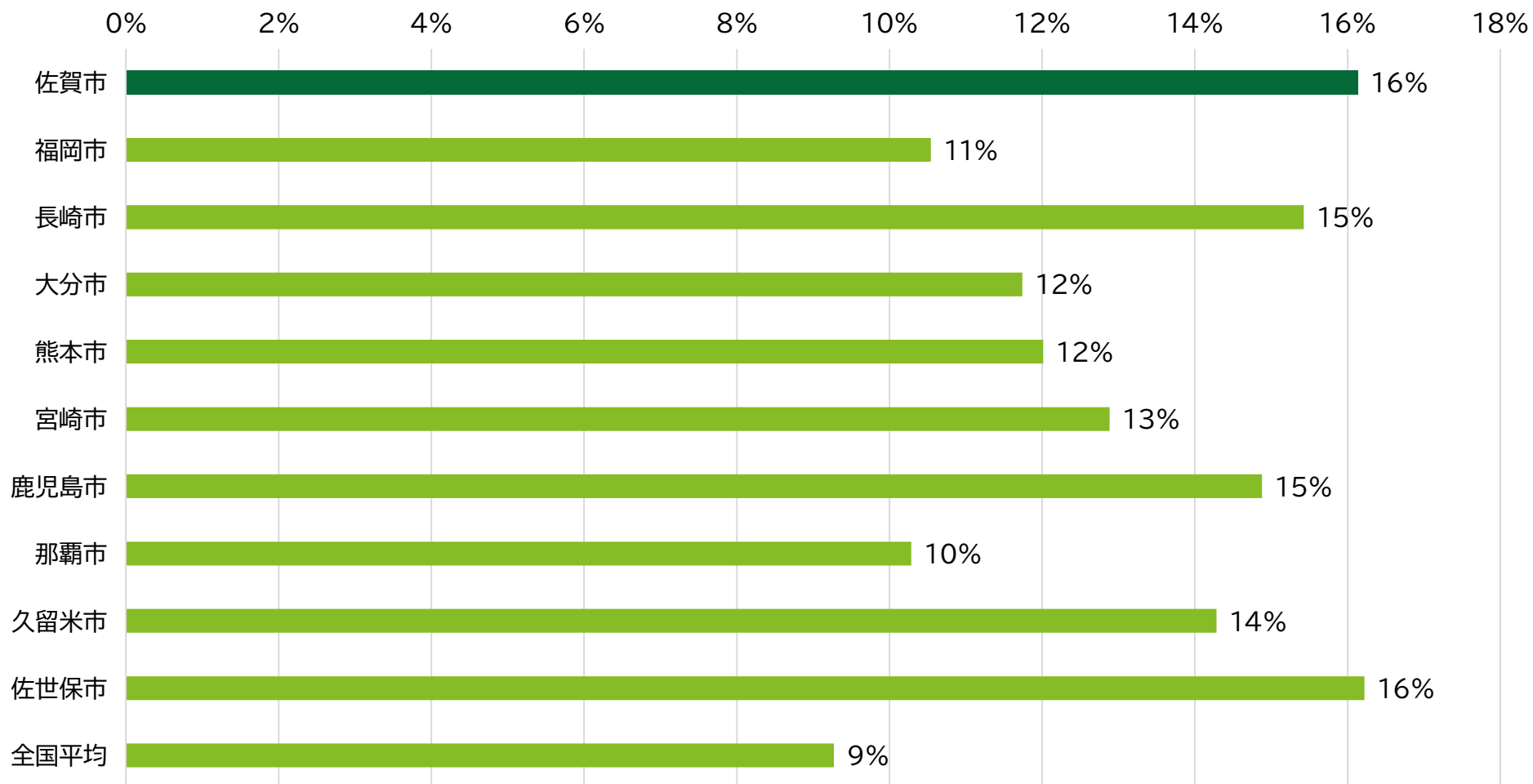
- ✓佐賀市の空き家数は全国平均を上回っているが、比較都市と比べると那覇市に続いて2番目に少ない。
- ✓福岡市はベンチマーク都市で唯一90,000戸を超えており、1番空き家数が多い。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める空き家数(二次的住宅、賃貸用の住宅、売却用の住宅、その他の住宅の総数)の割合

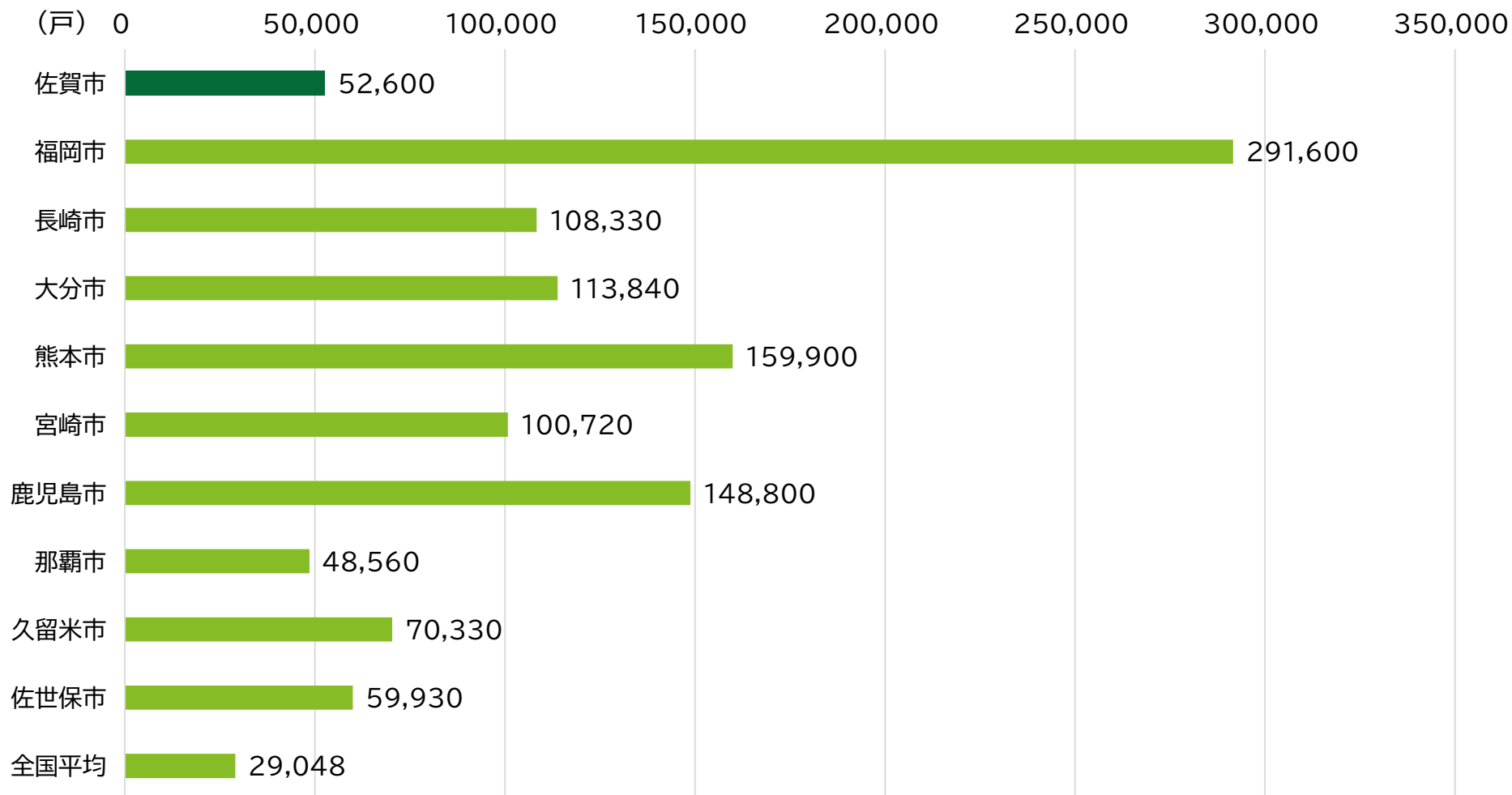
- ✓佐賀市の総住宅数に占める空き家数の割合は佐世保市と並んでベンチマーク都市で1番高い。
- ✓佐賀市の空き家数はベンチマーク都市で2番目に少ないが、総住宅数に占める空き家数の割合は1番高い。



V.生活環境 | 1.環境

持ち家数

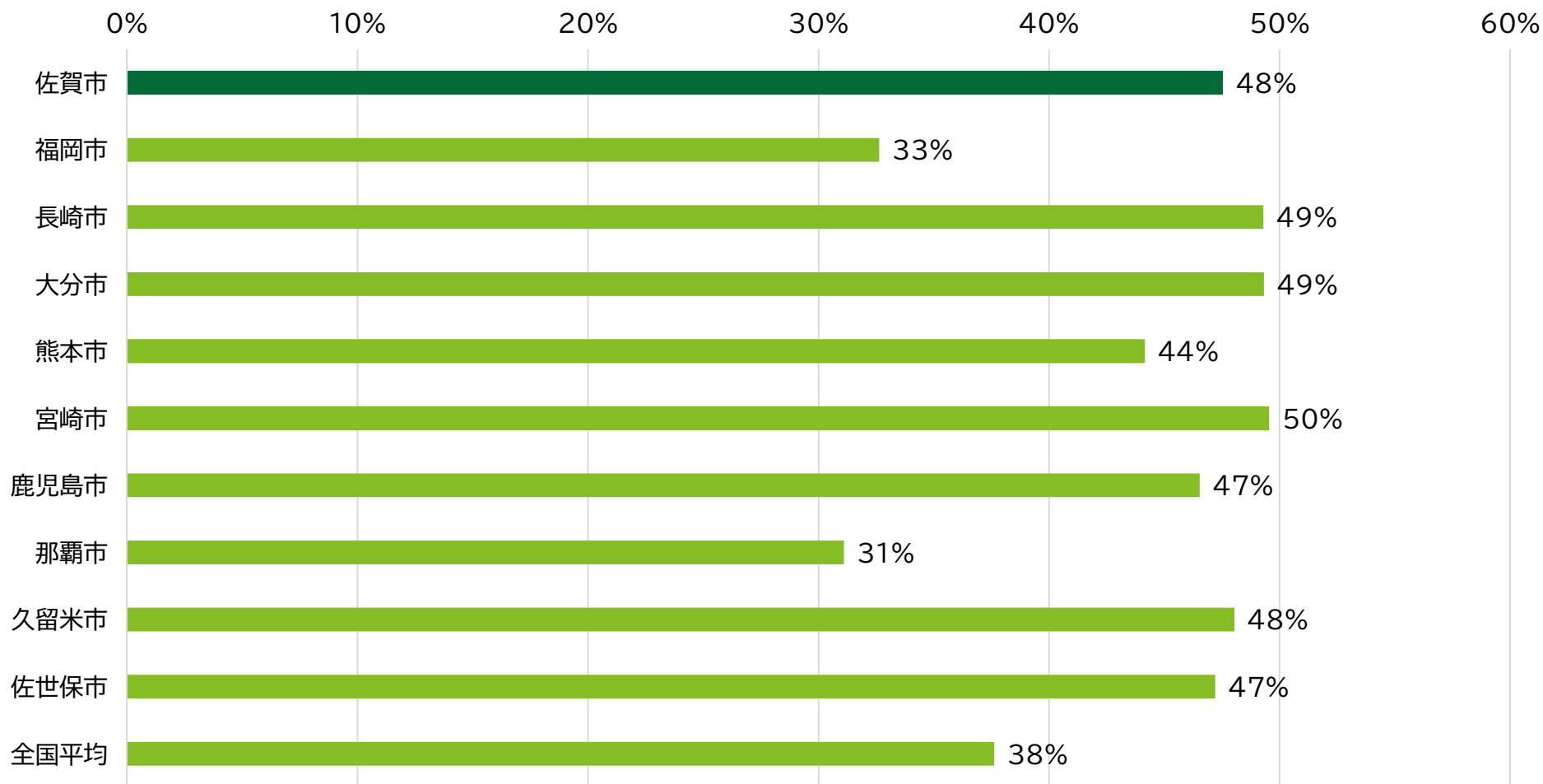
✓佐賀市の持ち家数は全国平均を上回っているが、那覇市に続いて2番目に少ない。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める持ち家数の割合

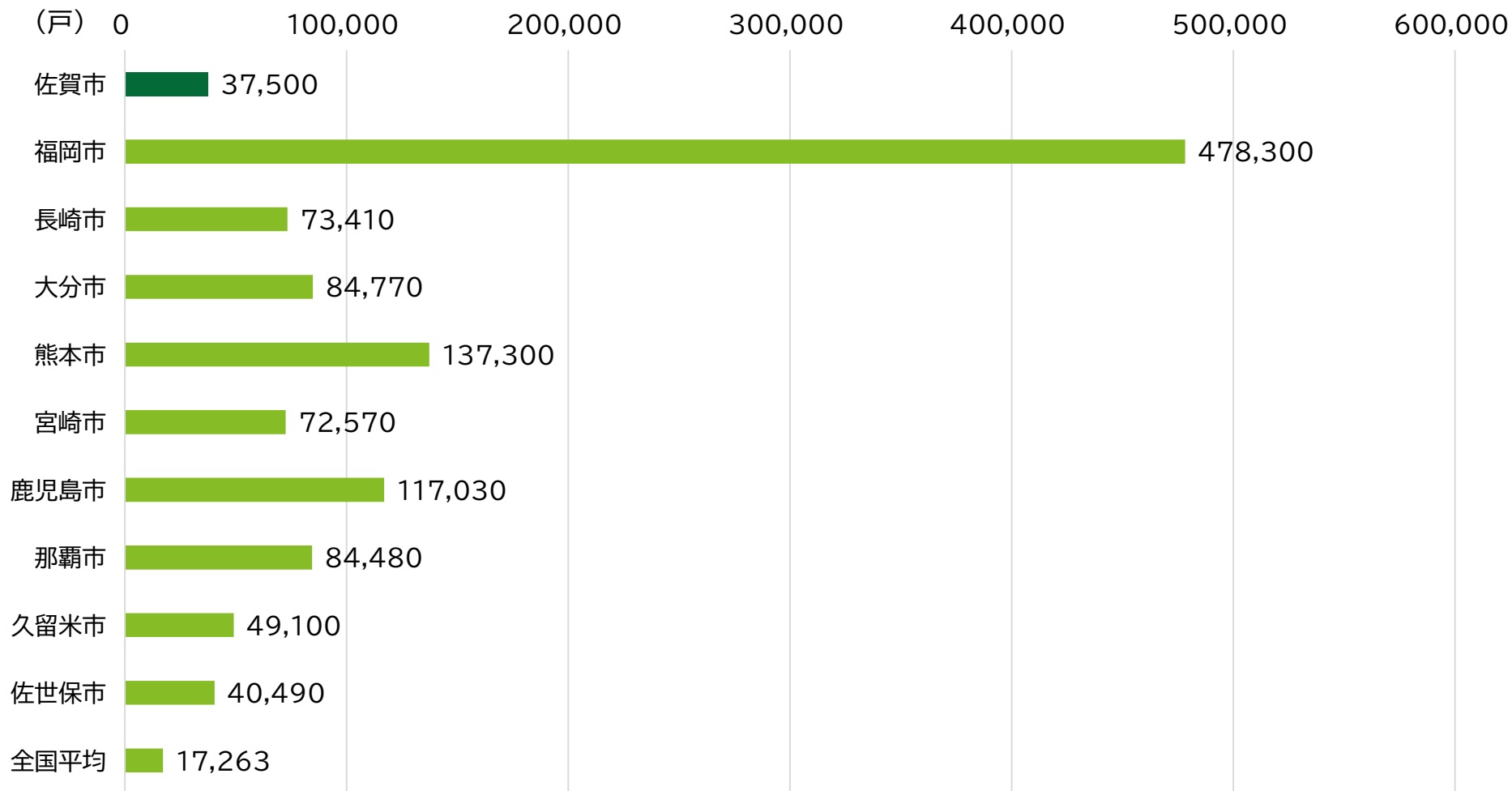
- ✓総住宅数に占める持ち家数の割合は、福岡市那覇市を除き、横並びである。
- ✓佐賀市の総住宅数に占める持ち家数の割合は全国平均を上回っている。



V.生活環境 | 1.環境

借家数

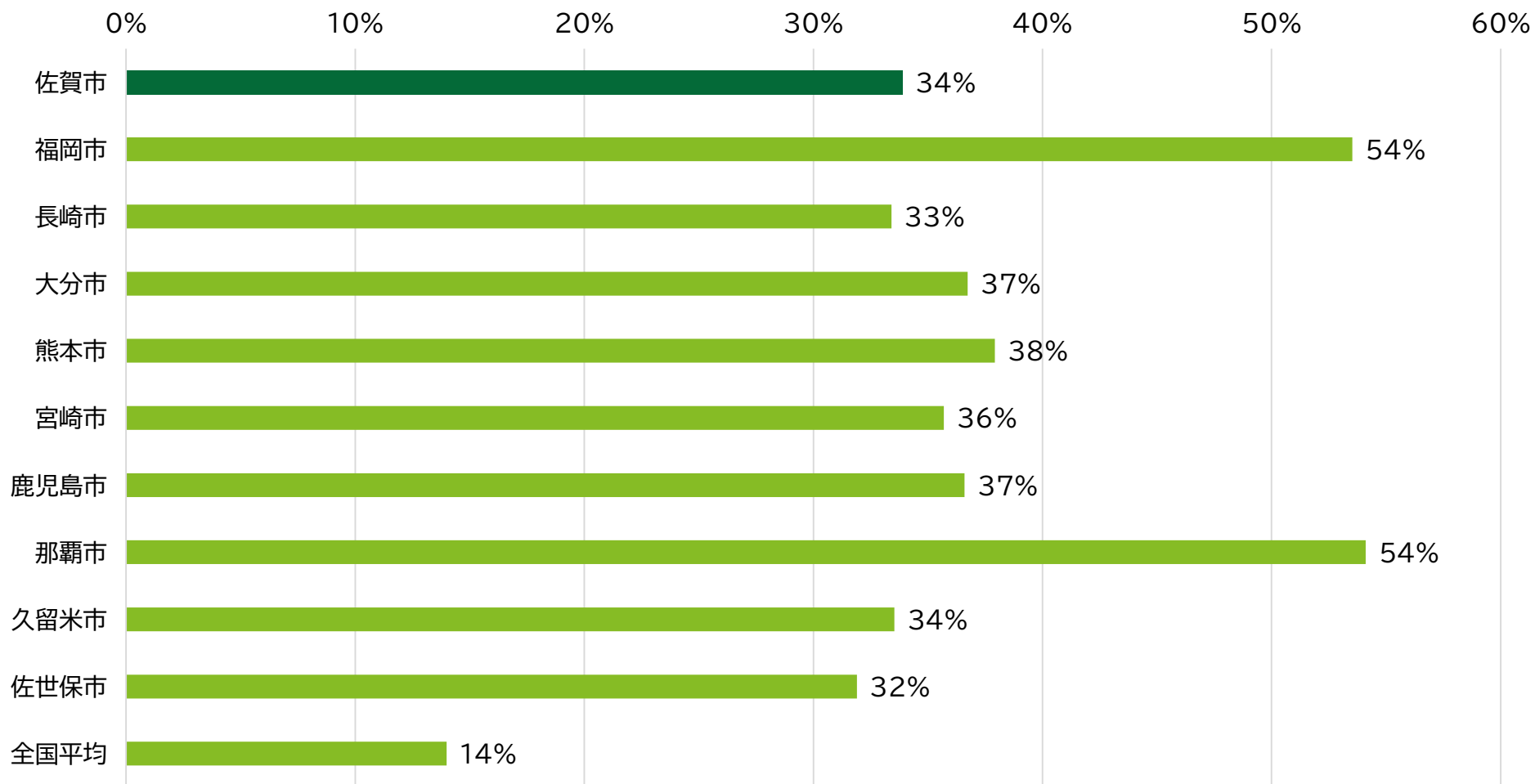
- ✓佐賀市の借家数は全国平均を上回っているが、ベンチマーク都市の中では1番少ない。
- ✓佐賀市の借家数は福岡市の10分の1未満である。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める借家数の割合

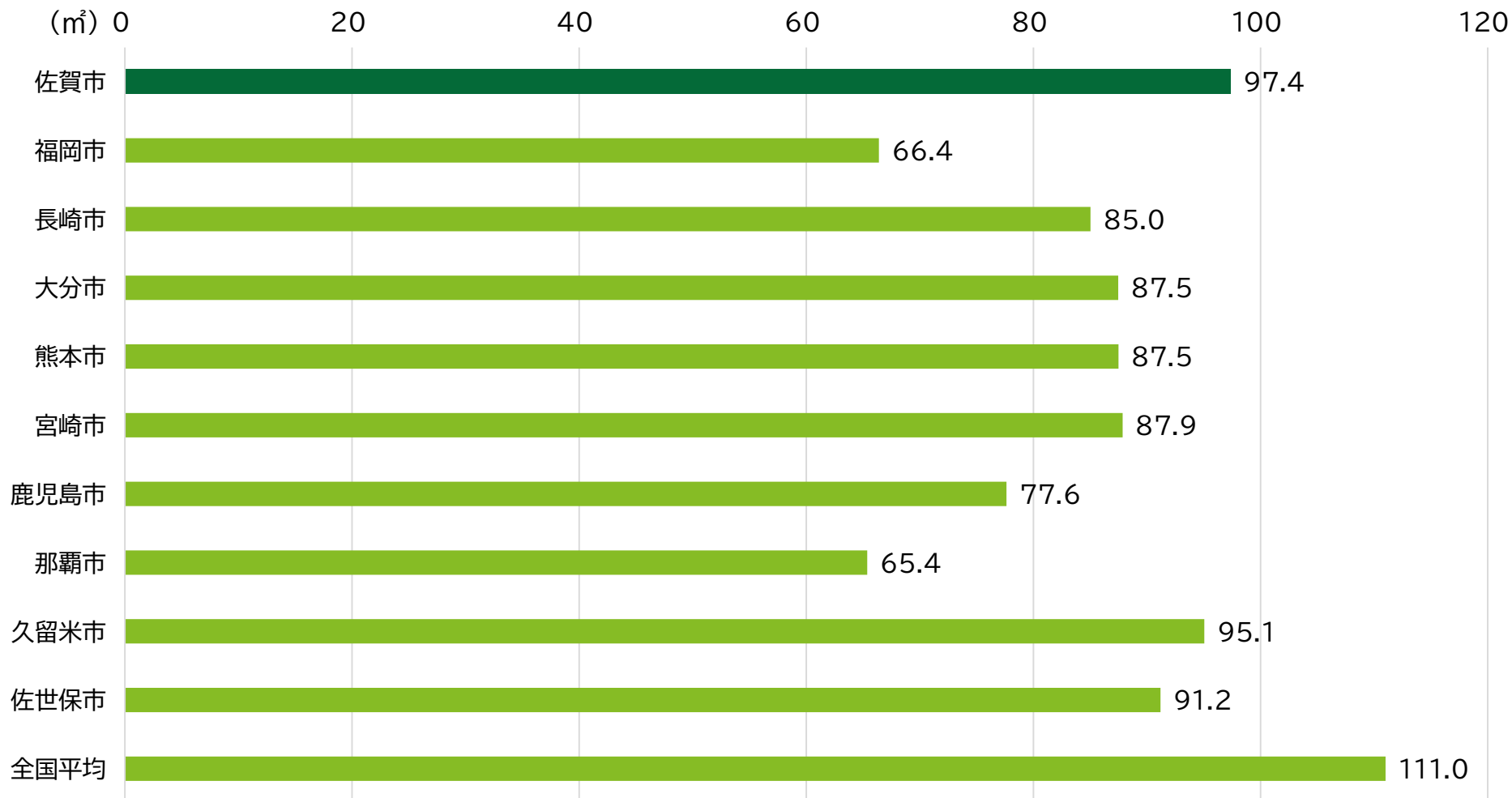
- ✓佐賀市の総住宅数に占める借家数の割合は全国平均を上回っている。
- ✓ベンチマーク都市の借家数は福岡市、那覇市を除いて横並びである。



V.生活環境 | 1.環境

1住宅当たり延べ面積

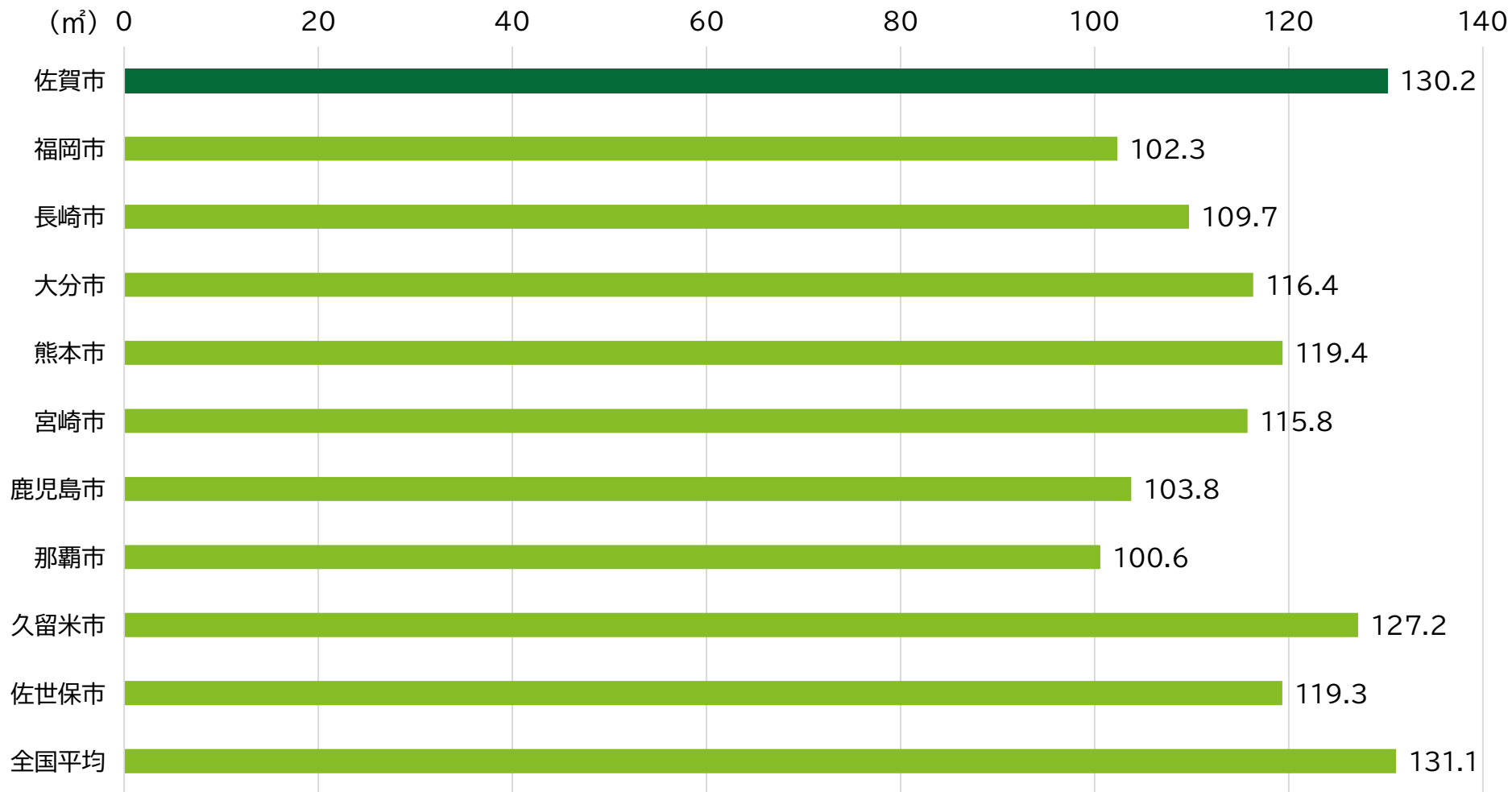
✓佐賀市の1住宅当たり延べ床面積はベンチマーク都市の中で1番広いが、全国平均を下回っている。



V.生活環境 | 1.環境

1住宅当たり延べ面積(持ち家)

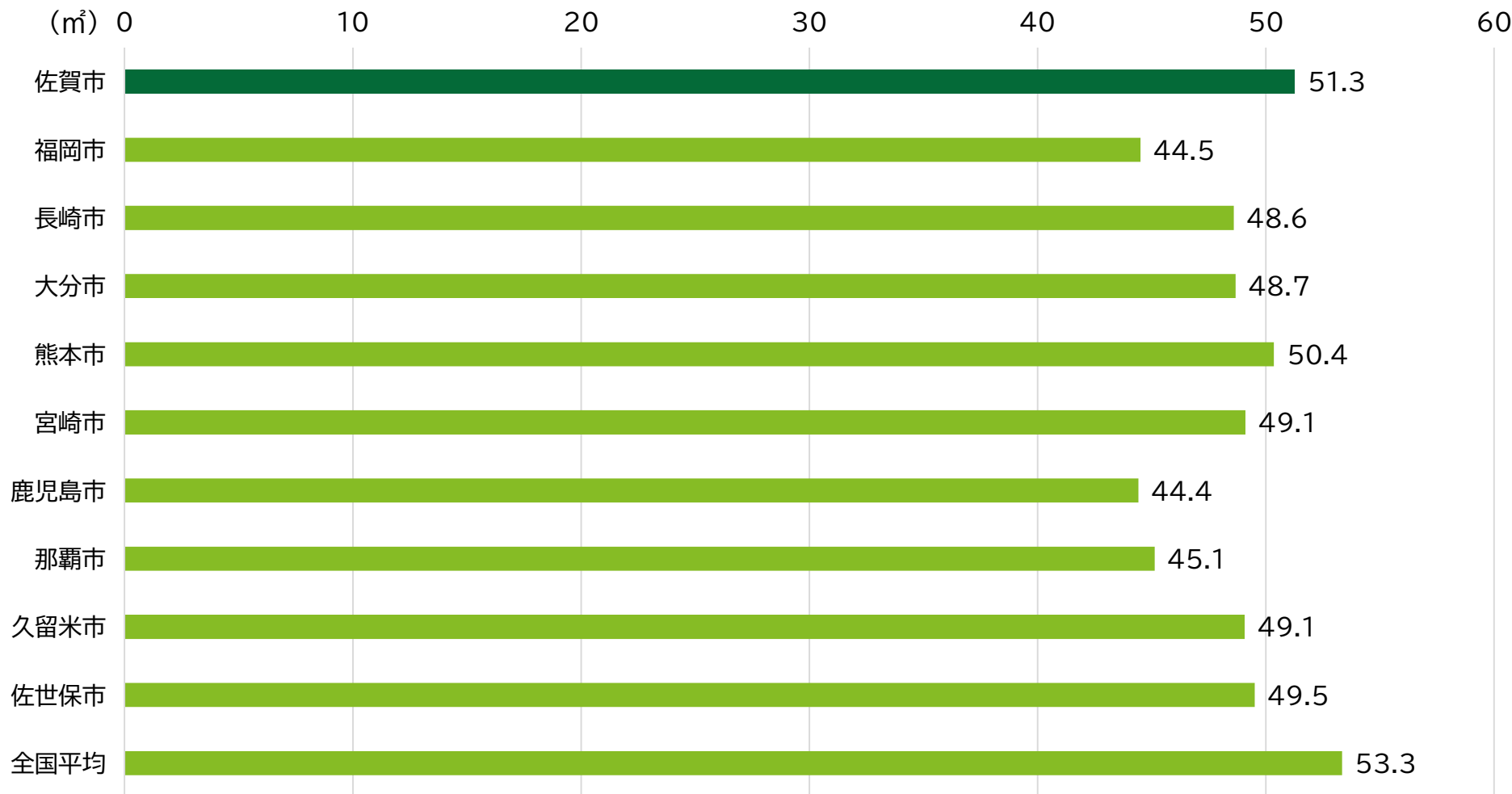
✓佐賀市の1住宅当たり延べ床面積(持ち家)はベンチマーク都市の中で一番広いが、全国平均を下回っている。



V.生活環境 | 1.環境

1住宅当たり延べ面積(借家)

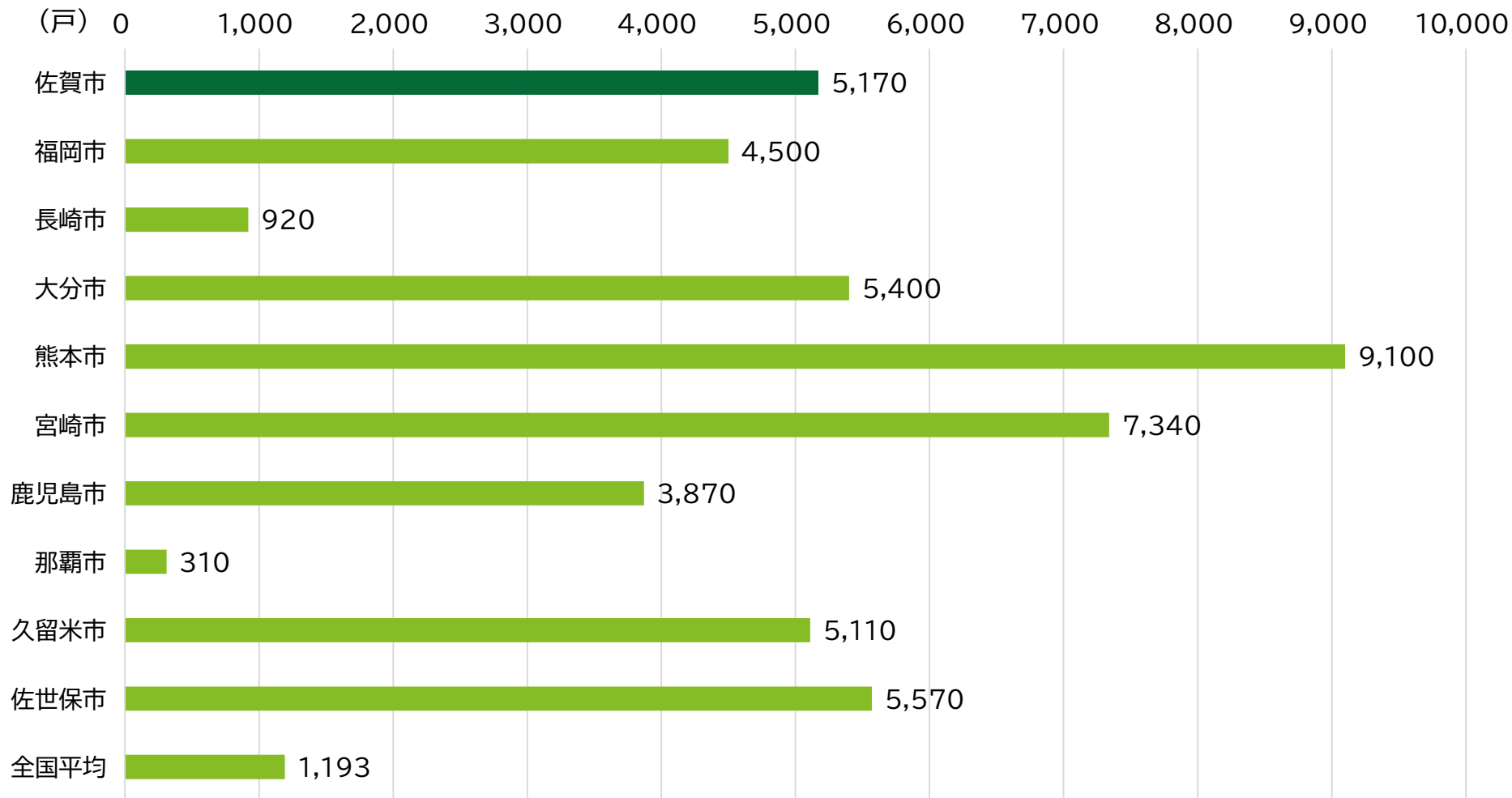
- ✓佐賀市の1住宅当たり延べ床面積(借家)は1番広いが、全国平均を下回っている。
- ✓ベンチマーク都市の1住宅当たり延べ床面積(借家)は50㎡前後で横並びである。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数

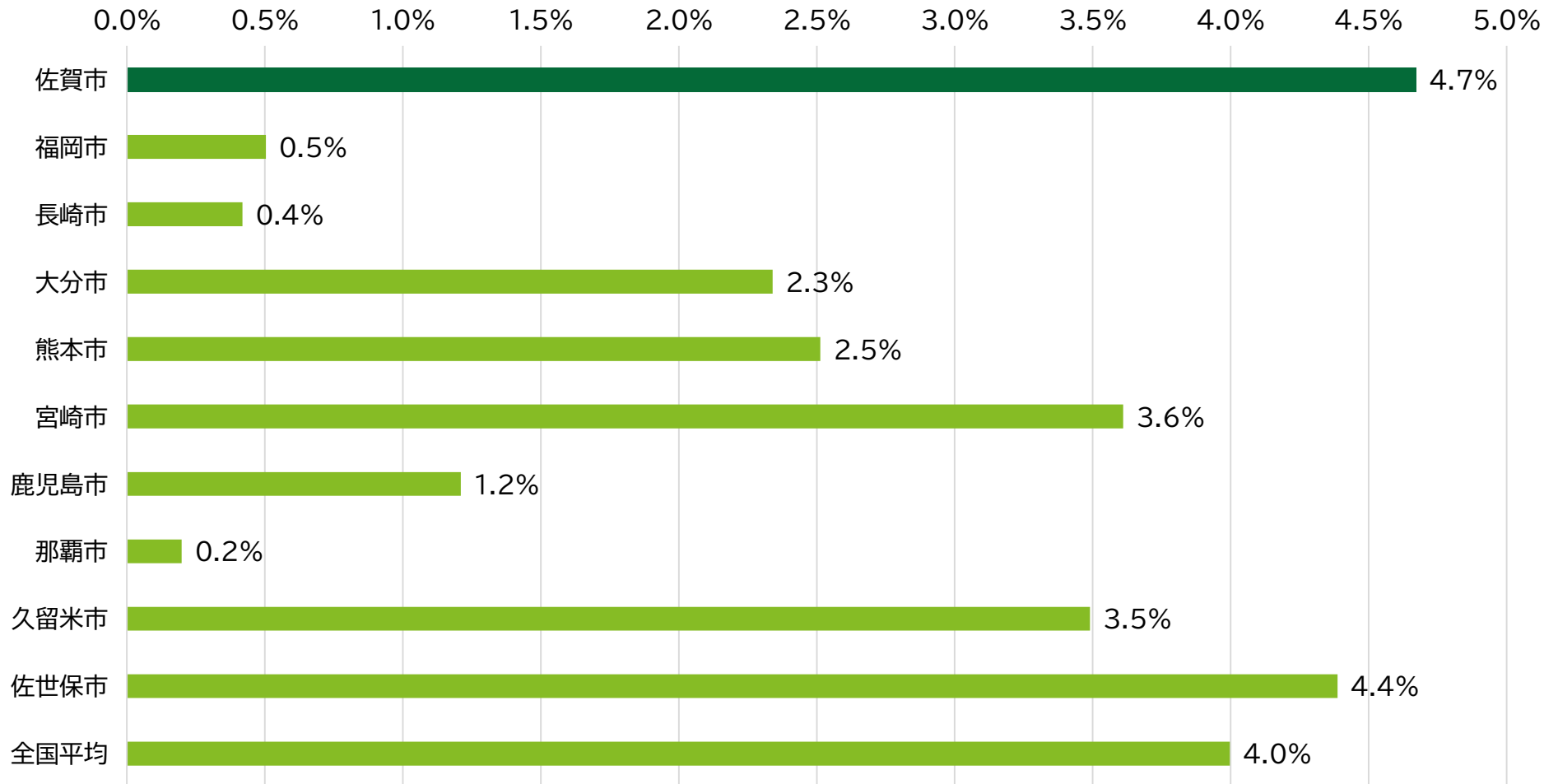
- ✓佐賀市の最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数は、全国平均を大きく上回っている。
- ✓佐賀市の最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数は、ベンチマーク都市の中で5番目に多い。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数の割合

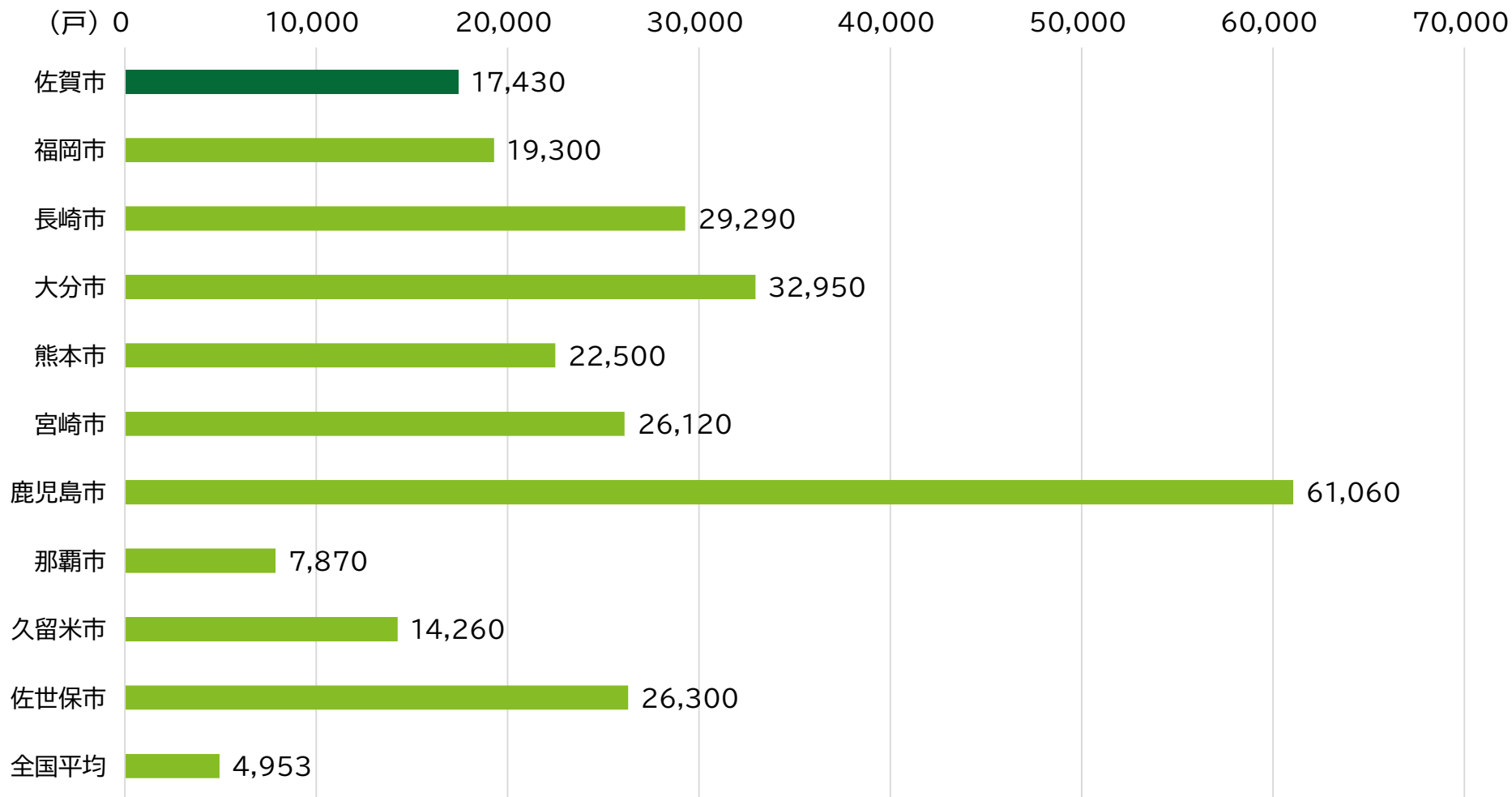
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数の割合は、ベンチマーク都市の中で1番高い。
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの駅まで2,000m以上かつバス停まで1,000m以上の住宅数の割合は、全国平均を上回っている。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数

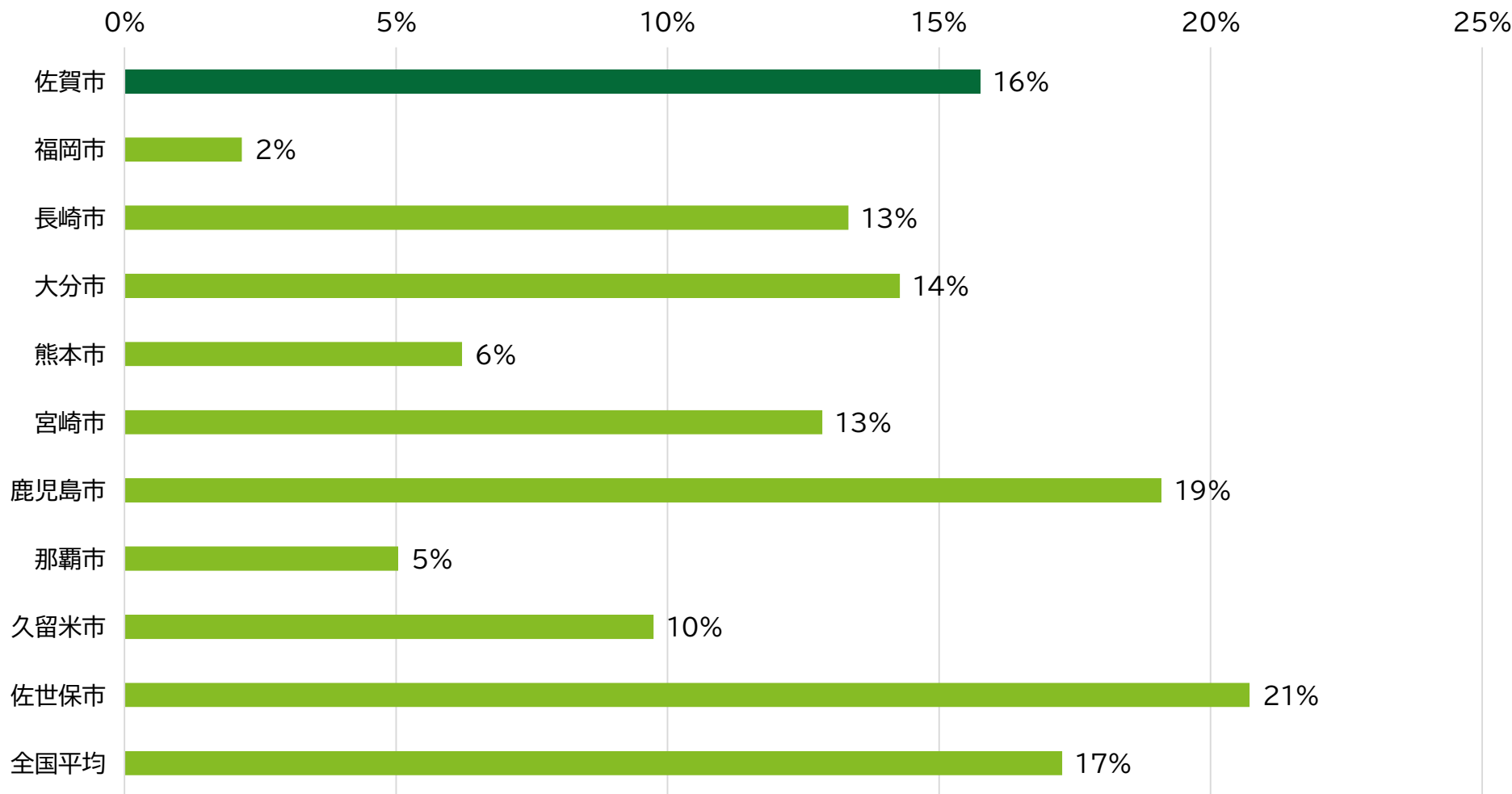
✓佐賀市の最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数は全国平均を上回っているが、ベンチマーク都市の中で3番目に少ない。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数の割合

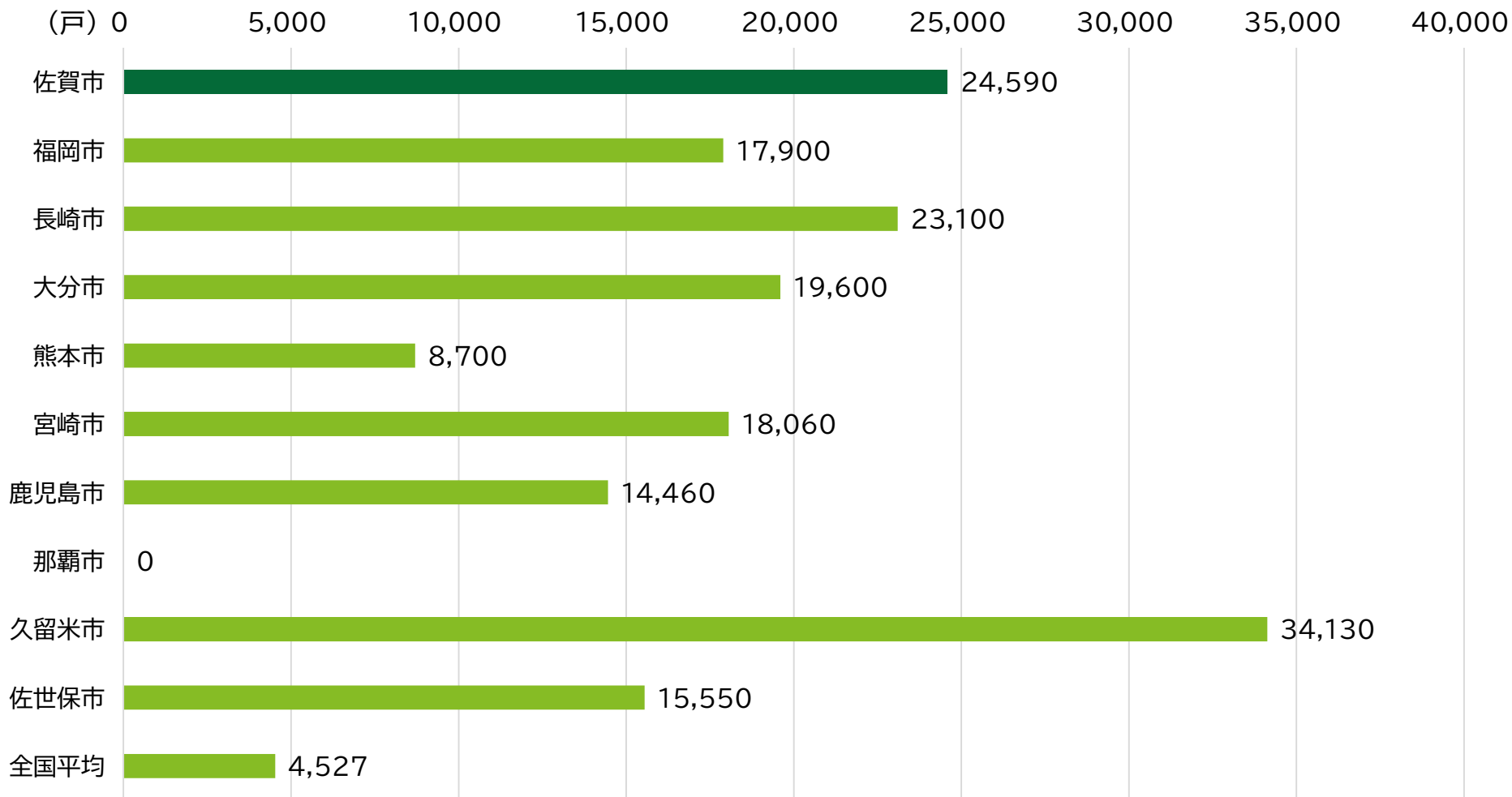
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの医療機関まで1,000m以上の住宅数の割合は全国平均を下回っているが、ベンチマーク都市の中で3番目に高い。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの公園まで1,000m以上の住宅数

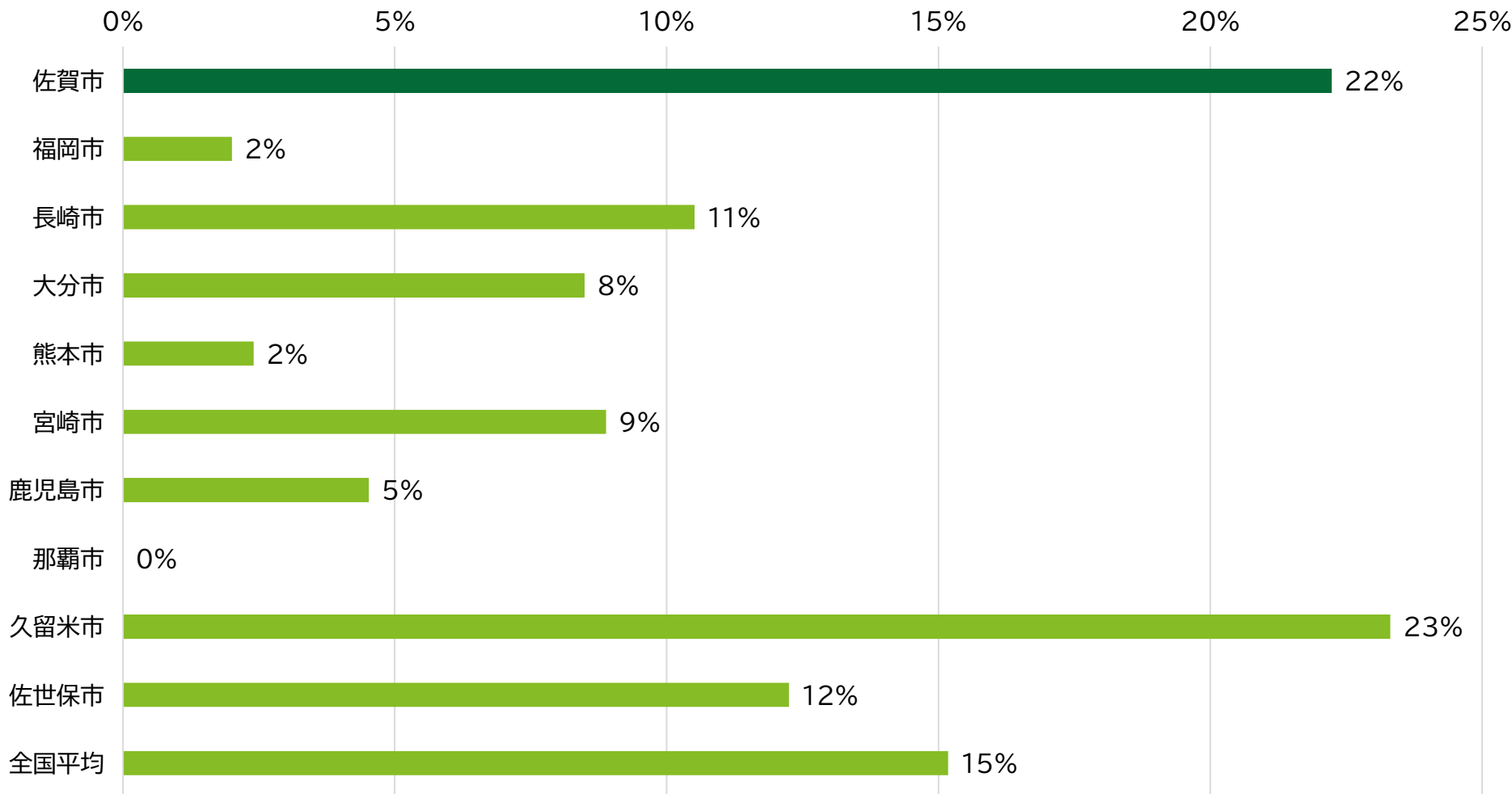
✓佐賀市の最寄りの公園まで1,000メートル以上の住宅数は全国平均を大きく上回っており、ベンチマーク都市の中で2番目に高い。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの公園まで1,000m以上の住宅数の割合

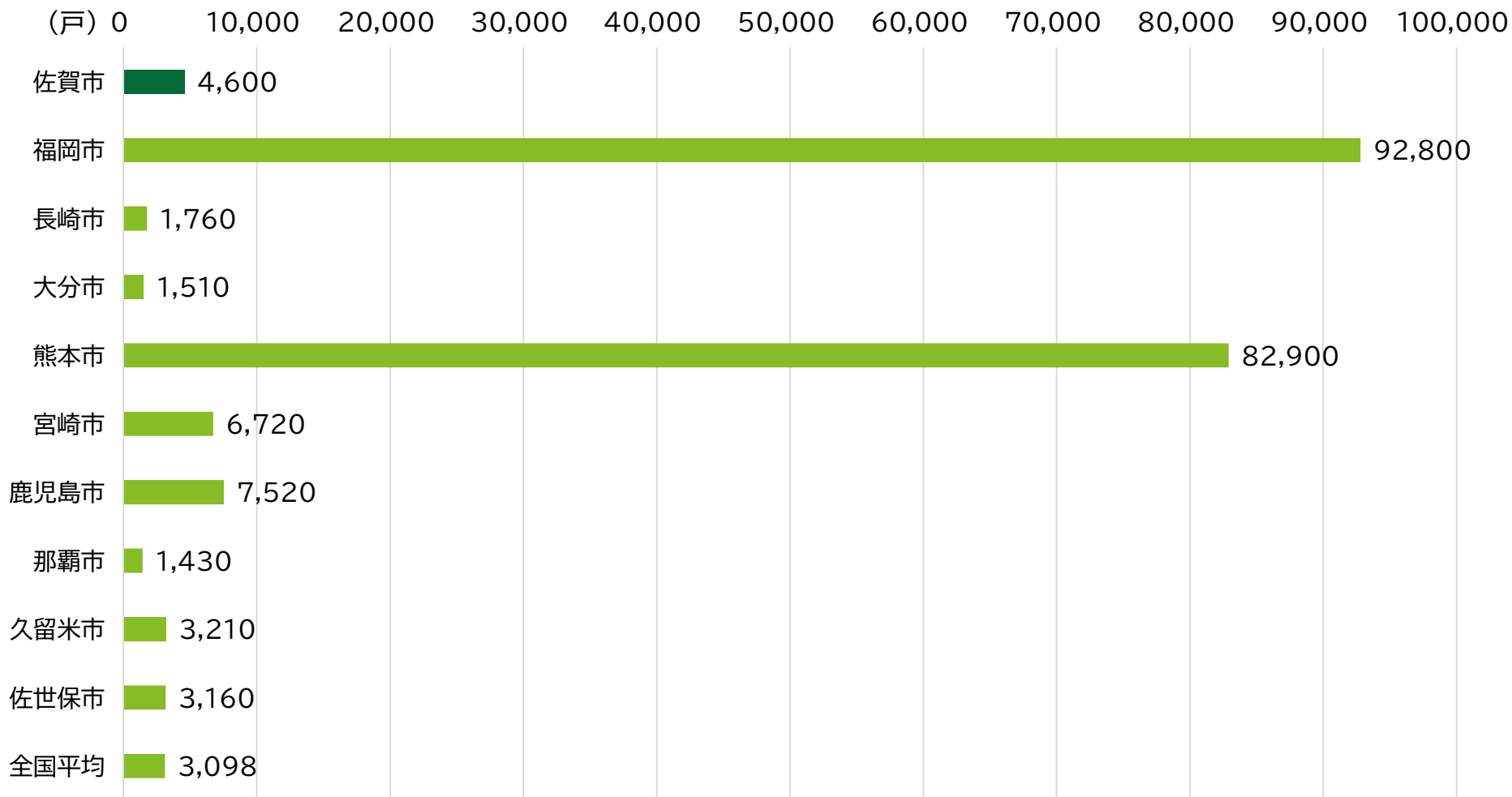
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの公園まで1,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を上回っており、ベンチマーク都市の中で2番目に高い。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの公民館・集会所まで1,000m以上の住宅数

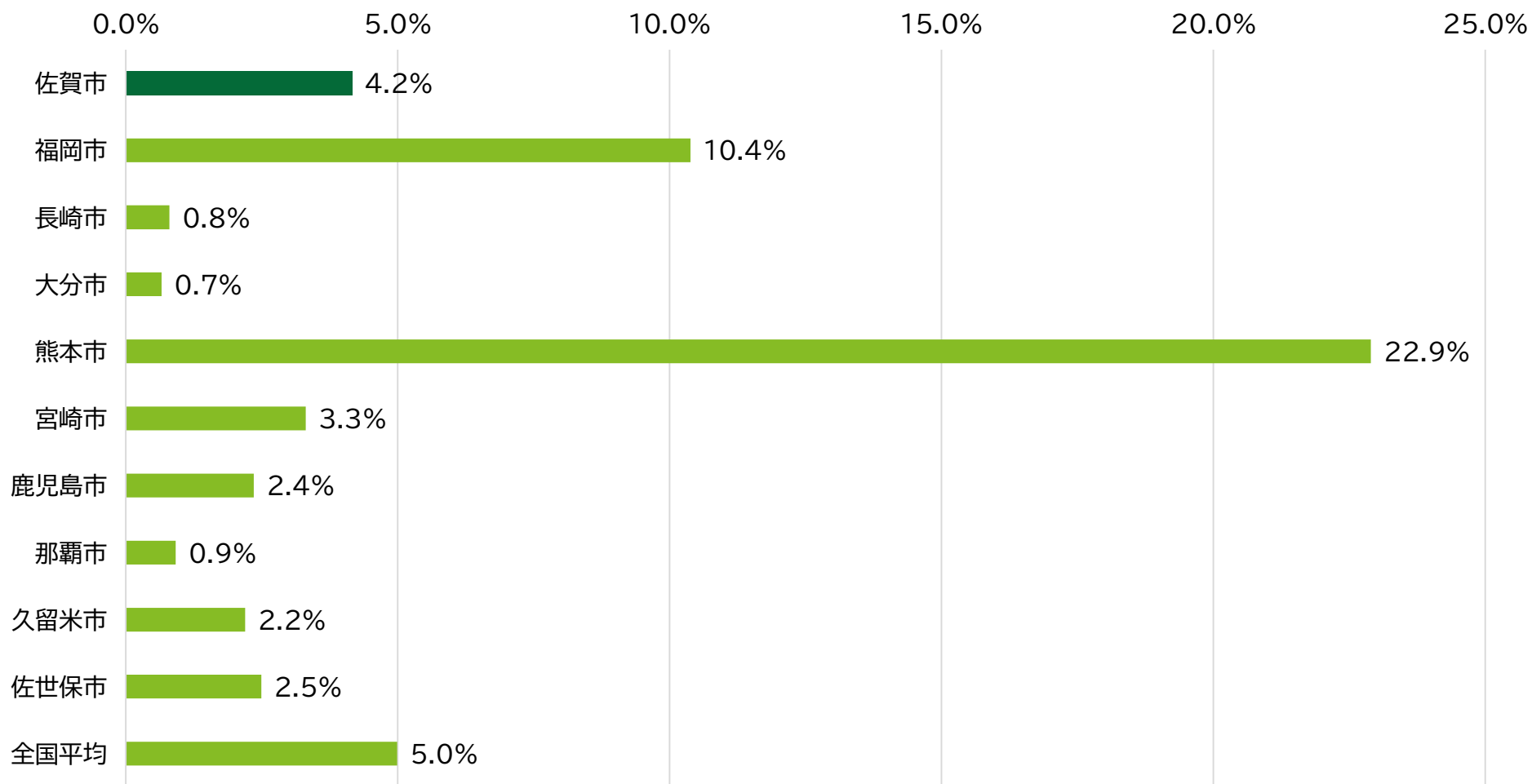
- ✓佐賀市の最寄りの公民館・集会所まで1,000メートル以上の住宅数は全国平均を上回っている。
- ✓ベンチマーク都市の中で福岡市、熊本市が、他のベンチマーク都市を大きく上回っている。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの公民館・集会所まで1,000m以上の住宅数の割合

✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの公民館・集会所まで1,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を下回っている。
✓ベンチマーク都市の中で福岡市、熊本市が、他のベンチマーク都市の最寄りの公民館・集会所まで1,000メートル以上の住宅数の割合を大きく上回っている。

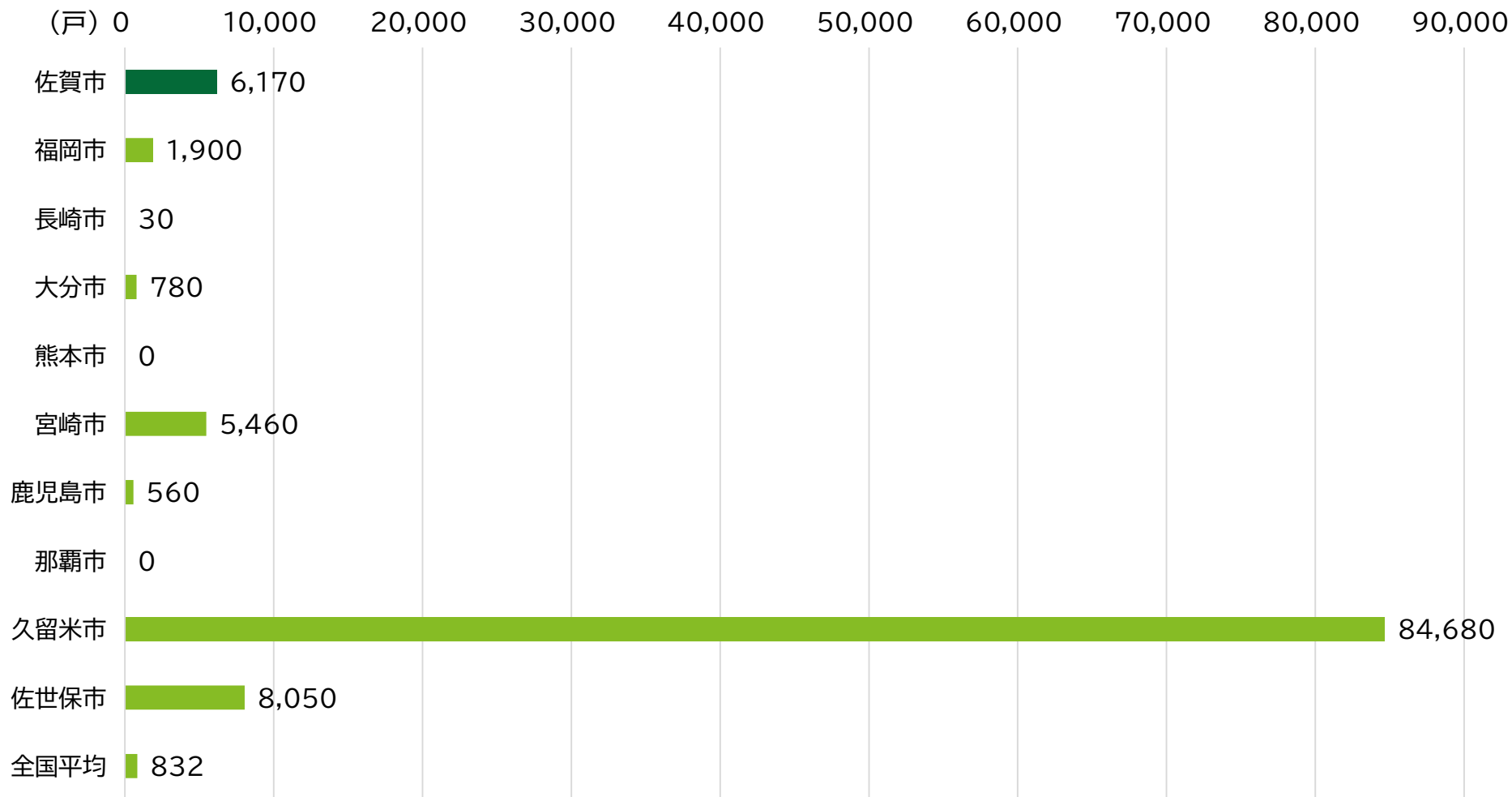


V.生活環境 | 1.環境

最寄りの緊急避難所まで2,000m以上の住宅数

✓佐賀市の最寄りの緊急避難所まで2,000メートル以上の住宅数は全国平均を大きく上回っており、ベンチマーク都市の中でも3番目に高い。

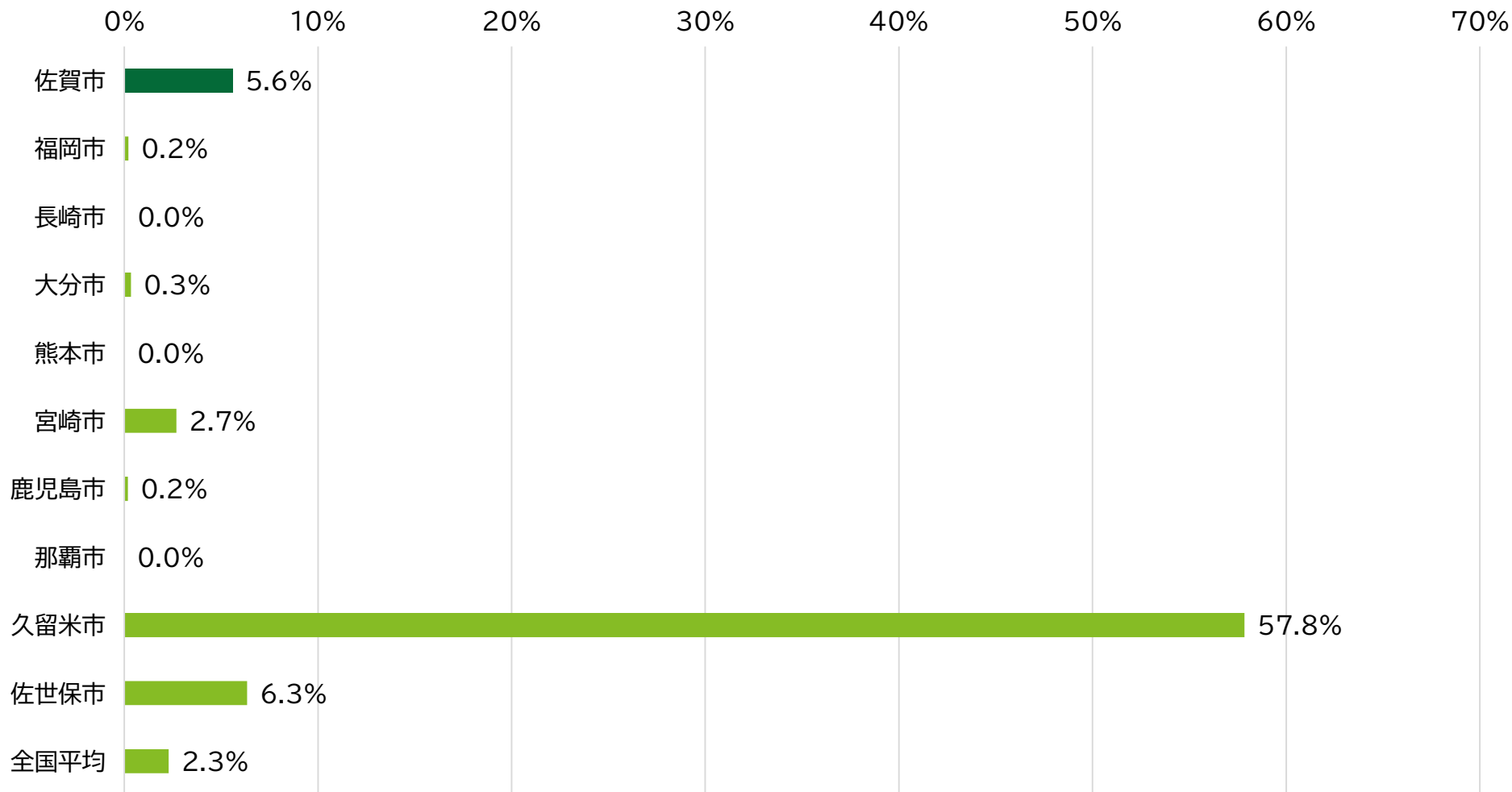
✓ベンチマーク都市の中で久留米市が、他のベンチマーク都市の最寄りの緊急避難所まで2,000m以上の住宅数を大きく上回っている。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの緊急避難所まで2,000m以上の住宅数の割合

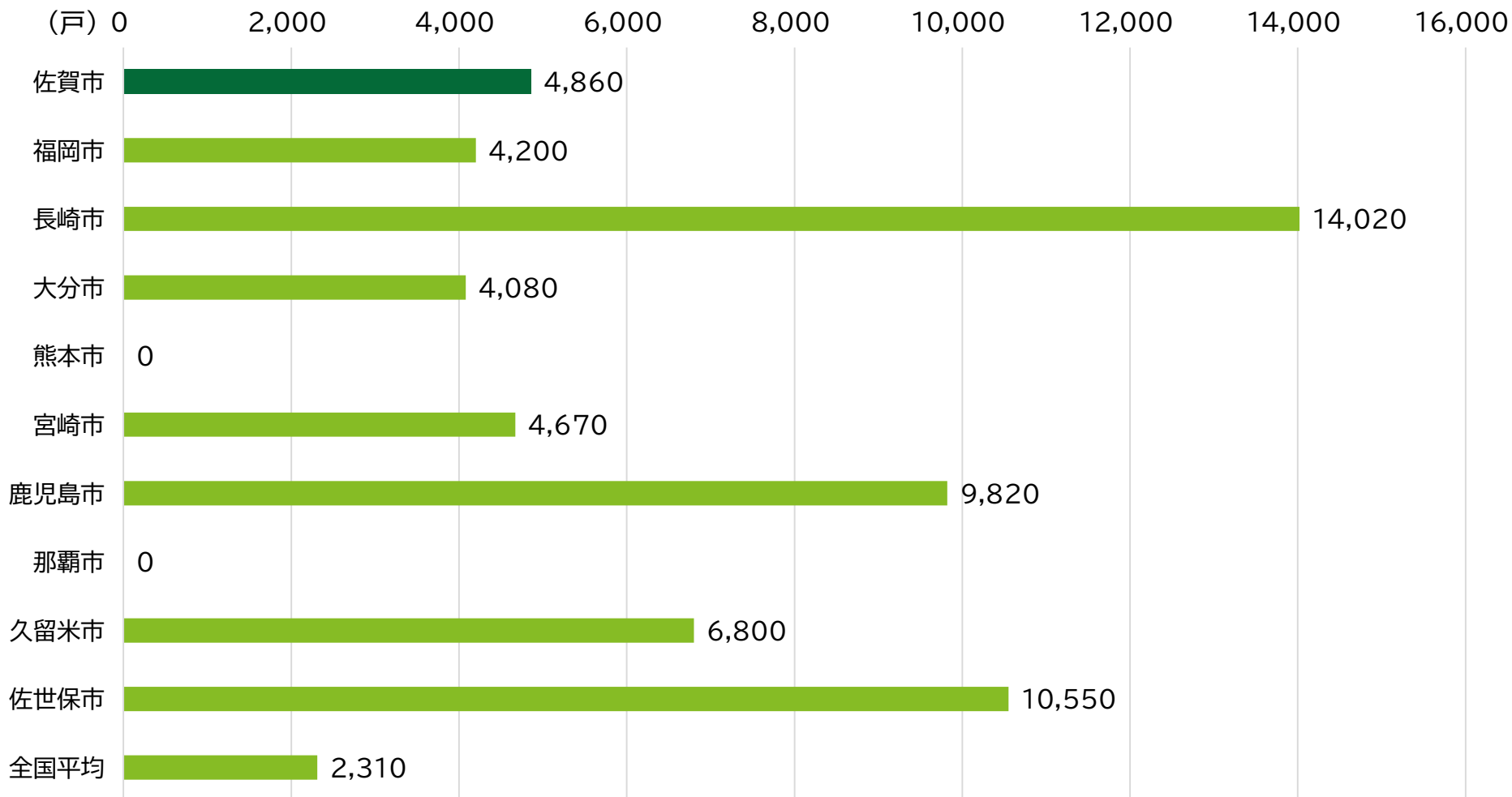
✓最寄りの緊急避難所まで2,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を上回っており、ベンチマーク都市の中でも3番目に高い。
✓ベンチマーク都市の中で久留米市が、他のベンチマーク都市の総住宅数に占める最寄りの緊急避難所まで2,000m以上の住宅数の割合を大きく上回っている。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの老人デイサービスセンターまで2,000m以上の住宅数

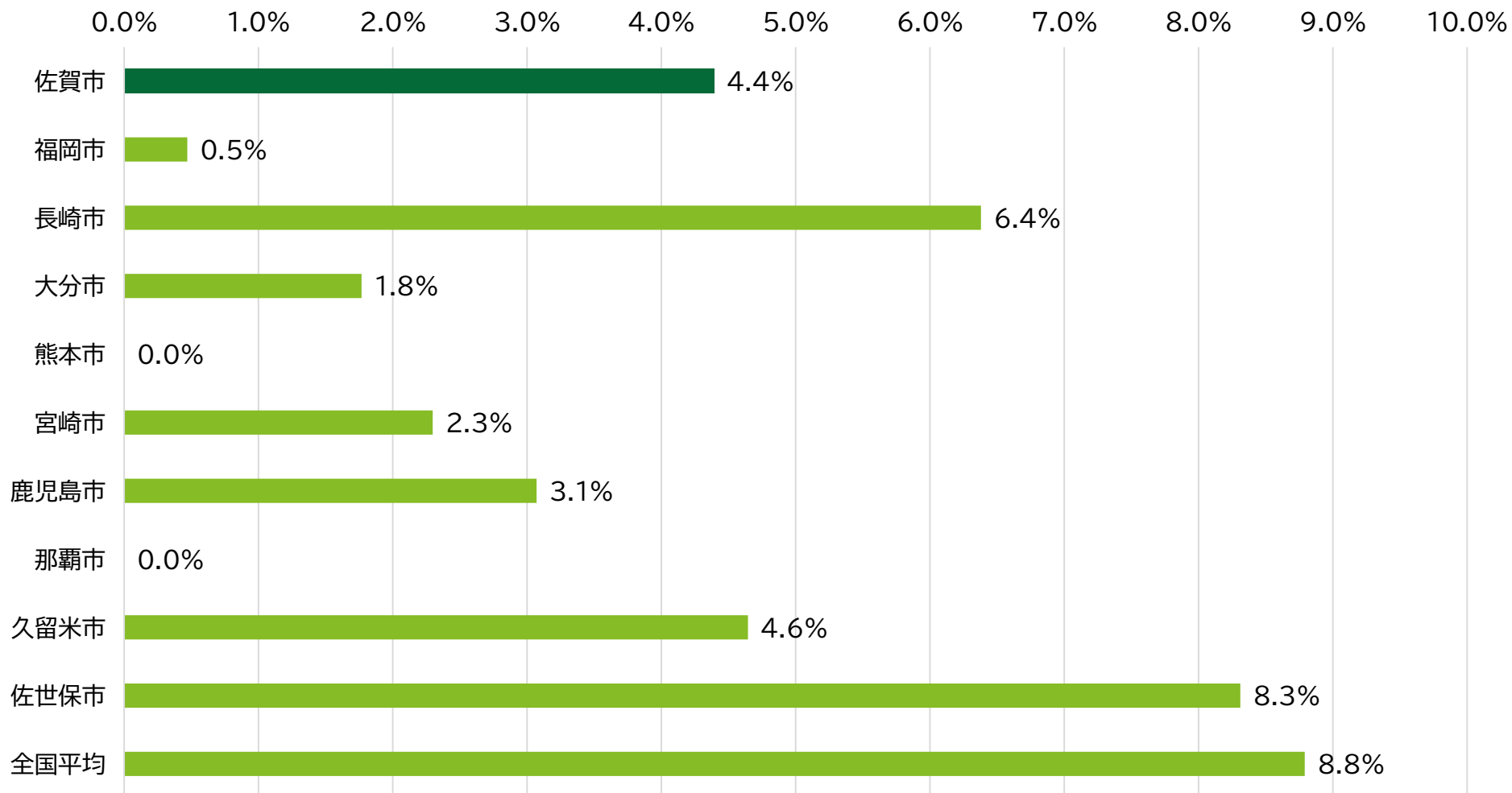
✓佐賀市の最寄りの老人デイサービスセンターまで2,000メートル以上の住宅数は全国平均を上回っている。
✓ベンチマーク都市の中で長崎市が、他のベンチマーク都市の最寄りの老人デイサービスセンターまで2,000m以上の住宅数を大きく上回っている。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの老人デイサービスセンターまで2,000m以上の住宅数の割合

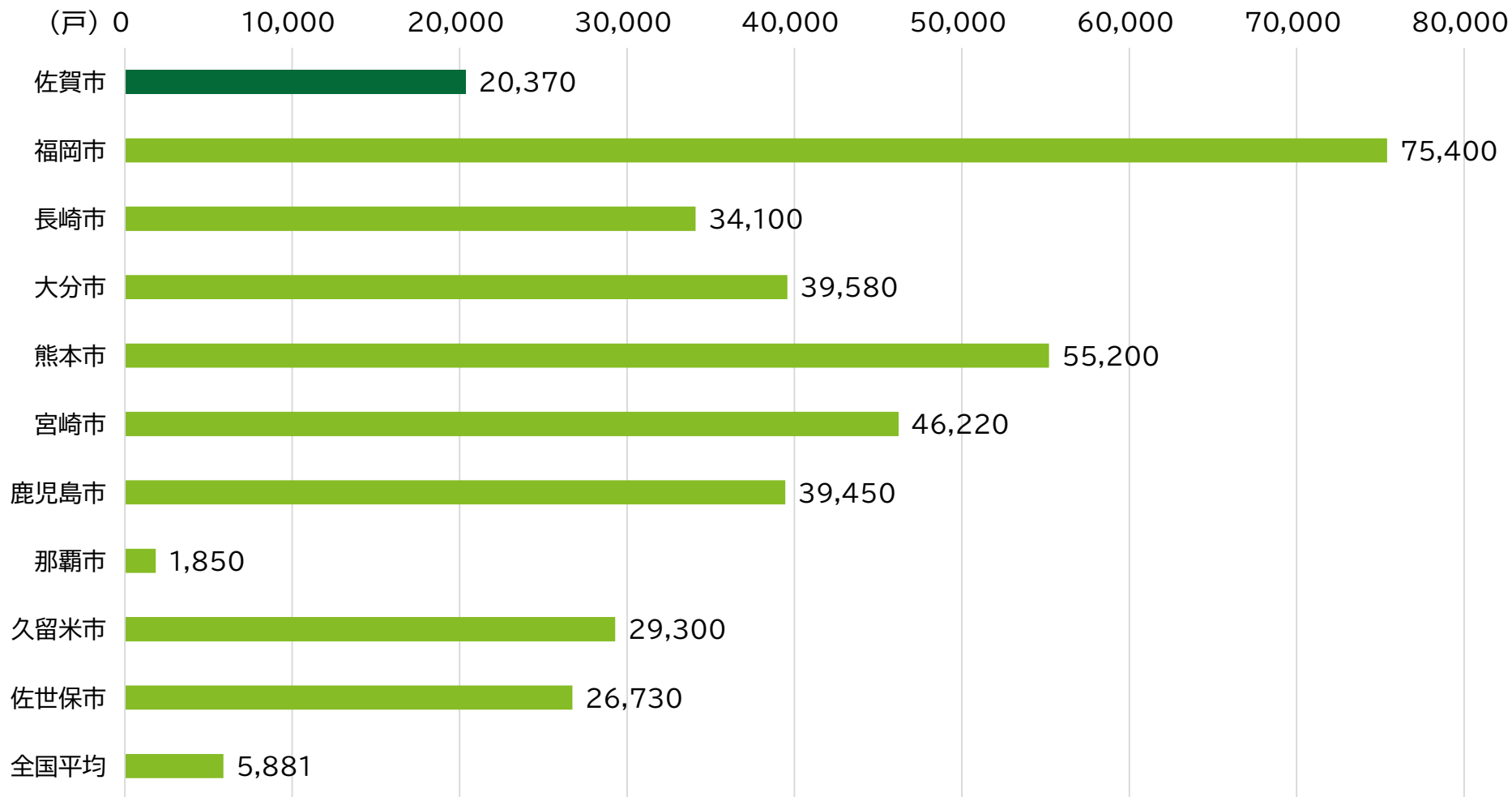
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの老人デイサービスセンターまで2,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を下回っている。
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの老人デイサービスセンターまで2,000メートル以上の住宅数の割合はベンチマーク都市の中で5番目に高い。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの郵便局・銀行まで1,000m以上の住宅数

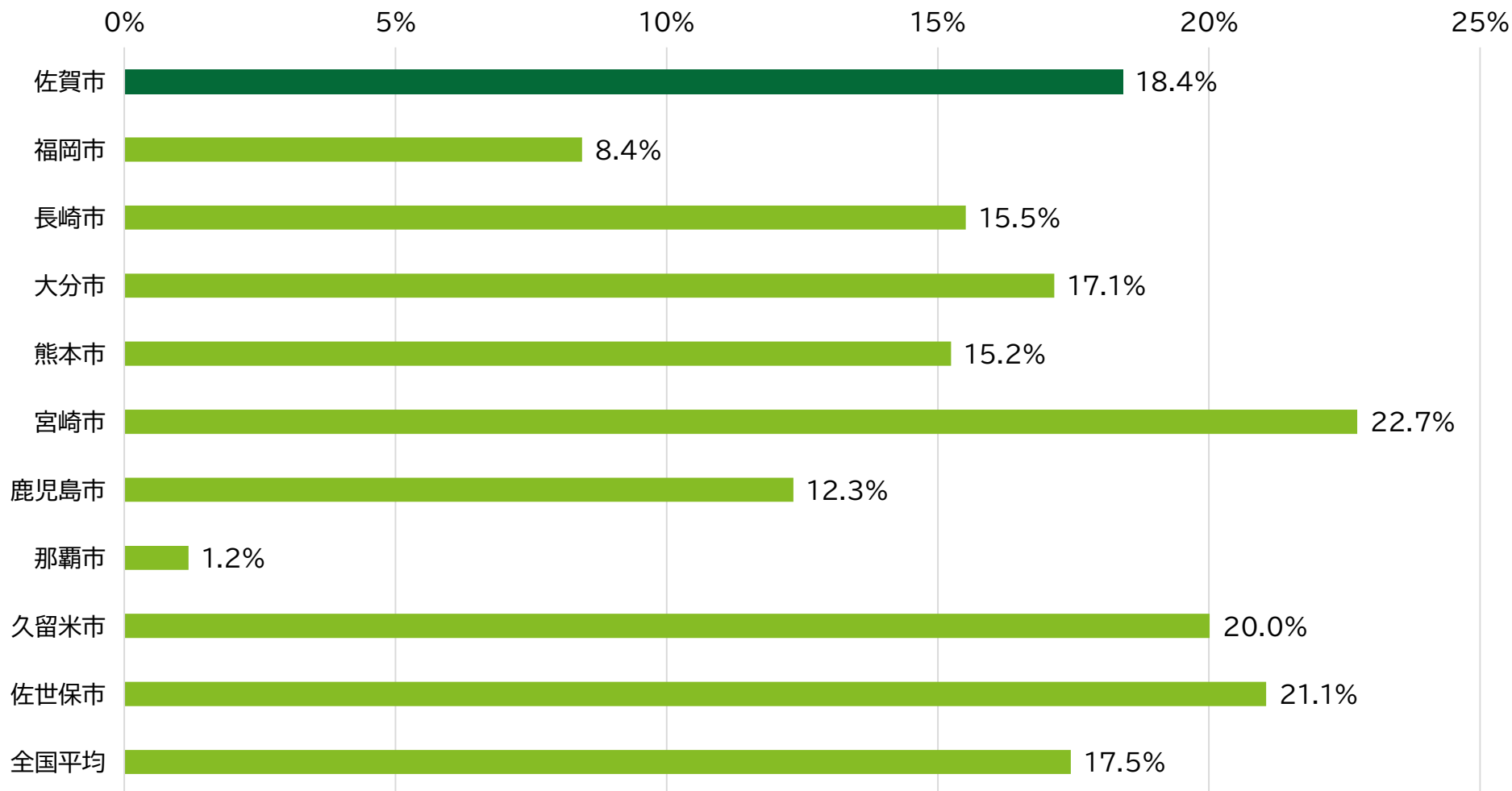
✓佐賀市の最寄りの郵便局・銀行まで1,000メートル以上の住宅数は全国平均を上回っているが、ベンチマーク都市の中で2番目に少ない。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの郵便局・銀行まで1,000m以上の住宅数の割合

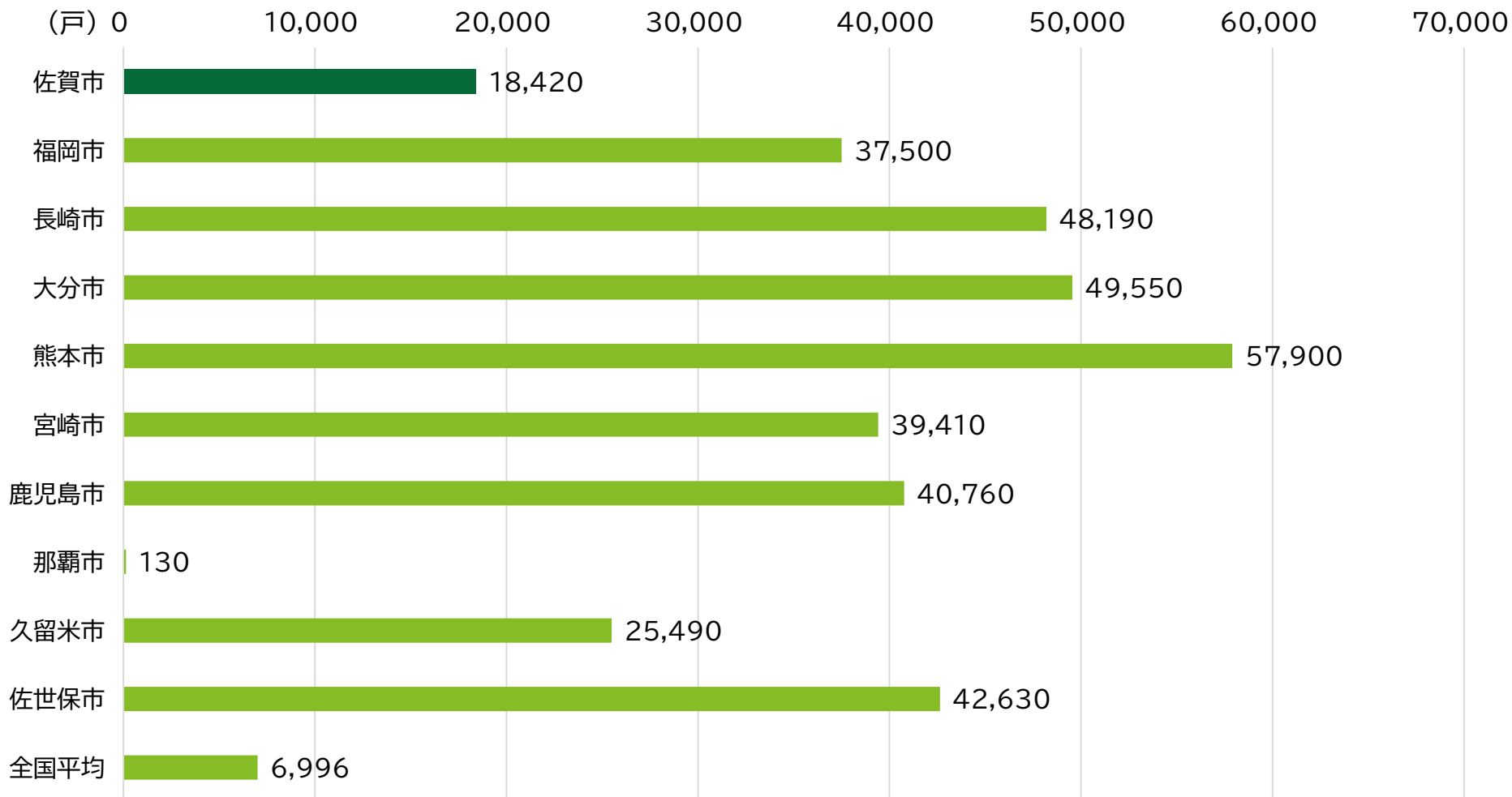
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの郵便局・銀行まで1,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を上回っており、ベンチマーク都市の中で4番目に高い。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの保育所まで1,000m以上の住宅数

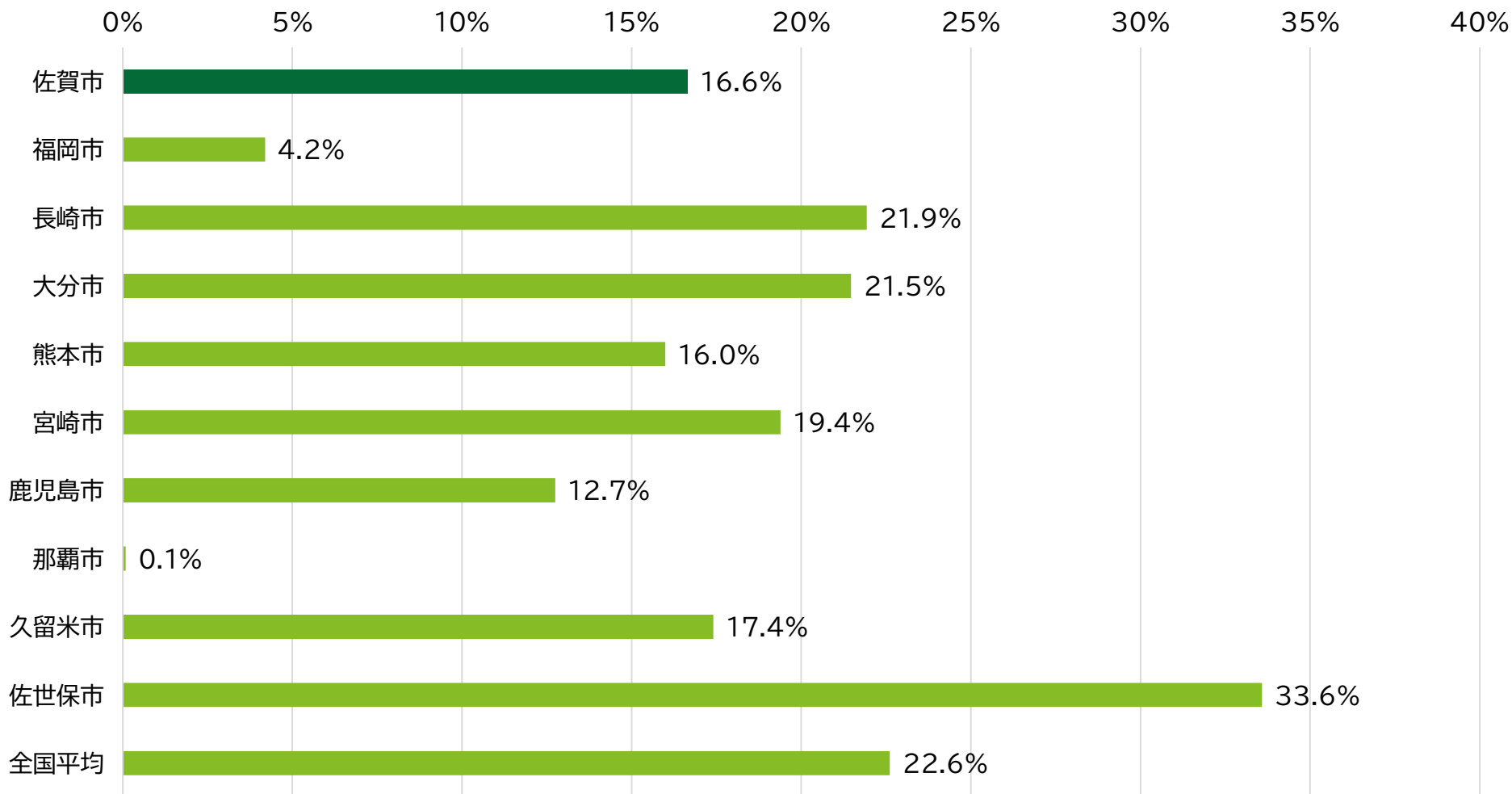
✓佐賀市の最寄りの保育所まで1,000メートル以上の住宅数は全国平均を上回っているが、ベンチマーク都市の中で2番目に少ない。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの保育所まで1,000m以上の住宅数の割合

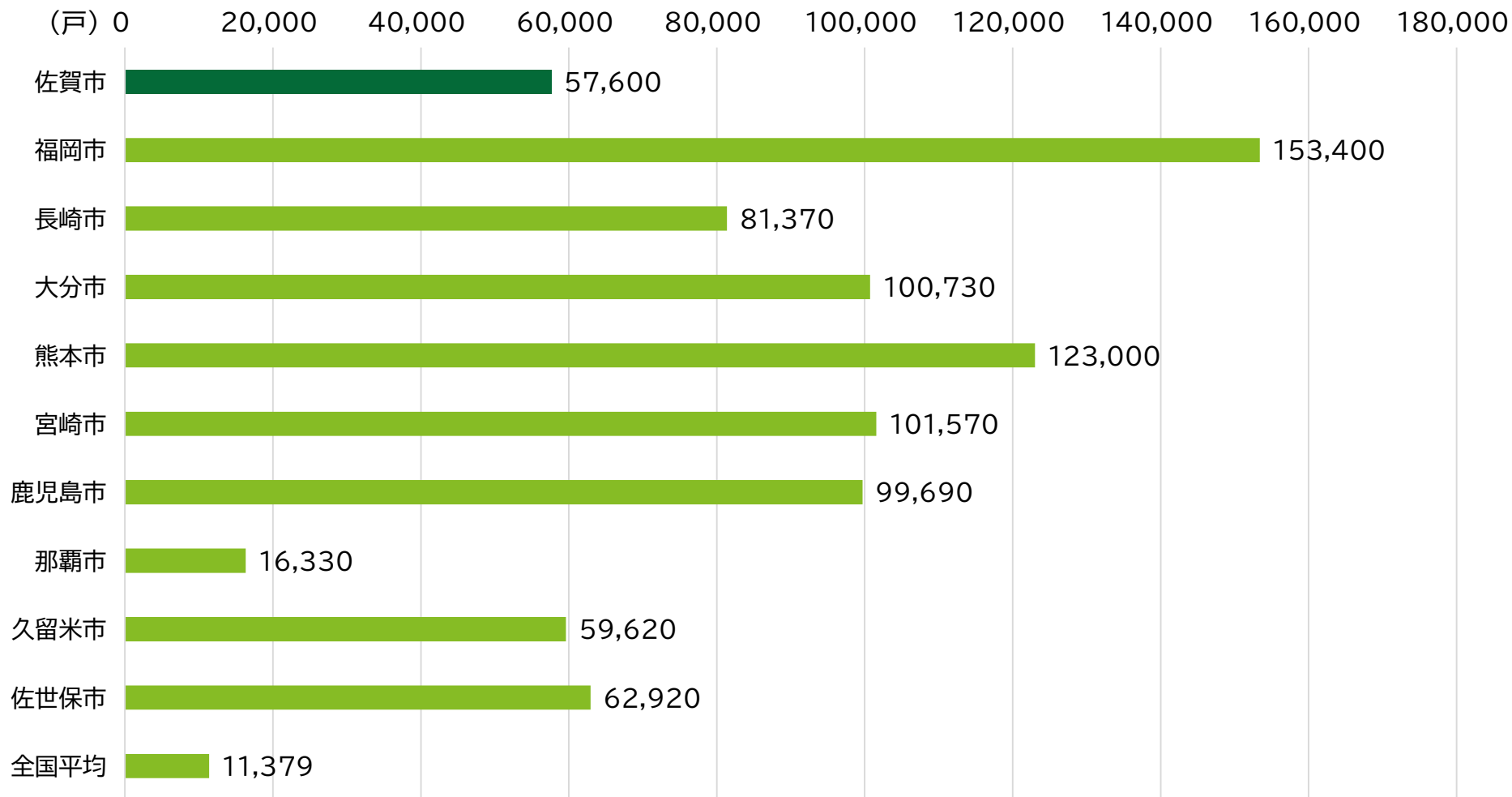
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの保育所まで1,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を下回っており、ベンチマーク都市の中で5番目に低い。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの小学校まで1,000m以上の住宅数

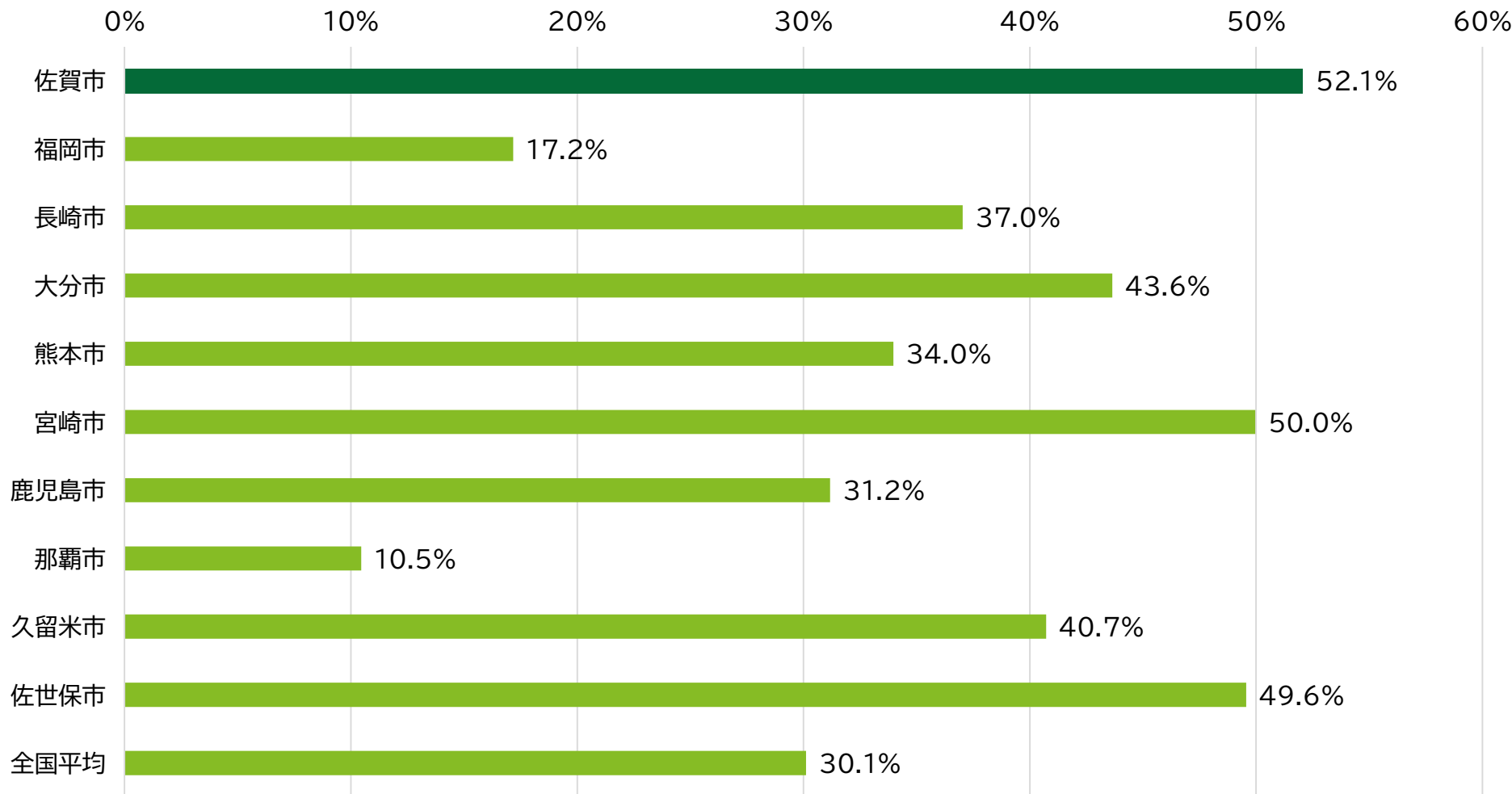
✓佐賀市の最寄りの小学校まで1,000メートル以上の住宅数は全国平均を上回っているが、ベンチマーク都市の中で2番目に少ない。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの小学校まで1,000m以上の住宅数の割合

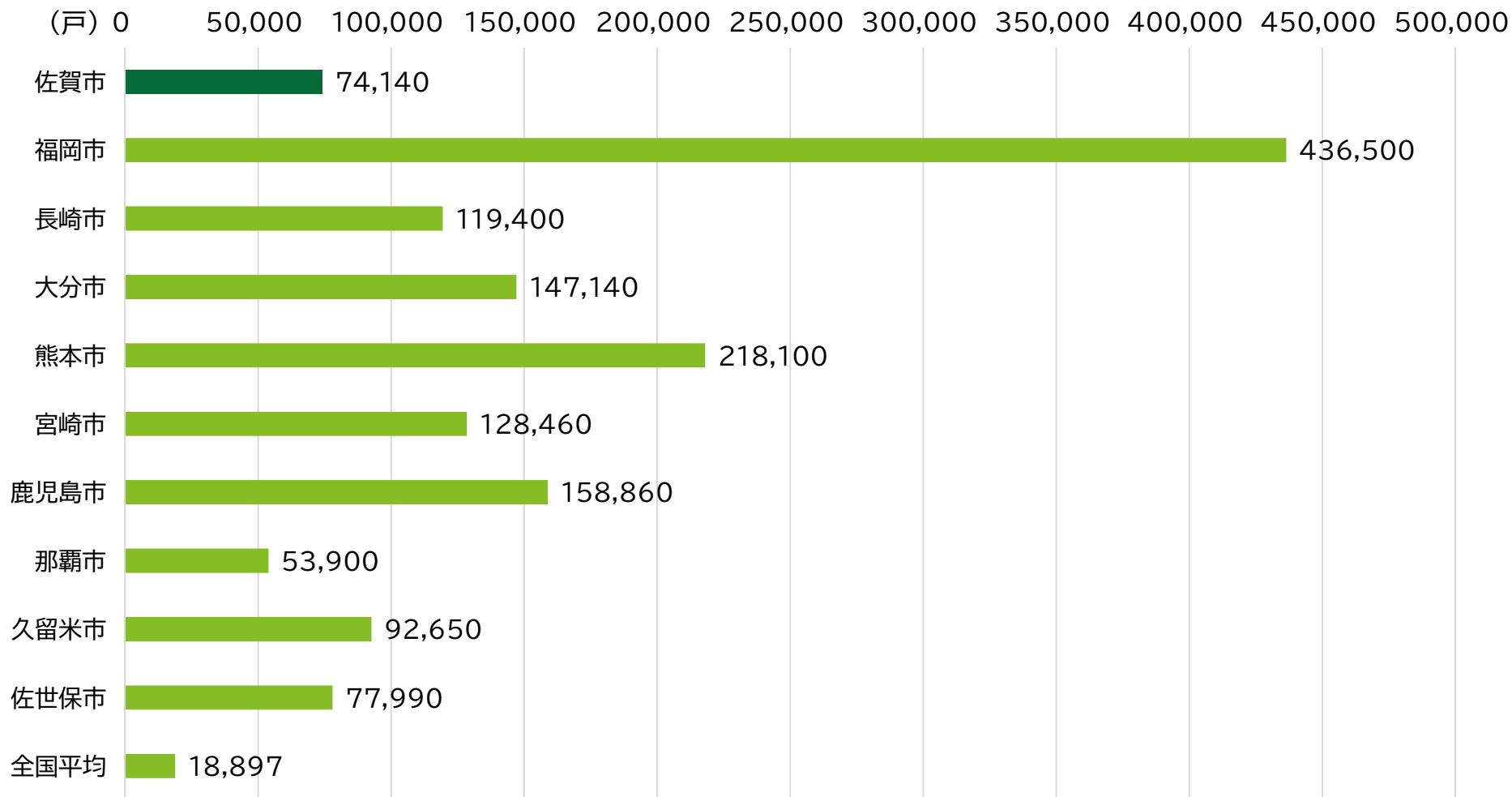
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの小学校まで1,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を大きく上回っており、ベンチマーク都市の中で1番高い。



V.生活環境 | 1.環境

最寄りの中学校まで1,000m以上の住宅数

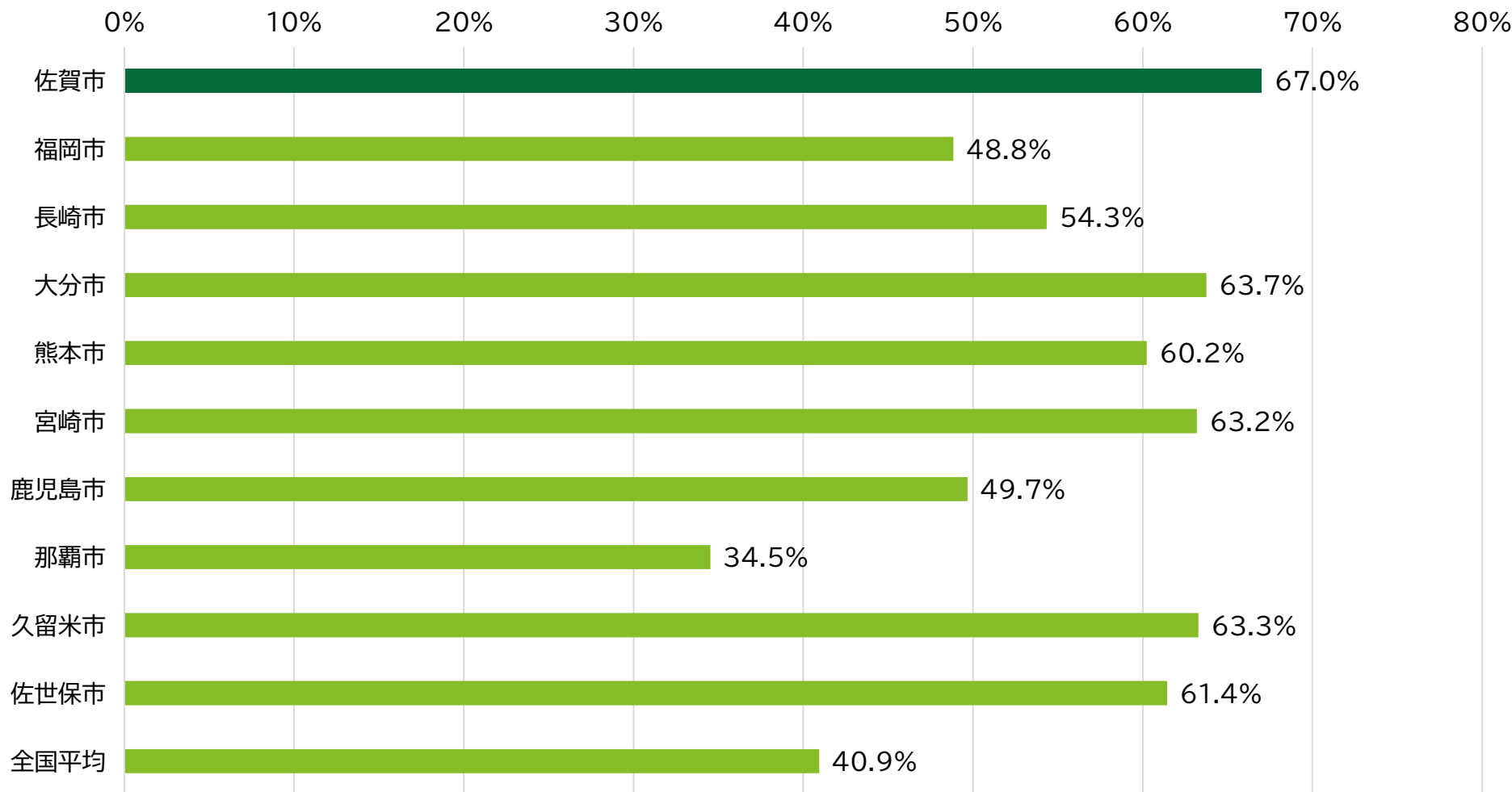
✓佐賀市の最寄りの中学校まで1,000メートル以上の住宅数は全国平均を大きく上回っているが、ベンチマーク都市の中で2番目に低い。



V.生活環境 | 1.環境

総住宅数に占める最寄りの中学校まで1,000m以上の住宅数の割合

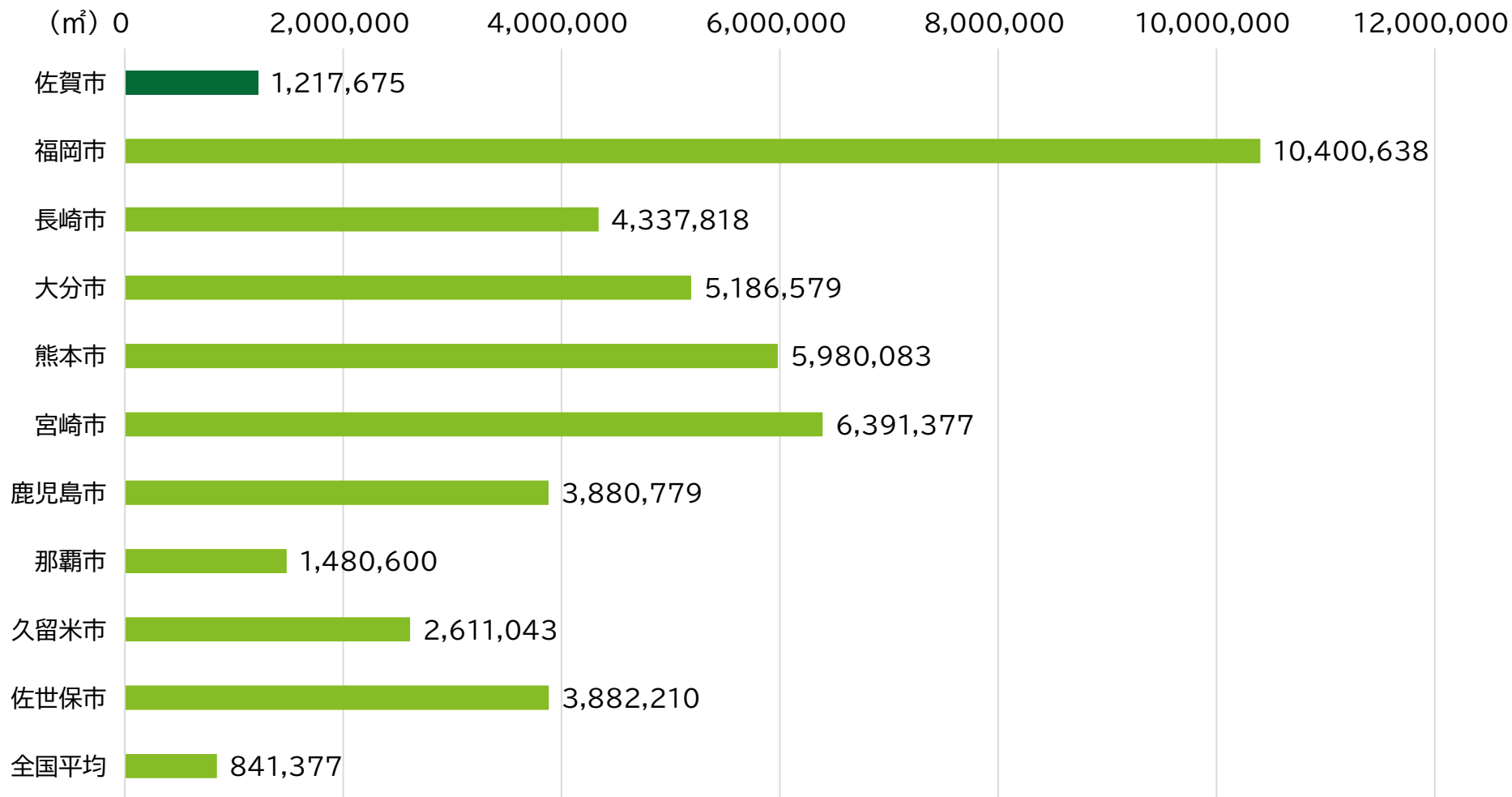
✓佐賀市の総住宅数に占める最寄りの中学校まで1,000メートル以上の住宅数の割合は全国平均を上回っており、ベンチマーク都市の中で1番高い。



V.生活環境 | 1.環境

市町村立都市公園等面積(都市計画区域内)

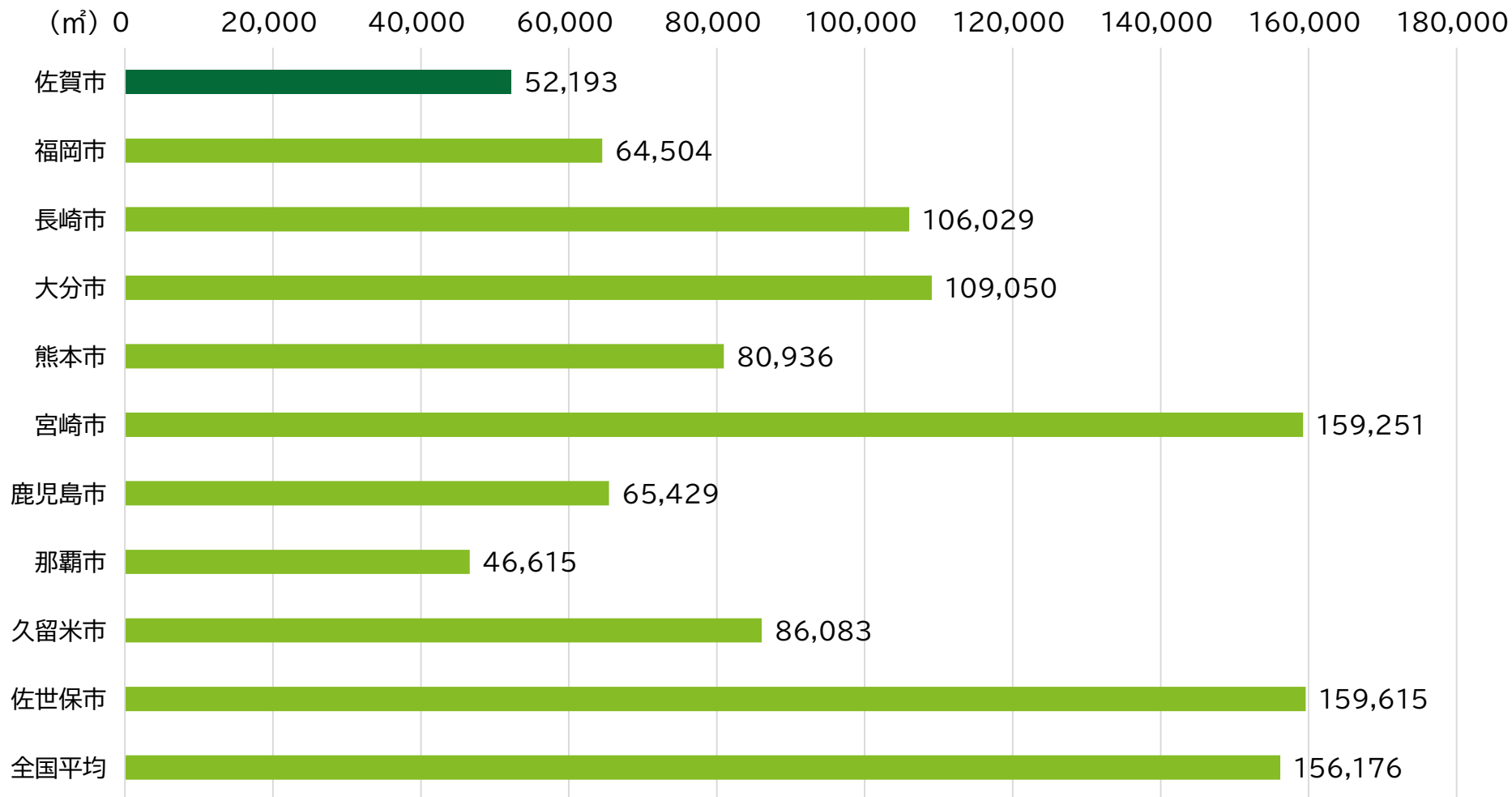
✓佐賀市の市町村立都市公園等面積(都市計画区域内)は全国平均を上回っているが、ベンチマーク都市の中で1番低い。



V.生活環境 | 1.環境

1万人当たりの市町村立都市公園等面積(都市計画区域内)

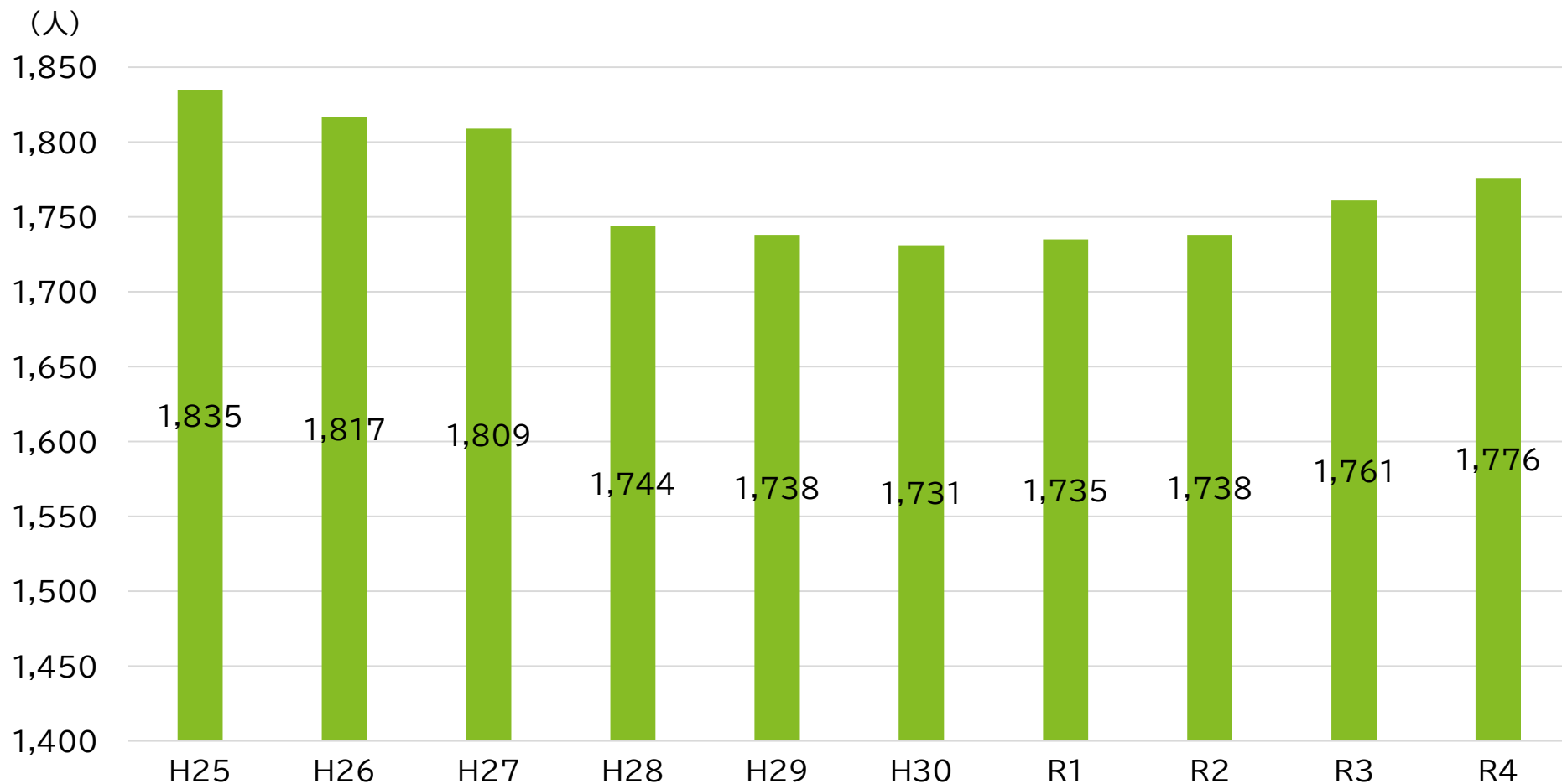
✓佐賀市の1万人当たりの市町村立都市公園等面積(都市計画区域内)は全国平均を下回っており、ベンチマーク都市の中でも2番目に低い。



VI.行政 | 1.行政組織

市職員数の推移

✓市の正規職員数は平成30年まで減少傾向にあったが、以降は微増の傾向にある。

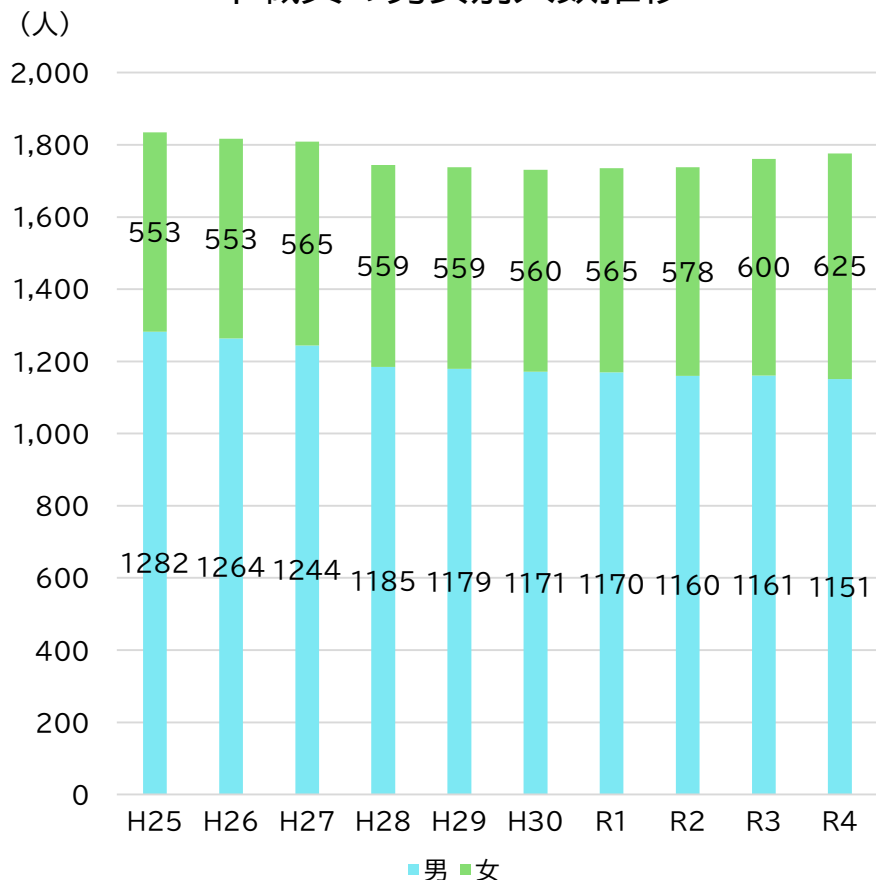


VI.行政 | 1.行政組織

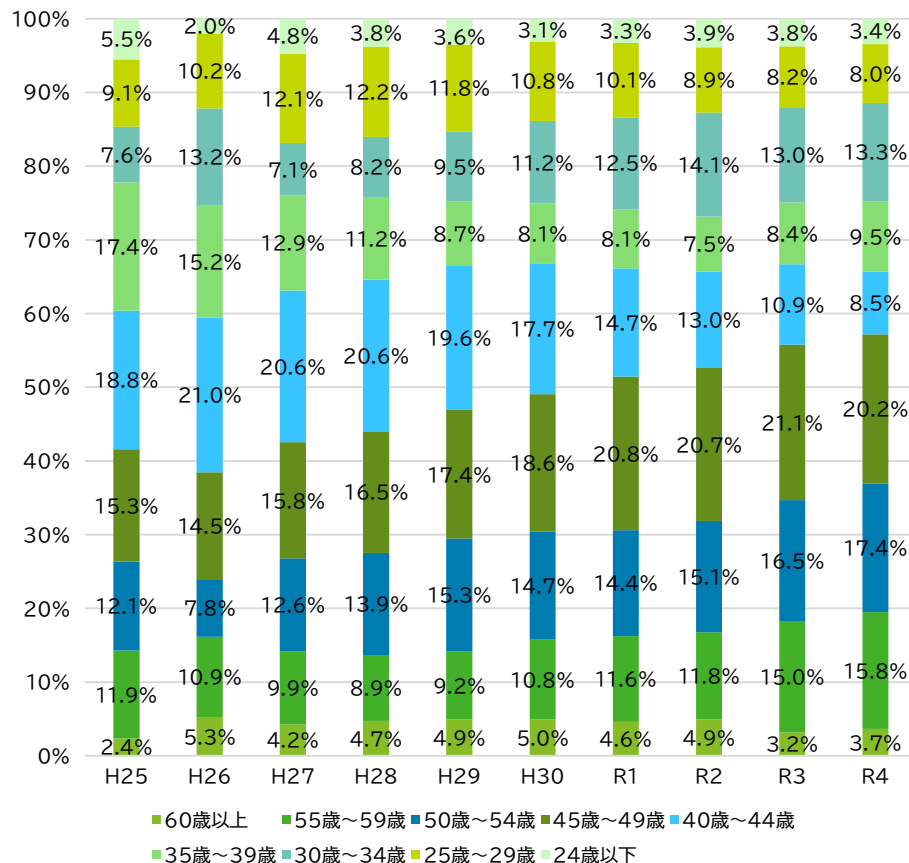
市職員の男女別、年齢構成別職員数

✓市職員の男女別人数は男性の人数は減少傾向にある一方で、女性の人数は増加傾向にある。
 ✓年齢構成別職員の割合をみると、35歳～44歳の割合の減少が顕著である。また、45歳～59歳の割合は年々増加しており、令和元年から45歳以上の職員数は全体の50%以上を占めている。

市職員の男女別人数推移



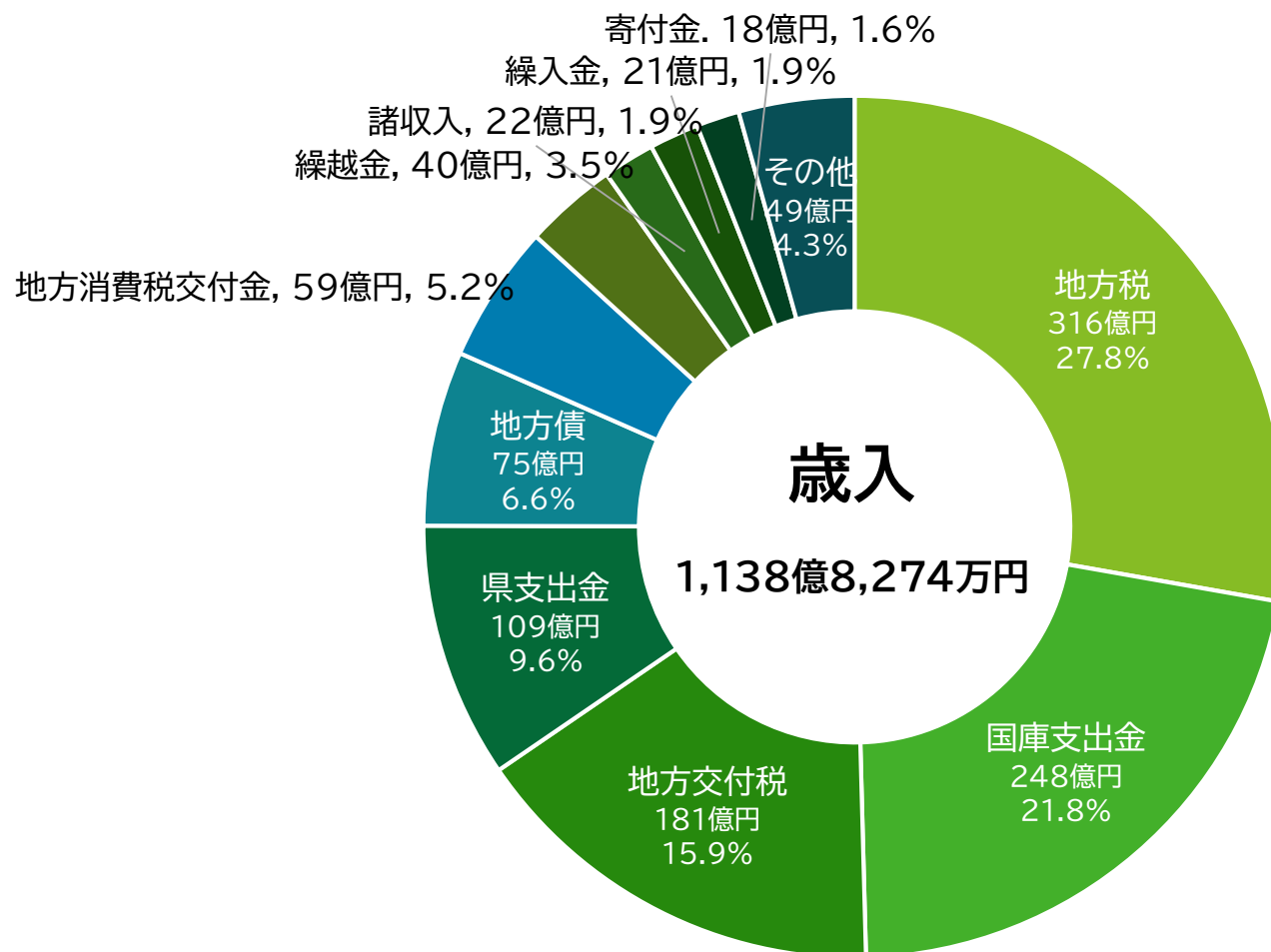
年齢構成別職員の割合



VI.行政 | 2.財政

一般会計歳入決算額

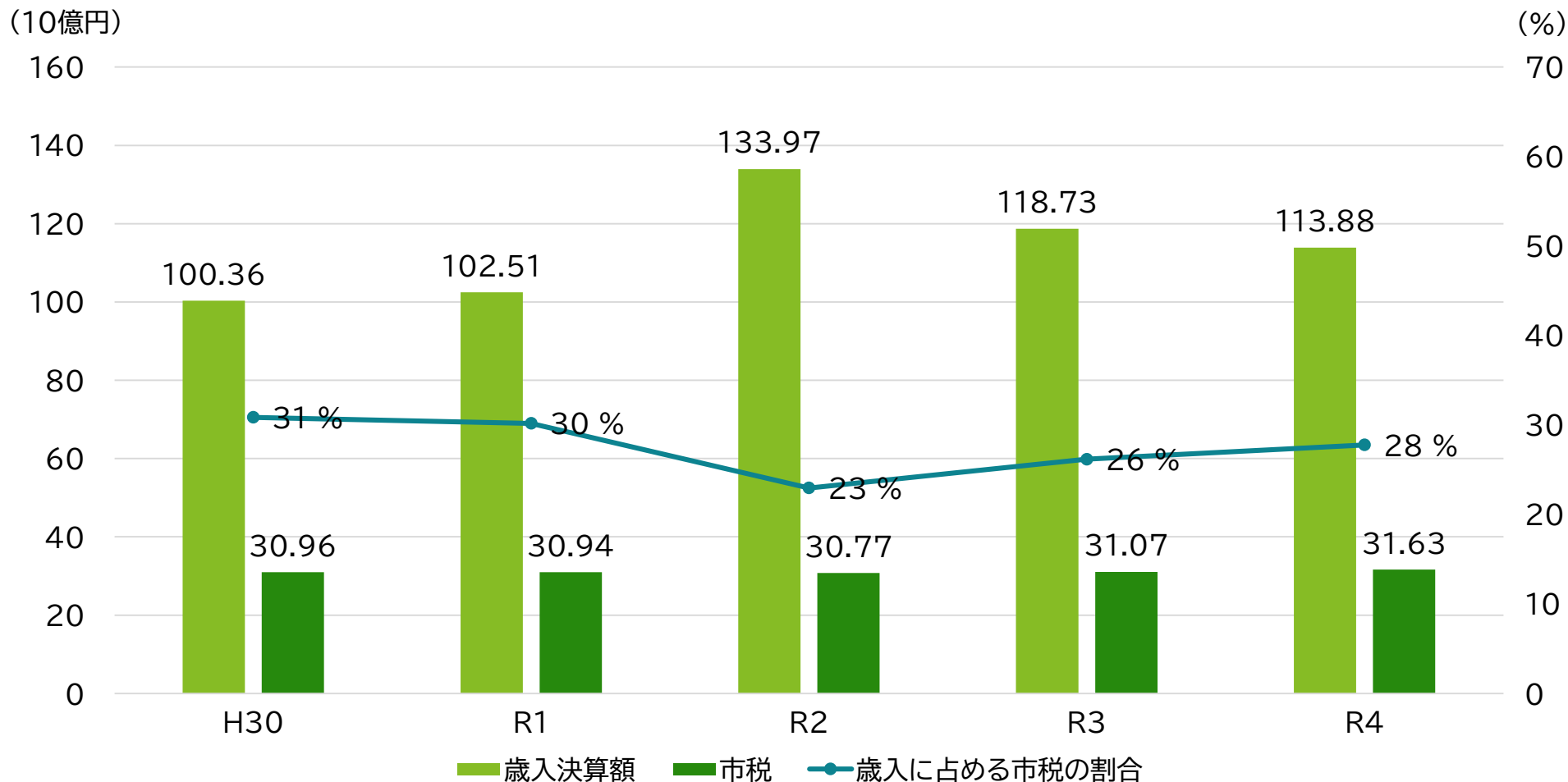
✓令和4年の歳入総額は1,138億円であり、内訳としては、地方税、国庫支出金、地方交付税の順に多く、この3つで70%近くを占める。



VI.行政 | 2.財政

歳入の推移

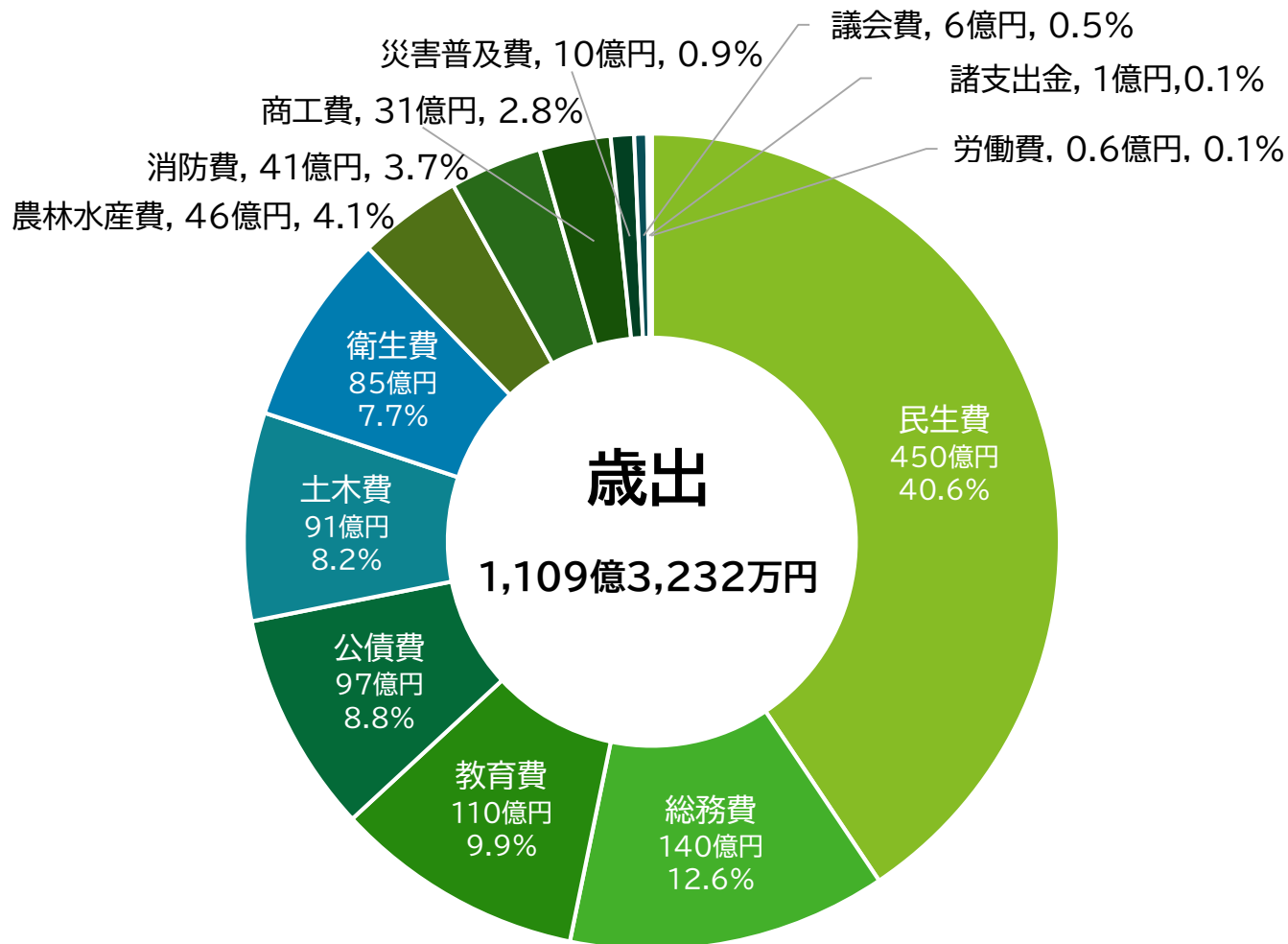
✓歳入決算額は令和2年を除き、概ね1,100億円程度で推移しており、歳入に占める市税の割合は概ね30%程度である。



VI.行政 | 2.財政

一般会計歳出決算額(目的別)

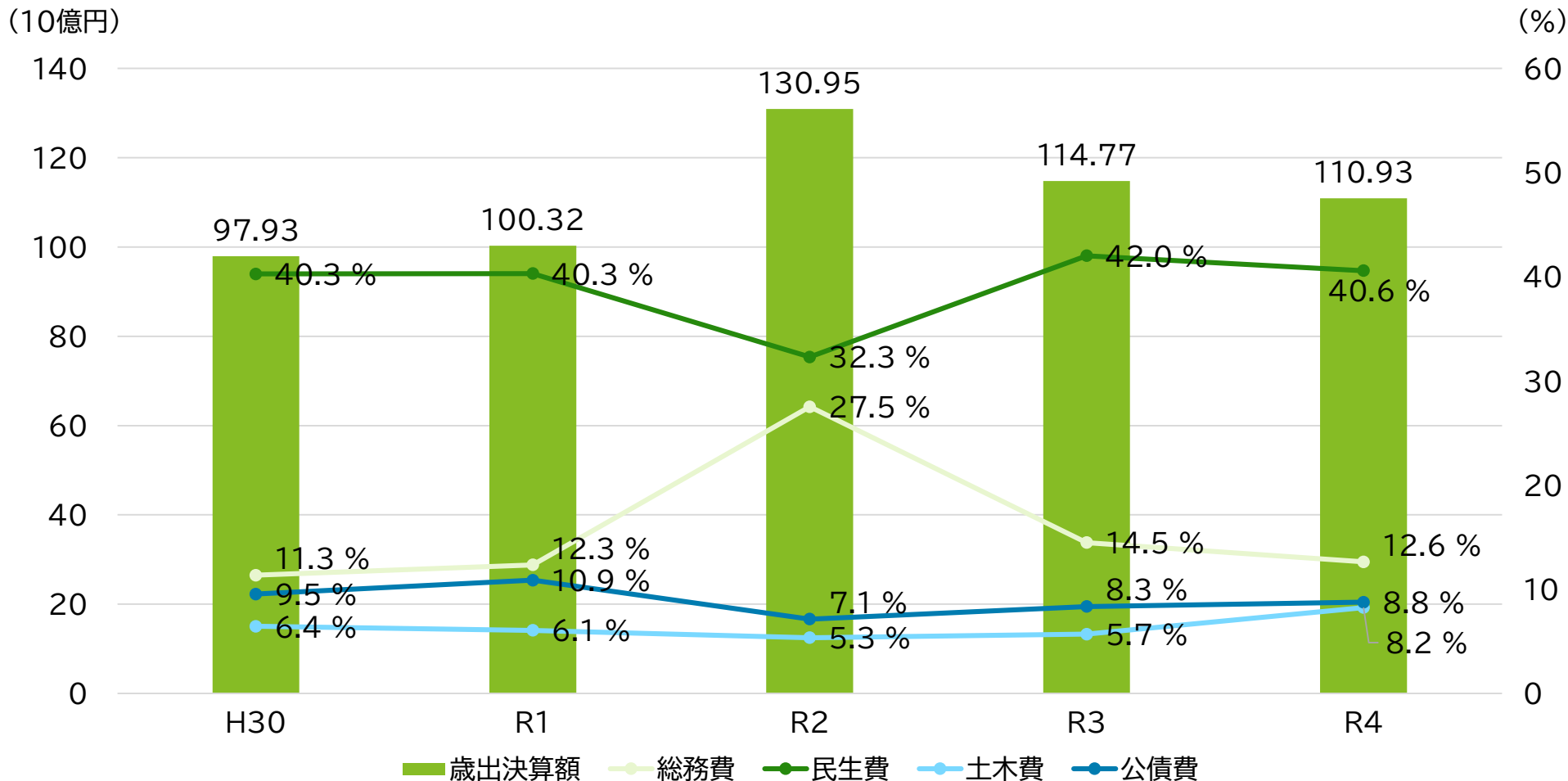
✓令和4年の歳出総額は1,109億円であり、内訳としては、民生費、総務費、教育費の順に多く、この3つで60%程度を占める。



VI.行政 | 2.財政

歳出(目的別)の推移

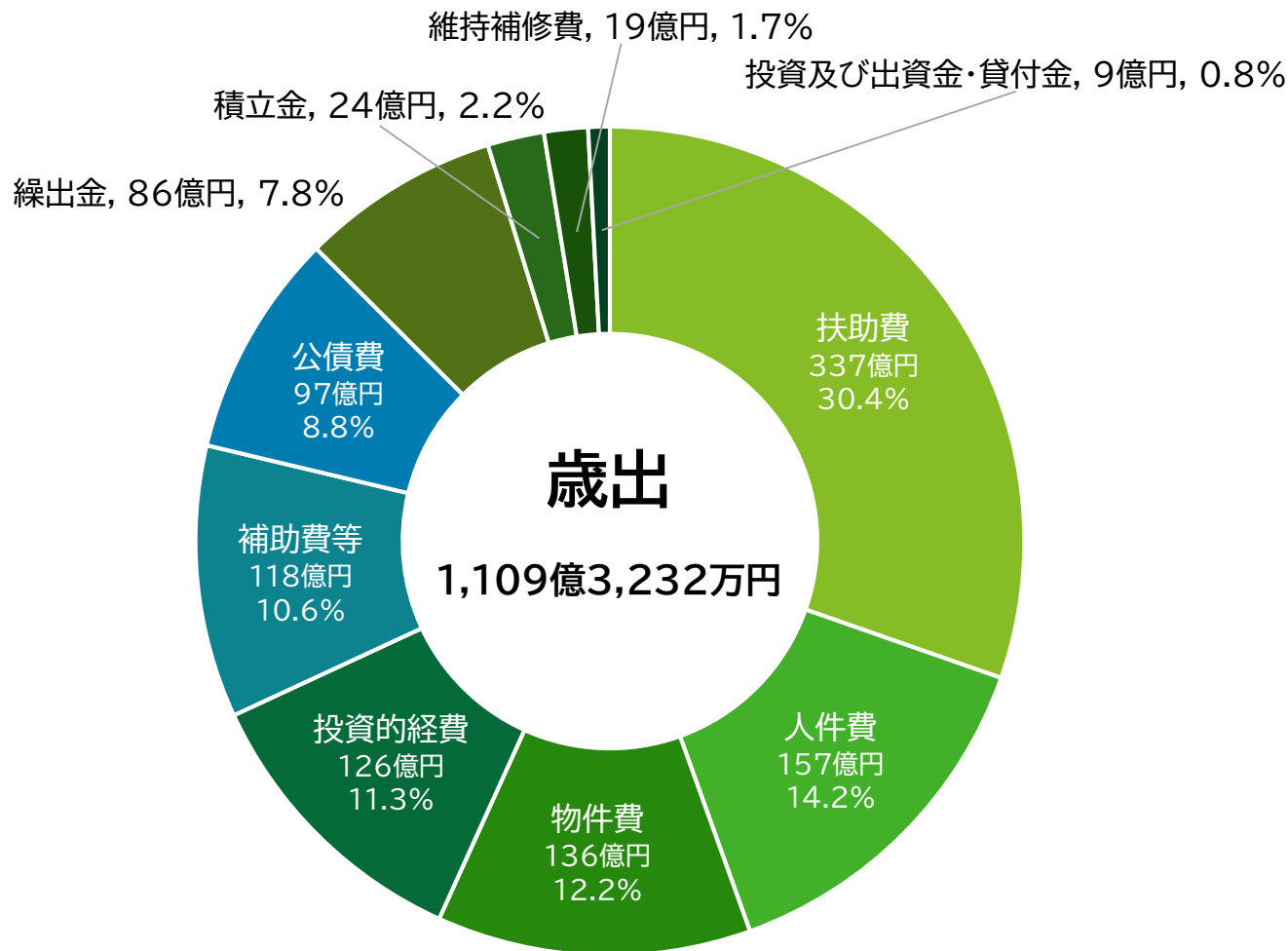
- ✓歳出決算額は令和2年を除き、概ね1,100億円程度で推移している。
- ✓歳出の内訳としても、民生費、総務費、公債費、土木費の順に多く、令和2年を除き概ね同じような構成比で推移している。



VI.行政 | 2.財政

一般会計歳出決算額(性質別)

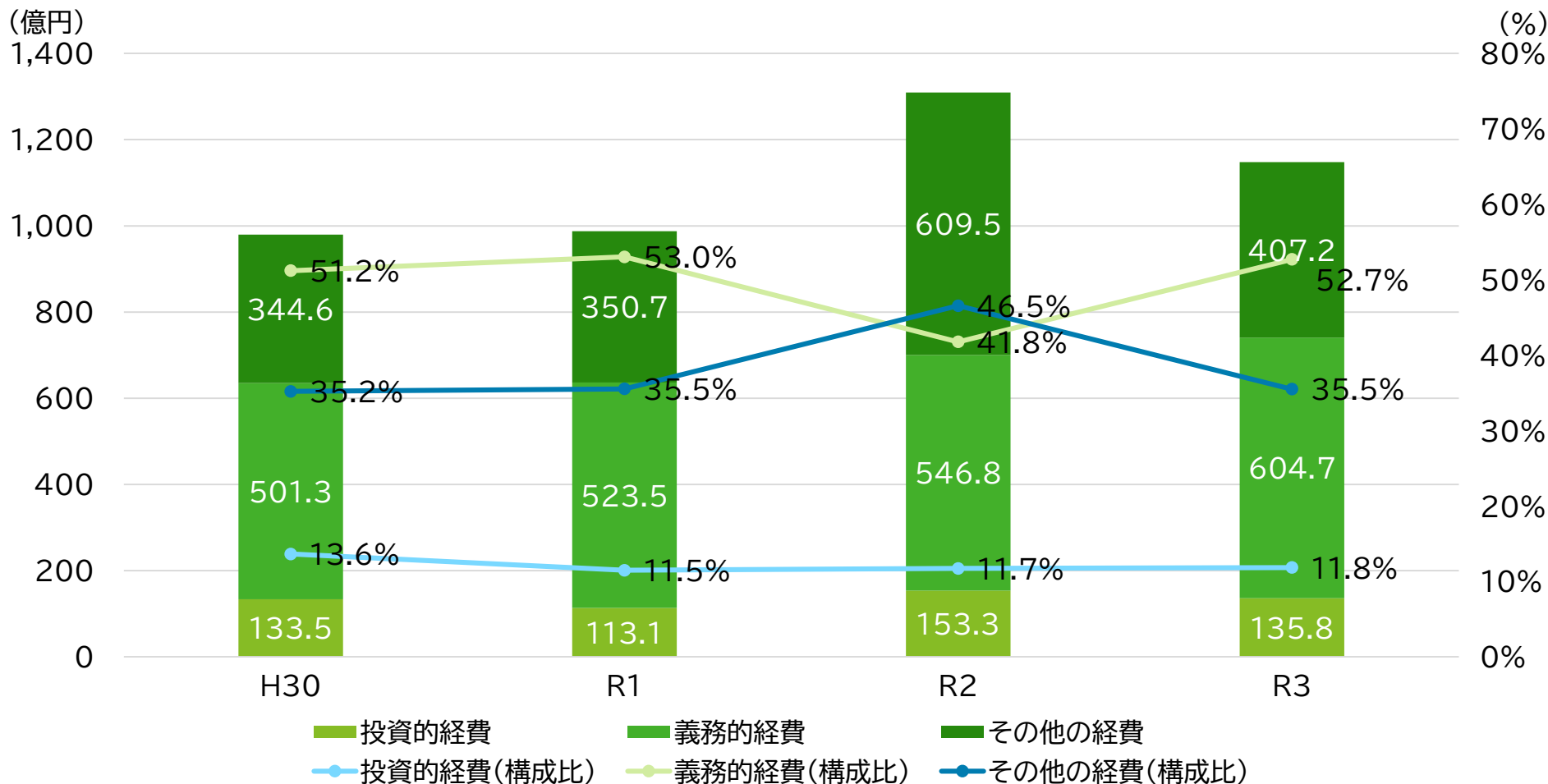
✓令和4年度の一般会計歳出決算額は1,109億円であり、内訳としては、扶助費、人件費、物件費の順に多く、この3つで50%以上を占める。



VI.行政 | 2.財政

歳出(性質別)の推移

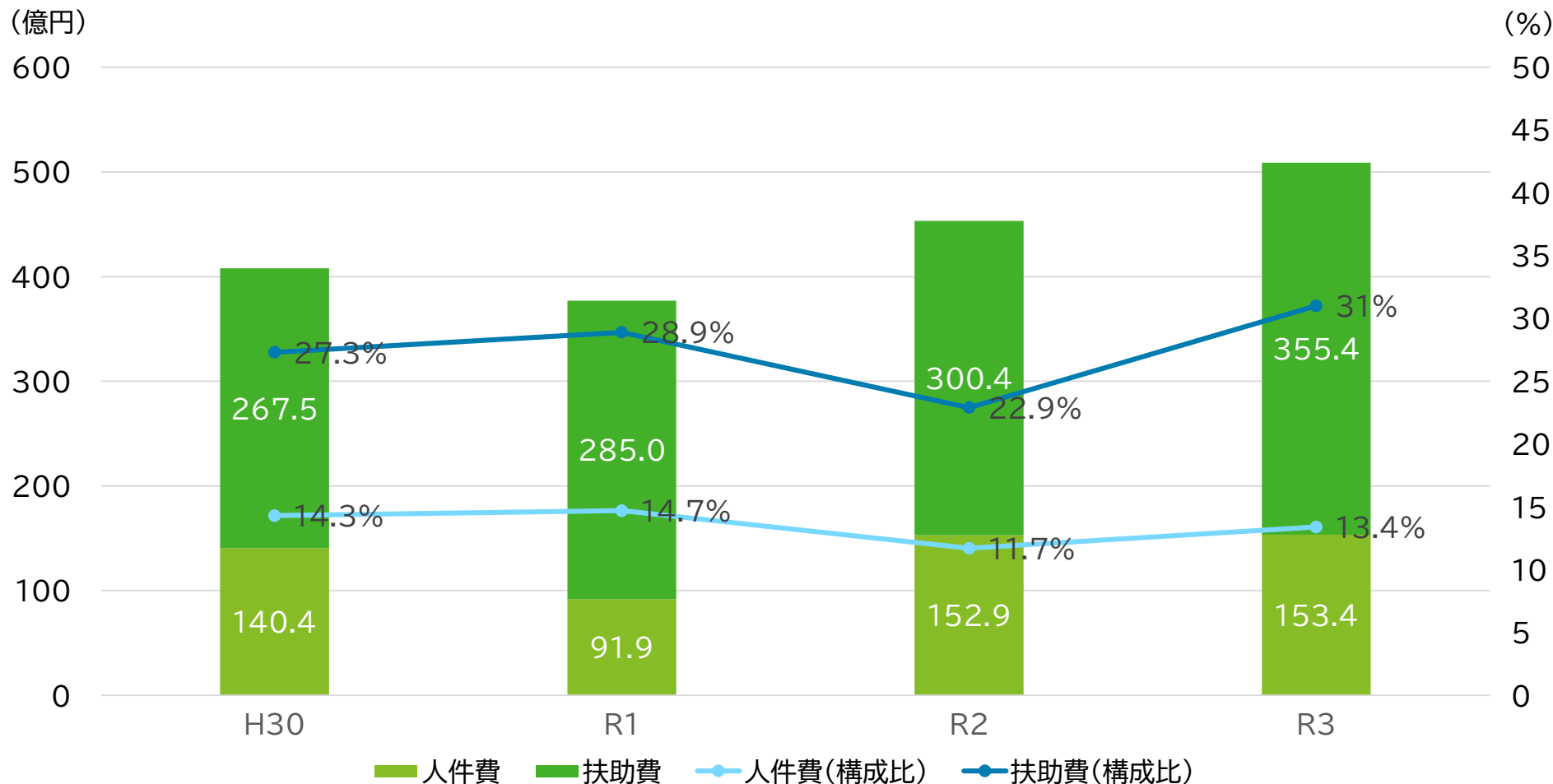
- ✓歳出(性質別)では、投資的経費に比べ、義務的経費が大きく増加している。
- ✓性質別の構成比は、令和2年を除き、大きく変化していない。



VI.行政 | 2.財政

義務的経費のうち人件費・扶助費の推移

✓令和元年の扶助費を除き、人件費・扶助費ともに増加しており、特に扶助費は平成30年からの4年間で100億円程度増加している。



VI.行政 | 2.財政

市民1人あたりの一般会計歳入歳出決算

✓市民1人あたりの歳出総額は歳入総額を12,000円程度超えており、赤字の状況にある。

歳入 (R4)

| 項目 | 市民一人あたりの決算額(円) |
|----------|----------------|
| 地方税 | 137,883 |
| 国庫支出金 | 108,211 |
| 地方交付税 | 78,807 |
| 県支出金 | 47,600 |
| 地方債 | 32,548 |
| 地方消費税交付金 | 25,650 |
| 繰越金 | 17,256 |
| 諸収入 | 9,656 |
| 繰入金 | 9,217 |
| 寄附金 | 8,022 |
| その他 | 21,528 |
| 合計 | 496,379 |

※令和5年1月1日現在の住民基本台帳人数229,427人で計算している。
小数点以下の端数は四捨五入している。

歳出 (R4)

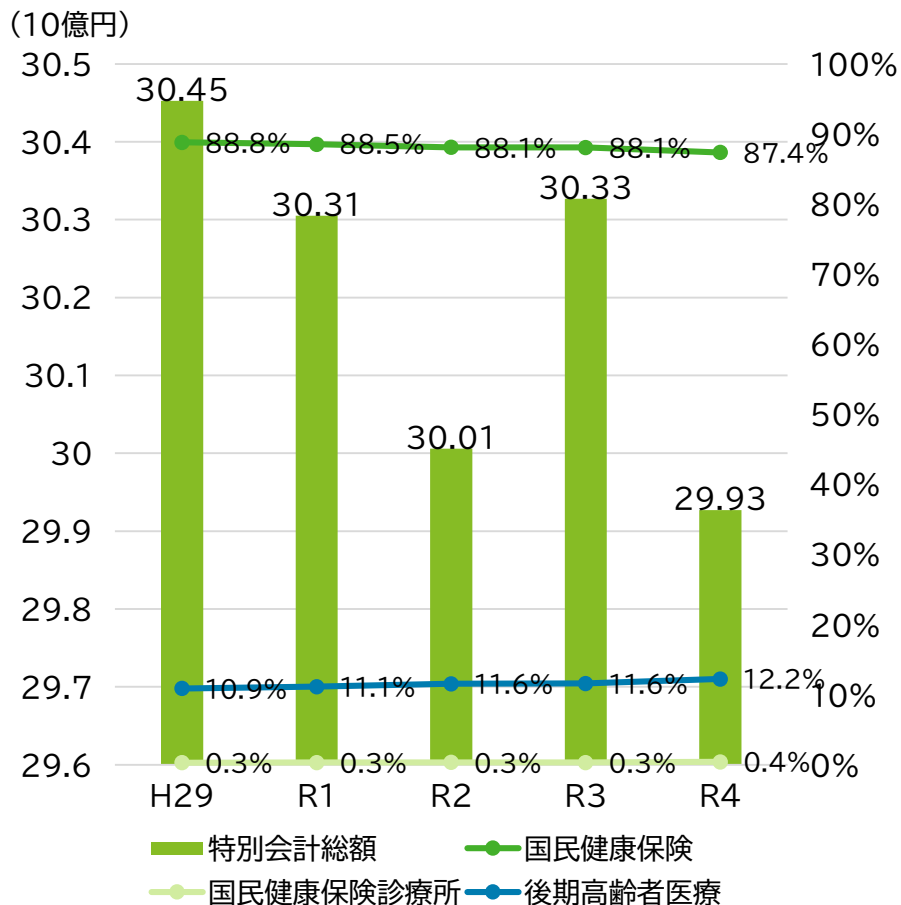
| 項目 | 市民一人あたりの決算額(円) |
|--------|----------------|
| 民生費 | 196,277 |
| 総務費 | 61,051 |
| 教育費 | 47,871 |
| 公債費 | 42,328 |
| 土木費 | 39,839 |
| 衛生費 | 37,063 |
| 農林水産業費 | 19,957 |
| 消防費 | 17,679 |
| 商工費 | 13,653 |
| 災害復旧費 | 4,452 |
| 議会費 | 2,470 |
| 諸支出金 | 607 |
| 労働費 | 271 |
| 合計 | 483,519 |

VI.行政 | 2.財政

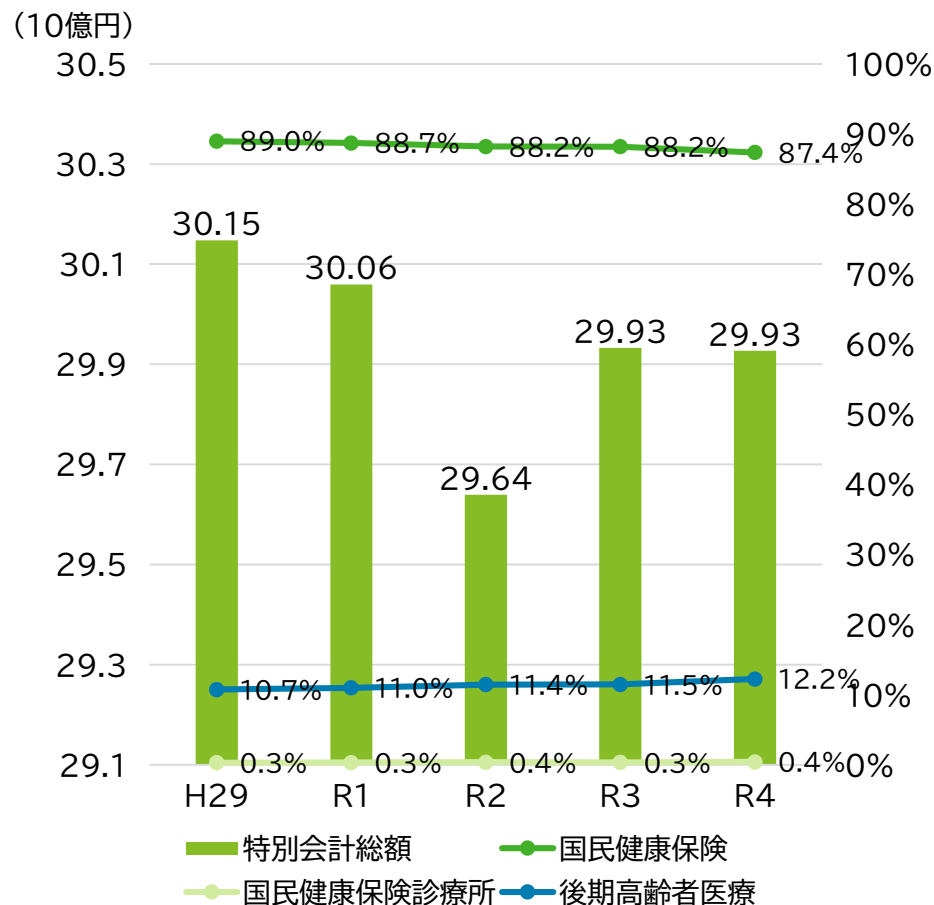
特別会計の歳入・歳出決算額の推移

✓特別会計は300億円前後で推移しており、後期高齢者医療が総額に占める割合が年々微増している。

歳入



歳出

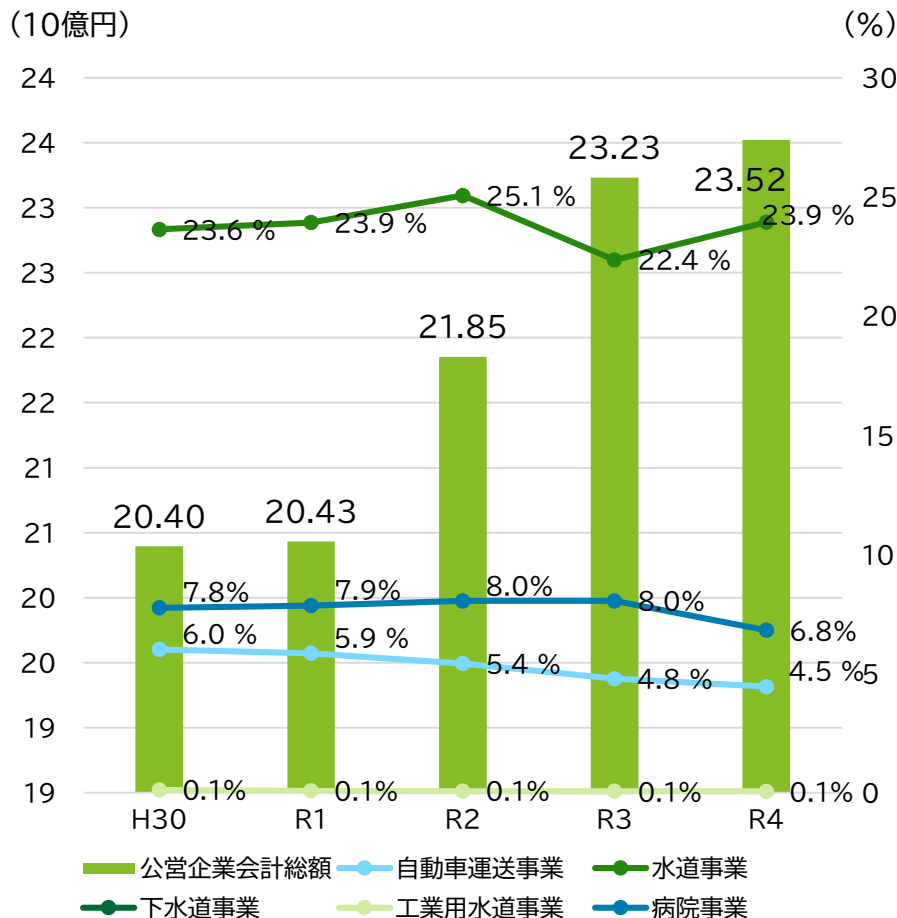


VI.行政 | 2.財政

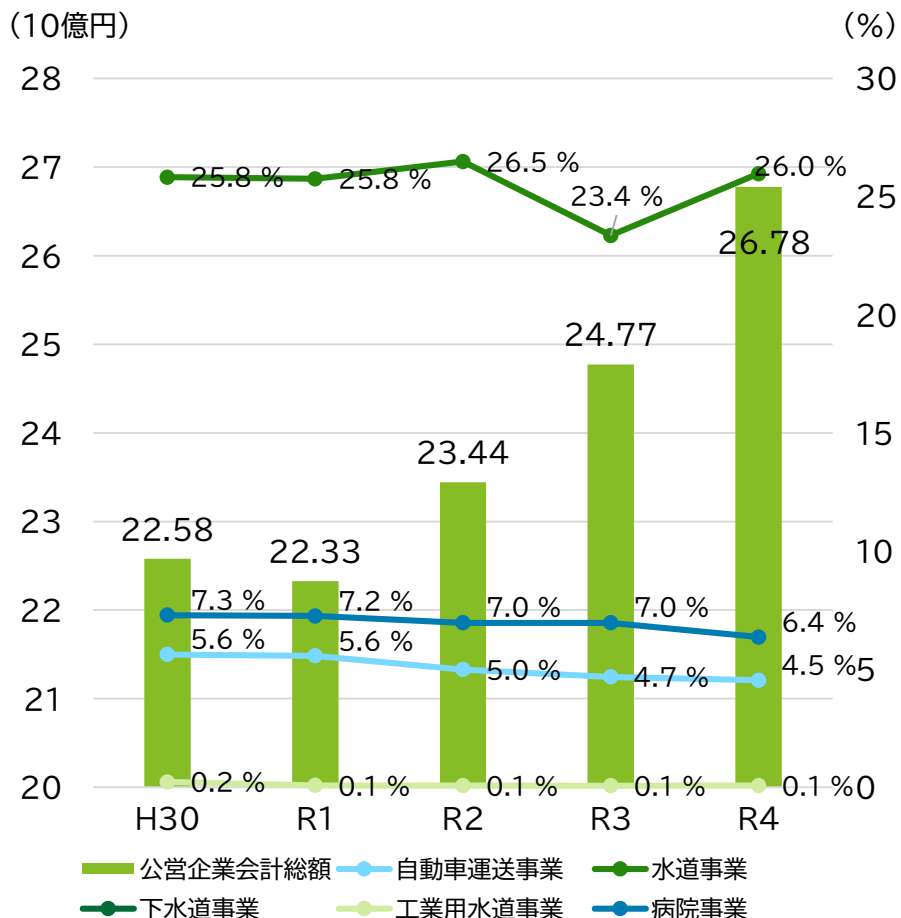
企業会計の歳入・歳出決算額の推移

- ✓ 公営企業会計は例年、歳出過多の状況が続いており、平成30年と比較すると30億円程度総額規模が拡大している。
- ✓ 歳入・歳出の内訳は大きな変化はなく、歳入・歳出のいずれにおいても水道事業が25%程度と最も大きな割合を占めている。

歳入



歳出

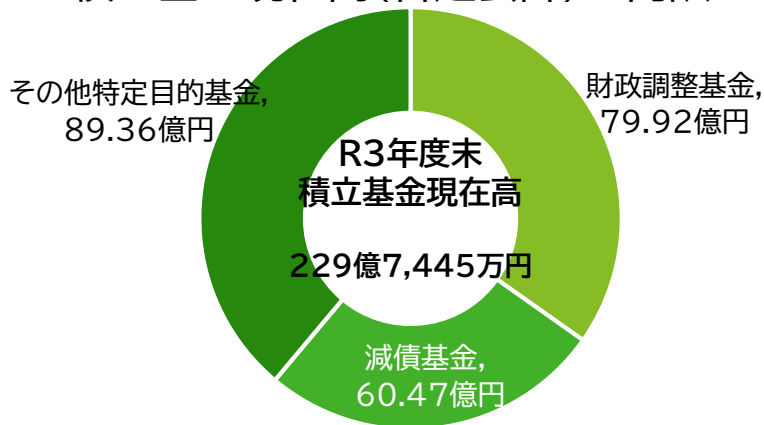


VI.行政 | 2.財政

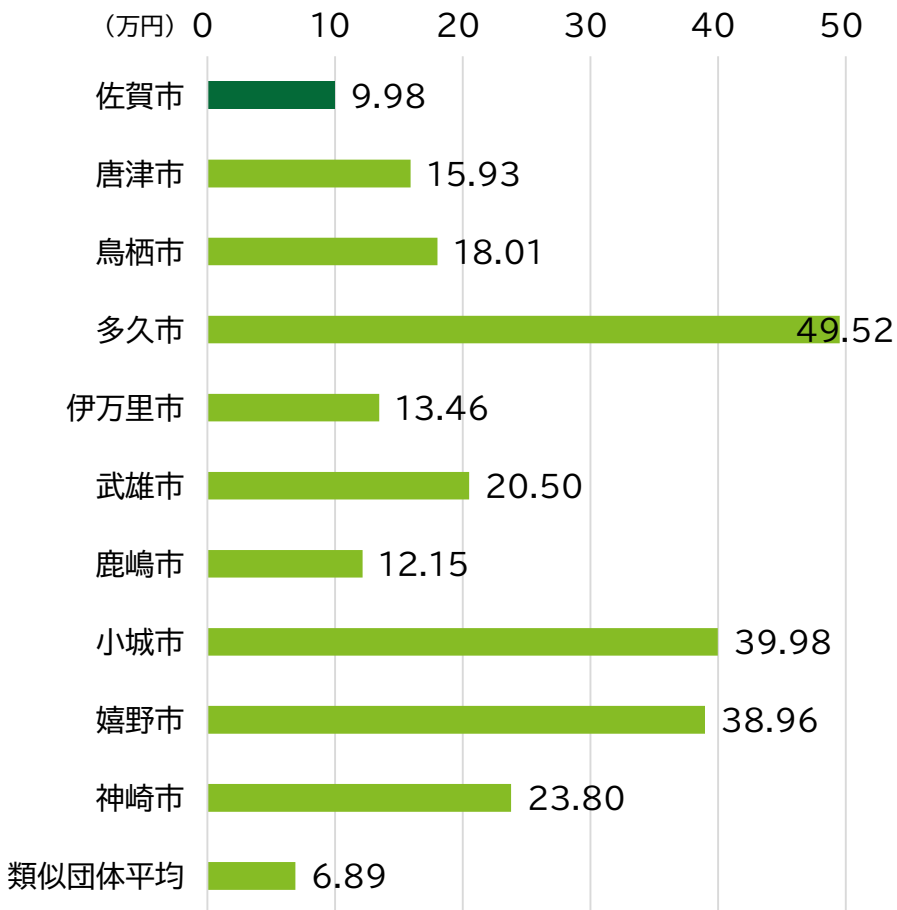
積立基金現在高(普通会計)の推移と内訳、県内市との比較

- ✓令和3年度末の積立基金現在高は229億円であり、推移をしてみると、近年は令和1年・2年に落ち込んだものの、回復傾向にある。
- ✓県内市の1人当たり積立基金現在高では、佐賀市は類似団体の平均よりも高いものの、他市と比較して低い状況にある。

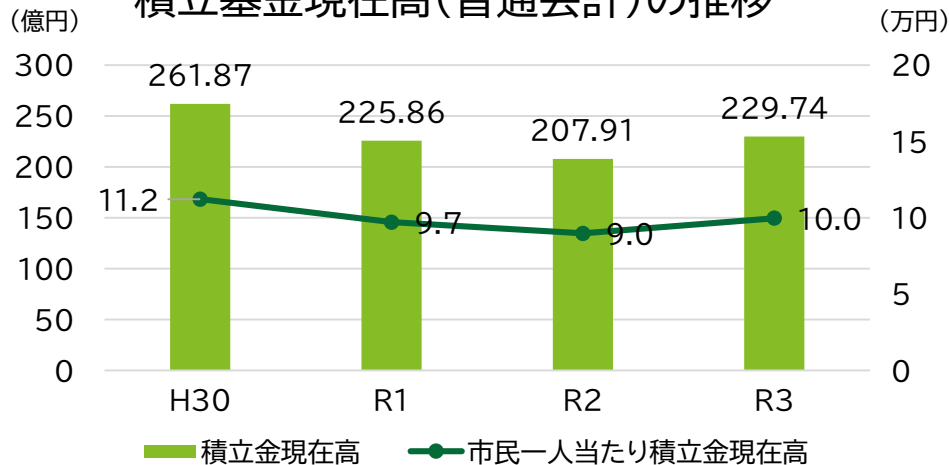
積立基金現在高(普通会計)の内訳



県内市の1人当たり積立基金現在高(普通会計)(R3)



積立基金現在高(普通会計)の推移

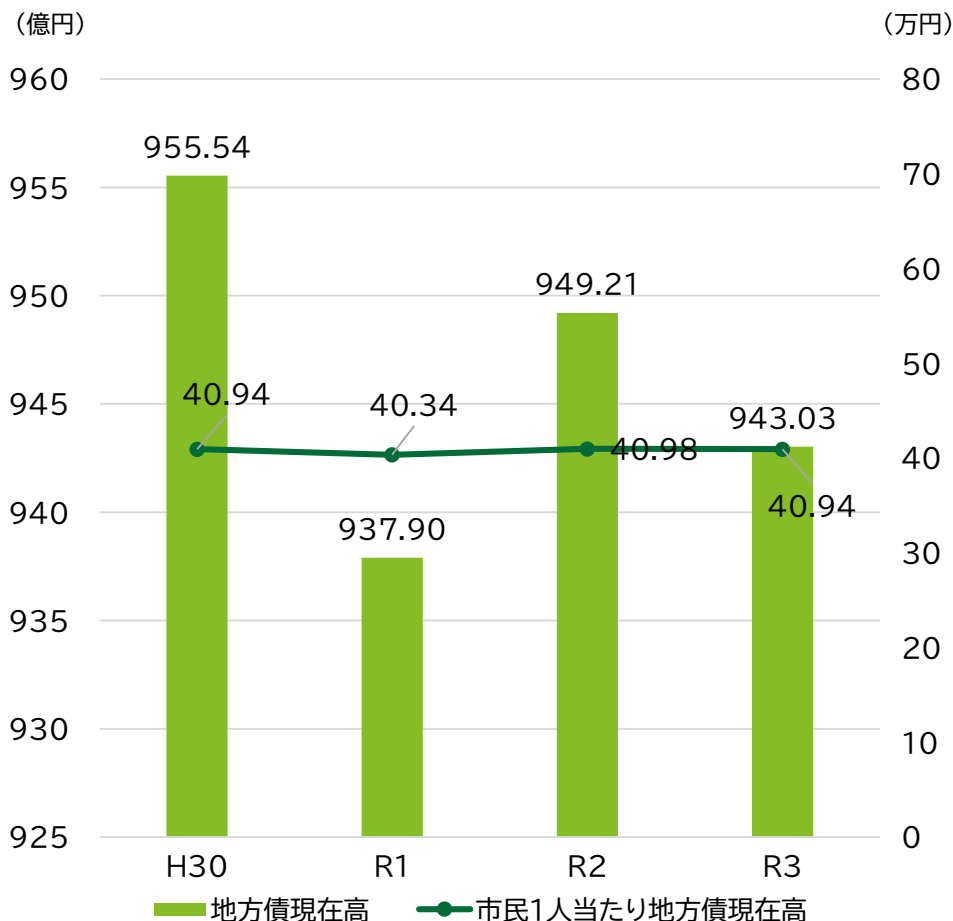


VI.行政 | 2.財政

市債現在高(普通会計)の推移と内訳、県内市町との比較

- ✓地方債現在高は近年、概ね950億円程度で推移している。
- ✓市民1人当たり地方債現在高は、佐賀市は類似団体の平均を大きく超えており、鳥栖市を除き、県内市は同様の傾向にある。

地方債現在高の推移



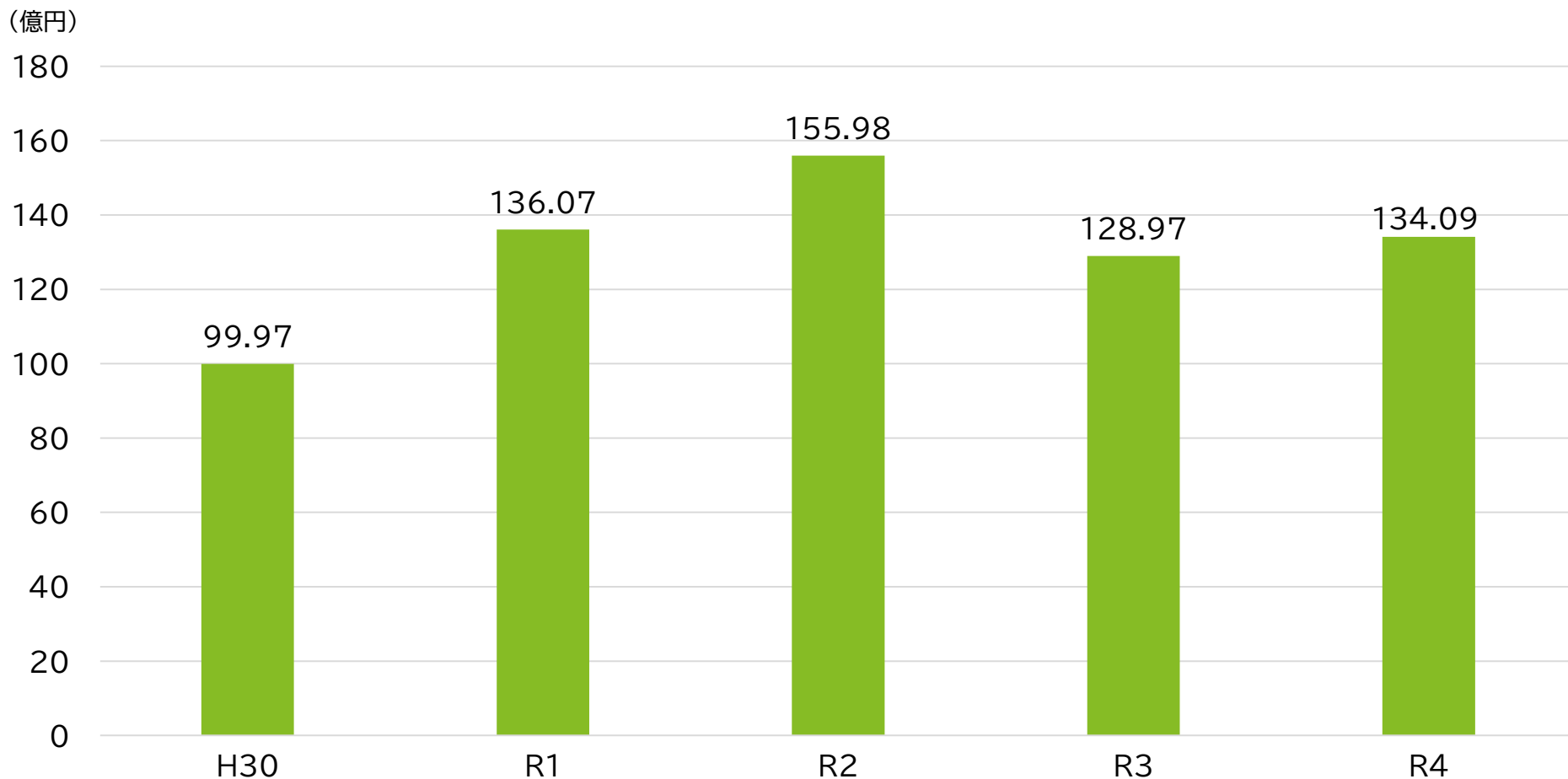
市民1人当たり地方債現在高の県内市との比較(R3)



VI.行政 | 2.財政

債務負担行為残高(普通会計)の推移

✓債務負担行為残高は令和2年まで継続的に増加していたものの、令和3年には30億円ほど減少し、令和4年はわずかながらも増加傾向が回帰している。

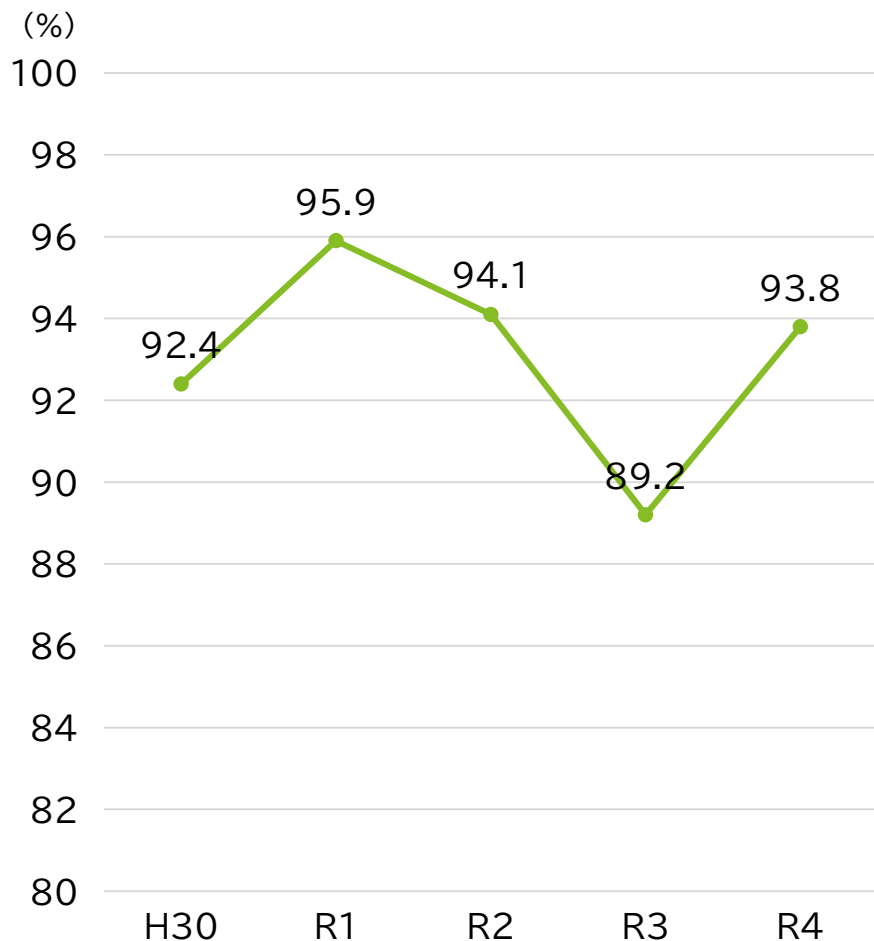


VI.行政 | 2.財政

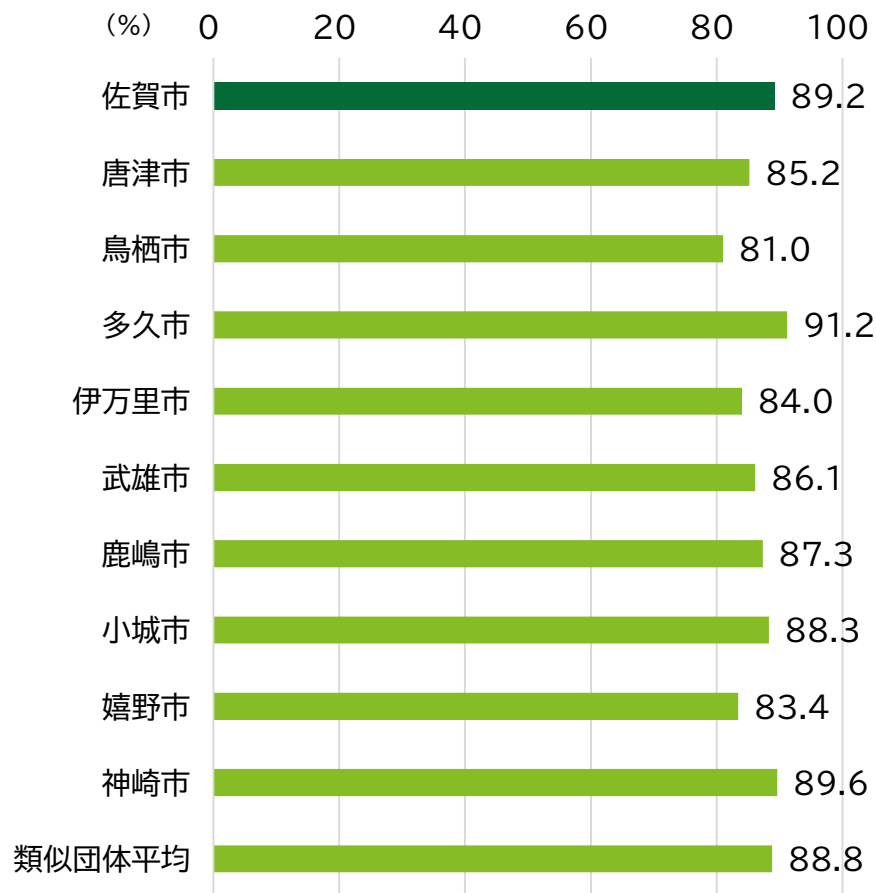
経常収支比率の推移と県内市との比較

- ✓ 経常収支比率は概ね令和1年以降低下が続いていたが、令和4年には再び93%を超える値となっている。
- ✓ 県内市との比較では、佐賀市は類似団体の平均を超えており、多久市、神崎市と同様の傾向にある。

経常収支比率の推移



経常収支比率の県内市との比較(R3)



VI.行政 | 2.財政

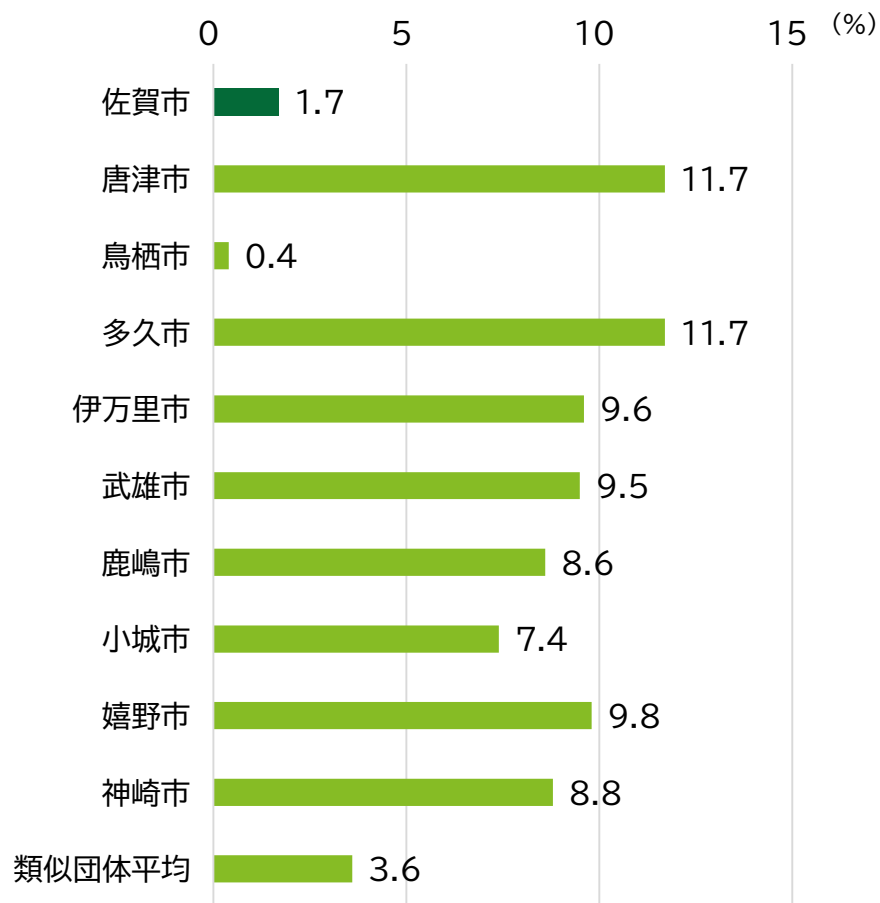
実質公債費比率の推移と県内市との比較

- ✓実質公債費率は近年低下しており、令和2年からは1.7%で継続している。
- ✓県内市との比較では、佐賀市は、類似団体平均の半分に満たない程度であり、鳥栖市と同様の傾向にある。

実質公債費率の推移



実質公債比率の県内市との比較(R3)

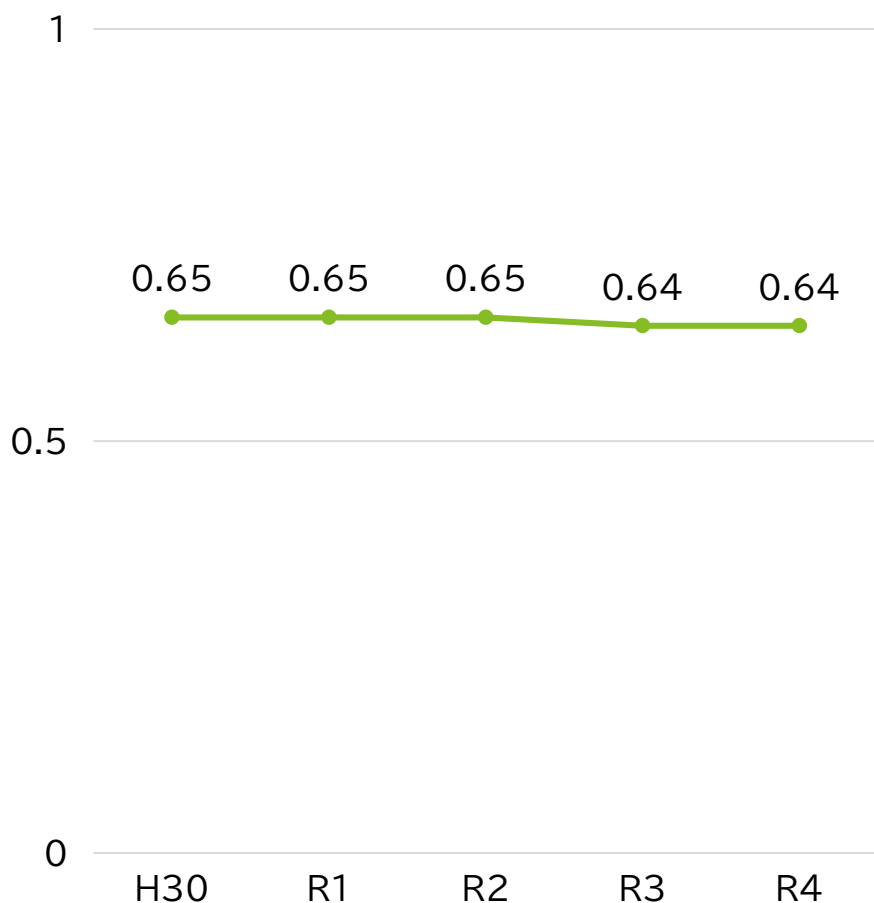


VI.行政 | 2.財政

財政力指数の推移、県内市との比較

✓財政力指数は近年0.65程度で継続している。
✓県内市との比較では、佐賀市は類似団体平均よりも低い値となっており、県内市においては鳥栖市を除いて佐賀市と同様の傾向がみられる。

財政力指数の推移



財政力指数の県内市との比較(R3)

